

ネットワークビデオレコーダー

[™] VR-X7100

Milestone XProtect Enterprise 管理者マニュアル

目次

はじめに	10
最低限のシステム要件 XPROTECT SMART CLIENT:	10
管理者権限について	11
重要なポート番号について	11
ウイルススキャンについて	12
タイムサーバーについて	13
夏時間について	13
システム概要	15
システムコンポーネント	15
XPROTECT SMART CLIENT	17
XProtect Smart Client について	17
XProtect Smart Client のインストール	18
RECORDING SERVER MANAGER	19
XPROTECT DOWNLOAD MANAGER	20
インストールとアップグレード	23
ビデオデバイスドライバーのインストール	23
MILESTONE MOBILE クライアントのインストール	23
初めての使用	24
システムの起動および実行	24
推奨事例	25

録画データベースの破損からの保護について	25
設定に関する変更の保存について	26
組み込みヘルプの使用について	27
サービスの再起動について	28
モニターストレージ容量の使用率	29
Management Application でカメラからのビデオを表示する	29
スタート	30
スタートページについて	30
ハードウェアの追加ウィザード	30
高速	31
手動	32
ストレージの設定ウィザード	
ストレージの設定:ビデオ設定とプレビュー	35
ストレージの設定 : オンラインスケジュール	36
Motion-JPEG カメラのライブ設定および録画設定	36
MPEG カメラのライブ設定および録画設定	38
ドライブの選択	40
録画およびアーカイブの設定	43
モーション検知の調整ウィザード	44
領域の除外	44
モーション検知	45
ユーザーアクセスの管理ウィザード	47
基本ユーザーと Windows ユーザー	47
アクセスの概要	48
拡張設定	49
ハードウェアデバイス	49

	ハードウェアデバイスについて	49
	マイクについて	49
	スピーカーについて	49
	音声録音について	49
	専用入力/出力デバイスについて	50
	ハードウェアデバイスの交換について	51
	ハードウェアデバイスの設定	51
	ハードウェアデバイスの削除	51
	ハードウェアデバイス交換ウィザードについて	52
	ハードウェアプロパティ	54
	スピーカープロパティ	57
力	メラとストレージの情報	. 57
	ビデオや録画の設定について	57
	データベースのサイズ変更について	58
	モーション検知について	58
	モーション検知および PTZ カメラについて	60
	カメラ固有のスケジュールの設定	60
	カメラがいつ、何をする必要があるかを設定する	62
	モーション検知の設定	62
	カメラの無効化または削除	63
	PTZ タイプ1および3を、必要な位置へ移動する	63
	録画およびストレージのプロパティ	64
	カメラプロパティ	81
7	イク	104
	マイクについて	.104
	マイクまたはスピーカーの設定	.104
	マイクやスピーカーの表示/非表示	.104
	マイク(プロパティ)	.105

イベントおよび出力	105
入力および出力について	105
イベントおよび出力について	106
イベントおよび出力の概要	106
アナリティックイベントの追加	109
ハードウェア入力イベントの追加	109
ハードウェア出力の追加	110
手動イベントの追加	111
ジェネリックイベントの追加	111
タイマーイベントの追加	112
イベントでのハードウェア出力の設定	112
一般的なイベント処理の設定	113
アナリティックイベントに基づくアラームの生成	113
ジェネリックイベントのテスト	114
ジェネリックイベントプロパティ	115
イベントおよび出力プロパティ	116
スケジュールおよびアーカイブ	127
スケジュールについて	127
アーカイブについて	127
一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定	133
一般的なスケジュールのプロパティ	133
カメラ固有のスケジュールプロパティ	137
MATRIX	139
Matrix ビデオの共有について	139
Matrix 受信 PC について	139
Matrix の設定	140
Matrix のプロパティ	140
ログ	143

ログについて	143
システム、イベント、監査ログの設定	145
ログプロパティ	145
通知	147
通知について	147
Eメール	148
SMS	151
スケジュール	153
CENTRAL	154
Central について	154
XProtect Central の有効化	154
Central のプロパティ	.154
アクセスコントロール	155
アクセスコントロールの統合について	155
アクセスコントロールシステム統合ウィザード	156
アクセスコントロールプロパティ	157
サーバーアクセス	164
サーバーアクセスについて	.164
登録済みサービスについて	.165
サーバーアクセスの設定	.165
サーバーアクセスプロパティ	.166
マスター/スレーブ	168
マスターおよびスレーブについて	168
マスターおよびスレーブサーバーの設定	168
マスター/スレーブプロパティ	.168
ユーザー	170
ユーザーについて	170

基本ユーザーの追加	170
Windows ユーザーの追加	171
ユーザーグループの追加	171
ユーザーおよびグループの権限の設定	172
ユーザープロパティ	173
サービス	177
サービスについて	177
サービスを開始および停止する	178
サーバー	178
Mobile サーバー	178
アラーム	190
アラームについて	190
マップについて	191
アラームの時間プロファイルについて	192
アラームの追加	192
(アラームの)時間プロファイルの追加	193
アラームプロパティ	193
MIP プラグイン	198
MIP プラグインについて	198
設定	199
自動デバイス検出について	199
カスタマーダッシュボードについて	199
情報収集の無効化	199
デフォルトのファイルパスの変更	200
オプション	201
一般	201

ユーザーインターフェース	202
デフォルトのファイルパス	203
プライバシーオプション	203
アナリティックイベント設定	204
イベントサーバー設定	205
システムのメンテナンス	207
バックアップおよび復元の設定	207
設定のバックアップおよび復元について	207
システム設定のバックアップ	207
システム設定の復元	208
アラームおよびマップ設定のバックアップと復元	208
Management Application の設定のエクスポートおよびインポート	211
設定に対する変更のインポート	213
復元ポイントからのシステム設定の復元	213
用語集	215
索引	223

著作権、商標、および免責条項

著作権

© 2014 Milestone Systems A/S.

商標

XProtect は Milestone Systems A/S の登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。App Store は Apple Inc.のサービスマークです。Android は Google Inc.の商標です。

本書に記されているその他の商標はすべて、それぞれ該当する所有者の商標です。

免責条項

このマニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生する危険の責任はすべてその使用者にあるものとします。また、 ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事項も保証するものではありません。

Milestone Systems A/S は、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対 する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったくの偶然であり、意図的なもので はありません。

この製品では、特定の契約条件が適用される可能性があるサードパーティ製ソフトウェアを使用する ことがあります。その場合、詳細は Milestone 監視システムのインストールフォルダにあるファイル **3rd_party_software_terms_and_conditions.txt** にあります。

はじめに

最低限のシステム要件 XProtect Smart Client:

	要件
オペレーティングシステム	 Windows Server 2008 R1/R2 (32 ビット版または 64 ビット版) Windows Vista[®] Business (32 ビット版または 64 ビット版) Windows Vista Enterprise (32 ビット版または 64 ビット版) Windows Vista Ultimate (32 ビット版または 64 ビット版) Windows 7 Professional (32 ビット版または 64 ビット版) Windows 7 Enterprise (32 ビット版または 64 ビット版) Windows 7 Ultimate (32 ビット版または 64 ビット版) Windows 8 Pro (32 ビット版または 64 ビット版) Windows 8 Enterprise (32 ビット版または 64 ビット版)
CPU	Intel Core2 [™] Duo、2.4 GHz 以上(複数のカメラが動作し、複数の ビューおよび表示を使用する XProtect Smart Client では、より高い 性能の CPU を推奨します)。
RAM	最低1GB(多数のカメラが動作し、複数のビューおよび表示を使用 するシステムでは、これより高いRAMを推奨します)。
ネットワーク	イーサネット(100 Mbit 以上を推奨)
グラフィックアダプタ	AGP または PCI-Express、最低 1280×1024、16 ビット色
ハードディスク容量	1 GB の空き容量
ソフトウェア	 Microsoft .Net 4.0 Framework かそれ以上 DirectX 9.0 かそれ以上

Milestone Mobile クライアント:

	要件
オペレーティングシステム	• Apple デバイスの場合、iOS 6.0 かそれ以上。
	• Android デバイスの場合、Android 2.2 かそれ以上。
	• Windows 8 Phone の場合、Windows Phone 8。

XProtect Web Client:

※本機は、XProtect Web Clinet には対応していません。

	要件
サポートされるブラウザ	HTML 5 および JavaScript をサポートしているブラウザ。XProtect Web Client の実行環境:
	• Microsoft Internet Explorer 9 かそれ以上。
	• Mozilla Firefox 11 かそれ以上。
	• Google Chrome 16 かそれ以上。
	• Safari 5 かそれ以上。

管理者権限について

監視システムをインストールする際には、システムを実行するコンピュータの管理者権限が必要です。 標準ユーザーの権限のみでは、監視システムを設定できません。

重要なポート番号について

システムでは、他のコンピュータ、カメラなどとの通信の際に特定のポートを使用します。システム を使用する際は、以下のネットワークポートが空いていることを確認してください。

名前	説明
ポート 20 および 21 (インバウン ドおよびアウトバウンド)	FTP トラフィックに使用。FTP (File Transfer Protocol) は、ネット ワークでのファイル交換プロトコルの標準です。FTP はデータ転送 で TCP/IP 標準を使用し、サーバーとの間でのファイルのアップロ ードやダウンロードで使用されます。
ポート 25 (インバウンドおよび アウトバウンド)	SMTP トラフィックに使用。SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) はサーバー間での E メールメッセージ送信の標準です。設定によっ て、一部のカメラは E メールで監視システムに画像を送信するので、 このポートが空いている必要があります。
ポート 80 (インバウンドおよび アウトバウンド)	監視サーバー、カメラ、XProtect Smart Client の間での HTTP トラフィックで使用され、監視システムの Image Server サービスのデフォルト通信ポートとなります。
ポート 554 (インバウンドおよび アウトバウンド)	H.264 ビデオストリーミング接続時、RSTP トラフィックに使用します。
ポート 1024 (アウトバウンドの み)	カメラと監視サーバーの間での HTTP トラフィックに使用。

	説明
ポート 1234 (インバウンドおよ びアウトバウンド)	イベントの処理で使用。
ポート 1237 (インバウンドおよ びアウトバウンド)	XProtect Central アドオン製品との通信で使用。
ポート 8081 および 8082	Mobile サービスとの通信で使用。
ポート 22331	Event Server サービスとの通信で使用。

また、組織では他のポートの使用を選択していることもあります。たとえば、サーバーアクセス 『166ページ』ポートがデフォルトのポート番号(80)から別のポート番号に変更されていることがあ ります。

ウイルススキャンについて

※本機にはウィルス対策ソフトウェアをインストールしないでください。

他のデータベースソフトウェアの場合と同様に、XProtect®ソフトウェアを実行しているコンピュータ にアンチウイルスプログラムがインストールされている場合は、特定のファイルのタイプや場所、な らびに特定のネットワーク通信を除外することが重要になります。このような例外を設定しておかな いと、ウイルススキャンで大量のシステムリソースが消費されてしまいます。さらに、スキャンプロ セスによってファイルが一時的にロックされ、その結果として録画プロセスが中断されたり、データ ベースが破損する場合さえあります。

ウイルススキャンを実行する必要がある場合、録画データベースを含んでいるレコーディングサーバ ーのディレクトリ(デフォルトでは d:mediadatabase\、ならびにその場所より下位のディレクトリ) はスキャンしないでください。また、アーカイブ保存ディレクトリでもウイルススキャンは実行しな いでください。以前のバージョンのソフトウェアでは、デフォルトで、データベースはインストール フォルダに配置され、それそれが録画されるデバイスの MAC アドレスを持つサブフォルダとなって います。

以下を除外に追加してください。

- ファイルのタイプ:.blk、.idx、.pic、.pqz、.sts、.ts
- C:\Program Files\Milestone または C:\Program Files (x86)\Milestone およびすべてのサブディ レクトリ。
- 次の TCP ポートでのネットワークスキャンを除外:

製品	TCP ポート
XProtect [®] Corporate, XProtect [®] Expert	80, 8080, 7563, 25, 21, 9993

製品	TCP ポート
XProtect [®] Enterprise、 XProtect [®] Professional、 XProtect [®] Express、XProtect [®] Essential、XProtect [®] Basis+	80, 25, 21, 1234, 1237, 22331
XProtect [®] Mobile	8081
XProtect [®] Transact	9001

または

• 以下のプロセスのネットワークスキャンを除外:

製品	
XProtect Corporate, XProtect Expert	VideoOS.Recording.Service.exe、VideoOS.Server.Service.exe、VideoOS.Administration.exe
XProtect Enterprise、XProtect Professional、XProtect Express、XProtect Essential、 XProtect Basis+	RecordingServer.exe, ImageServer.exe, ManagementApplication.exe, ImageImportService.exe, RecordingServerManager.exe, VideoOS.ServiceControl.Service.exe, VideoOS.Event.Server.exe
XProtect Mobile	VideoOS.MobileServer.Service.exe
XProtect Transact	VideoOS.Transact.TransactService.exe

組織によってはウイルススキャンに関する厳密な方針があるかもしれませんが、上記の場所やファイ ルをウイルススキャンから除外することが重要です。

タイムサーバーについて

システムが画像を受信すると、ただちにタイムスタンプが付けられます。カメラは別の時計を持って いるので、カメラの時刻と使用しているシステムの時刻が完全に一致していないことがあります。こ れが混乱の原因になる場合があります。カメラがタイムスタンプをサポートしている場合、Milestone では、一貫性のある同期を行うために、タイムサーバーによってカメラとシステムの時刻を自動同期 することを推奨しています。

タイムサーバーの設定に関する詳細は、<u>www.microsoft.com</u>で**タイムサーバー、タイムサービス**、その他類似のトピックを検索してください。

夏時間について

夏時間(DST)は、夕方の日照時間を長く、朝の日照時間を短くするために、時計を進める制度です。 DSTの使用は、国/地域によって異なります。

監視システムでの作業では、本質的に時間が重要であるため、システムがどのようにDST に対応する かを知っておくことが重要です。

春:標準時間から DST へ切り替える

標準時間から DST への変更は、時計を1時間進めるのであまり問題ではありません。通常、時計は 02:00 (標準時間)から03:00 (DST)へと進められるので、その日は23時間となります。その場合、 その朝の02:00から03:00の間にデータはありません。その日にはその時間は存在しなかったためで す。

秋:DST から標準時間へ切り替える

秋に DST から標準時間へ切り替えるとき、時計を1時間戻します。通常、時計は02:00 (DST) から 01:00 (標準時間)に戻されるので、その日は25時間となります。この場合、01:59:59 に達すると、 すぐに01:00:00 に戻ります。システムが応答しなかった場合、基本的にはその時間を再録画します。 たとえば、最初の01:30 は、2回目の01:30 によって上書きされます。

このため、システム時刻の変更が5分を超えた場合、システムは強制的に現在のビデオをアーカイブ します。最初の01:00時間は、クライアントから直接表示することはできません。ただし、データは 録画され、安全に保存されます。XProtect Smart Client を使用してアーカイブ済みデータベースを直 接開けば、閲覧できます。

システム概要

システムコンポーネント

この度はビデオ監視システムをお買い上げいただき、ありがとうございます。この製品は、柔軟で高い機能を持つインテリジェンス監視ソリューションです。このシステムは先進的な IP ビデオ監視システムです。様々なネットワークカメラやビデオエンコーダーに対応しており、オフィスの LAN やインターネットなどの TCP/IP ネットワーク上の機器との接続が可能です。

このシステムは多数のコンポーネントにより構成されており、それぞれ特定のタスクやユーザータイプをターゲットとしています。

	説明
Management Application	たとえば新規カメラを追加する場合、監視システムサーバーを設定 するメインアプリケーションで、ユーザーのセットアップやシステ ムの設定の変更をします。
Recording Server サービス	監視システムの重要な部分です。Recording Server サービスを実行 することで、デバイスから確実にビデオストリームがシステムに転 送されます。Recording Server サービスのインストールは自動的に 行われ、監視システムサーバーでバックグラウンドで実行されます。 サービスは、Management Application で管理します。
Event Server サービス	組織全体でのマスター/スレーブ設定を含めて、監視システムがイン ストールされた、すべてのサーバーからのアラームやマップの設定 を扱います。これにより、アラームおよびシステム内で発生する可 能性がある技術的な問題のモニターが可能になり、その概要が即時 に表示できます。イベントサーバーは、監視システムサーバーに自 動的にインストールされ、バックグラウンドで実行されます。
Microsoft® SQL Server Express データベース	監視システムのアラームデータは、SQL Server Express データベー スに保存されます。SQL データベースは、完全版 SQL Server と比 較して軽量にもかかわらず強力なバージョンです。自動的に監視シ ステムサーバーにインストールされ、バックグラウンドで実行され ます。
Image Server サービス	クライアントにログインしているユーザーの監視システムへのアク セスを処理します。Image Server サービスのインストールは自動的 に行われ、監視システムサーバーでバックグラウンドで実行されま す。サービスは、Management Application で管理できます。
XProtect [®] Download Manager	組織のユーザーが、監視システムサーバー上のようこそページから アクセス可能なシステム関連機能を管理します。

	説明
XProtect [®] Smart Client	Milestone XProtect 監視システム用に設計されている、XProtect Smart Client は、セキュリティインストールの日常的な操作のため のクライアントアプリケーションです。合理化されたインターフェ ースにより、あらゆるサイズのインストールの監視、セキュリティ インシデントの管理、ライブまたは録画されたビデオへのアクセス やエクスポートが簡単に行えます。
	Milestone では、監視システムに含まれている新しい特徴や機能を最 大限に利用できるように、必ず最新バージョンの XProtect Smart Client を使用することを推奨しています。
XProtect [®] Web Client	大半のオペレーティングシステムやWeb ブラウザからのビデオを 表示、再生、共有できる、XProtect 監視システム用の簡素化された Web ベースのクライアントアプリケーション。追加ソフトウェアを インストールする必要なく、コンピュータまたはインターネット接 続経由でシステムを監視することができます。 ※本機は、XProtect Web Clinet には対応していません。
Milestone® Mobile クライアント	Milestone によって設計された、システムのビデオを表示できる無料 のアプリケーションで、スマートフォンやタブレットで、ほぼどこ からでも監視映像を見ることができます。また、ドアの開閉や照明 のオン/オフなどの出力を制御することができ、システムでのインシ デントをコントロールし、ダイナミックに応答することができます。

XProtect Smart Client

XProtect Smart Client について

Milestone XProtect[®] IP ビデオ管理ソフトウェア用に設計された XProtect Smart Client は、セキュリティのインストールを直観的な方法で管理できる使いやすいクライアントアプリケーションです。 XProtect Smart Client でセキュリティのインストールを管理することで、ユーザーはライブおよび録 画ビデオ、カメラおよび接続済みのセキュリティデバイスの制御、録画の概要にアクセスできます。 XProtect Smart Client は適応力の高いユーザーインターフェースを、複数の言語で使用できます。各 オペレータの作業に応じて最適化し、特定のスキルや権限レベルに応じて調節が可能です。



このインターフェースで、部屋の照明やビデオの輝度に応じて、テーマの明暗を選択することで、特定の作業環境に合わせてカスタマイズすることができます。また、作業用に最適化されたタブや、統合ビデオタイムラインによって、監視の操作が簡単になります。Milestone Integration Platform を使用すると、さまざまな種類のセキュリティやビジネスのシステム、ビデオ分析アプリケーションを統合し、XProtect Smart Client を通じて管理することができます。

※本機は、Milestone Integration Platform には対応していません。

XProtect Smart Client をユーザーのコンピュータにインストールする必要があります。監視システム 管理者は、Management Application を通じて、クライアントの監視システムへのアクセスを管理しま す。クライアントが表示する録画データは、XProtect システムの Image Server サービスによって配信 されます。サービスは、監視システムサーバーのバックグランドで実行されます。別途ハードウェア を用意する必要はありません。

※本機には、XProtect Smart Client があらかじめインストールされています。

別のコンピュータに XProtect Smart Client をダウンロードするには、監視システムサーバーに接続す る必要があります。接続すると、使用可能なクライアントの言語とバージョンを一覧表示するようこ そページが表示されます。システム管理者は XProtect Download Manager を使用して、XProtect Download Manager のようこそページでユーザーに対して使用可能にするクライアントの言語とバー ジョンをコントロールできます。

XProtect Smart Client のインストール

XProtect Smart Client を使用するには、事前にコンピュータにインストールする必要があります。 XProtect Smart Client を監視システムサーバーからダウンロードして使用するコンピュータへインス トールします。

管理サーバーからのインストール

開始する前に、使用している PC が XProtect Smart Client の最低限のシステム要件を満たしていることを確認して下さい。

- 1. Internet Explorer ブラウザ(バージョン 6.0 かそれ以上)を開き、URL またはサーバーの IP アドレスを使用して管理サーバーに接続します。
- 2. 開かれたページで、PC に合わせた XProtect Smart Client の"すべての言語"を選択します。
- 3. XProtect Smart Client 設定ウィザードが起動されます。ウィザードで、インストール手順に従ってください。

ウィザードがインストールパスを推奨します。通常は、推奨されたインストールパスを使用します。 ただし、XProtect LPR などのアドオン製品を以前に使用したことがある場合、このパスが有効ではな くなっていることがあります。

サイレントインストール

※本機は、サイレントインストールには対応していません。

監視システム管理者は、Microsoft Systems Management Server (SMS)などのツールを使用して、シ ステムまたは XProtect Smart Client をユーザーのコンピュータに展開できます。このツールを使って、 ローカルネットワークにあるハードウェアとソフトウェアのデータベースを構築できます。このデー タベースを使用することによって、ソフトウェアアプリケーションをローカルネットワークを通じて 配布、インストールすることができます。

サイレントインストールを行うには:

 XProtect Smart Client .exe ファイル MilestoneXProtectSmart Client_x64.exe を探します。 このファイルを、httpdocs フォルダの下のサブフォルダで検索します。httpdocs フォルダは、 Milestone 監視ソフトウェアがインストールされているフォルダの下にあります。

通常のパスは(英語版の XProtect Smart Client を使用している場合)、 C:\Program Files (x86)\Milestone\Milestone Surveillance\httpdocs\XProtect Smart Client Installer\[バージョン番号] [ビットバージョン]\All Languages\en-US です。

例:

C:\Program Files (x86)\Milestone\Milestone Surveillance\httpdocs\XProtect Smart Client Installer\2014 (64-bit)\All Languages\en-US

2. 以下の2つのオプションのいずれかを使用してサイレントインストールを実行してください。

a) デフォルトパラメータ設定を使用して実行する:

すべてのパラメータにデフォルト値を使用してサイレントインストールを実行するには、インストールプログラムが保存されているディレクトリでコマンドプロンプト(cmd.exe)を起動して、以下のコマンドを実行します:

o XProtect Smart Client:

MilestoneXProtectSmart Client_x64.exe --quiet

使用しているシステム:

MilestoneXProtectProfessionalVMS_installer_x64.exe --quiet

このコマンドでは、ターゲットディレクトリなどのパラメータにデフォルト値を使用して XProtect Smart Client のサイレントインストールが実行されます。デフォルト設定を変更する 方法については、以下を参照してください。

a) XML 引数ファイルを入力として使用して、デフォルトパラメータをカスタマイズします:

デフォルトインストールの設定をカスタマイズするには、値が変更された XML ファイルを入 力として提供する必要があります。デフォルト値が記述された XML ファイルを生成するには、 インストールプログラムが保存されているディレクトリでコマンドプロンプトを起動して、 以下のコマンドを実行します:

o XProtect Smart Client:

MilestoneXProtectSmart Client_x64.exe --generateargsfile=[フルパス]args.xml

o 使用しているシステム:

MilestoneXProtectProfessionalVMS_installer_x64.exe --generateargsfile=[フルパス]args.xml

生成された args.xml ファイルをテキストエディタで開き、必要な変更を行います。次に、同 じディレクトリで以下のコマンドを実行して、修正されたバージョンのサイレントインスト ールを実行します。

o XProtect Smart Client:

MilestoneXProtectSmart Client_x64.exe --arguments=[フルパス]args.xml --quiet

o 使用しているシステム:

MilestoneXProtectProfessionalVMS_installer_x64.exe --arguments= [フルパス]args.xml --quiet

Recording Server Manager

Recording Server サービスは、監視システムの重要な部分です。ビデオストリームがシステムに転送 されるのは、Recording Server サービスが実行されている間だけです。Recording Server Manager が、 Recording Server サービスの状態を通知します。また、サービスの管理も行います。

通知エリア(システムトレイ)で、Recording Server Manager のアイコンが Recording Server サービ スが実行中であるかどうかを示します。 ・ 通知エリアのアイコンが緑色であれば、Recording Server サービスは実行中です。

・ 通知エリアのアイコンが赤色であれば、Recording Server サービスは停止中です。

このアイコンを右クリックすることで、Management Application の起動、Recording Server サービスの開始や停止、ログファイルの表示、バージョン情報の表示などを行うことができます。

システムステータスの監視

通知エリアの Recording Server アイコンを右クリックし、システムステータスの表示を選択すると、 ステータスウィンドウにアクセスできます。

ステータスウィンドウでは、画像サーバーや接続されているカメラのステータスを表示できます。それぞれのサーバー/カメラのステータスは、色によって示されます。

- 緑色は、サーバーまたはカメラが正しく実行されていることを示しています。
- **灰色**は、**カメラ**(サーバーではなく)が実行中でないことを示しています。通常、以下の状況 では、カメラが灰色で示されます。
 - o カメラがオンラインでない(カメラのオンライン期間のスケジュールで指定)。
 - 。 Recording Server サービスが停止している。
- 赤色は、サーバーまたはカメラが実行されていないことを示しています。これは、接続の問題か、ネットワークまたはハードウェアの障害の可能性があります。エラーは、レコーディングサーバーのログファイルにリスト化されます。

ステータスウィンドウでマウスポインタをカメラの上へ移動させると、関連するカメラの詳細が表示 されます。情報はポップアップとして表示され、約5秒毎に更新されます。

名前	説明
解像度	カメラの解像度。
FPS	現在カメラが使用している1秒あたりのフレーム数(フレームレート)。カメラが 50 フレームを受信する毎に、この数が更新されます。
フレームカウント	Recording Server サービスの起動後、カメラから受信したフレームの数。
受信(KB)	Recording Server サービスの起動後、カメラが送信したキロバイト数。
オフライン	エラーによってカメラがオフラインになった回数。

XProtect Download Manager

組織のユーザーが、XProtect Download Manager の使用によって監視システムサーバー上の対象のようこそページからアクセスできるシステム関連の機能を管理します。

※XProtect Download Manager の設定は変更しないでください。

 Windows のスタートメニューから XProtect Download Manager にアクセスします。すべての プログラム > Milestone XProtect Download Manager > Download Manager を選択しま す。

ユーザーがアクセスできる機能の例

 XProtect Smart Client。ユーザーは、インターネットブラウザを通じて監視サーバーに接続 します。ようこそページが表示されます。ようこそページで、XProtect Smart Client ソフトウ ェアをダウンロードし、使用しているコンピュータにインストールすることができます。

ようこそページ(監視サーバーWeb サイトのトップページ)

ようこそページには、さまざまな機能のダウンロードのリンクがあります。ユーザーは、ようこそペ ージの右上のメニューで言語を選択できます。

ようこそページを表示するには、インターネットブラウザ(例、Internet Explorer バージョン 6.0 かそ れ以上)を起動して、以下のアドレスに接続します。

http://[監視サーバーの IP アドレスまたはホスト名]

デフォルトのポート 80 以外のポート番号で Image Server サービスを設定(サーバーアクセスのプロ パティの一部として設定)している場合、ユーザーは以下のように IP アドレスまたはホスト名に加え て、コロンで区切ったポート番号も指定する必要があります。

http://[監視サーバーの IP アドレスまたはホスト名]:[ポート番号]

ようこそページの内容は、XProtect Download Manager によって管理されており、組織によって内容 は異なります。

システムをインストールすると、ようこそページから、すぐにすべての言語で XProtect Smart Client にアクセスできます。64 ビットのオペレーティングシステムを実行している場合は 32 ビットまたは 64 ビット、32 ビットのオペレーティングシステムを実行している場合は 32 ビットの XProtect Smart Client をダウンロードすることができます。ようこそページの最初の表示内容は、XProtect Download Manager のデフォルト設定によって自動的に決まります。

XProtect Download Manager のデフォルト設定

XProtect Download Manager には、デフォルトの設定があります。これによって、監視システム管理 者が何も設定しなくても、組織のユーザーは標準の機能にアクセスできます。XProtect Download Manager の構成は、ツリー構造で表現されます。

Download Manager のツリー構造の説明:

- **ツリー構造の1番目のレベル**は、現在作業をしているシステムを示しています。
- 2番目のレベルは、これがデフォルトの設定であることを示します。
- 3番目のレベルは、ようこそページで使用できる言語を示しています。この例では、ようこそページは多くの言語で使用できます(英語、アラビア語、デンマーク語、オランダ語、フランス語など)。

- **4番目のレベル**は、ユーザーが使用できる機能を示します。たとえば、これらの機能を XProtect Smart Client に限定することができます。
- 5番目のレベル(5)は、それぞれの機能のバージョンを示しています。たとえば、バージョン4.0、32ビットなどをユーザーが使用できるようにすることができます。
- **6番目のレベル (6)**は、ユーザーが使用できる機能の言語バージョンを示します。すべての 言語が組み込まれている XProtect Smart Client では**すべての言語**のみが選択可能です。

標準機能だけが使用できるように初期設定されていることで、インストール時間が短縮でき、サーバーの容量が節約できます。誰も使用しない機能や言語バージョンをサーバーで有効にする必要はありません。必要であれば、より多くの機能および言語を使用可能にすることができます。

新しい機能を使用可能にする

新しい機能をインストールすると、これらの機能は XProtect Download Manager でデフォルトで選択 され、ようこそページを通じてすべてのユーザーがただちに使用できるようになります。

ツリー構造でチェックボックスを選択または選択解除することで、ようこそページで機能を表示また は非表示にすることができます。項目をドラッグして、関連する位置へドロップすることで、機能や 言語がようこそページで表示される順番を変更することができます。

機能の非表示および削除

機能は、複数の方法で削除できます。

XProtect Download Manager のツリー構造のチェックボックスをクリアして、ようこそページで機能 を非表示にすることができます。この操作を行っても、その機能は依然として監視システムサーバー に存在しており、ツリー構造でチェックボックスを選択すれば、すぐに再度使用可能にすることがで きます。

以前に XProtect Download Manager で使用可能であった機能を削除することができます。この操作は、 監視システムサーバーにある機能をアンインストールします。機能は XProtect Download Manager で 表示されなくなりますが、その機能のインストールファイルは監視システムサーバーのインストーラ または関連する言語フォルダに保持されているので、必要に応じて、後から再インストールすること も可能です。操作方法:

- 1. XProtect Download Manager で、機能の削除...をクリックします。
- 2. 機能の削除ウィンドウで、削除したい機能を選択します。
- 3. 削除とはいをクリックします。

インストールとアップグレード

ビデオデバイスドライバーのインストール

ビデオデバイスドライバーは、システムの初回のインストール時に自動的にインストールされます。 XProtect Device Pack という新しいバージョンのビデオデバイスドライバーが適宜リリースされ、 Milestone の Web サイトで提供されています。動作確認済みのビデオデバイスドライバーの最新バー ジョンは、お買い上げ販売店またはサービス窓口にお問い合わせ下さい。ビデオデバイスドライバー を更新するときには、インストール済みのバージョンに最新バージョンを上書きインストールできま す。

新しいビデオデバイスドライバーのインストールを開始すると、インストールが完了して Recording Server サービスを再起動するまで、システムはカメラデバイスと通信できなくなります。通常、この 処理は数分程度で完了しますが、Milestone では、重要な記録イベントが発生する可能性が低いとき に更新処理を行うことを強くお勧めします。

ビデオデバイスドライバーをインストールするには:

- 新しいバージョンのビデオデバイスドライバーをインストールするシステムサーバーで、実行中の Recording Server サービスを含む、実行中のすべての監視ソフトウェアを停止します。
- 2. XProtect Device Pack インストールファイルを実行し、ウィザードの指示に従います。
- 3. ウィザードが完了したら、必ず Recording Server サービスを再起動してください。

ウィザードでCSVファイルからインポートしたハードウェアデバイスを追加するオプションを使用す る場合、カメラとサーバーがオフラインであれば、まず追加したいそれぞれのハードウェアのハード ウェアドライバーIDを指定する必要があります。IDの現在のリストを表示する方法は、組織で使用し ている XProtect Device Pack のリリースノートを参照してください。あるいは、Milestone の Web サ イトで最新情報ご確認ください。

Milestone Mobile クライアントのインストール

- 1. デバイスで Google Play または App Store[™] にアクセスします。
- 2. アプリケーション Milestone Mobile を検索してダウンロードします。
- 3. アプリケーションのダウンロードが完了すると、Milestone Mobile クライアントをモバイルデバイスで使用できます。

Milestone Mobile クライアントの詳細なセットアップ方法については、<u>http://www.milestonesys.com</u>から Milestone Web サイトにアクセスしてください。

初めての使用

システムの起動および実行

このチェックリストは、システムを動作させる時に通常必要となる作業を概説しています。

情報はチェックリストとして提供されますが、チェックリストが完了しても、それだけでシステムが 完全に要件に一致することを保証しているわけではありません。システムを組織の必要性に一致させ るために、Milestoneでは、システムの起動後も、システムを継続的にモニターし、調整することを 強くお勧めしています。

たとえば、異なる物理的条件(昼/夜、強風/無風など)で個々のカメラのモーション検知感度の設定を テストし、調整することに時間をかけることをお勧めします。これは、システムが起動した後で行い ます。イベントや関連するアクションの設定も、通常は組織の必要性に依存します。

このチェックリストを印刷して、常に携行してください。

Management Application を開く	
インストール後に、Management Application を起動して、システムの機能をセットアップし ます。	
カメラおよびその他のハードウェアデバイスの初期設定の確認	
システムにハードウェアデバイス(カメラ、ビデオエンコーダーなど)を追加し、適切なユ ーザー名およびパスワードで設定します。	
カメラの設定	
システムに接続されている各カメラの様々な設定を指定できます。設定には、ビデオ形式、 解像度、モーション検知の感度、録画の保存およびアーカイブ場所、PTZ(パン/チルト/ズ ーム)のプリセット位置、マイクおよびスピーカーとの関連付けなどが含まれます。ビデオ や録画の設定について 『57ページ』を参照してください。	
イベント、入力、出力の設定	
必要であれば、センサーからの入力に基づくシステムイベントを使用して、システム上のア クションを自動的にトリガすることができます。	
アクションの例:録画の開始・停止、フレームレートの切り替え、PTZカメラのプリセット 位置への移動。また、イベントを使用して、照明やサイレンなどのハードウェア出力を有効 にすることも可能です。イベントの概要を参照してください。	
スケジュールの設定	
いつアーカイブを行うか、カメラが常に映像をシステムへ転送するか、特定のイベント発生 時や指定された時間帯だけ映像を転送するか、などを設定します。また、いつシステムから 通知を受信するかも指定します。一般的なスケジュールとアーカイブの設定『133ページの "一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定"参照』およびカメラ固有のスケジュールの 設定 『60ページ』を参照してください。	

	クライアントによるシステムへのアクセス設定
	システムには、多数の異なるクライアントアプリケーションが含まれています。クライアントからのインターネット経由でのシステムへのアクセス可否や、同時接続クライアント数な どを指定します。サーバーアクセスの設定 『165ページ』を参照してください
マスター/スレーブサーバーの設定	
	複数のサーバーを一緒に動作させたい場合、以下の手順に従ってください。
	マスター/スレーブ設定により、複数のサーバーを組み合わせて、使用できるカメラの数を単 一のサーバーの許容最大数以上に拡大できます。
	このような設定でも、クライアントの接続数は1つだけです。クライアントは、マスターサ ーバーに接続されますが、スレーブサーバーのカメラや録画にも自動的にアクセスできま す。マスター/スレーブサーバーの設定 『168ページの"マスターおよびスレーブサーバーの 設定"参照 』を参照してください。
	ユーザーの設定
	誰が、どのようにシステムにアクセスできるかを指定します。必要であれば、Management Application を保護するパスワードを設定します。誰がどのような権限を持つクライアントア クセスを行えるかを決定します。ユーザーアクセス設定ウィザード 『47ページの"ユーザー アクセスの管理ウィザード"参照』、基本ユーザーの追加 『170ページ』、ユーザーグル ープの追加 『171ページ』、ユーザーおよびグループの権限の設定 『172ページ』を参 照してください。

上記のリストは、一般的に管理者が行う必要のある設定手順を示しています。たとえば Matrix 『139 ページの"Matrix ビデオの共有について"参照 』動画共有機能を必要とする場合は、さらに多くの設定 が必要になります。

推奨事例

録画データベースの破損からの保護について

カメラデータベースが破損した場合に実行するアクションを選択できます。アクションにはさまざま なデータベース修復オプションがあります。このようなオプションは便利ですが、Milestone は、カ メラデータベースが破損しないよう注意することをお勧めします。

停電: UPS の使用

※本機には、必ず UPS を接続してください。

データベースが破損する最大の原因として、ファイルが保存されず、オペレーティングシステムが適切に終了されずに、レコーディングサーバーが突然にシャットダウンすることが挙げられます。これは、停電、または誰かが誤ってサーバーの電源コードを抜いてしまった場合などに発生することがあります。

レコーディングサーバーが突然シャットダウンしないように保護するための最善の方法は、UPS(無 停電電源装置)を接続することです。

UPS は、電源異常が発生した場合に、開いているファイルを保存して安全にシステムの電源を切るために必要な電源を提供します。開いているファイルを保存し、オペレーティングシステムを正しくシャットダウンするには、数分かかる場合があります。

Windows タスクマネージャ:プロセスの終了時に注意する

Windows タスクマネージャで作業するときには、監視システムに影響を与えるプロセスを終了させな いように注意してください。Windows タスクマネージャでプロセスの終了をクリックして、アプリケ ーションまたはシステムサービスを終了すると、プロセスには、終了される前にその状態またはデー タを保存する機会が与えられません。その結果として、カメラデータベースが破損する可能性があり ます。

Windows タスクマネージャは通常、プロセスを終了しようとすると警告を表示します。プロセスを終 了しても監視システムに影響がないことに確信が持てない場合は、警告メッセージでプロセスを終了 するか尋ねられた場合に**いいえ**をクリックします。

ハードディスクの故障:ドライブを保護する

ハードディスクドライブは機械装置であり、外的な要因に対して脆弱です。以下は、ハードディスク ドライブを傷つけ、カメラデータベースの破損を引き起こす可能性がある外部要因の例です。

- 振動(監視システムサーバーとその周囲が安定していることを確認してください)
- 高温(サーバーが適切に換気されていることを確認してください)
- 強力な磁場(避けてください)
- 停電(必ず UPS を使用してください)
- 静電気(ハードディスクドライブを取り扱う場合には、必ず接地してください)
- 火、水など(避けてください)

設定に関する変更の保存について

システムをセットアップする際、システムに適用するために、設定に対して行った変更は必ず保存し てください。Management Application で設定を変更する場合、たとえばカメラの概要やユーザープロ パティで、黄色の通知バーによって設定を変更したことが通知されます。このバーは、変更がシステ ムに適用されたことを確認するために表示されます。変更を適用する場合は、保存をクリックします。 変更を保存したくない場合は、破棄をクリックします。

Management Application の設定を変更し、行った変更を保存すると、システムはシステムサービス (Recording Server サービスや Image Server サービスなど)に通知します。たとえば、カメラの名前 を変えたり、モーション検知の設定を変更するなどの設定を変更すると、関連するシステムサービス に新しい設定がロードされ、ただちにクライアントに変更が表示されます。一方、たとえば、新しい イベントを追加するなど、リソースを多く必要とする設定変更を行った場合は、適切に動作させるた めに関連するサービスを再起動する必要があります。 サービスを再起動する必要がある場合、変更を保存すると、システムが自動的に再起動を実行します。 Milestone Mobile サーバーで設定を変更した場合、Milestone Mobile Server サービスを再起動せずに 保存をクリックすると、システムにすべての変更が適用されます。

重要: システムがサービスを再起動している間は、ビデオを再生したり、録画することはできません。通常は、サービスの再起動は数秒で完了しますが、中断を最小限に抑えるために、重要な事象が発生しないと予想される時間帯にサービスを再起動することをお勧めします。クライアントを通じてシステムに接続しているユーザーは、サービスの再起動中もログインしたままになりますが、短い間 ビデオが停止することがあります。

システムは、変更を復元ポイント 『213ページの"復元ポイントからのシステム設定の復元"参照 』に 保存します(そのため、エラーが生じた場合などにも作業設定を復帰することができます)。

組み込みヘルプの使用について

システムの組み込みヘルプを使用するには、Management Application のツールバーにあるヘルプボタンをクリックするか、キーボードの **F1** キーを押します。

すると既定のインターネットブラウザでヘルプシステムが開きます。このヘルプシステムと Management Application はアクティブ状態を切り替えることができます。このヘルプシステムは、コ ンテキスト依存ヘルプです。つまり、特定のダイアログでの作業中に F1 キーを押してヘルプを呼び 出すと、ヘルプシステムはそのダイアログに応じたヘルプを表示します。

組み込みヘルプシステムの操作

ヘルプシステムのコンテンツ間で移動するには、ヘルプタブを使用します。内容、索引、検索を使用 するか、ヘルプトピック内のリンクを使用します。

- 内容: ヘルプシステムをツリー構造で表示します。
- **索引**: ヘルプトピックのアルファベット順の索引があります。
- 検索: 特定のキーワードを含むヘルプトピックを検索できます。たとえば、「ズーム」という言葉を検索すると、「ズーム」が含まれているすべてのヘルプトピックが検索結果に表示されます。検索結果のリストでヘルプトピックのタイトルをダブルクリックすると、関連するトピックが表示されます。

ヘルプトピックの印刷

トピックの印刷が必要な場合は、インターネットブラウザの印刷機能を使用します。ヘルプトピック の印刷時は、画面上の表示がそのまま印刷されます。つまり、クリックすると展開されるリンク(ド ロップダウンリンク)がトピックに含まれていて、表示されるドロップダウンリンクも印刷出力に含 めたい場合、関連するドロップダウンリンクをクリックして、テキストが印刷に含まれるように表示 させる必要があります。そうすることで、必要な情報がすべて含まれたページを印刷することができ ます。

サービスの再起動について

Management Application での変更設定の際、いくつかの項目では、Image Server サービスや Recording Server サービスの再起動が要求されます。サービスの再起動が必要な設定項目については、 以下のリストを参照してください。

Image Server	Recording Server
ポート番号の変更	ライセンスの変更
最大クライアント数	イベントデータベースのパスの 変更
マスターサーバーの有効化また は無効化	手動録画の有効化
スレーブサーバーの追加または 削除	リモートでの起動
ログのパスの変更	通知の有効化または無効化
ライセンスの変更	イベントの変更
プライバシーマスクの変更	出力の変更
ハードウェアデバイスの削除	ダイナミックアーカイブパスの 追加または削除
エビデンス収集モードの有効 化・無効化。 XProtect Enterprise のみ。	アーカイブ時刻の追加または削 除
	スケジュールの変更
	Matrix 機能のセットアップ
	ハードウェアデバイスの交換
	カメラドライバーの変更
	カメラの IP アドレスの変更
	すべてのデバイスの削除
	カスタマーダッシュボードでの アラームの有効化または無効化
	エビデンス収集モードの有効 化・無効化。XProtect Enterprise のみ。

モニターストレージ容量の使用率

使用しているシステムにどの程度のストレージ容量があるか、そしてそのうち空き容量がどの程度あ るかを確認するには、次の手順を実行してください。

- 1. 拡張設定を展開し、カメラおよびストレージの情報を選択します。
- 2. ストレージ使用の概要で、どのドライブが使用可能であるか、どのドライブを何に使用しているか、それぞれのドライブのサイズ、ならびにそれぞれのドライブにビデオデータ、その他のデータ、空き容量がどの程度あるかに関する情報を確認できます。

Management Application でカメラからのビデオを表示する

Management Application で、単一のカメラから直接ライブビデオを再生できます。

- 1. 拡張設定を展開し、カメラおよびストレージの情報を展開します。
- 2. 関連するカメラを選択して、そのカメラからのライブビデオを表示します。ライブビデオの 上には、選択したカメラの最も重要なプロパティの概要が表示されます。ライブビデオの下 には、カメラの解像度や平均の画像ファイルサイズなどの情報が表示されます。MPEGまた は H.264 を使用しているカメラの場合、ビットレートは Mbit/秒でも表示されます。

重要: 特定の状況で Management Application でライブビデオを表示すると、関連するカメラからの 同時録画に影響することがあります。次の3つのシナリオに特に配慮することが重要です。

- マルチストリームをサポートしている一部のカメラでは、2番目のストリームを開くと、半分のフレームレートになったり、応答にマイナスの影響が出る場合があります。

- カメラが非常に高い画質でライブビデオを配信している場合、画像のデコーディングによって Recording Server サービスへの負荷が高まり、録画に対して継続的に悪影響を与える場合がありま す。

- 複数の同時ビデオストリームをサポートしていないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。したがって、Milestone では、モーション検知や PTZ でそのようなデバイスを設定している場合は、Recording Server サービスを停止 『178ページの "サービスを開始および停止する"参照 』することを推奨しています。Management Application でカメ ラからのビデオを表示する 『29ページ』、も参照してください。

スタート

スタートページについて

Management Application を開くと、スタートウィンドウが必ず表示されます。スタートページには、 ウィザードの簡単な使い方が示されており、ユーザーの参照場所として機能します。

お使いのシステムのカメラライセンスの数を確認するには、スタートページの左下の欄でこの情報を 見ることができます。

また、お使いのシステムのウィザードの各ステップを完了する方法を説明しているビデオチュートリアルにアクセスして表示することができます。これらにアクセスするには、右下の欄にあるこのチュートリアルの表示リンクをクリックしてください。このリンクで、お使いのシステムのビデオチュートリアルのある外部 Web ページに移動します。

ハードウェアの追加ウィザード

カメラ、およびビデオエンコーダーなどその他のハードウェアデバイスは、**ハードウェアの追加ウィ ザード**を使用してシステムに追加します。ハードウェアデバイスにマイクやスピーカーが付いている 場合は、ツールによりこれらも自動的に追加されます。

サーバーあたり最大64台のカメラを使用できます。システムでビデオエンコーダーデバイスを使用 する場合、ビデオエンコーダーデバイスに複数のカメラを接続できます。たとえば、すべて使用され ている4ポートビデオエンコーダーは4台のカメラと認識されます。

このウィザードでは、次の2種類の方法でカメラを追加することができます。

	説明
ハードウェアのスキャン	必要な IP 範囲、検出方法、ドライバー、およびデバイスのユーザー 名とパスワードに関する指定に基づいて、ネットワーク上にある関 連ハードウェアデバイスをスキャンします。
	ハードウェアの追加:ハードウェアのスキャン 『31 ページの"高速" 参照 』を参照してください。

	説明
	それぞれのハードウェアデバイスの詳細を個別に指定します。
	数台のハードウェアデバイスを追加したい場合で、かつそれぞれの IP アドレス、必要なユーザー名やパスワードなどを知っている場合 に適しています。
追加するハードウェアを手動で 指定します	ハードウェアの追加:追加するハードウェアを手動で指定します 『32ページの"手動"参照』。
	あるいは、カメラに関するデータを、カンマ区切り値ファイルから インポートします。複数のシステムを設定する場合に効率的な方法 です。
	ハードウェアの追加 : CSV ファイルからインポートします 『33ペ ージの"CSV ファイルからインポート"参照 』。

カメラの IP アドレスを変更した際は、ハードウェアの追加をせず、拡張設定 > ハードウェアデバイ スから変更するカメラのプロパティを選択し、ネットワークのアドレスを変更してください。

このウィザードの手順:

高速

注意:デバイス検出は、ハードウェアデバイスがそれ自体の情報をネットワーク上に提供する方法で す。この情報に基づいて、システムは関連ハードウェアデバイス(カメラ、ビデオエンコーダーなど) を迅速に認識し、スキャン対象に含めることができます。

ハードウェアのスキャン方法により、わずか数ステップで、関連ハードウェアデバイスをネットワー クでスキャンし、システムに迅速に追加できます。

以下の2つのオプションから、ハードウェアを追加する方法を選びます。

- ローカルネットワークをスキャン:システムのサーバー自体が位置するネットワークの一部 (サブネット)である、デバイス検出をサポートしているローカルネットワークで、使用可能 なハードウェアを自動スキャンします。
- スキャン対象のIPアドレスまたはIP範囲の追加: システムがハードウェアのスキャンを開始 する IP 範囲およびポートを指定して、ハードウェアをシステムに追加します。

ローカルネットワークをスキャン方法を使用するには、使用しているシステムのサーバーとカメラが 同じレイヤー2ネットワークに存在している必要があります。これはすべてのサーバーやカメラなど が、ルーターを必要とせずに通信できるネットワークに存在することを意味します。理由はデバイス 検出がシステムのサーバーとカメラの間での直接通信に依存しているためです。ネットワークでルー ターを使用している場合は、スキャン対象のIP アドレスまたは IP 範囲の追加オプションを使用して ハードウェアが存在している IP 範囲を指定するか、追加するハードウェアを手動で指定 『32ページ の"手動"参照 』方法のいずれか 1 つを選びます。

ハードウェアの追加:スキャンオプション

お使いのシステムからカメラやデバイスをスキャン(検索)する場所を選択します。

デフォルトでは、**ローカルネットワークをスキャン**チェックボックスが選択されているため、ローカ ルネットワーク内にあるデバイスのみをスキャンします。ただし、カメラやデバイスの IP アドレスま たはそれらの範囲が分かる場合、スキャンする IP アドレスまたは IP 範囲を追加するの隣にある[プラ ス]アイコンをクリックして指定してください。必要な場合、2 つ以上の IP アドレス範囲を追加するこ とができます。

ハードウェアの追加:スキャン対象のハードウェアのメーカーの選択

お使いのハードウェアデバイスのメーカーが分かっている場合、このページのドロップダウンリスト から選択します。必要な数のメーカーを選択できます。

注意:デフォルトでは、すべてのメーカーが選択されています。スキャン時間を短縮する場合、あるいはお使いのカメラのうち特定メーカーのデバイスのみを確認したい場合、ご希望のメーカーを表す チェックボックスのみを選択してください。

ハードウェアの検出と検証

選択したメーカーに一致するハードウェアデバイスのスキャンが開始します。ステータスバーに、ス キャン処理の進捗状況が示されます。カメラやデバイスのスキャンが完了した後で、選択したデバイ スやカメラのユーザー名とパスワードの入力を求められる場合があります。それらの資格情報を入力 した場合、デバイスを追加するには**確認**ボタンをクリックしてください。

注意:デバイスやカメラによっては、ユーザ名とパスワードが不要な場合もあります。そのような場合、資格情報を入力することなくデバイスを追加できます。

追加するデバイスやカメラの数を追加すると、お使いのシステムがストレージを設定します。ここで、 ストレージとは、お使いのシステムが記録を保存する場所のことです。デフォルトでは、空きディス ク容量が最も多く利用できる場所がシステムにより選択されます。

手動

追加するハードウェアを手動で指定方法では、それぞれのハードウェアデバイスの詳細を個別に指定 できます。このオプションは、少数のハードウェアデバイスだけを追加する場合で、それらの IP アド レス、ユーザー名とパスワードなどが分かっている場合に適しています。同様に、ハードウェアのス キャンオプションを使用するローカルネットワークでの自動検索は、たとえばシステムのユニバーサ ルドライバーを使用しているカメラなど、一部のカメラでは機能しないことがあります。このような カメラについては、手動でシステムに追加する必要があります。

あるいは、CSV ファイルのインポート 『33ページの"CSV ファイルからインポート"参照 』を選択します。このオプションでは、ハードウェアデバイスに関するデータを、カンマ区切り値ファイル (CSV)からインポートします。複数の類似のシステムを設定する場合、これは非常に効率的な方法です。

情報、ドライバーの選択と検証

追加したいハードウェアデバイスのそれぞれの情報を指定します。

名前	説明
IP アドレス	ハードウェアデバイスの IP アドレスまたはホスト名。
ポート	スキャンするポート番号。デフォルトはポート 80 です。ハードウ ェアデバイスが NAT 対応のルーターまたはファイアウォールの背 後にある場合、別のポート番号の指定が必要になることがあります。 この場合、ハードウェアデバイスが使用しているポートや IP アドレ スをマップするように、ルーター/ファイアウォールを設定する必要 もあることに留意してください。
ユーザー名	ハードウェアデバイスの管理者アカウントのユーザー名。多くの組織では、ハードウェアデバイスの製造元による既定のユーザー名を ハードウェアデバイスで使用しています。あなたの組織がこれに該 当する場合、<デフォルト>を選択します。システムがメーカーのデ フォルトユーザー名を知っているといった誤解の原因となるため、 メーカーのデフォルトユーザー名を入力しないでください。
パスワード	管理者アカウントにアクセスするために必要なパスワードです。 一部のハードウェアデバイスでは、アクセスにユーザー名/パスワード を必要としません。
ドライバー	ハードウェアデバイスをスキャンするドライバー。デフォルトでは、 ウィザードは自動検出オプションを表示します。自動検出オプショ ンは、関連するドライバーを自動的に検索します。スキャン時間を 短縮するため、メーカーが分かっている場合はメーカーを選択しま す。

追加するデバイスやカメラの数を追加すると、お使いのシステムがストレージを設定します。ここで、 ストレージとは、お使いのシステムが記録を保存する場所のことです。デフォルトでは、空きディス ク容量が最も多く利用できる場所がシステムにより選択されます。

CSV ファイルからインポート

ハードウェアデバイスやカメラに関するデータを、カンマ区切り値ファイル(CSV)からインポートします。複数の類似のシステムを設定する場合、これは非常に効率的な方法です。

ハードウェアデバイスの追加ウィザード - CSV ファイルからインポート - CSV ファ イルの例

以下は、カメラやサーバーがオンラインである場合に使用する CSV ファイルの例です。 HardwareAddress、HardwarePort、HardwareUsername、HardwarePassword、 HardwareDriverID などのパラメータを含んでいます。HardwareUserName および HardwareDriverID

スタート

は、オプションのパラメータです。デバイスについて、デフォルトの HardwareUsername を変更して いない場合は、HardwareUsername をそのままにすることもできます。HardwareDriverID は、オプシ ョンのフィールドです。空白の場合、自動的に自動検出に設定されます。

HardwareAddress;HardwarePort;HardwareUsername;HardwarePassword;Hardwa
reDriverID;
192.168.200.220;80;root;pass;128;
192.168.200.221;80;user;password;165;
192.168.200.222;80;r00t;pass;172;
192.168.200.223;80;;p4ss;
192.168.200.224;80;usEr;pASs;

ハードウェアの追加: CSV ファイルからインポート - CSV ファイル形式および要件

CSVファイルには、ヘッダー行(以後の行にあるそれぞれの値が何に関するものであるかを決定する) が必要であり、以後の行にはそれぞれ1つのハードウェアデバイスに関する情報だけが含まれている 必要があります。それぞれのハードウェアデバイスに対して、必ず最低限度の情報が必要になりま す。

名前	説明
HardwareAddress	ハードウェアデバイスの IP アドレス。
HardwareUsername	ハードウェアデバイスの管理者アカウントのユーザー名。
HardwarePassword	ハードウェアデバイスの管理者アカウントのパスワード。
HardwareDriverID	カメラやサーバーがオフラインであれば、追加したいそれぞれのハ ードウェアデバイスについて HardwareDriverID を指定します。 例:ACTi ACD-2100 105 は、ACTi ACD-2100 ハードウェアデバイ スを追加する際に、105 を ID として使用する必要があることを示し ています。

CSV ファイルで指定されていない既存の設定パラメータは変更されないままになります。CSV ファ イルで個々のカメラのパラメータ値が空白であれば、そのカメラの既存のパラメータ値は変更されな いままです。大半のシステムインテグレーターは、ハードウェアデバイス情報を Microsoft Excel など のスプレッドシートに保存してから、CSV ファイルにカンマ区切り値で保存しています。

以下は、CSV ファイルに存在する情報に適用されます。

- CSV ファイルの最初の行にはヘッダーが必要であり、以後の行にはそれぞれ1つのハードウェアデバイスに関する情報が含む必要があります。
- 区切り記号としてはカンマ、セミコロン、タブが使えますが、混在させることはできません。
- すべての行に有効な値が含まれる必要があります。カメラの名前、ユーザー名や類似のアイテムなどは一意でなければならないことと、以下の特殊文字が含まれないことに特に注意してください。

 <

34

- 値の順番は固定ではなく、オプションのパラメータは完全に除外することもできます。
- ブーリアン型フィールドは、0、false、noに設定しなければ、真であるとみなされます。
- 区切り記号しか含まない行は無視されます。
- 空白の行も無視されます。

CSV ファイル形式は一般には ASCII のみですが、Unicode 識別子も許可されます。Unicode 識別子が なくても、ファイル全体あるいは個々の文字が Unicode 文字列であることは可能です。

ストレージの設定ウィザード

ビデオストレージのステップは、カメラのビデオや録画のプロパティを迅速に設定するのに便利です。

このウィザードの手順:

ストレージの設定:ビデオ設定とプレビュー	. 35
ストレージの設定:オンラインスケジュール	. 36
Motion-JPEG カメラのライブ設定および録画設定	. 36
MPEG カメラのライブ設定および録画設定	. 38
ドライブの選択	. 40
録画およびアーカイブの設定	. 43

ストレージの設定:ビデオ設定とプレビュー

ビデオ設定では、帯域、輝度、圧縮、コントラスト、解像度、回転などをコントロールできます。ウ ィザードウィンドウの左にあるリストを使って、カメラを選択し、ビデオ設定を調整します。その後、 次のカメラを選択して、設定を調整します。ビデオ設定の大部分はカメラに固有であるため、これら の設定はそれぞれのカメラに対して個別に設定する必要があります。

設定ダイアログを開くをクリックして、別のダイアログでカメラを設定します。ビデオ設定を変更した場合、すぐに変更が適用されます。つまり、大半のカメラでは、設定の効果をプレビュー画像ですぐに確認することができます。ただし、ウィザードを終了しても、行った変更を元に戻すことができません。ビデオ形式に MPEG または H.264 を使用するように設定されているカメラでは、通常、そのカメラでどのライブフレームレートを使用するか選択します。

ビデオ設定機能に、**日時を含む**設定がある場合があります。**はい**に設定すると、カメラからの日付と 時刻がビデオに含まれます。ただし、カメラは別個のユニットであり、別個のタイミングデバイスや 電源などで機能しています。したがって、カメラの時刻と XProtect システムの時刻が完全に対応して いないことがあり、これが混乱につながることがあります。受信したすべてのフレームにシステムが タイムスタンプを付けるため、それぞれの画像の正確な日付と時刻は既に分かっていることから、 Milestone では**いいえ**に設定することを推奨しています。

注意: 一貫性のある時間の同期を行うために、使用しているカメラがサポートしている場合、カメ ラとシステムの時刻をタイムサーバーで自動同期することができます。

ストレージの設定:オンラインスケジュール

それぞれのカメラをいつオンラインにするかを指定します。オンラインのカメラとは、ライブでの再 生やその他の処理のためにビデオをサーバーに転送するカメラです。カメラがオンラインであるとい う事実だけでは、システムがカメラからのビデオを録画していることを意味しません(録画の設定は、 以後のページで行います)。デフォルトでは、システムに追加するカメラは自動的にオンライン(**常** にオン)になるので、特定の時刻やイベントに際してのみカメラをオンラインにしたい場合にだけオ ンラインスケジュールを変更します。ただし、この既定の状態を、スケジュールオプション 『135ペ ージ 』の一部として変更できることに注意してください。

それぞれのカメラに対して、初期設定で次の2種類のオンラインスケジュールのいずれかを選択できます。

- **常にオン**: カメラは、常にオンラインになります。
- 常にオフ: カメラは、決してオンラインになりません。

これら2種類のオプションでは単純過ぎる場合は、**作成/編集...**ボタンを使って、必要に応じたオンラ インスケジュールを指定してから、カメラに対してスケジュールを選択します。このようにして、特 定の期間でカメラがオンラインであるかどうか、あるいは特定の期間内で特定のイベントが発生した 場合にカメラがビデオの転送を開始または停止するかを指定することができます。

テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、20 台のカメ ラがあり、それらすべてに特定のフレームレートを設定したい場合、テンプレートに一度入力するだ けで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。

	説明
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの 設定 ボ タンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択解除します。
選択したカメラにテンプレート を適用する	テンプレートの値を、選択したカメラに適用します。

Motion-JPEG カメラのライブ設定および録画設定

このウィザードページが表示されるのは、1 台または複数のカメラが MJPEG ビデオ形式を使用している場合だけです。

モーションの検知や指定したイベントの前後の期間の録画を保存できるプリレコーディングやポスト レコーディングを選択します。また、それぞれのカメラで使用するフレームレートを指定します (XProtect Enterprise および XProtect Professional のみ)。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:
名前	説明
プリレコーディング	検出したモーションおよび開始イベントの前の期間からの録画を保 存できます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効 になります。右の列で、必要な秒数を指定します。
秒数 [プリレコーディング]	録画開始条件(モーションまたは開始イベント)が満たされる前か ら、ビデオを録画する秒数を指定します。通常、プリレコーディン グが必要になるのは数秒のみですが、最長で65,535秒(18時間12 分15秒)まで指定できます。ただし、非常に長いプリレコーディ ング時間を指定すると、プリレコーディング時間がスケジュールさ れた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ『127ページ の"アーカイブについて"参照』時間にかかることもあります。アー カイブ中は、プリレコーディングが適切に機能しないため、問題の 原因となる場合があります。
ポストレコーディング	検出したモーションおよび停止イベントの後の期間の録画を保存で きます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効にな ります。右の列で、必要な秒数を指定します。
秒数 [ポストレコーディング]	録画停止条件(モーションまたは停止イベント)が満たされた後で、 ビデオを録画する秒数を指定します。通常、ポストレコーディング が必要になるのは数秒のみですが、最長で65,535秒(18時間12 分15秒)まで指定できます。ただし、非常に長いポストレコーデ ィング時間を指定すると、ポストレコーディング時間がスケジュー ルされた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ時間にか かることもあります。アーカイブ中は、ポストレコーディングが適 切に機能しないため、問題の原因となる場合があります。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

フレームレート	カメラの映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択して から、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。
ライブフレームレート:	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数 を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。
	カメラがデュアルストリーム対応で、デュアルストリームが有効に なっている場合、 ライブフレームレート 列は読み取り専用になり、 変更できない デュアルストリーミング の値が入ります。
録画フレームレート:	カメラの録画映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択 してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。 このフ レームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くな ければなりません。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、20 台のカメ ラがあり、それらすべてに特定のフレームレートを設定したい場合、テンプレートに一度入力するだ けで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。

	前明
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの 設定 ボ タンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択解除します。
選択したカメラにテンプレート を適用する	テンプレートの値を、選択したカメラに適用します。

MPEG カメラのライブ設定および録画設定

このウィザードページが表示されるのは、1 台または複数のカメラが MPEG ビデオ形式を使用している場合だけです。

それぞれのカメラでどのフレームレートを使用するか、すべてのフレームを録画するか、あるいはキ ーフレームだけを録画するかを指定します。また、プリレコーディングやポストレコーディングを選 択して、モーションの検知や指定したイベントの前後の期間の録画を保存することも可能です。

それぞれのカメラに対して、すべてのプロパティを個別に指定することも可能であることに注意して ください。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

名前	説明
	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数 を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。
ライブフレームレート:	カメラがデュアルストリーム対応で、デュアルストリームが有効に なっている場合、 ライブフレームレート 列は読み取り専用になり、 変更できない デュアルストリーミング の値が入ります。

	説明
録画設定	 カメラからのビデオを録画する条件を以下から選択します。 常時:カメラが有効『81ページの"一括設定"参照』であり、 オンラインになるようスケジュールされている『137ページ の"オンライン期間"参照』場合に録画します(後者によっ て、時間に基づく録画が可能になります)。 設定しない:録画しません。ライブビデオは表示されますが、 ビデオがデータベースに保存されないので、カメラからのビ デオを再生することはできません。 モーション検知:これを選択すると、モーション『91ページ の"モーション検知と領域の除外"参照』が検知されたビデ オを録画します。ポストレコーディング(以下を参照)を使 用しない限り、最後にモーションが検知された後、録画はた だちに停止します。 イベント:これを選択すると、イベントが発生してから、別 のイベントが発生するまでの間、ビデオが録画されます。イ ベントによる録画を使用するには、そのイベントが定義され ていて、開始イベントおよび停止イベントを選択してあるこ とが必要です。 モーション検知およびイベント:これを選択すると、モーシ ョンを検知した場合、あるいはイベントが発生していから、 別のイベントが発生するまでの間、ビデオが録画されます。 隣の列で、開始イベントおよび停止イベントを選択すること を忘れないでください。
プリレコーディング	検出したモーションおよび開始イベントの前の期間からの録画を保 存できます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効 になります。右の列で、必要な秒数を指定します。
秒数 [プリレコーディング]	録画開始条件(モーションまたは開始イベント)が満たされる前か ら、ビデオを録画する秒数を指定します。通常、プリレコーディン グが必要になるのは数秒のみですが、最長で65,535秒(18時間12 分15秒)まで指定できます。ただし、非常に長いプリレコーディ ング時間を指定すると、プリレコーディング時間がスケジュールさ れた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ『127ページ の"アーカイブについて"参照』時間にかかることもあります。アー カイブ中は、プリレコーディングが適切に機能しないため、問題の 原因となる場合があります。

	説明
ポストレコーディング	検出したモーションおよび停止イベントの後の期間の録画を保存で きます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効にな ります。右の列で、必要な秒数を指定します。
秒数 [ポストレコーディング]	録画停止条件(モーションまたは停止イベント)が満たされた後で、 ビデオを録画する秒数を指定します。通常、ポストレコーディング が必要になるのは数秒のみですが、最長で65,535秒(18時間12 分15秒)まで指定できます。ただし、非常に長いポストレコーデ ィング時間を指定すると、ポストレコーディング時間がスケジュー ルされた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ時間にか かることもあります。アーカイブ中は、ポストレコーディングが適 切に機能しないため、問題の原因となる場合があります。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

	ビデオストリームのキーフレームのみでモーション検知を行うこと
キーフレームのみ	で、モーション検知で使用するシステムのリソースを減らしたい場
	合は、キーフレームのみを選択します。

テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、20 台のカメ ラがあり、それらすべてに特定のフレームレートを設定したい場合、テンプレートに一度入力するだ けで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。

	説明
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの 設定 ボ タンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択解除します。
選択したカメラにテンプレート を適用する	テンプレートの値を、選択したカメラに適用します。

ドライブの選択

どのドライブに、カメラの録画を保存するかを指定します。録画およびアーカイブ 『**127**ページの"ア ーカイブについて"参照 』に対して、別個のドライブ/パスを指定することができます。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	説明
ドライブ	対象となるトライブを表す文字、たとえば C:など。
目的	ドライブを使用する目的を選択します。 使用しない: ドライブは使用しません。
	レコーディング: ドライブが、XProtect Enterprise サーバーのローカ ルドライブの場合のみ、使用可能です。ネットワークドライブは録 画には使用できません。XProtect Enterprise のデータベース録画に 使用するドライブです。
	アーカイブ: ドライブをアーカイブで使用します。アーカイブには、 空き容量が十分にあるドライブを使用することをお勧めします。ア ーカイブでダイナミックパスを選択した場合(以下の説明を参照)、 ドライブの空き容量について心配する必要はありません。
	 レコーディングおよびアーカイブ: ドライブが、XProtect Enterprise サーバーのローカルドライブの場合のみ、使用可能です。 ネットワークドライブは録画には使用できません。XProtect Enterprise の通常のデータベースに録画およびアーカイブを保存するドライブを使用します。
レコーディングパス	カメラのデータベースを保存するフォルダへのパス。デフォルトは、 D:¥MediaDatabaseです。他のフォルダを参照する場合は、該当す るセルの横にあるアイコンをクリックしてください。指定できるの は、ローカルドライブにあるフォルダへのパスのみです。ネットワ ークドライブへのパスを指定することはできません。ネットワーク ドライブを使用すると、ネットワークドライブが使用できない場合 に録画を保存できなくなります。
	レコーディングパスを変更し、古い場所に既存の録画がある場合、 録画を新しい場所へ移動するか(推奨)、古い場所に残すか、ある いは削除するかを選択する必要があります。
	ヒント: 複数のカメラがあり、複数のローカルドライブが使用可能 な場合、個別のカメラのデータベースを複数のドライブに分散させ ることでパフォーマンスを改善できます。

	説明
	アーカイブ 『127ページの"アーカイブについて"参照 』でダイナミ ックパスを使用していない場合にのみ、編集可能です。カメラのア ーカイブされた録画を保存するフォルダへのパス。デフォルトは、 D:¥MediaDatabaseです。
アーカイブパス	他のフォルダを参照する場合は、関連するセルの横にあるアイコン をクリックしてください。アーカイブパスを変更し、古い場所に既 存のアーカイブされた録画がある場合、アーカイブされた録画を新 しい場所へ移動するか(推奨)、古い場所に残すか、あるいは削除 するかを選択する必要があります。アーカイブされた録画を移動す ると、XProtect Enterprise は現在カメラのデータベースにあるもの もアーカイブすることに注意してください。そのため、アーカイブ された録画を移動した直後に、カメラのデータベースは空になりま す。
合計サイズ	ドライブの合計サイズ。
空き容量	ドライブに残っている未使用の容量。
アーカイブのダイナミックパス 選択	このオプションを使用する場合、アーカイブ用に複数のローカルド ライブを選択する必要があります。XProtect Enterprise データベー スを含んでいるパスが、アーカイブ用に選択したドライブのいずれ かにあれば、XProtect Enterprise は常にまずそのドライブにアーカ イブしようと試みます。そうでない場合、そのドライブを使用する カメラデータベースが存在しない限り、XProtect Enterprise は自動 的にその時点で最も使用可能な容量が大きいアーカイブドライブに アーカイブします。使用可能な容量が最も大きいドライブはアーカ イブプロセス中も変化するので、同一プロセスで複数のアーカイブ ドライブに対してアーカイブされることがあります。これにより、 ユーザーがアーカイブされた録画を検索し、再生する方法には影響 を与えません。
アーカイブ時刻	XProtect Enterprise で自動的に録画をアーカイブパスへ移動させた い時刻を指定します。1日に最大で24件のアーカイブ時刻を指定で きますが、最低でも1時間の間隔が必要です。時間、分、秒の値を 選択してから、上および下ボタンをクリックして値を増減させるか、 単に選択した値に上書きして、追加をクリックします。大量の録画 が予想される場合ほど、頻繁にアーカイブする必要があります。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

	ネットワークドライブをドライブのリストに追加します。まずネッ
	トワークドライブを指定してから、追加をクリックします(ネット
ネットワークドライブ	ワークドライブを指定すると、ボタンが使用可能になります)。ネ
	ットワークドライブは録画には使用できず、アーカイブ用のみであ
	ることに注意してください。

録画およびアーカイブの設定

個々のカメラについて、それぞれ録画およびアーカイブ 『**127**ページの"アーカイブについて"参照 』のパスを選択します。

白い背景のすべてのプロパティは編集可能で、水色の背景のプロパティは編集できません。

	説明
レコーディングパス	カメラのデータベースを保存するフォルダへのパス。デフォルトは、 D:¥MediaDatabaseです。他のフォルダを参照する場合は、該当す るセルの横にあるアイコンをクリックしてください。指定できるの は、ローカルドライブにあるフォルダへのパスのみです。ネットワ ークドライブへのパスを指定することはできません。ネットワーク ドライブを使用すると、ネットワークドライブが使用できない場合 に録画を保存できなくなります。 レコーディングパスを変更し、古い場所に既存の録画がある場合、
	録画を新しい場所へ移動するか(推奨)、古い場所に残すか、ある いは削除するかを選択する必要があります。
	ヒント: 複数のカメラがあり、複数のローカルドライブが使用可能 な場合、個別のカメラのデータベースを複数のドライブに分散させ ることでパフォーマンスを改善できます。
アーカイブパス	アーカイブ 『127ページの"アーカイブについて"参照 』でダイナミ ックパスを使用していない場合にのみ、編集可能です。カメラのア ーカイブされた録画を保存するフォルダへのパス。デフォルトは、 D:¥MediaDatabaseです。
	他のフォルダを参照する場合は、関連するセルの横にあるアイコン をクリックしてください。アーカイブパスを変更し、古い場所に既 存のアーカイブされた録画がある場合、アーカイブされた録画を新 しい場所へ移動するか(推奨)、古い場所に残すか、あるいは削除 するかを選択する必要があります。アーカイブされた録画を移動す ると、XProtect Enterprise は現在カメラのデータベースにあるもの もアーカイブすることに注意してください。そのため、アーカイブ された録画を移動した直後に、カメラのデータベースは空になりま す。
保持期間	カメラからの録画(つまり、カメラのデータベースにある録画なら びにアーカイブされている録画)を保持しておく合計時間です。デ フォルトは7日です。
	保持時間は、録画を保持しておく合計時間です。以前のバージョンの XProtect Enterprise では、データベースとアーカイブで別個に制限時間を指定していました。

テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて便利です。たとえば、20 台のカメ ラがあり、それらすべてに特定のフレームレートを設定したい場合、テンプレートに一度入力するだ けで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。

	説明
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの 設定 ボ タンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択解除します。
選択したカメラにテンプレート を適用する	テンプレートの値を、選択したカメラに適用します。

モーション検知の調整ウィザード

モーション検知の調整ウィザードは、カメラのモーション検知のプロパティを迅速に設定するのに便 利です。

複数の同時ビデオストリームをサポートしていないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。したがって、Milestone では、モーション検知や PTZ でそのようなデバイスを設定している場合は、Recording Server サービスを停止 『178ページの "サービスを開始および停止する"参照 』することを推奨しています。Management Application でカメ ラからのビデオを表示する 『29ページ』、も参照してください。

このウィザードの手順:

領域の除外	44
モーション検知	45

領域の除外

ウィザードの領域の除外セクションで、カメラのビューの特定のエリアでモーション検知を無効にで きます。特定エリアのモーション検知を無効にすると、たとえば、カメラの撮影範囲に、風で揺れる 木がある、または背景に定期的に自動車が通過する場合など、不適切なモーションの検知を避けるこ とができます。

複数の同時ビデオストリーム出力をサポートしていないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。Milestone では、そうしたデバイスでモーション検 知や PTZ を設定する場合は、Recording Server サービスを停止 『178ページの"サービスを開始およ び停止する"参照 』 することを推奨しています。Management Application でカメラからのビデオを表 示する 『29ページ 』、も参照してください。 同じ除外領域を表示する各カメラでは、ウィザードウィンドウの左側にあるリストを使ってカメラを 選択し、領域の除外を定義します。領域の除外は各カメラに固有であるため、必要なそれぞれのカメ ラで個別にモーション検知を設定する必要があります。

カメラを選択すると、カメラのプレビューを確認できます。プレビューで除外する領域を定義し、グ リッドで小さいセクションに分割します。

- グリッドを表示するには、**グリッドを表示**チェックボックスを選択します。
- 除外領域を定義するには、マウスのボタンを押下した状態で、プレビュー画像の必要な部分 にマウスのポインタをドラッグします。左マウスボタンでグリッドを選択します。右マウス ボタンでグリッドをクリアします。選択されたエリアが、青色で強調表示されます。

すべてを含めるボタンを使用すると、プレビュー画像にあるすべてのグリッドを迅速に選択すること ができます。これは、プレビュー画像の大半のエリアでモーション検知を無効にしたい場合に便利で す。その場合は、モーション検知を無効にしたくない部分をクリアします。すべてを除外するボタン では、素早くすべてのグリッドを選択解除できます。

モーション検知

モーション検知は、ほとんどの監視システムで非常に重要な要素です。モーション検知の設定によっ て、いつビデオを録画するか(監視システムサーバーに保存)、いつアラーム通知を送信するか、い つ出力(照明やサイレン)をトリガするかなどを決定することができます。

不要な録画やアラーム通知などを避けるために、それぞれのカメラに対して、可能な限り最適なモー ション検知の設定をすることが重要になります。カメラの物理的な位置ごとに、さまざまな物理的条 件(星/夜、強風/無風および同様の条件)で設定をテストすることをお勧めします。

複数の同時ビデオストリーム出力をサポートしていないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。Milestone では、そうしたデバイスでモーション検 知や PTZ を設定する場合は、Recording Server サービスを停止 『178ページの"サービスを開始およ び停止する"参照 』 することを推奨しています。Management Application でカメラからのビデオを表 示する 『29ページ 』、も参照してください。

モーション検知の設定は、それぞれのカメラに対して行うこともできますし、複数のカメラについて 同時に行うことも可能です。ウィザードウィンドウの左側のペインにあるリストを使って、カメラを 選択します。一度に複数のカメラを選択する場合は、CTRL または SHIFT を押しながら選択します。 カメラを選択すると、カメラのプレビューを確認できます。複数のカメラを選択した場合、最後に選 択したカメラからのプレビューを確認できます。プレビュー画像の緑色のエリアがモーションを示し ています。



すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	説明
感度	感度 スライダーを調整して、不要なバックグランドノイズをフィル タし、実際のモーションだけが緑色で表示されるようにします。ま たは、スライダーの横のフィールドで 0~256 の値を指定して、感 度設定を制御します。
	スライダーによって、モーションとして認識するために必要な変化 するピクセル数を決定します。感度が高いと、モーションとして認 識するために必要なピクセルの変化は非常に小さくなります。スラ イダーを左へ移動させるほど、プレビューの緑色部分が増えます。 これは、感度が高いほどわずかなピクセルの変化でもモーションと して認識されるためです。
モーション	必要なレベルのモーションによってのみ、モーション検知がトリガ されるように モーション スライダーを調整します。選択されたモー ションレベルは、スライダーの上にあるレベルバーの黒い垂直線で 示されます。黒い垂直線は、閾値になります。モーションが選択さ れたレベルを超える場合(右側)、バーの色が緑から赤に変わり、 モーションが検知されたことを示します。
	または、右のフィールドで 0~10000 の値を指定して、モーション 設定を制御します。
	スライダーを左ヘドラッグするほど、モーション検知に必要な変化 が小さくなるので、よりモーション検知が表示されます。モーショ ン検知の回数も録画するビデオの量、受信する通知の量などに影響 を与えます。
検知間隔	カメラからのビデオで、どれくらいの頻度でモーション検知分析を 行うかを指定します。デフォルトは240ミリ秒ごとです(1秒にほ ぼ4回)。この間隔は、使用しているカメラのフレームレート設定 には関係なく適用されます。
	この設定を調整すると、モーション検知で使用されるシステムのリ ソースを低減できます。
検知解像度	画像全体を分析するか、選択した部分の画像を分析するかを指定します。たとえば25%と指定すると、すべてのピクセルを分析する代わりに4ピクセルごとに分析するので、使用するシステムのリソースは低減しますが、モーション検知の正確度も低下します。

XProtect Enterprise でのみ使用可能なプロパティ:

	ビデオストリームのキーフレームのみでモーション検知を行うこと
キーフレームのみ	で、モーション検知で使用するシステムのリソースを減らしたい場
	合は、キーフレームのみを選択します。

ユーザーアクセスの管理ウィザード

ユーザーアクセスの管理手順を使用して、システムやそのクライアントにアクセスできるように個々 のユーザーを追加します。ウィザードの最後にあるアクセスの概要には、アクセス権があるカメラが リスト化されます。

重要: このウィザードを使用すると、後の段階で追加される新しいカメラを含めて、すべてのカメ ラに対して、追加したすべてのユーザーがアクセスできるようになります。一方、アクセスの設定、 ユーザー、ユーザー権限 『172ページの"ユーザーおよびグループの権限の設定"参照 』を別個に指定 することができます。サーバーアクセスの設定 『165ページ 』を参照してください。ユーザーをグル ープ 『171ページの"ユーザーグループの追加"参照 』に追加することはできません。

このウィザードの手順:

基本ユーザーと	Windows ユーザー	. 47
アクセスの概要		. 48

基本ユーザーと Windows ユーザー

Active Directory[®]は、XProtect Enterprise および XProtect Professional 2013+ でのみ使用可能です。

クライアントユーザーは、次の2種類の方法で追加できます。必要に応じて、これらを組み合わせる ことができます。

	説明
基本ユーザー	それぞれの個別のユーザーについて、基本ユーザー名とパスワード 認証で、監視システム専用のユーザーアカウントを作成します。
Windows ユーザー	サーバーでローカルまたは Active Directory で定義されたユーザー をインポートし、それらのユーザーの Windows ログインに基づいて 認証します。

注意: ユーザーは、サーバー上でローカル PC ユーザーとして定義し、サーバーの簡易ファイル共有 を無効にする必要があります。

基本ユーザーの追加

1. ユーザー名とパスワードを指定して、**基本ユーザーの追加**ボタンをクリックします。必要に 応じて、操作を繰り返します。

Windows ユーザーの追加

Windows ユーザーの追加...をクリックして、ユーザーまたはグループの選択ダイアログを開きます。場所...ボタンをクリックしても、選択できるのはローカルコンピュータからだけになります。

- 2. 選択するオブジェクト名を入力してくださいの欄にユーザー名を入力してから、名前の確認 をクリックして、ユーザー名を確認します。複数のユーザー名を入力する場合は、それぞれ の名前をセミコロンで区切ります。例:Brian; Hannah; Karen; Wayne。
- 3. 完了したら、**OK**をクリックします。

重要:ローカルデータベースから追加されたユーザーがクライアントにログインする場合、ユーザーはユーザー名の一部としてサーバー名、PCの名前または IP アドレスを指定する必要があります。正しく指定したユーザー名の例:USER001。正しくない例:PC001/USER001。ユーザーはパスワードや関連するサーバーの情報も指定する必要があります。

アクセスの概要

アクセスの概要には、ユーザーがアクセスできるカメラが一覧されます。ウィザードを使用すると、 後の段階で追加した新しいカメラを含めて、すべてのカメラに対して、追加したすべてのユーザーが アクセスできるようになります。ただし、個々の権限『**172**ページの"ユーザーおよびグループの権限 の設定"参照』を変更して、個々のユーザーのカメラへのアクセスを制限することもできます。

拡張設定

ハードウェアデバイス

ハードウェアデバイスについて

カメラ、およびビデオエンコーダーなどその他のハードウェアデバイスは、ハードウェアデバイスの 追加...ウィザード『30ページの"ハードウェアの追加ウィザード"参照』を使用してシステムに追加し ます。マイクやスピーカーがハードウェアデバイスに付属している場合は、これらも自動的に追加さ れます(使用している XProtect のバージョンでサポートされている場合)。

マイクについて

システムで、マイクは通常はハードウェアデバイスに取り付けられるので、物理的にカメラの次に位置します。そこで、必要な権限を持つオペレータは、XProtect Smart Client (XProtect Smart Client を 実行しているコンピュータにスピーカーが取り付けられている場合)を通じて録音を聴くことができま す。マイクはシステムで管理します。つまり、XProtect Smart Client のオペレータのコンピュータに 取り付けられているマイクではなく、カメラに取り付けられているマイクを常に管理できます。

必要以上のマイクをシステムに追加した場合、関連するマイクやスピーカーを右クリックして、非表 示を選択すると、不要なものを非表示にすることができます。非表示にしたマイクを再度表示したい 場合は、マイク全体のアイコンを右クリックして、非表示アイテムの表示を選択します。

スピーカーについて

スピーカーはデバイスに取り付けられ、通常は物理的にカメラの横に配置します。通常、スピーカー はカメラの近くにいる人に情報を通知します。必要な権限を持つオペレータは、XProtect Smart Client (XProtect Smart Client を実行しているコンピュータにマイクが装備されている場合)を使用し て、スピーカーで話しかけることができます。

例:エレベーターが止まってしまいました。エレベーターに取り付けられたカメラを通じて、 XProtect Smart Client のオペレータは、年配の女性がエレベーターに乗っていることを確認できます。 カメラに取り付けられたマイクから、女性が次のように話すのが録音されます。「怖いわ。助けてく ださい!」カメラに取り付けられたスピーカーを通じて、オペレータが女性に語りかけます。「間も なく救助が到着しますよ。あと15分以内に出られます。」

必要以上のスピーカーをシステムに追加した場合、関連するスピーカーを右クリックして、**非表示**を 選択すると、不要なスピーカーを非表示にすることができます。非表示にしたスピーカーを再度表示 したい場合は、スピーカー全体のアイコンを右クリックして、**非表示アイテムの表示**を選択します。

音声録音について

音声を録音する場合、以下に注意することが重要です。

- システムが録音できるのは、(マイクから)入ってくる音声だけです。システムは、(スピーカーから)出ていく音声は録音しません。
- 音声録音は、ビデオ保存容量に影響します。システムは、関連するカメラのデータベースに 音声を録音します。したがって、ビデオだけを録画する場合に比べて、音声とビデオを記録 する場合、より早くデータベースが満杯になることに留意する必要があります。データベー スが満杯になると、システムは自動的にデータをアーカイブするので、データベースが満杯 になること自体は問題ではありません。ただし、音声を録音する場合、追加のアーカイブ容 量が必要になります。
 - o 例:MPEG4を使用する場合、それぞれ1秒のビデオGOP(Group Of Pictures)が、デー タベースの1レコードに保存されます。毎秒ごとの音声が、データベースの1レコードに 保存されます。データベースのレコードの半分は音声の保存に使用されるので、データベ ースのビデオ保存容量が全体容量の半分に低減します。したがってデータベースはすぐに 満杯になり、ビデオだけを録画する場合と比べて、より頻繁にアーカイブが発生します。
 - o 例:MJPEGを使用する場合、音声ブロックのサイズが JPEG 間の時間を超えない限り、 すべての JPEG に対して音声が1レコードに保存されます。極端な場合は、データベース のレコードの半分が音声の保存で使用されるので、データベースのビデオ保存容量が全体 容量の半分に低減します。非常に高いフレームレートを使用すると、各 JPEG 間の時間が 短くなることを意味するので、音声の録音に使用するデータベースの割合が小さくなり、 その結果ビデオの保存で使用できる部分は大きくなります。その結果として、データベー スはすぐに満杯になり、ビデオだけを録画する場合と比べて、より頻繁にアーカイブが発 生します。

上記では、単純化した例を示しています。正確な使用可能な保存容量は、GOP/JPEG および音声のキロバイト単位でのサイズにも依存します。

専用入力/出力デバイスについて

システムに、多数の専用の入力/出力(I/O)ハードウェアデバイスを追加することができます。システム がどの I/O ハードウェアデバイスをサポートしているかに関する情報は、リリースノートを参照して ください。

I/O ハードウェアデバイスを追加すると、デバイスでの入力がシステムでイベントを生成するために 使用され、システムでのイベントは I/O ハードウェアデバイスでの出力を有効化するのに使用されま す。これは、カメラと同じ方法で設定されたイベントベースのシステムで I/O ハードウェアデバイス を使用できることを意味します。

ー部の I/O ハードウェアデバイスでは、監視システムが定期的にハードウェアデバイスの入力ポート の状態をチェックして、入力を受信したかどうか検出しなければなりません。このような定期的な状 態チェックを、ポーリングと呼びます。状態チェックの間隔は、ポーリング頻度と呼ばれ、一般的な ポートとポーリングのプロパティ 『115ページの"ポートとポーリング"参照 』の一部として指定され ます。このような I/O ハードウェアデバイスの場合、ポーリング頻度を可能な限り低い値(状態チェッ クの間隔を 10 分の 1 の秒数)に設定する必要があります。どの I/O ハードウェアデバイスがポーリン グを必要とするかに関する情報は、リリースノートを参照してください。

ハードウェアデバイスの交換について

必要であれば、システムへ設定済みのハードウェアデバイスを新しいハードウェアデバイスと交換することができます。たとえば、ネットワーク内のカメラを物理的に交換できます。

ハードウェアデバイスの交換ウィザード 『52ページの"ハードウェアデバイス交換ウィザードについて"参照』開いてください。このウィザードは、以下の項目を含む監視システムサーバーでの交換プロ セス全体を支援します。

- 新規ハードウェアデバイスの検出
- 新規ハードウェアデバイスに対するライセンスの指定
- 古いハードウェアデバイスによる既存の録画に対して何を行うかの決定

ハードウェアデバイスの設定

ハードウェアデバイスを追加した後に、IP アドレス、どのビデオチャンネルを使用するか、どの COM ポートを取り付けられた PTZ (パン/チルト/ズーム)カメラのコントロールで使用するか、魚眼 レンズ技術を使用するかどうかなど、デバイス固有のプロパティを指定/編集することができます。

- 1. **拡張設定**を展開し、**ハードウェアデバイス**を展開し、関連するハードウェアデバイスを右ク リックし、**プロパティ**を選択します。
- 必要に応じて、名前とビデオチャンネル、ネットワーク、デバイスタイプおよびライセンス 『55ページの"ネットワーク、デバイスタイプ、ライセンス"参照』、PTZ デバイス『56ページ』、魚眼レンズ 『96ページの"魚眼(レンズ)"参照』のプロパティを指定します。
- **3.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、保存をクリックして、設定の変更を保存します。

ハードウェアデバイスの削除

重要: ハードウェアデバイスを削除する場合、ハードウェアデバイスに取り付けられているすべて のカメラ、スピーカー、マイクが削除されるだけではありません。ハードウェアデバイスに取り付け られているカメラの録画もすべて削除されます。

- 1. **拡張設定**を展開し、**ハードウェアデバイス**を展開し、削除するハードウェアデバイスを右ク リックし、**ハードウェアデバイスの削除**を選択します。
- ハードウェアデバイスおよびそれらに含まれるすべての録画も削除されることを確認します。
- **3.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。
- **4.** Recording Server サービスを再起動 『**178**ページの"サービスを開始および停止する"参照 』 します。

削除する代わりに、ハードウェアデバイスに取り付けられているカメラ、スピーカー、マイクを個別 に無効化することも可能です。

- 1. **拡張設定**を展開し、**ハードウェアデバイス**を展開し、関連するハードウェアデバイスを展開 します。
- 2. 無効にしたいカメラ、スピーカー、マイクを右クリックして、無効を選択します。
- **3.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。
- **4. Recording Server** サービスを再起動 『**178**ページの"サービスを開始および停止する"参照 』 します。

ハードウェアデバイス交換ウィザードについて

以前に追加して、監視システムに設定してあるハードウェアデバイスを交換するには、ハードウェア デバイス交換ウィザードを使用します。ハードウェアデバイス交換ウィザードを開くには、交換した いデバイスを右クリックし、**ハードウェアデバイスの交換**を選択します。このウィザードは、新規ハ ードウェアデバイスの情報ページとデータベースアクションページに分割されます。

新規ハードウェアデバイスの情報

新規ハードウェアデバイスに関する詳細を指定します。

名前	説明
IP アドレス	ハードウェアデバイスの IP アドレスまたはホスト名。
ポート	スキャンするポート番号。デフォルトはポート 80 です。ハードウ ェアデバイスが NAT 対応のルーターまたはファイアウォールの背 後にある場合、別のポート番号の指定が必要になることがあります。 この場合、ハードウェアデバイスが使用しているポートや IP アドレ スをマップするように、ルーター/ファイアウォールを設定する必要 もあることに留意してください。
ユーザー名	ハードウェアデバイスの管理者アカウントのユーザー名。多くの組 織では、ハードウェアデバイスの製造元による既定のユーザー名を ハードウェアデバイスで使用しています。あなたの組織がこれに該 当する場合、<デフォルト>を選択します。システムがメーカーのデ フォルトユーザー名を知っているといった誤解の原因となるため、 メーカーのデフォルトユーザー名を入力しないでください。
パスワード	管理者アカウントにアクセスするために必要なパスワードです。一 部のハードウェアデバイスでは、アクセスにユーザー名/パスワード を必要としません。

新規ハードウェアデバイスで、どのデバイスドライバーを使用するかを指定する方法:

 ハードウェアデバイスタイプリストで、ビデオデバイスのドライバーを選択してから、自動 検出/ハードウェアデバイスタイプの確認をクリックして、ドライバーがハードウェアデバイ スと一致しているか確認します。

- または -

• 自動検出/ハードウェアデバイスタイプの確認をクリックして自動検出し、適切なドライバー を確認します。

適切なドライバーが見つかると、シリアル番号 (MAC アドレス)フィールドに、新しいハードウェア デバイスの MAC アドレスが表示されます。完了したら、次へをクリックします。

カメラおよびデータベースアクション

ハードウェア交換ウィザードの最後のページで、カメラおよび古いハードウェアデバイスに属してい るカメラからの録画を含んでいるデータベースに対して何を行うかを決定します。ビデオエンコーダ ーなどのマルチカメラデバイスでは、新しいハードウェアデバイスの各チャンネルで何を行うかを決 定する必要があります。

ウィザードページの左側にあるテーブルには、新しいハードウェアデバイスで使用できるビデオチャンネルのリストが表示されます。通常の単一カメラのハードウェアデバイスの場合は、ビデオチャンネルは1つだけになります。ビデオエンコーダーの場合は、通常は複数のビデオチャンネルがあります。

- 1. それぞれのビデオチャンネルで、テーブルの**継承**列を使用して、古いハードウェアデバイスのどのカメラを新規ハードウェアデバイスで継承するかを選択します。
- 2. カメラデータベースで何を行うか決定します。次の3つのオプションがあります。
 - o 既存のデータベースを継承:新規ハードウェアデバイスで継承を選択したカメラは、古 いハードウェアデバイスからカメラの名前、録画データベース、ならびにアーカイブを継 承します。データベースとアーカイブの名前は、新しいハードウェアデバイスの MAC ア ドレスとビデオチャンネルを反映するように変更されます。継承されたカメラに対するユ ーザーのアクセス権限は自動的に更新されるため、ユーザーは新旧の録画を表示できるよ うになります。カメラの名前は同じままであるため、ユーザーにはハードウェアデバイス の交換は認識されません。
 - 既存のデータベースを削除:新規ハードウェアデバイスで継承を選択したカメラのデー タベースは削除されません。今後の録画用に新しいデータベースが作成されますが、ハー ドウェアの交換前の録画を表示することはできません。
 - 既存のデータベースを残す:新規ハードウェアデバイスで継承を選択したカメラのデー タベースは削除されません。今後の録画用に新しいデータベースが作成されます。古いデ ータベースもシステムのサーバーに残りますが、ハードウェアの交換前の録画を表示する ことはできません。後で古いデータベースを削除したくなった場合は、手動で削除しなけ ればなりません。
- 新規ハードウェアデバイスのビデオチャンネルの数が古いハードウェアデバイスのビデオチャンネルより少ない場合は、新規ハードウェアデバイスが古いハードウェアデバイスからすべてのカメラを継承することはできません。この場合、新しいハードウェアデバイスによっ

て継承できなかったカメラのデータベースに関して、何を行うか質問されます。次の2つの オプションがあります。

- 継承されていないカメラのデータベースを削除する:新規ハードウェアデバイスで継承 できなかったカメラのデータベースは削除されます。ハードウェアの交換前の録画を表示 することはできません。当然のことながら、新規ハードウェアデバイスによる今後の録画 用に、新しいデータベースが作成されます。
- 継承されていないカメラのデータベースを残す:新規ハードウェアデバイスで継承できなかったカメラのデータベースは削除されません。システムのサーバーに古いデータベースが残っていても、ハードウェアの交換前の録画を表示することはできません。後で古いデータベースを削除したくなった場合は、手動で削除しなければなりません。当然のことながら、新規ハードウェアデバイスによる今後の録画用に、新しいデータベースが作成されます。
- 4. 終了をクリックします。準備ができたら、Recording Server サービスを再起動します。ハードウェアの交換は、Recording Server サービスを再起動するまでクライアントには認識されません。

ハードウェアプロパティ

ハードウェア名およびビデオチャンネル

ハードウェアデバイスを設定する時は、以下のプロパティを指定します。

名前	説明
ハードウェア名	Management Application およびクライアントで表示される名前で す。 既存の名前を、新しい名前で上書きすることができます。 名 前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
有効にするビデオチャンネル番 号	選択したハードウェアデバイスのそれぞれのビデオチャンネルを有 効/無効にします。多くのハードウェアデバイスには単一のビデオチ ャンネルしかなく、この場合一覧されるチャンネルは1つだけです。 他のハードウェアデバイス(通常は、ビデオエンコーダーデバイス) には、複数のビデオチャンネルがあります。

インポートしたライセンスのチャンネル数制限により、ビデオエンコーダーデバイスが持つチャンネ ルの一部を使用できない場合があります。

例:4 チャンネルのビデオエンコーダーデバイスがありますが、そのデバイス用のライセンスではこのうち2つのチャンネルしか使用できません。このような場合、同時に有効にできるチャンネルは2つだけであり、他の2つのチャンネルは無効化されます。どの2つのチャンネルを有効にするかは、ユーザーが自由に選択できます。

ネットワーク、デバイスタイプ、ライセンス

ハードウェアデバイスを設定『51ページの"ハードウェアデバイスの設定"参照』する時は、以下のプロパティを指定します。

名前	説明
IPアドレス	ハードウェアデバイスの IP アドレスまたはホスト名。 カメラの IP アドレスを変更した際は、ハードウェアの追加を行なわ ず、この画面で IP アドレスを変更して下さい
HTTP ポート	ハードウェアデバイスとの HTTP 通信に使用するポート。デフォル トはポート 80 です。デフォルトのポートを使用するには、デフォ ルト HTTP ポートの使用を選択します。
FTP ポート	ハードウェアデバイスとの FTP 通信に使用するポート。デフォルト ポートは 21 です。 デフォルトのポートを使用する場合は、デフォ ルト FTP ポートの使用を選択します。
ユーザー名	サーバーのログインが必要です を選択した場合にのみ必要です。 SMTP サーバーがユーザ認証を必要とする場合、ユーザー名を指定 します。
ユーザー名	ハードウェアデバイスの管理者アカウントのユーザー名。多くの組織では、ハードウェアデバイスの製造元による既定のユーザー名を ハードウェアデバイスで使用しています。あなたの組織がこれに該 当する場合、<デフォルト>を選択します。システムがメーカーのデ フォルトユーザー名を知っているといった誤解の原因となるため、 メーカーのデフォルトユーザー名を入力しないでください。
	たとえば admin や root など、リストから他の一般的なユーザー名を 選択することもできます。リストにないユーザー名を使用するとき は、新しいユーザー名を入力します。
パスワード	ハードウェアデバイスの管理者アカウントのパスワード(「root」 パスワードと呼ばれます)。
ハードウェアタイプ	ハードウェアデバイスとの通信で使用するビデオデバイスドライバ ーのタイプを示す、読み取り専用のフィールド。
シリアル番号(MAC アドレス)	デバイスのシリアル番号を示す、読み取り専用のフィールド。この シリアル番号は、通常はハードウェアデバイスの 12 桁/16 進数の MAC アドレスです。(例:0123456789AF)。
ライセンス情報	ハードウェアの現在のライセンス状態。

	説明
ハードウェアデバイスの交換	ウィザード 『52ページの"ハードウェアデバイス交換ウィザードに ついて"参照』を起動し、必要な場合、選択しているハードウェア デバイスを他のハードウェアデバイスと置き換えることができま す。この操作が必要になるのは、ネットワーク上で物理的なカメラ を交換する場合のみです。このウィザードは、関連する問題をすべ て考慮するのに役立ちます。たとえば、古いハードウェアデバイス に接続されているカメラの録画データ処理方法を決定します。

PTZ デバイス

PTZ デバイスタブが使用できるのは、**PTZ** (パン/チルト/ズーム) カメラの使用が可能なビデオエンコ ーダーデバイスを設定 『51ページの"ハードウェアデバイスの設定"参照 』してある場合だけです。

	説明
接続されているカメラには、パン /チルト/ズームの機能があります	ビデオエンコーダーデバイスに接続されているいずれかのカメラが PTZ カメラである場合、チェックボックスを選択します。
COM#の PTZ タイプ	PTZ カメラが COM ポート経由で制御される場合、関連するオプションを選択します。オプションはデバイス固有で、デバイスがどの PTZ プロトコルを使用するかに応じて異なります。COM ポート経由で PTZ カメラを制御しない場合は、なしを選択します。

ダイアログの下半分にある表には、ハードウェアデバイスの各ビデオチャンネルに対応する行が表示 されます。上から1番目の行がビデオチャンネル1に対応し、上から2番目の行はビデオチャンネル 2に対応しています。以下も同様になります。

	説明
名前	対象となるビデオチャンネルに接続されているカメラの名前。
	選択したカメラチャンネルにあるカメラが固定であるか、移動可能 であるかを選択します。
タイプ	• 固定 :カメラは、固定位置に取り付けられた標準的なカメラ です。
	• 移動可能:カメラは、PTZ カメラです。
ポート	タイプ 列で移動可能が選択されている場合のみ使用可能です。ビデ オエンコーダーのどの COM ポートを PTZ カメラの制御で使用する かを選択します。

	説明
ポートアドレス	タイプ 列で移動可能が選択されている場合のみ使用可能です。カメ ラのポートアドレスを指定してください。通常のポートアドレスは 1です。デイジーチェインで接続されている PTZ カメラを使用する 場合、ポートアドレスはそれぞれを識別するため、カメラのマニュ アルで推奨されている設定になっているか確認してください。

スピーカープロパティ

特定のカメラに対してビデオや録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、音声を録音するタイミングを指定できます。この選択は、システムのすべてのカメラに適用されます。

	説明
デバイスが有効	スピーカーはデフォルトで有効になっており、これはシステムに音 声を転送できることを意味します。必要に応じて、個別のスピーカ ーを無効にすることができます。この場合、スピーカーからシステ ムへ音声は転送されません。
スピーカー名	Management Application およびクライアントで表示される名前で す。 既存の名前を、新しい名前で上書きすることができます。 名 前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []

カメラとストレージの情報

ビデオや録画の設定について

ハードウェアデバイスを追加して、カメラを設置したら、次の3つの方法でビデオや録画を設定できます。

	説明
ウィザードによる設定	すべてのカメラに関するビデオ、録画、アーカイブの設定をガイド に従って行います。
一括設定	すべてのカメラに対して、ビデオ、録画、共有設定(ダイナミック アーカイブパスや音声を録音するかどうかなど)を指定します。

	個々のカメラのそれぞれについて、ビデオ、録画、カメラ固有の設
カメラの個別設定	定(イベント情報、PTZ プリセット位置、魚眼レンズビューエリア)
	を指定します。

データベースのサイズ変更について

カメラの録画が予想以上に大きくなった場合、その他の原因で使用可能なドライブスペースが別の理由で急に減少した場合、データベースのサイズ変更が自動的に行われます。

- カメラのデータベースと同じドライブにアーカイブ 『127ページの"アーカイブについて"参照』が存在する場合、そのドライブでアーカイブされているすべてのカメラのうち最も古いアーカイブが別のドライブへ移動されるか、あるいは移動できない場合は削除されます(アーカイブの移動が可能になるのは、ダイナミックアーカイブ 『66ページの"ダイナミックパスの選択"参照』を使用していて、複数の異なるドライブへのアーカイブである場合のみ)。
- カメラのデータベースを含んでいるドライブにアーカイブが存在しない場合、最も古い録画の一部を削除し、すべてのデータベースのサイズを一時的に制限することにより、そのドライブのすべてのカメラデータベースのサイズが縮小されます。

このようなデータベースのサイズ変更に伴い、Recording Server サービス『177ページの"サービスについて"参照』を再起動すると、元のデータベースのサイズが使用されます。したがって、まずドライブサイズの問題を解決する必要があります。データベースのサイズ変更の手順が行われた場合、 XProtect Smart Client の画面上や、ログファイルに情報が表示されます。また、設定されている場合には通知が送られます。

モーション検知について

モーション検知の設定はカメラの録画プロパティにリンクしており、選択したカメラのモーション検 知を有効にして、設定することができます。モーション検知の設定は、システムの重要な部分です。 モーション検知の設定により、システムでモーションイベントを生成するタイミング、さらに通常は ビデオを録画するタイミングを決定します。

デフォルトでは、モーション検知が有効になっています。無効にすると、システムの CPU や RAM の パフォーマンスは改善しますが、同時にモーション検知、イベント、アラームの管理にも影響しま す。

それぞれのカメラに最適なモーション検知の構成が得られるようにあらかじめ調整しておくことで、 不必要な録画などを避けるのに役立ちます。カメラの物理的な位置によっては、異なる物理的条件 (昼/夜、強風/無風など)でモーション検知の設定をテストすることをお勧めします。

カメラのモーション検知を設定する前に、Milestone では、カメラの画質の設定(例、ビデオコーデック、ストリーム設定など)を行っておくことをお勧めします。後で画質の設定を変更すると、必ずモーション検知の設定を変更後にテストしなくてはならなくなるからです。

カメラに対して組み込みモーション検知を有効にした場合(表 1)と無効にした場合(表 2)の違いを 以下の 2 つの表に示します。

モーション検知を有効にした場合

録画プロパティの設定	Recordings	モーション検知に よるイベント	モーション検知 によらないイベ ント	
常時	はい	はい	はい	はい
設定しない	いいえ	はい	はい	いいえ
組み込みモーション検知	はい	はい	はい	はい
組み込みモーション検知 & イベントまたはイベ ントのみ	はい	はい	はい	はい

モーション検知を無効

カメラの録画の設定	Recordings	モーション検知に よるイベント	モーション検知 によらないイベ ント	
常時	はい	いいえ	はい	いいえ
設定しない	いいえ	いいえ	はい	いいえ
組み込みモーション検知	いいえ	いいえ	はい	いいえ
組み込みモーション検知 およびイベントまたはイ ベントのみ	はい(設定に依 存)	いいえ	はい(設定に依 存)	いいえ

モーション検知感度

デフォルトでは、モーション検知がダイナミック感度に設定されています。ただし、モーション検知 と除外エリアプロパティにおいて、手動で感度レベルを調整することもできます。

次の理由により、Milestone は手動感度を有効にしないことをお勧めします。

- ダイナミック感度の場合、システムは感度レベルを自動的に計算して最適化し、画像のノイズから発生するモーション検知を抑制します。
- 夜間には、画像のノイズにより誤ったモーションが頻繁にトリガされますが、ダイナミック 感度によりモーション検知が改善します。
- 録画が多すぎることに起因するシステム過負荷は発生しません。

録画が少なすぎるために結果が見られなくなることもありません。 モーション検知および PTZ カメラ

モーション検知は、一般に、パン/チルト/ズーム(PTZ)カメラでも通常のカメラの場合と同様に機能します。ただし、PTZ カメラの各プリセット位置に対して個別にモーション検知を設定することはできません。

モーション検知および PTZ カメラについて

モーション検知は、一般に、パン/チルト/ズーム(PTZ)カメラでも通常のカメラの場合と同様に機能します。ただし、PTZ カメラの各プリセット位置に対して個別にモーション検知を設定することはできません。

不要な録画、通知などを行わないために、PTZ カメラが 2 つのプリセット位置の間で移動している間 は、システムは自動的にモーション検知を無効にします。一定の秒数が経過すると、システムは再び 自動的にモーション検知を有効にします。この期間は移行時間と呼ばれ、PTZ カメラの PTZ パトロー ルプロパティ 『100ページの"PTZ パトロール"参照 』で指定されます。

カメラ固有のスケジュールの設定

特定の期間内のイベントのスケジュールプロファイル、またはその一部に基づいている場合は、カレ ンダー選択の下のリストから**開始イベント**および**停止イベント**を選択することを忘れないでくださ い。

イベントの設定は拡張設定 > イベントおよび出力であらかじめ設定しておいてください。

Griine schuck Schucker prok	an Noc							5	nceners	neira	anine C	tatile leg	-
SAHARI			<u></u>	lerane .		Dates		1#	contentra fil	net Mapo		1.000	
	00 HO	1201	010	0010		19-08	1740	ы×х П	18-06	10.00	200	22.00	20
Turniq	000	1201	our Index	0010	nex min	100	1210	**	1801	100	210	20	20
-	0130	neces In the last	or se	01.10	ma min	1000	1110	-12	1808	19.00	210	2230	(m)
fhaile	1111	10.08	010	08.10	m-s	1908	110	14.20	18:08	No.	20	200	20
this	00 KO	10.0		00.00	in a	19:08	1240		18.02	100	210	20.00	2
Linelay	100	1201	0.0	0010	in X	19-01	1210	×x	1803	N.S.	210	220	No.
Sinder	0130	100	or an a	0.10	no.	10:00	1210	**	18:00	14.00 Junju	210	200	, init
	Dates	-		-							-		-
2.4	e tem (C	자권	Des	ten (C)	a H	Day	Turniny	×	Ow	p:Paint	_	Let Press	_
											0.	1.	and

カメラが使用しているシステムにビデオを転送する事実は、必ずしもカメラからビデオが録画される ことを意味しません。録画は別途設定します。ビデオおよび録画の設定 『**57**ページの"ビデオや録画 の設定について"参照 』を参照してください。

それぞれのカメラについて、以下に基づいてスケジュールプロファイルを作成できます。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

オンライン期間

• 期間(例:月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、ピンク色で表示:

拡張設定

 期間内のイベント(例:イベントAの発生からイベントBの発生まで、月曜日の08:30から 17:45まで)、黄色で表示:

2つのイベントを組み合わせることは可能ですが 111 111 111 いう、時間を重複することはできません。

スピードアップ

• 期間(例:月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、オリーブグリーン色で表示:

Eメール通知

• 期間(例:月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、青色で表示:

PTZパトロール

- 期間(例:月曜日の08:30から17:45まで)、赤色で表示:
- あるパトロールプロファイルの使用の直後に、別の使用が続く場合、マウスポインターを赤いバーの上へ移動させて、どのパトロールプロファイルがいつ適用されているかを確認します。
 06:00 08:00 10:00 12:00 14:00 16:00 18:00
 ||||

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

SMS 通知

※本機は、SMS での通知には対応していません。

- 1. スケジュールプロファイルリストで、新規追加...を選択します。
- 2. プロファイルの追加ダイアログで、プロファイルの名前を入力します。名前には、以下の特殊文字を含めることはできません。 <> & ' " \ / : * ? | []
- 3. ダイアログの右上にある、定時刻にカメラを起動/停止を選択して期間をベースとするか、イ ベント時にカメラを起動/停止を選択して期間内のイベントをベースとします。
- 4. カレンダーのセクションで、必要な開始日時ヘマウスポインタを移動させてから、左マウス ボタンを押下し、マウスポインタをドラッグして、希望する終了日時でリリースします。
 - o それぞれの日を個別に指定します。

時間は5分刻みで指定します。XProtect Enterprise ではマウスポインタが位置している時間が表示され、操作をサポートします。



特定の期間内のイベントのスケジュールプロファイル、またはその一部に基づいている場合は、カレ ンダー選択の下のリストから開始イベントおよび停止イベントを選択することを忘れないでくださ い。

- イベントの設定は拡張設定 > イベントおよび出力であらかじめ設定しておいてください。
- スケジュールプロファイルの不要な部分を削除するには、該当部分を右クリックし、削除 を選択します。
- o 終日を速やかに入力またはクリアしたい場合は、その日の名前をダブルクリックします。
- カレンダーのセクションの内側をドラッグする代わりに開始時刻、終了時刻、日のフィールドを使用し、必要に応じて期間の変更または期間の設定ボタンを使用することもできます。開始時刻および終了時刻のフィールドを使用する場合、時間を5分刻みで指定することを忘れないでください。5分より短い期間は指定できないため、使用できる時刻は12:00, 12:05, 12:10, 12:15 などとなります。5分間隔以外の時刻(たとえば12:13)を指定すると、エラーメッセージが表示されます。

カメラがいつ、何をする必要があるかを設定する

いつ実行するかを設定するには、スケジュール機能を使用します。

- カメラはオンラインであり、システムにビデオを転送する必要があります。
- カメラは、スピードアップを使用して、通常より高いフレームレートを使用する必要があります。
- カメラに関して E メールまたは SMS 通知を受信したい場合
- **PTZ** カメラは、パトロールプロファイルに従って、パトロールを行う必要があります。
- アーカイブを発生する必要がある

一般的なスケジュールとアーカイブの設定 『133ページの"一般的なスケジュールおよびアーカイブの 設定"参照 』およびカメラ固有のスケジュールの設定 『60ページ 』を参照してください。

モーション検知の設定

モーション検知を設定するには、以下を行います。

1. **拡張設定 > カメラおよびストレージの情報**を展開し、関連するカメラを右クリック > プロ パティをクリックします。

- 2. カメラのプロパティウィンドウで、録画プロパティタブを選択し、> 関連する設定 『58ページの"モーション検知について"参照 』を選択します。
- 3. モーション検知タブを選択します。モーション検知から除外する領域がある場合(たとえば、 カメラの撮影範囲に風で揺れる木がある場合)、マウスで選択して、その領域を除外 『44ペ ージの"領域の除外"参照 』することができます。
- 関連するプロパティ 『91ページの"モーション検知と領域の除外"参照 』を入力します。PTZ カメラ 『60ページの"モーション検知および PTZ カメラについて"参照 』では、モーション検 知の動作に違いがあることに注意してください。

カメラの無効化または削除

すべてのカメラは、デフォルトで有効になっています。つまり、カメラがオンラインになるようスケ ジュールされている 『**137**ページの"オンライン期間"参照』場合、カメラからビデオをシステムに転 送できることを意味します。

カメラを**無効にする**には:

- 1. **拡張設定**を展開し、カメラおよびストレージの情報を展開し、無効にしたいカメラをダブル クリックして、有効ボックスを選択解除します。
- **2.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

カメラを**削除**するには、ハードウェアデバイスを削除 『**51**ページの"ハードウェアデバイスの削除"参照』する必要があります。ハードウェアデバイスを削除する場合、取り付けられているマイクやスピーカーも削除されます。これを行いたくない場合は、代わりにカメラの無効化を検討してください。

PTZ タイプ1および3を、必要な位置へ移動する

PTZ タイプ1および3の場合、複数の異なる方法で、PTZ カメラを必要な位置へ移動することができます。



- 1. カメラプレビューの必要な位置をクリックする(カメラでサポートされている場合)。
- カメラプレビューの近くにあるスライダーを使って、そのそれぞれの軸に沿って PTZ カメラ を移動します。X 軸(左/右へのパン)、Y 軸(上/下へのチルト)、Z 軸(ズームインおよびズ ームアウト。ズームインするにはスライダーを望遠に移動し、ズームアウトするにはスライ ダーを広角に移動します)。

3. ナビゲーションボタンの使用:



ズームイン (クリックごとに1ズームレベル)

録画およびストレージのプロパティ

録画およびアーカイブのパス

ビデオおよび録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラ に対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象 となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。

白い背景のすべてのプロパティは編集可能で、水色の背景のプロパティは編集できません。 それぞ れのカメラに対して、すべてのプロパティを個別に指定することも可能であることに注意してくださ い。

	説明
テンプレート	テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて 便利です。たとえば、カメラが 20 台あり、レコーディングパス、 アーカイブパス、およびそれらすべての保持時間を変更したいとし ます。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに 一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの 設定 ボ タンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。

名前	説明
カメラ名	Management Application およびクライアントで表示される名前で す。 既存の名前を、新しい名前で上書きすることができます。 名 前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
	Smart Client のユーザーは、キーボードショートカットを活用できます。一例として、複数のカメラの再生を切り替えることができます。こうしたショートカットには数字も含まれており、各カメラを識別するために使用します。
ショートカット	ショートカット番号は、それぞれのカメラで一意でなければなりま せん。カメラのショートカット番号には、文字または特殊文字を含 んではならず、最大で8桁以内になるようにしてください。
	正しいカメラのショートカット番号の例:3,12345678. 正しくないカメラのショートカット番号の例:Cam#3、123456789。
	キーボードショートカットの使用方法に関する詳細情報は、Smart Clientの他のマニュアルにあります。
レコーディングパフ	カメラのデータベースを保存するフォルダへのパス。デフォルトは、 D:¥MediaDatabaseです。他のフォルダを参照する場合は、該当す るセルの横にあるアイコンをクリックしてください。指定できるの は、ローカルドライブにあるフォルダへのパスのみです。ネットワ ークドライブへのパスを指定することはできません。ネットワーク ドライブを使用すると、ネットワークドライブが使用できない場合 に録画を保存できなくなります。
	レコーディングパスを変更し、古い場所に既存の録画がある場合、 録画を新しい場所へ移動するか(推奨)、古い場所に残すか、ある いは削除するかを選択する必要があります。
	ヒント : 複数のカメラがあり、複数のローカルドライブが使用可能 な場合、個別のカメラのデータベースを複数のドライブに分散させ ることでパフォーマンスを改善できます。
アーカイブパス	アーカイブ 『127ページの"アーカイブについて"参照 』でダイナミ ックパスを使用していない場合にのみ、編集可能です。カメラのア ーカイブされた録画を保存するフォルダへのパス。デフォルトは、 D:¥MediaDatabase です。
	他のフォルダを参照する場合は、関連するセルの横にあるアイコン をクリックしてください。アーカイブパスを変更し、古い場所に既 存のアーカイブされた録画がある場合、アーカイブされた録画を新 しい場所へ移動するか(推奨)、古い場所に残すか、あるいは削除 するかを選択する必要があります。アーカイブされた録画を移動す ると、XProtect Enterprise は現在カメラのデータベースにあるもの もアーカイブすることに注意してください。そのため、アーカイブ された録画を移動した直後に、カメラのデータベースは空になりま す。

	説明
保持期間	カメラからの録画(つまり、カメラのデータベースにある録画ならびにアーカイブされている録画)を保持しておく合計時間です。デフォルトは7日です。
	保持時間は、録画を保持しておく合計時間です。以前のバージョンの XProtect Enterprise では、データベースとアーカイブで別個に制限時間を指定していました。
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細および カメラ固有の設定(例:イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼 レンズビューエリア)を設定します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択解除します。
選択したカメラで、選択したテン プレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
選択したカメラですべてのテン プレート値を設定する	テンプレートのすべての値を、選択したカメラに適用します。

ダイナミックパスの選択

ビデオおよび録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラ に対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 ダイナミックパスが選択された場合、 プロパティがすべてのカメラで共有されます。

ダイナミックアーカイブ『127ページの"アーカイブについて"参照』パスでは、通常は複数のドライ ブに渡る、異なるアーカイブパスを指定します。システムデータベースを含んでいるパスが、アーカ イブ用に選択したドライブのいずれかにあれば、システムは常にまずそのドライブにアーカイブしよ うと試みます。そうでない場合、そのドライブを使用するカメラデータベースが存在しない限り、シ ステムは自動的にその時点で最も使用可能な容量が大きいアーカイブドライブにアーカイブします。 使用可能な容量が最も大きいドライブはアーカイブプロセス中も変化するので、同一プロセスで複数 のアーカイブドライブに対してアーカイブされることがあります。これにより、ユーザーがアーカイ ブされた録画を検索し、表示する方法には影響を与えません。

ダイナミックアーカイブパスは一般にすべてのカメラに適用されます。個別のカメラ用にダイナミックアーカイブパスを設定することはできません。

	説明
アーカイブ選択のダイナミック パスを有効にする	ダイナミックパス選択の使用を有効にし、使用したいパスを選択で きるようにします。当初は、選択可能なパスのリストに、ローカル およびマップ済みドライブの両方のサーバーのすべてのドライブが 表示されます。リストの下にある 新規パス 機能で、さらにパスを追 加することができます。
使用	ダイナミックアーカイブパスとして使用する特定のパスを選択しま す。また、以前に手動で追加したパス(以下の 削除 ボタンの説明を 参照)を選択して削除することもできます。
ドライブ	対象となるトライブを表す文字、たとえば C:など。
パス	ファイルを保存する場所へのパス。例 : C:¥ または ¥¥OurServer¥OurFolder¥OurSubfolder¥
ドライブ容量	ドライブの合計サイズ。
空き容量	ドライブに残っている未使用の容量。
新規パス	新しいパスを指定し、追加ボタンを使用してリストに追加します。 監視システムサーバーでパスに到達できることが必要です。UNC (Universal Naming Convention)形式を使用して指定する必要があ ります。例:¥¥server¥volume¥directory¥。新しいパスが追加され ると、それを選択して、ダイナミックアーカイブパスとして使用す ることができます。
追加	新規パス フィールドで指定したパスを、リストに追加します。
削除	選択したパス(以前に手動で追加したもの)をリストから削除しま す。初期状態のリストにあるパスは、選択しても削除できません。

ビデオ録画

ビデオおよび録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラ に対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象 となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。

録画という言葉はビデオ(該当する場合は、カメラからの音声)の監視システムサーバーのカメラの データベースへの保存を意味します。ビデオ/音声は、保存する理由がある場合にだけ保存されます。 たとえば、モーションが検知されている間、イベントが発生してから、他のイベントが発生するまで の間、または一定の期間内で保存されます。

白い背景のすべてのプロパティは編集可能で、水色の背景のプロパティは編集できません。また、 すべてのビデオ録画プロパティはそれぞれのカメラに対して個別に『86ページの"記録(録画)"参照』 指定できることに注意してください。

名前	説明
テンプレート	テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて 便利です。たとえば、カメラが 20 台あり、レコーディングパス、 アーカイブパス、およびそれらすべての保持時間を変更したいとし ます。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに 一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの 設定 ボ タンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
カメラ名	Management Application およびクライアントで表示される名前で す。 既存の名前を、新しい名前で上書きすることができます。 名 前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
	カメラからのビデオを録画する条件を以下から選択します。
	 常時:カメラが有効 『81ページの"一括設定"参照 』であり、 オンラインになるようスケジュールされている『137ページ の"オンライン期間"参照 』場合に録画します(後者によっ て、時間に基づく録画が可能になります)。
	 設定しない:録画しません。ライブビデオは表示されますが、 ビデオがデータベースに保存されないので、カメラからのビ デオを再生することはできません。
録画設定	 モーション検知:これを選択すると、モーション『91ページ の"モーション検知と領域の除外"参照』が検知されたビデ オを録画します。ポストレコーディング(以下を参照)を使 用しない限り、最後にモーションが検知された後、録画はた だちに停止します。
	 イベント:これを選択すると、イベントが発生してから、別のイベントが発生するまでの間、ビデオが録画されます。イベントによる録画を使用するには、そのイベントが定義されていて、開始イベントおよび停止イベントを選択してあることが必要です。
	イベントの設定は拡張設定 > イベントおよび出力であらか じめ設定しておいてください。
	 モーション検知およびイベント:これを選択すると、モーションを検知した場合、あるいはイベントが発生していから、別のイベントが発生するまでの間、ビデオが録画されます。 隣の列で、開始イベントおよび停止イベントを選択することを忘れないでください。

名前	説明
開始イベント	必要な開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると(あるいは、プリレコーディングを使用する場合は、それ以前から。下記を参照)録画が開始します。
終了イベント	必要な停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると(あるいは、ポストレコーディングを使用する場合は、それより後に。 下記を参照)録画が停止します。
プリレコーディング	検出したモーションおよび開始イベントの前の期間からの録画を保 存できます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効 になります。右の列で、必要な秒数を指定します。
秒数 [プリレコーディング]	録画開始条件(モーションまたは開始イベント)が満たされる前か ら、ビデオを録画する秒数を指定します。通常、プリレコーディン グが必要になるのは数秒のみですが、最長で65,535秒(18時間12 分15秒)まで指定できます。ただし、非常に長いプリレコーディ ング時間を指定すると、プリレコーディング時間がスケジュールさ れた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ『127ページ の"アーカイブについて"参照』時間にかかることもあります。アー カイブ中は、プリレコーディングが適切に機能しないため、問題の 原因となる場合があります。
ポストレコーディング	検出したモーションおよび停止イベントの後の期間の録画を保存で きます。このチェックボックスを選択すると、この機能が有効にな ります。右の列で、必要な秒数を指定します。
秒数 [ポストレコーディング]	録画停止条件(モーションまたは停止イベント)が満たされた後で、 ビデオを録画する秒数を指定します。通常、ポストレコーディング が必要になるのは数秒のみですが、最長で65,535秒(18時間12 分15秒)まで指定できます。ただし、非常に長いポストレコーデ ィング時間を指定すると、ポストレコーディング時間がスケジュー ルされた、あるいはスケジュールされていないアーカイブ時間にか かることもあります。アーカイブ中は、ポストレコーディングが適 切に機能しないため、問題の原因となる場合があります。
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細および カメラ固有の設定(例:イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼 レンズビューエリア)を設定します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択解除します。
選択したカメラで、選択したテン プレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
選択したカメラですべてのテン プレート値を設定する	テンプレートのすべての値を、選択したカメラに適用します。

カメラで MJPEG ビデオ形式を使用する場合

MJPEG では、通常モードならびにスピードアップモードでフレームレートを指定できます。カメラ がデュアルストリーム対応の場合は、これを有効にすることも可能です。

フレームレートを設定できる場所は3つあります。

- ライブフレームレート 通常の録画ストリームで使用します
- ライブフレームレート モーション検知または類似の機能と一緒に、スピードアップ録画で 使用します。

FPS(1秒当りのフレーム数) - ライブを見るための追加のストリームで使用します。 通常のフレー ムレートモード: すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	説明
フレームレート	カメラの映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択して から、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

ライブフレームレート:	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数 を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。
	カメラがデュアルストリーム対応で、デュアルストリームが有効に なっている場合、 ライブフレームレート 列は読み取り専用になり、 変更できない デュアルストリーミング の値が入ります。
録画フレームレート:	カメラの録画映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択 してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。 このフ レームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くな ければなりません。

スピードアップフレームレートモード:

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

名前	説明
スピードアップフレームレート を有効にする	スピードアップ機能によって、モーションを検知した場合およびイ ベントが発生した場合に、通常より高いフレームレートを使用でき ます。スピードアップを有効にすると、スピードアップの詳細を指 定するために、より多くの列が使用可能になります。
フレームレート	カメラの映像を再生するときのスピードアップフレームレート。フ レーム数を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択 します。 このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレ ートより高くなければなりません。

名前	説明
モーション検知	このチェックボックスを選択すると、モーションを検知した時にス ピードアップフレームレートを使用します。カメラは最後にモーシ ョン検知されてから2秒後に、通常のフレームレートに戻ります。
イベント発生時	このチェックボックスを選択すると、イベントが発生してから、別 のイベントが発生するまでの間、スピードアップフレームレートを 使用します。イベントによるスピードアップを使用するには、その イベントが定義されていて、付随するリストで開始イベントおよび 停止イベントが選択されていることが必要です。 イベントの設定は拡張設定 > イベントおよび出力であらかじめ設 定しておいてください。
開始イベント	必要な開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると、カ メラはスピードアップフレームレートの使用を開始します。
終了イベント	必要な停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると、カ メラは通常のフレームレートに戻ります。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

ライブフレームレート:	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数 を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。 こ のフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高 くなければなりません。
	カメラがデュアルストリーム対応で、デュアルストリームが有効に なっている場合、 ライブフレームレート 列は読み取り専用になり、 変更できない デュアルストリーミング の値が入ります。
録画フレームレート:	カメラの録画映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択 してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。 このフ レームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くな ければなりません。

ヒント:スピードアップは、モーションやイベントに基づいている必要はありません。スケジュール 『138ページの"スピードアップ"参照 』を使用して、特定の期間に基づいてスピードアップを設定す ることもできます。特定期間のスピードアップを希望する場合も、スピードアップを有効にするチェ ックボックスを選択して、スピードアップの使用を有効にする必要があります。

デュアルストリーム:

この機能が使用できるのは、デュアルストリームをサポートしているカメラのみです。

	説明
ライブストリーム専用で使用す る	この追加ストリーム機能で、カメラの別のストリームを使用するこ とができます。この機能は、レコーディングサーバーへの2つの独 立したストリームを有効にします。1つのストリームはライブビュ ー用であり、もう1つのストリームは(異なる解像度、エンコーデ ィング、フレームレートでの)録画用です。
ストリーム	ライブストリームのタイプを選択します。ライブビューとビデオ録 画では、最適な結果を得るためのストリーム設定が異なることがあ ります。
解像度	カメラの解像度を選択します。
FPS	カメラの1秒当たりのライブフレームレート(FPS)を選択します。

カメラが MPEG ビデオ形式を使用する場合

MPEG では、フレームレートおよびその他の設定を指定できます。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	説明
1秒当たりのフレームレート	カメラからのライブビューおよび録画映像再生のためのフレームレ ート。1秒当たりのフレーム数を選択します。

XProtect Enterprise、XProtect Professional および XProtect Express でのみ使用可能なプロパティ:

キーフレームのみの録画	キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを 保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータだけを保持 します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できま す。キーフレームだけを録画したい場合は、チェックボックスを選 択します。モーションを検知した場合や、イベントが発生した場合 など、例外を指定することができます。
モーションのすべてのフレーム の録画	キーフレームのみの録画を選択している場合、例外を作成できます。 このチェックボックスを選択すると、モーションが検知された時の フレームをすべて録画します。最後にモーションが検知されてから 2秒後に、カメラはキーフレームのみの録画に戻ります。
イベントのすべてのフレームの 録画	キーフレームのみの録画を選択している場合、例外を作成できます。 このチェックボックスを選択すると、イベントが発生してから、別 のイベントが発生するまでの間、すべてのフレームを録画します。 この機能を使用するには、そのイベントが定義されていて、付随す るリストで開始イベントおよび停止イベントが選択されていること が必要です。 イベントの設定は拡張設定 > イベントおよび出力であらかじめ設 定しておいてください。
開始イベント	イベントまたはモーション検知、およびイベントで録画する場合に 使用します。必要な開始イベントを選択します。開始イベントが発 生すると、カメラはすべてのフレームの録画を開始します。
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------
終了イベント	必要な停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると、カ メラは再びキーフレームのみを録画します。

デュアルストリーム:

この機能が使用できるのは、デュアルストリームをサポートしているカメラのみです。

名前	説明
ライブストリーム専用で使用す る	この追加ストリーム機能で、カメラの別のストリームを使用するこ とができます。この機能は、レコーディングサーバーへの2つの独 立したストリームを有効にします。1つのストリームはライブビュ ー用であり、もう1つのストリームは(異なる解像度、エンコーデ ィング、フレームレートでの)録画用です。
ストリーム	ライブストリームのタイプを選択します。ライブビューとビデオ録 画では、最適な結果を得るためのストリーム設定が異なることがあ ります。
解像度	カメラの解像度を選択します。
FPS	カメラの1秒当たりのライブフレームレート(FPS)を選択します。

手動録画

ビデオおよび録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラ に対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 手動録画の設定では、プロパティが すべてのカメラによって共有されます。

手動録画が有効であれば、必要な権限を持つ XProtect Smart Client ユーザーは、録画中ではないカメラのライブビデオの表示中に、何か関心の対象が見えた場合、手動で録画を開始できます。

有効であれば、個々のカメラの録画 『86ページの"記録(録画) "参照』が**録画しないや条件付きで録** 画に設定されていても、手動録画を行うことができます。

XProtect Smart Client から開始した場合、必ず固定の時間(たとえば5分)で、こうしたユーザー主 導の録画を行います。

	説明
手動レコーディングの有効化	チェックボックスを選択して手動レコーディングを有効にし、詳細 を指定します。
手動レコーディングのデフォル ト継続時間	ユーザーによる録画を実行する期間(秒単位)。デフォルトの期間 は 300 秒で、5 分に相当します。

	説明
手動レコーディングの最長継続 時間	ユーザーによる録画が可能な最長の期間。こうした手動レコーディ ングは必ず一定時間で行われるので、この最長期間は Smart Client で開始される手動レコーディングとは関係ありません。ただし、イ ンストールによっては API または類似の機能でこれらを XProtect Enterprise と統合する場合に、手動レコーディングをサードパーテ ィのアプリケーションと組み合わせることがあります。このような 状況では、最長期間の指定が関連します。単に手動レコーディング を Smart Client と同時に使用する場合、このプロパティは無視して ください。

フレームレート - MJPEG

ビデオおよび録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラ に対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象 となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。

白い背景のすべてのプロパティは編集可能で、水色の背景のプロパティは編集できません。 すべて のフレームレート - MJPEG プロパティは、MJPEG を使用するそれぞれのカメラに対して個別に 『86ページの"記録(録画) "参照』指定できることに注意してください。

テンプレートおよび共通プロパティ

名前	説明
テンプレート	テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて 便利です。たとえば、カメラが 20 台あり、レコーディングパス、 アーカイブパス、およびそれらすべての保持時間を変更したいとし ます。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに 一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの 設定 ボ タンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択解除します。
選択したカメラで、選択したテン プレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
選択したカメラですべてのテン プレート値を設定する	テンプレートのすべての値を、選択したカメラに適用します。

名前	説明
カメラ名	 Management Application およびクライアントで表示される名前です。 既存の名前を、新しい名前で上書きすることができます。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 名

通常のフレームレートのプロパティ

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

名前	前明
フレームレート	カメラの映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択して から、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。
時間単位	ライブおよび録画のフレームレートに必要な単位(秒、分、時間あたり)を選択します。フレームレートをスピードアップできる時間のみを選択できることに注意してください。例:標準モードで、 秒 あたり 15 フレームを指定したとすると、スピードアップモードで 分または時間あたり 16 フレームを指定することはできません。
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細および カメラ固有の設定(例:イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼 レンズビューエリア)を設定します。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

ライブフレームレート:	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数 を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。
	カメラがデュアルストリーム対応で、デュアルストリームが有効に なっている場合、 ライブフレームレート 列は読み取り専用になり、 変更できない デュアルストリーミング の値が入ります。
録画フレームレート:	カメラの録画映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択 してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。 このフ レームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くな ければなりません。

スピードアップフレームレートのプロパティ

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

名前	説明
スピードアップを有効にする	スピードアップ機能によって、モーションを検知した場合およびイ ベントが発生した場合に、通常より高いフレームレートを使用でき ます。スピードアップを有効にすると、スピードアップの詳細を指 定するために、より多くの列が使用可能になります。
フレームレート	カメラの映像を再生するときのスピードアップフレームレート。フ レーム数を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択 します。 このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレ ートより高くなければなりません。
時間単位	ライブおよび録画のフレームレートに必要な単位(秒、分、時間あたり)を選択します。フレームレートをスピードアップできる時間のみを選択できることに注意してください。例:標準モードで、 秒 あたり 15 フレームを指定したとすると、スピードアップモードで 分または時間あたり 16 フレームを指定することはできません。
スピードアップ をオン	 モーション検知:これを選択すると、モーション『91ページの"モーション検知と領域の除外"参照』が検知された時にスピードアップします。最後のモーションが検知されると、即時に通常のフレームレートに戻ります。
	 イベント: これを選択すると、イベントが発生してからびに 別のイベントが発生するまで、スピードアップします。イベ ントによるスピードアップを使用するには、そのイベントが 定義されていて、隣接する列で開始イベントおよび停止イベ ントを選択していることが必要です。
	イベントの設定は拡張設定 > イベントおよび出力であらか じめ設定しておいてください。
	 モーション検知およびイベント:これを選択すると、モーションを検知した場合、あるいはイベントが発生してから別のイベントが発生するまでの間、スピードアップします。隣の列で、開始イベントおよび停止イベントを選択することを忘れないでください。
スケジュールのみ	これを選択すると、カメラのスピードアップをスケジュール 『138 ページの"スピードアップ"参照 』にのみ従ってスピードアップします。
開始イベント	必要な開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると、カ メラはスピードアップフレームレートの使用を開始します。
終了イベント	必要な停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると、カ メラは通常のフレームレートに戻ります。
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細および カメラ固有の設定(例:イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼 レンズビューエリア)を設定します。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

ライブフレームレート :	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数 を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。 こ のフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高 くなければなりません。
	カメラがデュアルストリーム対応で、デュアルストリームが有効に なっている場合、 ライブフレームレート 列は読み取り専用になり、 変更できない デュアルストリーミング の値が入ります。
録画フレームレート:	カメラの録画映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択 してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。 このフ レームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くな
	ければなりません。

フレームレート - MPEG

ビデオおよび録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラ に対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象 となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。

すべてのフレームレート - MPEG プロパティは、MPEG を使用するそれぞれのカメラに対して個別に 『86ページの"記録(録画) "参照』指定できることに注意してください。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	説明
テンプレート	テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて 便利です。たとえば、カメラが 20 台あり、レコーディングパス、 アーカイブパス、およびそれらすべての保持時間を変更したいとし ます。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに 一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの 設定 ボ タンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
カメラ名	Management Application およびクライアントで表示される名前で す。 既存の名前を、新しい名前で上書きすることができます。 名 前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
デュアルストリーム	カメラでデュアルストリームが有効かどうかをチェックできます。 この情報は読み取り専用であることに注意してください。デュアル ストリームをサポートしているカメラの場合、個々のカメラのビデ オ 『82ページ』プロパティでこれを有効/無効にできます。
ライブ FPS	カメラの1秒当たりのライブフレームレート(FPS)を選択します。

	説明
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細および カメラ固有の設定(例:イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼 レンズビューエリア)を設定します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択解除します。
選択したカメラで、選択したテン プレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
選択したカメラですべてのテン プレート値を設定する	テンプレートのすべての値を、選択したカメラに適用します。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

キーフレームのみの録画	キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを 保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータのみを記録 します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に低減できま す。キーフレームだけを録画したい場合は、チェックボックスを選 択します。
すべてのフレームの 録画	キーフレームのみの録画を選択している場合、例外を作成できます。 • モーション検知:これを選択すると、モーションが検知され た時のフレームをすべて録画します。最後にモーション『91 ページの"モーション検知と領域の除外"参照』が検知され てから2秒後に、カメラはキーフレームのみの録画に戻りま す。
	 イベント:これを選択すると、イベントが発生してから別の イベントが発生するまでの間、すべてのフレームを録画しま す。そのイベントが定義されており、隣接する列で開始イベ ントおよび停止イベントを選択してあることが必要です。 イベントの設定は拡張設定 > イベントおよび出力であらか
	じめ設定しておいてください。 • モーション検知およびイベント:これを選択すると、モーシ ョンを検知した場合、あるいはイベントが発生してから別の イベントが発生するまでの間、すべてのフレームを録画しま す。隣の列で、開始イベントおよび停止イベントを選択する ことを忘れないでください。
	 スケジュールのみ:これを選択すると、カメラのスケジュー ルをスピードアップ『138ページの"スピードアップ"参照』 にのみ従ってすべてのフレームを録画します。

開始イベント	イベントまたはモーション検知、およびイベントで録画する場合に 使用します。必要な開始イベントを選択します。開始イベントが発 生すると、カメラはすべてのフレームの録画を開始します。
終了イベント	必要な停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると、カ メラは再びキーフレームのみを録画します。

音声録音

特定のカメラに対してビデオや録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、音声を録音するかどうかを指定できます。この選択は、システムのすべてのカメラに適用されます。

	説明
常時	すべての該当するカメラで、音声を常に録音します。
設定しない	どのカメラでも音声を録音しません。音声を録音しなくても、Smart Client でライブ音声を聞くことは可能であることに注意してください。

音声を録音する場合、以下に注意することが重要です。

- ・ 音声録音は、ビデオ保存容量に影響します。音声は、関連するカメラのデータベースに録音 されます。したがって、ビデオだけを録画する場合に比べて、音声とビデオを記録する場合、 より早くデータベースが満杯になることに留意する必要があります。データベースが満杯に なると、システムは自動的にデータをアーカイブ『127ページの"アーカイブについて"参照 』 するので、データベースが満杯になること自体は問題ではありません。ただし、音声を録音 する場合、追加のアーカイブ容量が必要になります。
 - o 例:MPEG4を使用する場合、それぞれ1秒のビデオGOP(Group Of Pictures)が、デー タベースの1レコードに保存されます。毎秒ごとの音声が、データベースの1レコードに 保存されます。データベースのレコードの半分は音声の保存に使用されるので、データベ ースのビデオ保存容量が全体容量の半分に低減します。したがってデータベースはすぐに 満杯になり、ビデオだけを録画する場合と比べて、より頻繁にアーカイブが発生します。
 - o 例:MJPEGを使用する場合、音声ブロックのサイズが JPEG 間の時間を超えない限り、 すべての JPEG に対して音声が1レコードに保存されます。極端な場合は、データベース のレコードの半分が音声の保存で使用されるので、データベースのビデオ保存容量が全体 容量の半分に低減します。非常に高いフレームレートを使用すると、各 JPEG 間の時間が 短くなることを意味するので、音声の録音に使用するデータベースの割合が小さくなり、 その結果ビデオの保存で使用できる部分は大きくなります。その結果として、データベー スはすぐに満杯になり、ビデオだけを録画する場合と比べて、より頻繁にアーカイブが発 生します。

上記では、単純化した例を示しています。正確な使用可能な保存容量は、GOP/JPEG および音声のキロバイト単位でのサイズにも依存します。

音声の選択

ビデオおよび録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、多くのカメラ に対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象 となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで共有されている場合が該当します。 カメラからのビデオを再生する時は、カメラに対してデフォルトで選択されているマイクまたはスピ ーカーからの音声が自動的に使用されます。それぞれのカメラに対して、すべてのプロパティを個別 に指定することも可能であることに注意してください。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	説明
テンプレート	テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて 便利です。たとえば、カメラが 20 台あり、レコーディングパス、 アーカイブパス、およびそれらすべての保持時間を変更したいとし ます。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに 一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの 設定 ボ タンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
カメラ名	Management Application およびクライアントで表示される名前で す。 既存の名前を、新しい名前で上書きすることができます。 名 前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
デフォルトのマイク	デフォルトのマイクを選択します。
カメラ	開く ボタンをクリックして、選択したカメラに対して、詳細および カメラ固有の設定(例:イベント通知、PTZ プリセット位置、魚眼 レンズビューエリア)を設定します。
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択解除します。
選択したカメラで、選択したテン プレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
選択したカメラですべてのテン プレート値を設定する	テンプレートのすべての値を、選択したカメラに適用します。
XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:	

デフォルトのスピーカー	デフォルトのスピーカーを選択します。
-------------	--------------------

ストレージ情報

ストレージ情報プロパティには、システムにどれだけのストレージ容量があり、そのうちのどの程度 を使用できるかが示されます。ディスク容量を円グラフ形式で迅速に表示するには、対象となるドラ イブを表している行を選択します。

名前	説明
ドライブ	対象となるトライブを表す文字、たとえば C:など。
パス	ファイルを保存する場所へのパス。例 : C:¥ または ¥¥OurServer¥OurFolder¥OurSubfolder¥
使用	たとえば、録画やアーカイブで使用するストレージエリア。
ドライブ容量	ドライブの合計サイズ。
ビデオデータ	ドライブにあるビデオデータの量。
その他のデータ	ドライブにあるその他のデータの量。
空き容量	ドライブに残っている未使用の容量。

カメラプロパティ

一括設定

特定のカメラについてビデオや録画を設定『**57**ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、以下のプロパティが含まれます。

	説明
デバイスが有効	カメラはデフォルトで有効になっています。つまり、オンラインに なるようスケジュールされており 『137ページの"オンライン期間" 参照 』、ビデオを XProtect Enterprise に転送できることを意味し ます。個別のカメラを無効にすることができます。この場合、カメ ラからシステムヘビデオ/音声は転送されません。
プレビュー	このチェックボックスを選択すると、カメラの映像のプレビューが 表示されます。チェックボックスを選択解除すると、システムはカ メラのプレビューを表示しません。
カメラ名	 Management Application およびクライアントで表示される名前です。 既存の名前を、新しい名前で上書きすることができます。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 & ' " ¥ / : * ? []

	説明
	XProtect Smart Client のユーザーは、キーボードショートカットを 活用できます。一例として、複数のカメラの再生を切り替えること ができます。こうしたショートカットには数字も含まれており、各 カメラを識別するために使用します。
カメラのショートカット番号	ショートカット番号は、それぞれのカメラで一意でなければなりません。カメラのショートカット番号には、文字または特殊文字を含んではならず、最大で8桁以内になるようにしてください。正しいカメラのショートカット番号の例:3,12345678. 正しくないカメラのショートカット番号の例:Cam#3、123456789。
	キーボードショートカットの使用方法に関する詳細情報は、 XProtect Smart Client の他のマニュアルにあります。

これらのプロパティは、大半がカメラに固有です。こうしたプロパティはカメラによって大きく異なるため、以下の説明はあくまでもガイダンス目的です。選択したカメラにアクセスできると、ライブ プレビューが表示されます。カメラの設定...ボタンをクリックすると、選択したカメラのプロパティ を表示する別個のウィンドウが開きます。

通常、ビデオプロパティでは、選択した新しい値で既存の値を上書きすることで、帯域、輝度、圧縮、 コントラスト、解像度、回転などをコントロールできます。ビデオの設定を調整する場合、大半のカ メラでは、その設定の効果をフィールドの下の画像でプレビューすることができます。

ビデオ設定機能に、**日時を含む**設定がある場合があります。**はい**に設定すると、カメラからの日付と 時刻がビデオに含まれます。ただし、カメラは別個のユニットであり、別個のタイミングデバイスや 電源などで機能しています。したがって、カメラの時刻とシステムの時刻が完全に対応していないこ とがあり、これが混乱につながることがあります。受信したすべてのフレームにシステムがタイムス タンプを付けるため、それぞれの画像の正確な日付と時刻は既に分かっていることから、**いいえ**に設 定することを推奨しています。

カメラが時刻同期機能をサポートしている場合、一貫性のある時刻の同期のために、カメラとシステ ムの時刻をタイムサーバーで自動同期することができます。

ビデオ

特定のカメラについてビデオや録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、MJPEG ビデオ形式または MPEG ビデオ形式のいずれかを使用することができます。2つのオプションのいずれかを選択するかによって、カメラに対して異なるオプションを設定できます。

MJPEG ビデオ形式

MJPEGでは、通常モードならびにスピードアップモードでフレームレートを指定できます。カメラ がデュアルストリーム対応の場合は、これを有効にすることも可能です。フレームレートを設定でき る場所は3つあります。

- ライブフレームレート 通常の録画ストリームで使用します
- ライブフレームレート モーション検知または類似の機能と一緒に、スピードアップ録画で 使用します。

FPS(1秒当りのフレーム数) - ライブを見るための追加のストリームで使用します。 通常のフレー ムレートモード**すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ**:

フレームレート	カメラの映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択して
	から、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

ライブフレームレート:	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数 を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。
	カメラがデュアルストリーム対応で、デュアルストリームが有効に なっている場合、 ライブフレームレート 列は読み取り専用になり、 変更できない デュアルストリーミング の値が入ります。
録画フレームレート:	カメラの録画映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択 してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。 このフ レームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くな ければなりません。

スピードアップフレームレートモード

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

スピードアップフレームレート を有効にする	スピードアップ機能によって、モーションを検知した場合およびイ ベントが発生した場合に、通常より高いフレームレートを使用でき ます。スピードアップを有効にすると、スピードアップの詳細を指 定するために、より多くの列が使用可能になります。
フレームレート	カメラの映像を再生するときのスピードアップフレームレート。フ レーム数を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択 します。 このフレームレートは、標準モードで指定するフレームレ ートより高くなければなりません。
モーション検知時	このチェックボックスを選択すると、モーションを検知した時にス ピードアップフレームレートを使用します。カメラは最後にモーシ ョン検知されてから2秒後に、通常のフレームレートに戻ります。
イベント発生時	このチェックボックスを選択すると、イベントが発生してから、別 のイベントが発生するまでの間、スピードアップフレームレートを 使用します。イベントによるスピードアップを使用するには、その イベントが定義されていて、付随するリストで開始イベントおよび 停止イベントを選択してあることが必要です。
開始イベント	必要な開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると、カ メラはスピードアップフレームレートの使用を開始します。
停止イベント	必要な停止イベントを選択します。 停止イベントが発生すると、カ メラは通常のフレームレートに戻ります。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

ライブフレームレート:	カメラからのライブ映像に必要な平均フレームレート。フレーム数 を選択してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。 こ のフレームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高 くなければなりません。
	カメラがデュアルストリーム対応で、デュアルストリームが有効に なっている場合、 ライブフレームレート 列は読み取り専用になり、 変更できない デュアルストリーミング の値が入ります。
録画フレームレート:	カメラの録画映像に必要な平均フレームレート。フレーム数を選択 してから、時間間隔の単位(秒、分、時間)を選択します。 このフ レームレートは、標準モードで指定するフレームレートより高くな ければなりません。

注意:スピードアップは、モーションやイベントに関連付ける必要はありません。スケジュールを使用して、特定の期間にスピードアップを設定することもできます。特定期間のスピードアップを希望する場合も、スピードアップを有効にするチェックボックスを選択して、スピードアップの使用を有効にする必要があります。

デュアルストリーム

専用ライブストリームを有効に する	この追加ストリーム機能で、カメラの別のストリームを使用するこ とができます。この機能は、レコーディングサーバーへの2つの独 立したストリームを有効にします。1つのストリームはライブビュ ー用であり、もう1つのストリームは(異なる解像度、エンコーデ ィング、フレームレートでの)録画用です。
ストリーム	ライブストリームのタイプを選択します。ライブビューとビデオ録 画では、最適な結果を得るためのストリーム設定が異なることがあ ります。
解像度	カメラの解像度を選択します。
FPS	カメラの1秒当たりのライブフレームレート(FPS)を選択します。

MPEG ビデオ形式

MPEG では、フレームレートおよびその他の設定を指定できます。

フレームレート

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

1 孙兴たりのフレートレート	カメラからのライブビューおよび録画映像再生のためのフレームレ
「杉当たりのクレームレード	ート。1秒当たりのフレーム数を選択します。

XProtect Enterprise、XProtect Professional および **XProtect Express** でのみ使用可能なプロパティ:

キーフレームのみの録画	キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを 保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータだけを保持 します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できま す。キーフレームだけを録画したい場合は、チェックボックスを選 択します。モーションを検知した場合や、イベントが発生した場合 など、例外を指定することができます。
モーション検知時にすべてのフ レームを録画	キーフレームのみの録画を選択している場合、例外を作成できます。 このチェックボックスを選択すると、モーションが検知された時の フレームをすべて録画します。最後にモーションが検知されてから 2秒後に、カメラはキーフレームのみの録画に戻ります。
イベント発生時にすべてのフレ ームを録画	キーフレームのみの録画を選択している場合、例外を作成できます。 このチェックボックスを選択すると、イベントが発生してから、別 のイベントが発生するまでの間、すべてのフレームを録画します。 この機能を使用するには、そのイベントが定義されていて、付随す るリストで開始イベントおよび停止イベントを選択してあることが 必要です。
開始イベント	イベントまたはモーション検知、およびイベントで録画する場合に 使用します。必要な開始イベントを選択します。開始イベントが発 生すると、カメラはすべてのフレームの録画を開始します。
停止イベント	必要な停止イベントを選択します。 停止イベントが発生すると、カ メラはキーフレームのみを録画します。

デュアルストリーム

専用ライブストリームを有効に する	この追加ストリーム機能で、カメラの別のストリームを使用するこ とができます。この機能は、レコーディングサーバーへの2つの独 立したストリームを有効にします。1つのストリームはライブビュ ー用であり、もう1つのストリームは(異なる解像度、エンコーデ ィング、フレームレートでの)録画用です。
ストリーム	ライブストリームのタイプを選択します。ライブビューとビデオ録 画では、最適な結果を得るためのストリーム設定が異なることがあ ります。
解像度	カメラの解像度を選択します。
FPS	カメラの1秒当たりのライブフレームレート(FPS)を選択します。

音声

特定のカメラについてビデオや録画を設定『**57**ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、そのカメラのデフォルトのマイクまたはスピーカーの選択がプロパティに含まれています。カメラからのビデオを再生する時は、カメラに対してデフォルトで選択されているマイクまたはスピーカーからの音声が自動的に使用されます。

マイク/スピーカーがカメラと同じハードウェアデバイスに取り付けられている場合、特に設定していなければ、そのマイク/スピーカーがカメラのデフォルトのマイク/スピーカーになります。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	説明
デフォルトのマイク	デフォルトのマイクを選択します。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

デフォルトのスピーカー	デフォルトのスピーカーを選択します。
カメラに対してデフォルトのマイ	クやスピーカーを選択できるのは、監視システムのハードウェアデ
バイスに少なくとも1つのマイク	またはスピーカーが取り付けられている場合だけです。

記録 (録画)

記録という言葉は、ビデオ(該当する場合は、カメラからの音声)の監視システムサーバーのカメラ のデータベースへの保存を意味します。ビデオ/音声は、保存する理由がある場合にだけ保存されます。 たとえば、モーションが検知されている間、イベントが発生してから、他のイベントが発生するまで の間、または一定の期間内で保存されます。

特定のカメラについてビデオや録画を設定『**57**ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、以下の録画プロパティが含まれます。

名前	説明
常時	カメラが有効 『81ページの"一括設定"参照 』であり、オンライン になるようスケジュールされている『137ページの"オンライン期間 "参照 』場合に録画します(後者によって、時間に基づく録画が可 能になります)。
設定しない	録画しません。ライブビデオは表示されますが、ビデオがデータベースに保存されないので、カメラからのビデオを再生することはできません。
	ー定の条件を満たした場合に録画します。このオプションを選択す る場合、モーションの検知や指定したイベントの前後の期間の録画 を保存できるように、必要な条件(以下を参照)を指定します。
条件	例:ドアが開いている間、ビデオを保存するように定義した場合、 ドアを開ける直前に発生した状況を確認できることが重要になる場 合があります。たとえば、ドアが開いていますと呼ばれる開始イベ ントと、ドアが閉じていますと呼ばれる停止イベントで、イベント による条件付きでビデオを保存するとします。プリレコーディング が3秒の場合、ドアが開いていますが発生する3秒前から、ドアが 閉じていますが発生するまでの期間、ビデオが録画されます。

名前	説明
組み込みモーション検知	このチェックボックスを選択すると、モーション 『91ページの"モ ーション検知と領域の除外"参照 』が検知されたビデオを録画しま す。ポストレコーディング(以下を参照)を使用しない限り、最後 にモーションが検知された後、録画はただちに停止します。
イベント発生時	このチェックボックスを選択すると、イベントが発生してから別の イベントが発生するまでの間、ビデオが録画されます。イベントに よる録画を使用するには、そのイベントが定義されていて、付随す るリストで開始イベントおよび停止イベントが選択されていること が必要です。
	イベントの設定は拡張設定 > イベントおよび出力であらかじめ設 定しておいてください。
開始イベント	必要な開始イベントを選択します。開始イベントが発生すると(あるいは、プリレコーディングを使用する場合は、それ以前から。下 記を参照)録画が開始します。
終了イベント	必要な停止イベントを選択します。停止イベントが発生すると(あるいは、ポストレコーディングを使用する場合は、それより後に。 下記を参照)録画が停止します。
プリレコーディングの有効化	オプション 条件付き が選択されている場合だけ使用可能です。録画 開始条件(モーションまたは開始イベント)が満たされる前から、 ビデオを録画する秒数を指定します。
ポストレコーディングの有効化	オプション 条件付き が選択されている場合だけ使用可能です。録画 停止条件(モーション終了または停止イベント)が満たされた後で、 ビデオを録画する秒数を指定します。

手動録画 『**73**ページ』が有効である可能性があります。手動録画は、必要な権限を持つ XProtect Smart Client ユーザーが、録画中ではないカメラからのライブビデオの表示中に、何か関心の対象が 見えた場合、手動で録画を開始できます。有効であれば、個々のカメラの録画が**録画しない**設定や**条 件付き録画**に設定されていても、手動録画を行うことができます。

録画およびアーカイブのパス

特定のカメラについてビデオや録画を設定『**57**ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、以下のプロパティが含まれます。

	要件
レコーディングパス	カメラのデータベースを保存するフォルダへのパス。デフォルトは、 D:¥MediaDatabaseです。他のフォルダを参照する場合は、該当す るセルの横にあるアイコンをクリックしてください。指定できるの は、ローカルドライブにあるフォルダへのパスのみです。ネットワ ークドライブへのパスを指定することはできません。ネットワーク ドライブを使用すると、ネットワークドライブが使用できない場合 に録画を保存できなくなります。
	レコーディングパスを変更し、古い場所に既存の録画がある場合、 録画を新しい場所へ移動するか(推奨)、古い場所に残すか、ある いは削除するかを選択する必要があります。
	ヒント : 複数のカメラがあり、複数のローカルドライブが使用可能 な場合、個別のカメラのデータベースを複数のドライブに分散させ ることでパフォーマンスを改善できます。
	ボタンをクリックすると、カメラのデータベースにあるすべての録 画を削除します。アーカイブされている録画は影響を受けません。
データベースの削除	重要 : 慎重に使用してください。カメラのデータベースにあるすべての録画が完全に削除されます。安全対策として、削除を確認する メッセージが表示されます。
アーカイブパス	アーカイブ 『127ページの"アーカイブについて"参照 』でダイナミ ックパスを使用していない場合にのみ、編集可能です。カメラのア ーカイブされた録画を保存するフォルダへのパス。デフォルトは、 D:¥MediaDatabase です。
	他のフォルダを参照する場合は、関連するセルの横にあるアイコン をクリックしてください。アーカイブパスを変更し、古い場所に既 存のアーカイブされた録画がある場合、アーカイブされた録画を新 しい場所へ移動するか(推奨)、古い場所に残すか、あるいは削除 するかを選択する必要があります。アーカイブされた録画を移動す ると、XProtect Enterprise は現在カメラのデータベースにあるもの もアーカイブすることに注意してください。そのため、アーカイブ された録画を移動した直後に、カメラのデータベースは空になりま す。
アーカイブの削除	ボタンをクリックすると、カメラのアーカイブされた録画がすべて 削除されます。カメラの通常のデータベースにある録画は影響を受 けません。単一のアーカイブパスを使用しているか、ダイナミック アーカイブパスを使用しているかに関わらず、削除機能を使用でき ます。
	重要 : 慎重に使用してください。カメラのすべてのアーカイブ録画 が完全に削除されます。安全対策として、削除を確認するメッセー ジが表示されます。

コンポーネント	要件
保持期間	カメラからの録画(つまり、カメラのデータベースにある録画なら びにアーカイブされている録画)を保持しておく合計時間です。デ フォルトは7日です。
	保持時間は、録画を保持しておく合計時間です。以前のバージョン の XProtect Enterprise では、データベースとアーカイブで別個に制 限時間を指定していました。
	データベースが破損した場合に、どのアクションを行うか選択しま す。
データベース修復アクション	修復。不可能な場合はスキャンし、消去します:デフォルトの アクションです。データベースが破損した場合、以下の2つの 異なる修復方法を試みます。高速修復および徹底的な修復。両 方の修復方法が失敗した場合は、データベースの内容を削除し ます。
	修復。不可能な場合は消去します:データベースが破損した場合、高速修復を試みます。高速修復が失敗した場合は、データベースの内容を削除します。
	修復、失敗した場合はアーカイブ:データベースが破損した場合、高速修復を試みます。高速修復が失敗した場合は、データベースの内容をアーカイブします。
	 削除(修復せず):データベースが破損した場合、データベースの内容を削除します。
	 アーカイブ(修復無し):データベースが破損した場合、デー タベースの内容をアーカイブします。
	破損したデータベースを修復するアクションを選択した場合、修復 中は破損したデータベースが閉じます。代わりに、新しいデータベ ースが作成され、録画を続行できます。
	XProtect Smart Client では、アーカイブされている場合、破損した データベースを修復できるケースが大半です。破損したデータベー スを XProtect Smart Client で開くと、XProtect Smart Client は、可 能な限り、自動的にデータベースを修復しようと試みます。
	ヒント : データベースの破損を回避 『25ページの"録画データベー スの破損からの保護について"参照 』するための基本的な注意事項 がいくつかあります。

	要件
ダイナミックパスを設定する	ダイナミックアーカイブパスでは、通常は複数のドライブに渡る、 異なるアーカイブパスを指定します。ダイナミックアーカイブ用に 選択したパスのいずれかにカメラのデータベースを保存しているド ライブが含まれている場合、XProtect Enterprise は常にまずそのパ スでアーカイブしようと試みます。そうでない場合、そのドライブ を使用するカメラデータベースが存在しない限り、XProtect Enterprise は自動的にその時点で最も使用可能な容量が大きいアー カイブドライブにアーカイブします。ダイナミックパスの選択『66 ページ』も参照してください。

イベント通知

特定のカメラについてビデオや録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、以下のイベント通知プロパティが含まれます。イベント通知は、XProtect Smart Client のユーザーに、システムでイベントが発生したことを知らせます。イベントが発生したことを迅速に検知できるので、クライアントユーザーにとってイベント通知は重要です。それぞれのカメラに対してイベント通知を個別に設定していたとしても、イベントが手動であるかジェネリックであるか、あるいはイベントがカメラ以外のハードウェアデバイスで発生するかに関わらず、すべてのイベントをシステムで選択することができます。

XProtect Smart Client では、イベント通知は黄色のインジケーターで表示され、関連するイベントが発生した時に点灯します。また、XProtect Smart Client 自体で、イベント通知にオプションのサウンドを追加することもできます。

XProtect Smart Client のそれぞれのカメラに対して、3種類 のインジケータを使用できます。

- 黄色の イベントインジケータ。関連するイベント が発生した時に点灯します。
- 赤色の■モーションインジケータ。モーションを検知すると点灯します。
- オプションで緑色の■ビデオインジケータ。カメラ からビデオを受信すると点灯します。

XProtect Smart Client で、インジケータが表示されるバーを オフにすることができます。XProtect Smart Client がイベン ト通知を必要とする場合は、オフにしないでください。



必要なイベントの選択

- 1. 使用可能なイベントリストで、関連するイベントを選択します。一度に選択できるイベント は1つだけです。
- 2. >>ボタンをクリックして、選択したイベントを選択したイベントリストにコピーします。

3. 必要なイベントについて繰り返します。

後で、**選択したイベント**リストからイベントを削除したくなった場合は、関連するイベントを選択して、<<ボタンをクリックします。

出力

特定のカメラについてビデオや録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、たとえばサイレンのサウンドや照明のスイッチなどの特定のハードウェア出力 『110ページの"ハードウェア出力の追加"参照』とカメラを関連付けることができます。

カメラからのビデオでモーションが検知された場合、あるいは、必要な権限 『172ページの"ユーザー およびグループの権限の設定"参照 』を持つ Smart Client ユーザーがカメラからのライブビデオを再生 する場合などに、関連付けられた出力を起動することができます。

- 使用可能な出力リストで、関連する出力を選択します。一度に選択できる出力は1つだけです。まだ適切な出力を定義していない場合、以下の方法で迅速に行うことができます。他のフィールドの下にある出力の設定ボタンを使用します。
- 2. >>をクリックして、選択した出力を以下にコピーします。
 - **手動制御による**リスト。この場合、出力は XProtect Smart Client での手動起動で使用でき ます。

または

- 検出された動作リスト。この場合、カメラからのビデオでモーションを検知した場合に出 力が起動されます。必要であれば、両方のリストに同じ出力を表示することもできます。
- 3. 必要な出力について繰り返します。

後で、いずれかのリストから出力を削除したくなった場合は、該当する出力を選択して、<<ボタンを クリックします。

モーション検知と領域の除外

特定のカメラについてビデオや録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、モーション検知を調整することが重要になります。これは、いつ録画するか、いつ Eメール通知をするか、いつハードウェア出力(照明やサイレンなど)を有効にするかなどの決定要因となるためです。それぞれのカメラに最適なモーション検知が得られるように調整しておくことで、不必要な録画や通知などを避けることができます。カメラの配置によっては、異なる物理的条件(昼/夜、強風/ 無風など)でモーション検知をテストすることを強くお勧めします。

カメラのモーション検知を設定する前に、圧縮率、解像度などのカメラのビデオプロパティ『81ページの"一括設定"参照 』を設定する必要があります。

複数の同時ビデオストリームをサポートしていないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。したがって、Milestone では、モーション検知や PTZ でそのようなデバイスを設定している場合は、Recording Server サービスを停止 『178ページの "サービスを開始および停止する"参照 』することを推奨しています。Management Application でカメ ラからのビデオを表示する 『29ページ 』、も参照してください。

	説明
有効化	組み込みのモーション検知を有効または無効 『58ページの"モーション検知について"参照 』にします。
	グリッドをオンまたはオフに切り替えます。
グリッドを表示	グリッドをオフにすることで、プレビュー画像がよりはっきり見え る場合もあります。グリッドが表示されている場合と同じ方法で、 モーション検知から除外する領域を選択します。グリッドがオンで あれば、プレビュー画像はグリッドによって小さいセクションに分 割されます。
	モーション検知から除外する必要がある領域を定義するには、マウ スボタンを押下した状態で、プレビュー画像の領域の上でマウスを ドラッグします。左マウスボタンでグリッドを選択します。右マウ スボタンでグリッドをクリアします。選択されたエリアが、青色で 強調表示されます。
すべてを含める	プレビュー画像で、すべてのグリッドで区切られた部分を迅速に選 択できます。これは、画像の大半のエリアでモーション検知を除外 したい場合に便利です。その場合、モーション検知を除外したくな い部分をクリアします。
すべてを除外する	プレビュー画像で、すべてのグリッドで区切られた部分をクリアします。

名前	説明
	この機能を有効にすると、モーションの感度スライドを自分で調整 することもできます。
	スライダーを左に動かすと感度レベルが上がり、右に動かすと感度 レベルが下がります。
	▶ 感度レベルが高くなるほど、より少ない各ピクセルの変化でも モーションと見なされます。
	▶ 感度レベルが低くなるほど、各ピクセルの変化がより多くなった際にモーションと見なされます。
	モーションが検知されたピクセルは、プレビュー画像で緑色に強調 表示されます。
手動感度	次の理由により、Milestone は手動感度を有効にしないことをお勧め します。
	 ダイナミック感度の場合、システムは感度レベルを自動的に計算して最適化し、画像のノイズから発生するモーション検知を抑制します。
	 夜間には、画像のノイズにより誤ったモーションが頻繁にトリガされますが、ダイナミック感度によりモーション検知が改善します。
	▶ 録画が多すぎることに起因するシステム過負荷は発生しません。
	▶ 録画が少なすぎるために結果が見られなくなることもありません。
感度	これを使用して、モーションとして認識するために変化する必要が あるピクセルの数を決定します。感度が高いと、モーションとして 認識するために必要なピクセルの変化は非常に小さくなります。モ ーションが検知されたエリアは、プレビュー画像で緑色に強調表示 されます。モーションと見なされたものだけが強調表示されるよう、 スライダーの位置を選択します。スライダーを左へ移動させるほど、 プレビューで強調表示される部分が増えます。これは、感度を非常 に高くすると、各ピクセルのわずかな変化でさえモーションと見な されるからです。スライダーを使用する代わりに、スライダーの横 のフィールドで 0~256 の値を指定して、感度設定を制御すること もできます。

	説明
モーション	必要なレベルのモーションによってのみ、モーション検知がトリガ されるように モーション スライダーを調整します。選択されたモー ションレベルは、スライダーの上にあるレベルバーの黒い垂直線で 示されます。黒い垂直線は、閾値になります。モーションが選択さ れたレベルを超える場合(右側)、バーの色が緑から赤に変わり、 モーションが検知されたことを示します。
	または、右のフィールドで 0~10000 の値を指定して、モーション 設定を制御します。
	スライダーを左ヘドラッグするほど、モーション検知に必要な変化 が小さくなるので、よりモーション検知が表示されます。モーショ ン検知の回数も録画するビデオの量、受信する通知の量などに影響 を与えます。
キーフレームのみ	ビデオストリームのキーフレームのみでモーション検知を行うこと で、モーション検知で使用するシステムのリソースを減らしたい場 合は、 キーフレームのみ を選択します。
検知間隔	カメラからのビデオで、どれくらいの頻度でモーション検知分析を 行うかを指定します。デフォルトは240ミリ秒ごとです(1秒にほ ぼ4回)。この間隔は、使用しているカメラのフレームレート設定 には関係なく適用されます。
	この設定を調整すると、モーション検知で使用されるシステムのリ ソースを低減できます。
検知解像度	画像全体を分析するか、選択した部分の画像を分析するかを指定します。たとえば25%と指定すると、すべてのピクセルを分析する代わりに4ピクセルごとに分析するので、使用するシステムのリソースは低減しますが、モーション検知の正確度も低下します。

プライバシーマスク

カメラの画像の一部が表示されないようにマスクする必要がある場合、以下のプロパティを設定しま す。

名前	説明
有効化	プライバシーマスク 機能を有効にします。

	説明
グリッドを表示	グリッドをオンまたはオフに切り替えます。グリッドをオフにする ことで、プレビュー画像がよりはっきり見える場合もあります。グ リッドを表示する場合と同様に、除外したいエリアを選択します。 オンにすると、プレビュー画像は、グリッドで小さな部分に分割さ れます。プライバシーマスクから除外する必要がある領域を定義す るには、マウスボタンを押下した状態で、プレビュー画像の領域の 上でマウスをドラッグします。左マウスボタンでグリッドを選択し ます。右マウスボタンでグリッドをクリアします。選択されたエリ
	アが、赤色で強調表示されます。
プライバシーマスクの表示	プライバシーマスクを示す赤色のエリアをオンまたはオフに切り替 えます。赤色のエリアをオフにすることで、プレビュー画像がより はっきり見える場合もあります。
クリア	プライバシーマスクをクリアします。

魚眼レンズ

魚眼レンズテクノロジを使用すると、高度なレンズで**360**度のパノラマ画像を再生できます。カメラ で魚眼レンズテクノロジを使用する場合、まずテクノロジを有効にし、場合によって特別なライセン スキーの入力が必要な場合があります。

名前	説明
魚眼レンズを有効にする	チェックボックスを選択すると、魚眼レンズテクノロジが使用可能 となり、さらに多くのプロパティを指定できます。
panomorph サポートを有効に する	選択すると、Panomorph サポートが有効になります。Panomorph は、従来の魚眼ソリューションよりピクセルの使用量を抑えながら、 対象のエリアで高い解像度を提供できる先進的な技術です。
ImmerVision Enables [』] Panomorph RPL 番号	Panomorph サポート機能を有効にする場合、ImmerVision Enables Panomorph RPL 番号リストで登録済み Panomorph レンズ(RPL) 番号も選択しなければなりません。これによりレンズが適切に識別 され、カメラで使用されているレンズで設定が行われます。RPL 番 号は、通常はレンズ本体またはカメラが入っていた箱に記載されて います。 ある時点で、別のタイプのレンズが必要になった場合、ファイルへ 移動し、新しいレンズタイプのインポートを選択します。レンズタ イプに関する情報を含んでいる.xml ファイルを検索し、OK をクリ ックします。 ImmerVison、Panomorph レンズ、RPL に関する詳細情報は、 http://www.immervision.com/en/home/index.phpを参照してくださ

	前明
カメラの位置/方向	カメラを天井、壁、地上のいずれに取り付けるかを選びます。
魚眼サポートを有効にする	選択すると、魚眼サポートが有効になります。魚眼テクノロジは、 広角レンズを使用して半球状の画像を撮影します。次に、対象とな るカメラの魚眼設定 『96ページの"魚眼(レンズ) "参照』によっ て、これを平面に投影します。
ライセンスキー	必要であれば、特別な魚眼用ライセンスキーを入力して、 OK をク リックします。ハードウェアデバイスに取り付けられているカメラ の魚眼用設定をすることができます。

特別な魚眼ライセンスキーが必要であるかどうか不明な場合は、システムのベンダーに詳細をお問い 合わせください。

魚眼(レンズ)

※本機は、魚眼ライセンスキーが必要なカメラには対応していません。

特定のカメラについてビデオや録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、魚眼のプロパティが使用できる場合があります:魚眼は、高度なレンズを使用することで 360 度 パノラマビデオを再生できる技術です。

以下のような一定の条件を満たすまでは、魚眼のプロパティは表示されません。カメラは、専用の魚 眼カメラであるか、特殊な魚眼レンズを装着したカメラでなければなりません。また、特別な魚眼ラ イセンスキーも必要です。魚眼カメラを取り付けたハードウェアデバイスを設定 『51ページの"ハー ドウェアデバイスの設定"参照 』する時にキーを入力します。

魚眼レンズの実際の画像エリアが丸で囲まれるまで、魚眼ビューの緑色の丸で示される魚眼ビューフ ィールドを調整して、カメラの魚眼機能を設定します。これで、設定が魚眼テクノロジによって使用 され、丸い魚眼ビューがフラットな長方形のビューに変換されます。



名前	説明	
天井取り	付け	カメラが天井に取り付けられている場合、チェックボックスを選択 して、これを反映するようにプロパティを調整します。
解像度		解像度の値は、自動的に魚眼画像の上に表示されます。魚眼を使用 する場合、解像度は自動的に可能な限り高い値に設定されます。

名前	説明	
X 半径		緑色の丸の水平(X)方向の半径を調整します。スライダーを左へ移動 させるほど丸が小さくなり、右へ動かすと丸が大きくなります。ま たは、スライダーの横のフィールドで 0~800の値を指定すること もできます。スライダーの左端は0に相当し、右端は800に相当し ます。
Mileston ービス	e Recording Server サ	監視システムの重要な部分です。ビデオストリームがシステムに転送されるのは、Recording Server サービスが実行されている間だけです。
X の中心		緑色の丸の水平(X)方向の位置を調整します。必要に応じて、スライ ダーを左右へ移動させます。または、スライダーの横のフィールド で 0~800の値を指定することもできます。
Yの中心		緑色の丸の垂直(Y)方向の位置を調整します。スライダーを左へ移動 させると丸は上に、右へ動かすと丸は下に移動します。または、ス ライダーの横のフィールドで0~800の値を指定することもできま す。
プレビュ	ーを有効化	設定に基づいて、丸い魚眼ビューとフラットな長方形のビューを切 り替えます。フラットなビューをプレビュー表示する場合、以下の ナビゲーションボタンが使用可能になり、フラットなビュー内を移 動できます。
ホームと	して設定	ナビゲーションボタンを使用して、適切なビューポイントへ移動し た後に使用します。現在のビューポイントをホーム位置(デフォル ト位置)に設定します。カメラを表示するクライアントユーザーが、 クライアントのホームボタンをクリックすると、カメラの視点がこ の位置に切り替わります。
ボタン	説明	
	フラットなビューを上へ移動	
F	フラットなビューを左上へ移動	
	フラットなビューを右上へ移動	
4	フラットなビューを左へ移動	
	フラットなビューをホームポジションへ移動(デフォルト位置)	
	フラットなビューを右へ移動	
	フラットなビューを左下へ移動	
₽	フラットなビューを下へ移動	

	説明
	フラットなビューを右下へ移動
<u>P</u> _	ズームアウト(クリックごとに1ズームレベル)
A	ズームイン(クリックごとに 1 ズームレベル)

PTZ 設定

PTZ 関連のプロパティが使用できるのは、**PTZ** (パン/チルト/ズーム) カメラを取り扱っている場合だけです。

PTZ 設定を使用すると、特定のイベントが発生したり、PTZパトロールプロファイルを設定した場合 に、PTZカメラを自動的に特定の位置へ移動させることができます。また、クライアントでプリセッ ト位置を使用して、複数のプリセット位置間で PTZカメラを移動させる権限 『172ページの"ユーザ ーおよびグループの権限の設定"参照』をユーザーに付与することもできます。プリセット位置の名前 には、A-Z、a-z、数字 0-9 だけを含めます。カメラからプリセット位置をインポート(以下を参照) した場合は、名前にこれら以外の文字が含まれていないか確認してください。含まれている場合は、 インポートする前にプリセット位置の名前を変更してください。

複数の同時ビデオストリームをサポートしていないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。したがって、Milestone では、モーション検知や PTZ でそのようなデバイスを設定している場合は、Recording Server サービスを停止 『178ページの "サービスを開始および停止する"参照 』することを推奨しています。Management Application でカメ ラからのビデオを表示する 『29ページ 』、も参照してください。

	説明
	設定オプションは、対象となる PTZ カメラのタイプによります。
	 タイプ1(サーバーに保存):ウィンドウの上半分にあるコントロールを使用してカメラを移動させてから、必要な位置をそれぞれシステムサーバーに保存して、プリセット位置を定義します。この方法で、最大で50のプリセット位置を定義できます。
PTZ タイプ	 タイプ2(カメラからインポート):事前に定義され、PTZ カメラ自体に保存されているプリセット位置を、カメラ独自 の設定インターフェースでインポートします。許可されるプ リセット位置の数は、使用する PTZ カメラおよびドライバ ーにより異なります。
	 タイプ3(カメラに保存):ウィンドウの上半分にあるコントロールでカメラを移動させてから、必要な位置をそれぞれカメラ独自のメモリに保存して、プリセット位置を定義します。この方法で、最大で50のプリセット位置を定義できます。カメラに対して既にプリセット位置が定義されている場合は、システムで使用するプリセット位置を簡単にインポートできます。
インポート/更新	PTZ タイプ2または3を選択している場合のみ使用できます。カメ ラのメモリから、既に定義されているプリセット位置をインポート して、XProtect Enterprise で使用できます。この方法で既にプリセ ット位置をインポートした後で、カメラでプリセット位置を追加ま たは変更している場合、このボタンを使用してインポートしたプリ セット位置を更新することができます。
新規追加	PTZ タイプ1を選択している場合のみ使用できます。ウィンドウ上 部のコントロールを使用して、必要な位置へカメラを移動させ、空 白のフィールドに位置の名前を入力してから、ボタンをクリックし てその位置を定義済みのプリセット位置のリストに追加します。
	できないことに注意してください。
新しい位置を設定	PTZ タイプ1または3を選択している場合のみ使用できます。既に 定義済みのプリセット位置が変更できます。リストで、変更したい プリセット位置を選択します。次に、ウィンドウ上部のコントロー ルを使用して、必要な位置へカメラを移動させます。次に、ボタン をクリックして、古い位置の代わりに新しい位置を上書きします。

	説明
	PTZ タイプ1または3を選択している場合のみ使用できます。既に 定義済みのプリセット位置が削除できます。リストで、削除したい プリセット位置を選択してから、ボタンをクリックします。
削除	プリセット位置を削除する前に、その位置が PTZ パトロールやイベ ントでの PTZ で使用されていないか確認してください。プリセット 位置はカメラに保存されているので、インポート/更新ボタンをクリ ックすれば、削除したプリセット位置を XProtect Enterprise に復元 できます。この方法でプリセット位置を復元して、PTZ パトロール やイベントでの PTZ で使用したい場合、再度使用するには手動での 設定が必要になります。
テスト	プリセット位置を試します。リストで、テストしたいプリセット位 置を選択してから、ボタンをクリックして、カメラが選択した位置 へ移動することを確認します。
PTZ コントロールホイール	リストで選択したプリセット位置を、上下に移動します。選択した プリセット位置は、一度のクリックで1ステップだけ移動します。 プリセット位置を上下に移動することで、プリセット位置をクライ アントに表示する順番を制御できます。

PTZパトロール

複数の同時ビデオストリームをサポートしていないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。したがって、Milestone では、モーション検知や PTZ でそのようなデバイスを設定している場合は、Recording Server サービスを停止 『178ページの "サービスを開始および停止する"参照 』することを推奨しています。Management Application でカメ ラからのビデオを表示する 『29ページ 』、も参照してください。

PTZ 関連プロパティを設定できるのは、PTZ (パン/チルト/ズーム) カメラに対してだけです。PTZ パトロールとは、複数のプリセット位置間での PTZ カメラの連続的な移動です。パトロールを使用する には、関連する PTZ カメラに対して少なくとも 2 か所のプリセット位置を指定する必要があります。 PTZ パトロールを設定するには、パトロールプロファイルリストでパトロールのプロファイルを選択 し、関連するプロパティを指定して、パトロールプロファイルの正確な動作を定義します。パトロー ルプロファイルを定義したら、パトロールプロファイルの使用を忘れずにスケジュールしてください。 ユーザーが手動で PTZ カメラを操作すると、パトロール動作が上書きされることに注意してください。 必要に応じて、プリセットが 1 つだけのパトロールプロファイルを指定できます。このようなパトロ ールプロファイルが役に立つのは、以下の 2 つのケースです。PTZ カメラを指定された時刻に指定さ れた位置へ移動させる場合。および、PTZ カメラを手動操作で指定位置へ移動させる場合。

パトロールプロファイル

PTZ カメラは、複数の異なるパトロールプロファイルに従ってパトロールを行うことがあります。た とえば、スーパーマーケットにある PTZ カメラは、営業時間内はあるパトロールプロファイルに従っ てパトロールを行ない、閉店後は別のパトロールプロファイルに従ってパトロールを行なうことがで きます。他のカメラに対して定義したパトロールプロファイルの名前を再利用することができます。 これにより、単一のパトロールプロファイル名を複数のPTZカメラで使用し、PTZパトロールのスケ ジューリングを簡単にすることができます。複数のPTZカメラでパトロールプロファイル名を共有し ている場合にも、プリセット位置間でのそれぞれのカメラの動きは個別になります。

パトロールプロファイルリストから、設定したいパトロールプロファイルを選択します。

名前	説明
	新しいパトロールプロファイルをリストに追加します。新しいパト ロールプロファイルを追加する場合、一意の名前を付けるか、PTZ パトロールを行っている別の PTZ カメラから既存の名前を再利用 します。
新規追加	複数の同じ名前のパトロールプロファイルを使用すると、後でスケ ジュールを設定する際に便利です。例:25台の異なるカメラで同じ 名前「夜間パトロール」のパトロールプロファイルを設定している 場合、たとえ「夜間パトロール」が25台のカメラのそれぞれに対 して個別のプリセット位置をカバーしていても、25台のカメラのす べてで「夜間パトロール」の使用を一度にスケジュールできます。
削除	既存のパトロールプロファイルを削除します。選択したパトロール プロファイルは、警告なしでリストから削除されることに注意して ください。

パトロールリスト

パトロールプロファイルリストでパトロールプロファイルを選択すると、選択したパトロールのスキ ームでどの PTZ カメラのプリセット位置を使用するか指定できます。 ■ボタンを使用して、選択した プリセット位置をパトロールリストにコピーします。プリセット位置リストでのプリセット位置の順 番を変更するには、プリセット位置を選択し、 ■または ●ボタンを使用して、選択したプリセット位 置をリスト内で上下に移動させます。選択したプリセット位置は、一度のクリックで1ステップだけ 移動します。後で、パトロールリストからプリセット位置を削除したくなった場合は、プリセット位 置を選択して、 ■ボタンをクリックします。

	説明
待ち時間(秒)	PTZ カメラが、次のプリセット位置へ移動する前に、それぞれのプリセット位置で留まる時間を秒数で指定します。デフォルトは 10 秒です。待ち時間は、パトロールプロファイルにあるすべてのプリセットに適用されます。PTZ カメラは、それぞれのプリセット位置に同じ秒数だけ留まります。

	説明
	PTZ カメラが、あるプリセット位置から別のプリセット位置へ移動 するのに必要な時間を秒数で指定します。デフォルトは5秒です。 この移行時間に、カメラのモーション検知は自動的に無効になりま す。これは、カメラがプリセット位置間を移動するときに、不必要 なモーションが検出されるためです。指定した秒数が経過すると、 モーション検知は再び自動的に有効になります。
移行時間(秒)	移行時間は、パトロールプロファイルにあるすべてのプリセットに 適用されます。指定した秒数内で、カメラがパトロールプロファイ ルのプリセット位置間を切り替えられることが重要です。できない 場合、システムは間違ったモーションを検知する可能性があります。 PTZ カメラは、物理的に近い位置より、物理的に離れた場所(たと えば、極端に左にある場所から、極端に右にある場所へ)への移動 に時間がかかる点に注意してください。

PTZスキャン

PTZ スキャン(連続パン)をサポートしている PTZ カメラはあまり多くありません。PTZ スキャンを 有効にして、チェックボックスの下にあるリストで、PTZ スキャンの速度を選択します。PTZ スキャ ンが機能するのは、PTZ タイプ1のカメラだけです(プリセット位置がサーバー上で設定され、サー バー上に保存されるタイプです)。カメラが PTZ タイプ2のカメラで、カメラ独自の設定インターフ ェースで定義し、PTZ カメラ上に保存されたプリセット位置をインポートしている場合、PTZ スキャ ンは動作を停止します。

PTZ パトロールの一時停止

ユーザーがカメラを手動で操作したり、システムがイベントでのPTZを使用すると、PTZパトロール は自動的に一時停止します。また、システムがモーションを検知すると、PTZパトロールが一時停止 することもあります。一時停止の設定は、選択したパトロールプロファイルと連結しています。この ため、同じカメラで、異なるパトロールプロファイルに異なる一時停止設定をするなど、柔軟性の高 い設定ができます。

モーションが検知された場合のパトロール一時停止

システムがモーションを検知した時に PTZ カメラがその位置に特定期間だけ留まるようにするには (PTZ パトロールを一時停止するには)、以下の操作を実行します。

- 1. モーションが検知された場合のパトロール一時停止チェックボックスを選択します。
- 2. 以下の場合に、PTZ カメラでパトロールを再開する必要があるかどうかを選択します。
 - モーションを追加検知したかどうかに関わらず、最初にモーションを検知してから一定の
 秒数が経過した後

または

o モーションを追加検知せずに、一定の秒数が経過した後

- 3. 選択したオプションに対する秒数(デフォルトはそれぞれ 10 秒と5 秒)を指定します。
- 4. 移行時間をゼロに設定しない限り、カメラがプリセット位置間を移動する際に、システムは 自動的にモーション検知を無効にします。無効にしないと、カメラがプリセット位置間を移 動している間に、無意味なモーションを検知する可能性があるためです。

PTZ パトロールの再開

ユーザーがカメラを手動で操作したり、イベントでの PTZ が使用されると、システムは自動的に PTZ パトロールを一時停止します。手動操作またはイベントベースの中断があった場合に、システムが通常のパトロールを再開するまでの秒数を指定できます。デフォルトは 30 秒です。

手動コントロールとは別に、XProtect Smart Client のユーザーは、選択した PTZ カメラのパトロール を完全に停止することもできます。したがって、XProtect Smart Client ユーザーの場合、ユーザーが 手動で PTZ カメラを制御した場合にのみ、パトロール設定セクションで指定した秒数が適用されます。 ユーザーが PTZ カメラのパトロールを完全に停止た場合はこれに該当しません。XProtect Smart Client ユーザーが PTZ カメラのパトロールを完全に停止した場合、カメラのパトロールが再開するの は XProtect Smart Client ユーザーが再開を選択した場合だけです。

イベントでの PTZ

PTZ 関連のプロパティが使用できるのは、PTZ (パン/チルト/ズーム)カメラを使用している場合だけです。PTZ カメラがプリセット位置『98ページの"PTZ プリセット位置"参照 』をサポートしている場合、特定のイベントが発生した時に、PTZ カメラを自動的に特定のプリセット位置へ移動させることができます。PTZ カメラのプリセット位置にイベントを関連付ける場合、システムで定義されている**すべて**のイベントを選択することができます。特定のハードウェアデバイスで定義されたイベントの選択を制限されることはありません。

	要件
イベント	関連するイベントを選択します。
	関連するプリセット位置を選択します。この目的で、PTZカメラで イベントを使用できるのは一度だけです。ただし、別のイベントを 使用して、PTZカメラを同じプリセット位置へ移動させることがで きます。
	例:
PTZ プリセット位置	 イベント1は、PTZカメラをプリセット位置Aへ移動さ せます。
	 イベント2は、PTZカメラをプリセット位置Bへ移動さ せます。
	 イベント3は、PTZカメラをプリセット位置Aへ移動させます。

後で、特定のイベントと特定のプリセット位置の間での関連付けを解消したくなった場合は、イベン

トを含んでいるフィールドをクリアします。PTZ 設定の変更を完了したら、サービスを再起動 『178 ページの"サービスを開始および停止する"参照 』します。

複数の同時ビデオストリームをサポートしていないカメラは、監視サーバーと Management Application に同時に接続することはできません。したがって、Milestone では、モーション検知や PTZ でそのようなデバイスを設定している場合は、Recording Server サービスを停止 『178ページの "サービスを開始および停止する"参照 』することを推奨しています。Management Application でカメ ラからのビデオを表示する 『29ページ』、も参照してください。

マイク

マイクについて

システムで、マイクは通常はハードウェアデバイスに取り付けられるので、物理的にカメラの次に位置します。そこで、必要な権限を持つオペレータは、XProtect Smart Client (XProtect Smart Client を 実行しているコンピュータにスピーカーが取り付けられている場合)を通じて録音を聴くことができま す。マイクはシステムで管理します。つまり、XProtect Smart Client のオペレータのコンピュータに 取り付けられているマイクではなく、カメラに取り付けられているマイクを常に管理できます。

必要以上のマイクをシステムに追加した場合、関連するマイクやスピーカーを右クリックして、非表 示を選択すると、不要なものを非表示にすることができます。非表示にしたマイクを再度表示したい 場合は、マイク全体のアイコンを右クリックして、非表示アイテムの表示を選択します。

マイクまたはスピーカーの設定

- 1. **拡張設定**を展開し、**ハードウェアデバイス**を展開し、関連するマイクまたはスピーカーが取り付けられているハードウェアデバイスを展開します。
- 2. 関連するマイクまたはスピーカーを右クリックして、プロパティを選択します。
- 3. 必要に応じてプロパティ 『57ページの"スピーカープロパティ"参照』を指定します。

XProtect Enterprise のマイクやスピーカーの設定内容は、非常に簡単なものです。音量等の設定は、 マイクまたはスピーカーユニット自体でコントロールできます。

マイクやスピーカーの表示/非表示

システムで必要とされる数以上のマイクやスピーカーを追加した場合、不要なマイクやスピーカーを 右クリックして、非表示を選択すると、それらを非表示にすることができます。非表示にしたマイク/ スピーカーを再度表示したい場合は、マイクやスピーカー全体のアイコンを右クリックして、非表示 アイテムの表示を選択します。

マイク(プロパティ)

特定のカメラに対してビデオや録画を設定『57ページの"ビデオや録画の設定について"参照』する場合、音声を録音するタイミングを指定できます。この選択は、XProtect Enterprise システムのすべてのカメラに適用されます。

マイクのプロパティ

デバイスが有効	マイクはデフォルトで有効になっており、これはシステムに音声を 転送できることを意味します。必要に応じて、個別のマイクを無効 にすることができます。この場合、マイクからシステムへ音声は転 送されません。
名前	 Management Application およびクライアントで表示される名前です。 既存の名前を、新しい名前で上書きすることができます。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 名

ー部のハードウェアデバイスでは、ハードウェアデバイス自体で音声を有効/無効にすることもできま す。通常は、ハードウェアデバイス自体の設定用 Web ページで行います。Management Application で有効にしてもハードウェアデバイスで音声が機能しない場合は、ハードウェアデバイス自体で音声 が無効になっていることが原因ではないか確認する必要があります。

録画設定

名前	前明
常時	すべての該当するカメラで、音声を常に録音します。
ビデオに従う	ビデオを録画している時だけ、音声を録音します。
設定しない	どのカメラでも音声を録音しません。音声を録音しなくても、Smart Client でライブ音声を聞くことは可能であることに注意してください。

イベントおよび出力

入力および出力について

ドアセンサーなどの**ハードウェア入力**を、ハードウェアデバイスの入力ポートに接続することができ ます。このような外部ハードウェア入力ユニットからの信号により、XProtect Enterprise でイベント を生成することができます。

ハードウェア出力ユニットを、さまざまなハードウェアデバイスの出力ポートに接続して、照明、サイレンなどを XProtect Enterprise から起動することができます。こうしたハードウェア出力は、イベ

ントによって自動的にアクティブにすることもできますし、クライアントから手動でアクティブにす ることもできます。

ハードウェアデバイスでハードウェア入力ユニットおよびハードウェア出力ユニットの使用を指定す る前に、そのセンサーの動作がハードウェアデバイスによって認識されていることを確認してくださ い。大半のハードウェアデバイスは、設定用インターフェースか CGI スクリプトのコマンドで表示で きます。また、XProtect Enterprise のリリースノートをチェックして、使用するハードウェアデバイ スおよびファームウェアが入力や出力の制御・操作に対応していることを確認してください。マスタ ー/スレーブ設定で複数の XProtect Enterprise サーバーを使用する場合、特定のハードウェアデバイス の入力および出力は1つのサーバーでのみ定義する必要があります。複数のサーバーで、同じハード ウェアデバイス上の同じ入出力を定義しないでください。これは、専用の入力/出力デバイスにも適用 されます。

ハードウェア入力ユニットを個別に設定する必要はありません。ハードウェアデバイスに接続されて いるハードウェア入力ユニットは、ハードウェアデバイスを XProtect Enterprise に追加した時点で自 動的に検出されます。ハードウェア出力の場合も同様ですが、ハードウェア出力については XProtect Enterprise で簡単な設定を行う必要があります。

ハードウェア出力を設定して、たとえばドアが開いたタイミングや、ビデオでモーションが検知され たときに照明をオンにするなど、イベント発生時に出力を自動的にトリガしたい場合は、ハードウェ ア出力の追加 『110ページ』およびイベントでのハードウェア出力の設定 『112ページ』を参照し てください。

イベントおよび出力について

XProtect Enterprise で、アクションを自動的にトリガするために、システムではさまざまな種類のイ ベントや出力を使用することができます。アクションの例:カメラでの録画の開始や停止、特定のビ デオフレームレートへの切り替え、通知のトリガ、PTZカメラを特定のプリセット位置へ移動させる 等。また、イベントを使用してハードウェア出力をアクティブにすることも可能です。さらに、イベ ントおよび出力を設定して、アラームを生成することができます。

イベントは、以下のように分類されます。

- **内部イベント(システム関連)**:例:モーション、サーバーの応答/非応答、アーカイブの問題、 ディスク空き容量不足など。
- **外部イベント(統合)**: 例: MIP プラグインイベント。

イベントおよび出力の概要

イベントのタイプ:

名前	説明
アナリティックイベント :	アナリティックイベントは、アラームとして使用したり、シームレ スにアラーム機能と統合することも可能です。
	アナリティックイベントは、一般的に、外部のサードパーティのビ デオコンテンツ分析(VCA)プロバイダから受信したデータです。 VCA ベースのシステムの例として、アクセスコントロールシステム が挙げられます。
	※本機は、アナリティックイベントには対応していません。
ハードウェア入力イベント :	ドアセンサーなどのハードウェア入力を、ハードウェアデバイスの 入力ポートに割り当てることができます。このような外部ハードウ ェア入力ユニットからの信号により、XProtect Enterprise でイベン トを生成することができます。
	ハードウェアデバイスに取り付けられたハードウェア入力ユニッ トからの入力に基づくイベントを、ハードウェア入力イベントと呼 びます。
	一部のハードウェアデバイスには、モーションの検知、移動および 静止中の物体の検知などの独自の機能があります(この機能はハー ドウェアデバイス独自のソフトウェアで設定します。通常は、ハー ドウェアデバイスの IP アドレスによってアクセスできる、ブラウザ ベースの設定インターフェースで設定します)。この場合、XProtect Enterprise は、このような検知をハードウェアからの入力とみなし ます。また、この検知を入力イベントとして使うことも可能です。
	最後に、ハードウェア入力イベントは、XProtect Enterprise におい てカメラからのビデオのモーション検知と、XProtect Enterprise で のモーション検知の設定に基づいて発生させることもできます。
	また、このタイプのハードウェア入力イベントは、システムモーション検知イベントまたは VMD (ビデオモーション検知)イベントと呼ばれます。以前のバージョンの XProtect Enterprise では、VMD イベントは独自のタイプのイベントでした。現在は、ハードウェア 入力イベントのタイプのひとつとみなされます。
ハードウェア出力:	ハードウェア出力ユニットを、さまざまなハードウェアデバイスの 出力ポートに割り当てて、照明、サイレン、その他を XProtect Enterprise から起動することができます。こうしたハードウェア出 力は、イベントによって自動的にアクティブにすることもできます し、クライアントから手動でアクティブにすることもできます。

	説明
手動イベント:	イベントは、ユーザーがクライアントで選択することで、手動で生 成することができます。これらのイベントは手動イベントと呼ばれ ます。
	手動イベントは、 グローバルイベント または タイマーイベントのタ イプになります。
	グローバルイベントはすべてのハードウェアに適用されますが、タ イマーイベントは別個のイベントで、ハードウェア入力イベント、 手動イベント、あるいは定義されたジェネリックイベントによって トリガされます。タイマーイベントは、定義されたイベントが発生 した後、指定された時間(秒または分)の後に発生します。タイマ ーイベントは、幅広い目的で使用されますが、通常は前にトリガさ れたアクションを停止するために使用されます。
	例:
	たとえばドアが開くなどのハードウェア入力イベントに基づいて、 カメラが録画を開始します。タイマーイベントにより、15秒後に録 画が停止します。
ジェネリックイベント :	入力を TCP または UDP のパケット形式で受信することも可能で す。これは XProtect Enterprise によって分析され、指定された基準 に一致する場合に、イベントが生成されます。このようなイベント は、ジェネリックイベントと呼ばれます。
イベントでの出力コントロール :	ハードウェア出力は、イベントが発生した時に自動的に起動できま す。たとえば、ドアが開くと(ハードウェア入力イベント)、照明 がオンになります(ハードウェア出力)。
	出力コントロールを設定する場合、XProtect Enterprise で定義され ているすべての出力およびイベントの中から選択することができ ます。特定のハードウェアデバイスで定義された出力やイベントの 選択に制限されることはありません。単一のイベントを使って、複 数の出力をアクティブ化することができます。

いずれかのタイプのイベントを設定する前に、たとえば XProtect Enterprise がイベントデータのため にどのポートを使用するかなどの一般的なイベント処理を設定します。通常は、単にデフォルト値を 使用するだけで構いませんが、組織で他の目的でこのポートを使用していないか確認することをお勧 めします。一般的なイベント処理の設定 『113ページ』を参照してください。

ハードウェアデバイスでハードウェア入力およびハードウェア出力ユニットの使用を指定する前に、 そのセンサーの動作がデバイスによって認識されていることを確認してください。大半のハードウェ アデバイスは、設定用インターフェースか CGI スクリプトのコマンドで表示できます。また、 XProtect Enterprise のリリースノートをチェックして、入力および出力によってコントロールされる 動作が、使用しているハードウェアデバイスやファームウェアでサポートされているか確認してくだ さい。マスター/スレーブ設定で複数の XProtect Enterprise サーバーを使用する場合、特定のハードウ ェアデバイスの入力および出力は 1 つのサーバーでのみ定義する必要があります。複数のサーバーで、 同じハードウェアデバイス上の同じ入出力を定義しないでください。これは、専用の入力/出力デバイ スにも適用されます。
ハードウェア入力ユニットを個別に設定する必要はありません。ハードウェアデバイスを XProtect Enterprise に追加すると、ハードウェアデバイスに接続されているハードウェア入力ユニットが自動 的に検出されます。ハードウェア出力の場合も同様ですが、ハードウェア出力については XProtect Enterprise で簡単な設定を行う必要があります。

ハードウェア出力を設定して、たとえばドアが開いたタイミングや、ビデオでモーションが検知され たときに照明をオンにするなど、イベント発生時に出力を自動的にトリガしたい場合は、ハードウェ ア出力の追加 『110ページ』およびイベントでのハードウェア出力の設定 『112ページ』を参照し てください。

イベントを設定する準備ができたら、ハードウェア入力イベントの追加 『109ページ』、ジェネリッ クイベントの追加 『111ページ』、手動イベントの追加 『111ページ』を参照してください。他の イベントでタイマーイベントを使用したい場合は、タイマーイベントの追加 『112ページ』を参照し てください。

アナリティックイベントの追加

※本機は、アナリティックイベントには対応していません。

アナリティックイベントを追加するには、次の手順を実行してください。

- 1. イベントおよび出力を展開し、アナリティックイベントを右クリックして、新規作成を選択 します。
- 2. 必要なプロパティ 『116ページの"アナリティックイベント"参照 』を指定します。 OK をク リックします。
- **3.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ハードウェア入力イベントの追加

ハードウェア入力イベントでは、ハードウェアデバイスに接続された入力ユニットから受信した入力 を XProtect Enterprise でのイベントに変換することができます。

ハードウェアデバイスの入力を指定する前に、ハードウェアデバイスがセンサーの動作を認識できる か確認してください。大半のハードウェアデバイスは、設定用インターフェースか CGI スクリプトの コマンドで表示できます。使用しているハードウェアデバイスやファームウェアが入力制御に対応し ているかについては、それらのリリースノートを確認してください。

ハードウェア入力イベントを追加・設定するには、次の手順を実行してください。

- Management Application のナビゲーションペインで、拡張設定を展開してから、イベントと 出力を展開します。ハードウェア入力イベントを右クリックして、新しい入力イベントを有 効にするを選択します。
- 2. ハードウェア入力イベントプロパティウィンドウのハードウェアデバイスのリストで、必要 なハードウェアデバイスを展開して、定義済みのハードウェア入力を確認します。
- 3. イベントとして使用する必要なタイプの入力を選択します。入力のタイプは、多くの場合、 カメラによって異なります。対象のカメラに関して、XProtect Enterprise でモーション検知

『91ページの"モーション検知と領域の除外"参照 』が有効になっている場合、システムモー ション検知の入力タイプをメモします。これによって、カメラのビデオストリームで検知し たモーションをイベントにすることができます。XProtect Enterprise の以前のバージョンで は、これは VMD イベントと呼ばれていました。

一部のタイプの入力は、相互に排他的であることに注意してください。ある入力タイプを選択した場合、それに対し排他関係にある入力タイプは選択できなくなります。

- 選択した入力のそれぞれのタイプについて、必要なプロパティ 『118ページの"ハードウェア 入力イベント"参照 』を選択します。準備が完了したら、OK をクリックするか、追加ボタン をクリックして、作成したイベントにタイマーイベントを追加 『112ページの"タイマーイベ ントの追加"参照 』します。
- 5. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ハードウェア出力の追加

ハードウェア出力では、照明、サイレン、ドアの開放などの外部出力ユニットを XProtect Enterprise システムに追加できます。追加すると、イベントまたは検知したモーションにより出力を自動的にア クティブ化したり、クライアントユーザーによって手動でアクティブ化することができます。

出力を指定する前に、出力を使用しようとしているハードウェアデバイスによって、センサーの動作 が認識されることを確認してください。大半のハードウェアデバイスは、設定用インターフェースか CGIスクリプトのコマンドで表示できます。使用しているハードウェアデバイスやファームウェアが 出力制御に対応しているかについては、それらのリリースノートを確認してください。

次の手順によりハードウェア出力イベントを追加できます。

- 1. Management Application のナビゲーションペインで、**拡張設定**を展開してから、イベントと 出力を展開します。ハードウェア出力を右クリックして、新しい出力の追加を選択します。
- 2. **ハードウェア出力プロパティ**ウィンドウのハードウェアデバイスのリストで、必要なハード ウェアデバイスを選択します。その後、リストの下にある**追加**ボタンをクリックします。
- 3. 必要なプロパティ 『118ページの"ハードウェア入力イベント"参照』を指定します。
- 4. **OK** をクリックします。
- 5. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

イベントが発生した時のハードウェア出力の自動アクティブ化の設定に関する詳細は、イベントでの ハードウェア出力の設定『112ページ』を参照してください。クライアントでの出力の手動アクティ ブ化、ならびにモーション検知時の自動アクティブ化は、それぞれのカメラに対して個別『91ページ の"出力"参照』に設定します。

手動イベントの追加

手動イベントでは、必要な権限 『**172**ページの"ユーザーおよびグループの権限の設定"参照 』を持つ ユーザーは、クライアントから手動でイベントをトリガできます。手動イベントは、グローバル(す べてのカメラで共有)、または特定のカメラに関連付けられます(カメラを選択している場合だけ使 用可能)。手動イベントは、以下のように様々な用途で使用できます。

- カメラのオンライン期間をスケジューリング『137ページの"オンライン期間"参照』する場合の開始および停止イベントとして。たとえば、手動イベントに基づいて、カメラから監視システムへのビデオの転送を開始または停止することができます。
- カメラのその他の設定をコントロールする開始および停止イベントとして。たとえば、手動 イベントによりカメラでより高いフレームレートに切り替えたり、同様にしてイベントで PTZ 『103ページの"イベントでの PTZ"参照 』をトリガすることができます。
- 出力をトリガする場合。特定の出力を、手動イベントと関連付ける 『112ページの"イベント でのハードウェア出力の設定"参照 』ことができます。
- イベントベースの通知 『147ページの"通知について"参照 』をトリガする場合。
- 組み合わせで。たとえば、手動イベントによりカメラに監視システムへのビデオの転送を開始させると同時に、出力をトリガして Eメール通知を関係者へ送信することができます。

手動イベントを追加するには、次の手順を実行してください。

- Management Application のナビゲーションペインで、拡張設定を展開してから、イベントと 出力を展開します。手動イベントを右クリックして、新しい手動イベントの追加を選択しま す。
- 2. 手動イベントプロパティの左側にあるリストで、必要に応じて、グローバルまたはカメラを 選択します。
- 3. 追加ボタンをクリックして、必要なプロパティ 『118ページの"ハードウェア入力イベント"参 照』を指定します。準備が完了したら、OK をクリックするか、追加ボタンを再度クリックし て、作成したイベントにタイマーイベントを追加 『112ページの"タイマーイベントの追加"参 照』します。
- **4.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ジェネリックイベントの追加

XProtect Enterprise が受信した TCP および UDP データパッケージを分析します。特定の基準が満た されると、イベントを自動的にトリガします。この方法で、XProtect Enterprise 監視システムを、た とえばアクセスコントロールシステムやアラームシステムなどの非常に幅広い種類の外部ソースと簡 単に統合することができます。受信した TCP および UDP パケットの分析に基づくイベントは、ジェ ネリックイベントと呼ばれます。

- Management Application のナビゲーションペインで、拡張設定を展開してから、イベントおよび出力を展開します。ジェネリックイベントを右クリックして、新しいジェネリックイベントの追加を選択します。
- ジェネリックイベントのプロパティウィンドウで、追加ボタンをクリックして、必要なプロ パティ 『122ページの"ジェネリックイベント"参照 』を指定します。準備が完了したら、OK をクリックするか、追加ボタンをクリックして、作成したイベントにタイマーイベントを追 加します。
- **3.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

タイマーイベントの追加

タイマーイベントとは、定義されたタイプによってトリガされる、別個のイベントです。タイマーイ ベントは、定義されたイベントが発生した後、指定された秒数または分数の間に発生します。タイマ ーイベントは、幅広い目的で使用されますが、通常は前にトリガされたアクションを停止するために 使用されます。例:

- たとえばドアが開くなどのハードウェア入力イベントに基づいて、カメラが録画を開始します。タイマーイベントにより、15秒後に録画が停止します。
- 照明がオンになり、カメラは手動イベントに基づいて録画を開始します。1分後にタイマーイベントにより録画が停止し、2分後には別のタイマーイベントにより照明がオフになります。

タイマーイベントを追加するには、以前に設定した任意のイベントを選択し、追加ボタンをクリック して、必要なプロパティ 『122ページの"タイマーイベント"参照 』を指定します。システムには、2 つの基本スケジュールプロファイル(常にオンと常にオフ)があり、これらを編集または削除するこ とはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラに対してカスタマイズさ れたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたスケジュールプロファイル は、必要に応じて複数の目的で再利用できます。 Management Application の右上の黄色の通知バー で、保存をクリックして、設定の変更を保存します。

ヒント: あるイベントの下に、必要な数のタイマーイベントを追加できます。これにより、たとえば メインのイベントの 10 秒後にあるタイマーイベントをトリガし、メインのイベントの 30 秒後には別 のタイマーイベントをトリガし、さらにメインのイベントの2分後に3番目のタイマーイベントをト リガすることができます。

イベントでのハードウェア出力の設定

照明、サイレン、ドアを開くなどのハードウェア出力を追加『110ページの"ハードウェア出力の追加 "参照』すると、ハードウェア出力とイベントを関連付けることができます。これにより、イベントが 発生した時に、特定のハードウェア出力をアクティブ化することができます。例:ドアが開くと(ハ ードウェア入力イベント)、照明がオンになります(ハードウェア出力)。

関連付ける場合、XProtect Enterprise サーバーで定義されたすべての出力やイベントの中から選択することができます。特定のハードウェアデバイスで定義された出力やイベントの選択に制限されることはありません。

- 1. **拡張設定**を展開してから、イベントと出力を展開します。イベントでの出力コントロールを 右クリックして、プロパティを選択します。
- 2. 関連するプロパティ 『127ページの"イベントでの出力コントロール(イベントおよび出力固 有のプロパティ)"参照 』を入力します。**OK** をクリックします。
- **3.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

単一のイベントを使って、複数の出力をアクティブ化することができます。関連付けを削除すること はできませんが、選択を変更したり、必要であれば両方の列で**なし**を選択することも可能です。

ヒント:まだ適切なイベントや出力を定義していない場合、以下の方法で迅速に行うことができます。 イベントの設定リストまたは関連付けのリストの下にある出力の設定...ボタンを使います。

一般的なイベント処理の設定

特定のタイプのイベントを設定する前に、たとえば XProtect Enterprise がイベントデータのためにどのポートを使用するかなどの一般的なイベント処理を設定します。通常は、単にデフォルト値を使用 するだけで構いませんが、組織で他の目的でこのポートを使用していないか確認することをお勧めし ます。

- 1. 拡張設定を展開し、イベントと出力を右クリックし、プロパティを選択します。
- 必要なプロパティ『115ページの"ポートとポーリング"参照』を指定します。システムには、 2つの基本スケジュールプロファイル(常にオンと常にオフ)があり、これらを編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたスケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。
- **3.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

アナリティックイベントに基づくアラームの生成

アナリティックイベントに基づくアラームの生成には、通常は以下の3段階のプロセスがあります。

- アナリティックイベント機能を有効にし、セキュリティを設定します。許可されたアドレスのリストを使用して、イベントデータをシステムに送信できるユーザーおよびサーバーがリスニングするポートを制御できます。
- 2. イベントの説明などを使用してアナリティックイベントを作成し、テストします。
- 3. アラーム定義 『193ページ』のソースとしてアナリティックイベントを使用します。

既に説明したとおり、VCA ベースのイベントを使用する場合は、データを XProtect Enterprise に配信 するために、大半の場合にサードパーティー製の VCA ツールが必要です。使用する VCA ツールは、 ツールが供給するデータが Milestone アナリティックイベントの開発者マニュアルで説明されている フォーマットルールに適合する限り、任意の VCA ツールを使用できます。詳細については Milestone にお問い合わせください。

ジェネリックイベントのテスト

ジェネリックイベントを追加した場合、ジェネリックイベントをすばやく簡単にテストする方法は、 まずイベント通知をセットアップして、ジェネリックイベント、さらにイベント通知をトリガするデ ータを Telnet を使用して送信することです。

この例では、Video と呼ばれるジェネリックイベントを作成しています。このジェネリックイベント では、受信したTCPデータパッケージにVideo という単語が出現すると、ジェネリックイベントをト リガするように指定しています。使用するジェネリックイベントでは異なるかもしれませんが、概要 は以下の通りです。

- Management Application のナビゲーションペインで、拡張設定を展開してから、カメラおよびストレージの情報を展開します。XProtect Smart Clientでアクセス権があるカメラを右クリックして、プロパティを選択します。
- イベント通知を選択して、必要なジェネリックイベントを選択します。テストを行っている 間、ジェネリックイベントが、選択したイベントリストに表示される唯一のイベントである ことを確認してください。そうでない場合、イベント通知をトリガしたのがそのジェネリッ クイベントであるかどうか判断できません。テストが終わると、一時的に削除したイベント を選択したイベントリストに戻すことができます。
- 3. Management Application のツールバーで**設定の保存**ボタンをクリックして、設定の変更を保存します。
- Recording Server サービスが実行中であることを確認してください。また、イベント通知を 設定したカメラが表示されており、XProtect Smart Client でカメラのタイトルバーが有効にな っていることも確認してください。その場合、黄色のイベントインジケータが表示されま す。
- 5. Windows のスタートメニューで、ファイル名を指定して実行を選択し、開くフィールドに以下を入力します。
 - XProtect Enterprise サーバー自体でテストを実行している場合:telnet localhost 1234
 - リモートコンピュータからテストを実行している場合: localhost の部分を、システムのサーバーの IP アドレスに置き換えます。例: XProtect Enterprise サーバーの IP アドレスが 123.123.123.123 であれば、次のように入力します。telnet 123.123.123.123.123

この操作で、Telnet ウィンドウが開きます。

上の例で、数字 **1234** は XProtect Enterprise サーバーがジェネリックイベントをリスニングす るポートを示しています。ポート **1234** がデフォルトのポートですが、ジェネリックイベント 処理の設定『**113**ページの"一般的なイベント処理の設定"参照』の一部として別のポートを指 定して、ポートを変更することができます。システムでアラートやジェネリックイベントの ポート番号を変更した場合、**1234** の代わりにシステムのアラートおよびジェネリックイベン トのポート番号を入力してください。

6. **Telnet** ウィンドウで、ジェネリックイベントのトリガに必要な言葉(イベントの文字列の一 部)を入力します。ここでの例では、単一の言葉 **Video** が必要です。



Telnet ウィンドウでの入力中は、入力した内容がエコーされることがあります。これは、サ ーバーが受信した文字の一部または全部を繰り返しているためです。正しく入力している限 り、これは問題になりません。

- 7. Telnet ウィンドウを閉じます▲。ウィンドウを閉じるまで、入力した内容が監視システムに 送信されないので、ウィンドウを閉じてください。
- 8. XProtect Smart Client へ移動します。対象のカメラについて、黄色のイベントインジケータが 点灯していれば、ジェネリックイベントは予測通りに動作しています。



ジェネリックイベントプロパティ

ポートとポーリング

ジェネリックイベントプロパティウィンドウでは、イベント処理と一緒に使用するネットワークの設 定を指定できます。

	説明
アラートポートおよびジェネリ	イベントの処理で使用するポート番号を指定します。デフォルトポ
ックイベントポート	ートは 1234 です。

拡張設定

名前	説明
SMTPイベントポート	ハードウェアデバイスから XProtect Enterprise へ、SMTP 経由でイ ベント情報を送信する際に使用するポート番号を指定します。デフ ォルトポートは 25 です。
FTP イベントポート	ハードウェアデバイスとの FTP 通信に使用するポート。 デフォルト ポートは 21 です。
ポーリング間隔[1/10]秒	少数のハードウェアデバイスを主に専用の入力/出力装置『50ページの"専用入力/出力デバイスについて"参照』として使用する場合、 XProtect Enterprise は入力を検知するために、ハードウェアデバイスの入力ポートを定期的にチェックする必要があります。このような定期的な状態チェックを、ポーリングと呼びます。状態チェックの間隔(1/10秒単位)を指定することができます。デフォルト値は10(1秒)です。専用の入力/出力装置の場合、ポーリングの頻度を可能な限り低い値にすることを強く推奨します(状態チェックの間隔を1/10秒)。どのハードウェアデバイスがポーリングを必要とするかに関する情報は、リリースノートを参照してください。

イベントおよび出力プロパティ

アナリティックイベント

※本機は、アナリティックイベントには対応していません。

アナリティックイベント 『109ページの"アナリティックイベントの追加"参照 』を設定する際は、以下を指定します。

	説明
名前	イベントの名前を入力します。
説明	説明(オプション)を入力します。
テストイベント	このボタンをクリックすると、イベントの妥当性をテストします(オ プション)。 ヒント:アナリティックイベント作成/編集プロセスの任意のステッ プで、このテストを何度でも実行できます。

イベントのテストをクリックすると、ウィンドウが開き、アナリティックイベントが動作する上で満 たさなければならない多数の条件が実行されます。このウィンドウには2つのタブがあります。**タス ク**と**エラー**です。

タスクタブには、テストする条件が一覧表示され、失敗:★または成功:★がマークされます。エラ ータブには、失敗した条件に対応するエラーのリストが表示されます。

テスト中は必ず変更内容を保存してください。

完了したら、XProtect Smart Client アラームリストでテストイベントの有無をチェックします。アラ ームをテストするタイプで並び替えて、テストイベントがアラームリストの一番上に表示されるよう にします。詳細については、XProtect Smart Client マニュアルを参照してください。

	説明	エラーメッセージと解決策
保存した変更	イベントが新しい場合は保存されま すか?または、イベント名を変更した 場合は、変更内容は保存されますか?	アナリティックイベントをテストする 前に変更を保存してください。 解決策/ 説明:変更を保存してください。
アナリティックイベ ントが有効です	アナリティックイベント機能は有効 ですか ?	アナリティックイベントは有効ではあ りません。 解決策/説明 : アナリティック イベント機能を有効にしてください。
許可されるアドレス	イベントを送信するマシンの IP アド レスまたはホスト名は許可(アナリ ティックイベントアドレスリストに 登録)されていますか ?	Analytics Event サービスに対して許可 されているアドレスとして、ローカルホ スト名を追加する必要があります。 解決 策/説明:使用しているマシンをアナリテ ィックイベントアドレスリストへ許可さ れる IP アドレス/ホスト名として追加し ます。 ローカル ホスト名の解決中にエラーが ありました。 解決策/説明:マシンの IP ア ドレスまたはホスト名が見つからない か、無効です。
アラーム定義で使用 されているアナリテ ィックイベント	アナリティックイベントは、いずれ かのアラーム定義で有効に使用され ていますか ?	アナリティックイベントは、どのアラー ム定義でも使用されていません。解決策/ 説明:アラーム定義でアナリティックイ ベントを使用してください。
アナリティック イ ベントを送信する	テストイベントはイベントサーバー に正常に送信されましたか?	下のテーブルを参照してください。

条件アナリティックイベントの送信に対するエラーメッセージと解決策:

	解決策/説明
イベントサーバーが見つかりま せん。	Event Server サービスが登録済みサービスのリストにありません。
イベントサーバーへの接続中に エラーが発生しました。	指定されたポートで Event Server サービスに接続できません(通常は、ネットワーク障害、Event Server サービスの停止などの理由による)。
アナリティックイベントの送信 エラーが発生しました。	Event Server サービスへの接続は確立されましたが、イベントを送 信できません(通常は、タイムアウトなどのネットワークの問題に よる)。

	解決策/説明
イベントサーバーからの応答の 受信中にエラーが発生しました。	イベントがイベントサーバーに送信されましたが、応答がありません(通常は、ネットワークの問題やポートがビジー状態のため(一般的に、ProgramData¥Milestone¥XProtect Event Server¥logs¥にあるイベントサーバーログを Microsoft メモ帳などのツールで開いて確認してください))。
イベントサーバーには不明なア ナリティックイベントです。	Event Server サービスがイベントを認識していません。これは通常、 イベントまたはイベントの変更が保存されていないためです。
イベントサーバーが無効なアナ リティックイベントを受信しま した。	イベントのフォーマットが正しくありません。
送信者はイベントサーバーによ って承認されていません。	通常は、許可された IP アドレスまたはホスト名のリストにマシンが ないためです。
イベントサーバーの内部エラー が発生しました。	イベントサーバーエラー。 イベントサーバーログを Microsoft のメ モ帳などのツールで開きます。ログは、通常は、 ProgramData¥Milestone¥XProtect Event Server¥logs¥にあります。
イベントサーバーが無効な応答 を受信しました。	応答は無効です。ポートがビジー状態か、ネットワークの問題の可 能性があります。 イベントサーバーログを Microsoft のメモ帳など のツールで開きます。ログは、通常は、 ProgramData¥Milestone¥XProtect Event Server¥logs¥にあります。
イベントサーバーから不明な応 答を受信しました。	応答は有効ですが、理解不能です。ポートがビジー状態か、ネット ワークの問題の可能性があります。 イベントサーバーログを Microsoft のメモ帳などのツールで開きます。ログは、通常は、 ProgramData¥Milestone¥XProtect Event Server¥logs¥にあります。
予期しないエラーが発生しまし た。	システムプロバイダーMilestone のサポート (support@milestonesys.com)にお問い合わせください。

ハードウェア入力イベント

ハードウェア入力イベントを追加 『109ページの"ハードウェア入力イベントの追加"参照 』する場合、 一部のプロパティは選択した入力のタイプに依存します。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	説明
有効化	選択したタイプの入力を XProtect Enterprise でイベントとして使用 し、さらにプロパティを指定するには、このチェックボックスを選 択します。

	説明
イベント名	名前を指定します。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むこと はできません。 <> & ' " ¥ / : * ? []
	一部のカメラは、特定の長さおよび特定の構造のイベント名しかサ ポートしていません。詳細はカメラのマニュアルを参照してくださ い。
カメラからの画像	アラーム前後の画像を使用する場合にのみ関係します。これは選択 したカメラでのみ使用可能な機能で、イベント発生の直前の画像を カメラから E メールで監視システムへ送信することができます。ア ラーム前後の画像と、XProtect Enterprise 独自のプリレコーディン グおよびポストレコーディングの機能 『86ページの"記録(録画)" 参照 』を混同しないように注意してください。アラーム前後の画像 を送信するためのカメラを選択します。
プリアラーム画像の数	プリアラーム画像を使用する場合にのみ関係します。プリアラーム 画像は、選択したカメラでのみ使用可能な機能です。プリアラーム 画像の必要数を指定します。可能な数はカメラによって異なります。 可能な範囲はフィールドの右側に表示されます。
秒当りのフレーム数	プリアラーム画像を使用する場合にのみ関係します。プリアラーム 画像は、選択したカメラでのみ使用可能な機能です。必要なフレー ムレートを指定します。このフィールドは、プリアラーム画像の数 フィールドと組み合わせて使用し、イベントのどの程度前の期間か らプリアラーム画像を受け取るかをコントロールできます。
このイベントが発生すると、E メ ールを送信します	Eメール通知 『148ページの"Eメール通知の設定"参照』が有効な 場合にだけ使用できます。イベントが発生した場合に、XProtect Enterprise でEメール通知を自動送信する必要があれば選択しま す。受信者は、Eメール通知の設定の一部として定義します。Eメ ール通知を使用する場合、個々のカメラのスケジュールにも注意し てください。
カメラからの画像を添付します	Eメール通知 『148ページの"Eメール通知の設定"参照』が有効な 場合にだけ使用できます。選択すると、イベントがトリガされた時 に録画された画像が Eメール通知に含められます。次に、チェック ボックスの横にあるリストで関連するカメラを選択します。
削除	選択したイベントを削除します。
追加	特定のハードウェア入力イベントを選択している場合、追加をクリ ックすると、選択したハードウェア入力イベントにタイマーイベン トが追加『112ページの"タイマーイベントの追加"参照』されます。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

イベント発生時、SMS を送信す る	イベントが発生したときにシステムによって SMS を自動的に送信 する必要がある場合に、選択します。SMS 通知の受信者を、SMS 通知設定の一部として定義します。SMS 通知を使用する場合、個々 のカメラのスケジュールが設定されている必要があることを忘れな いでください。
	設定を使用できるのは、SMS 通知が有効になっている場合だけです。

ハードウェア出力

ハードウェア出力を追加 『110ページの"ハードウェア出力の追加"参照 』する時は、以下のプロパティを指定します。

	説明
出力名	名前を指定します。ハードウェア出力をクライアントでの手動起動 で使用できるようにする場合、これがクライアントユーザーに表示 される名前となります。名前は一意であり、以下の特殊文字を含む ことはできません。 <> & ' " ¥ / : * ? []
	一部のカメラは、特定の長さおよび特定の構造のイベント名 しかサポートしていません。詳細はカメラのマニュアルを参 照してください。
出力接続先	ハードウェアデバイスのどの出力ポートに出力を接続するかを選択 します。多くのハードウェアデバイスには出力ポートが1つしかあ りません。この場合は、出力1を選択します。
出力維持時間	出力を適用する時間の長さを指定します。必要な時間の長さを、1/10 秒単位または秒単位で指定します。
	ー部のハードウェアデバイスは、たとえば最長で5秒などの比較的 短い期間だけ、出力を適用することができます。正確な情報は、対 象となるハードウェアデバイスのマニュアルを参照してください。

ハードウェア出力が機能していることを確認するには、出力のテストボタンをクリックします。

手動イベント

手動イベントを追加 『111ページの"手動イベントの追加"参照 』する場合、以下のプロパティを指定 します。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	説明
[定義済みのグローバルイベント およびカメラのリスト]	グローバルノードおよびすべての定義済みカメラのリストを含みま す。必要に応じた数の手動イベントを設定できます。グローバルイ ベントであるか、カメラ固有であるかは問いません。グローバルノ ードの横に「+」記号がある場合、1つまたは複数のグローバル手動 イベントが既に設定済みであることを意味します。カメラの横に「+」 記号がある場合、そのカメラに対して、1つまたは複数の手動イベ ントが既に設定済みであることを意味します。
	名前を指定します。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むこと はできません。 <> & ' " ¥ / : * ? []
イベント名	一部のカメラは、特定の長さおよび特定の構造のイベント名しかサ ポートしていません。詳細はカメラのマニュアルを参照してください。
このイベントが発生すると、 E メ ールを送信します	Eメール通知『148ページの"Eメール通知の設定"参照』が有効な 場合にだけ使用できます。イベントが発生した場合に、XProtect Enterprise でEメール通知を自動送信する必要があれば選択しま す。受信者は、Eメール通知の設定の一部として定義します。Eメ ール通知を使用する場合、個々のカメラのスケジュールにも注意し てください。
カメラからの画像を添付します	Eメール通知 『148ページの"Eメール通知の設定"参照』が有効な 場合にだけ使用できます。選択すると、イベントがトリガされた時 に録画された画像が Eメール通知に含められます。次に、チェック ボックスの横にあるリストで関連するカメラを選択します。
削除	選択したイベントを削除します。
追加	新規イベントを追加します。 グローバル または特定のカメラが選択 されている場合、 追加 をクリックして、新しい手動イベントを追加 します。特定の手動イベントが選択されている場合、 追加 をクリッ クすると、選択した手動イベントにタイマーイベントが追加 『112 ページの"タイマーイベントの追加"参照 』されます。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

イベント発生時、SMS を送信す る	イベントが発生したときにシステムによって SMS を自動的に送信 する必要がある場合に、選択します。SMS 通知の受信者を、SMS 通知設定の一部として定義します。SMS 通知を使用する場合、個々 のカメラのスケジュールが設定されている必要があることを忘れな いでください。
	設定を使用できるのは、SMS 通知が有効になっている場合だけです。

タイマーイベント

タイマーイベントを追加 『112ページの"タイマーイベントの追加"参照 』する場合、以下のプロパティを指定します。

	説明
タイマーイベント名	名前を指定します。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むこと はできません。 <> & ' " ¥ / : * ? []
	一部のカメラは、特定の長さおよび特定の構造のイベント名しかサ ポートしていません。詳細はカメラのマニュアルを参照してくださ い。
タイマーイベント発生前	メインイベントの発生からタイマーイベントまでに経過する必要が ある時間の長さ(秒または分単位)を指定します。

ジェネリックイベント

ジェネリックイベントを追加 『114ページの"ジェネリックイベントのテスト"参照 』する場合、以下 のプロパティを指定します。

	説明
イベント名	名前を指定します。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むこと はできません。 <> & ' " ¥ / : * ? []
	一部のカメラは、特定の長さおよび特定の構造のイベント名しかサ ポートしていません。詳細はカメラのマニュアルを参照してくださ い。
イベントポート	読み取り専用のフィールドで、XProtect Enterprise がジェネリック
	イベントを受信待ちするポート番号を表示します(デフォルトはポ ート 1234)。ポート番号は、一般的なイベント処理の設定 『113 ページ 』の一部として変更できます。

	説明
	データパッケージを分析する際に、XProtect Enterprise で探すべき 個々の項目を指定することができます。1つまたは複数の語を指定 してから、追加ボタンをクリックして、指定した語をイベントメッ セージの表現フィールドに追加すると、その内容が実際の分析で使 用されます。例:
	 単一の語: User001 (イベントメッセージの表現フィール ドに追加すると、この語は「User001」と表示されます)
イベントの部分列	 複数の語を1つのアイテムとして: User001 Door053 Sunday (イベントメッセージの表現フィールドに追加する と、この語は「User001 Door053 Sunday」と表示されます)
	複数の語を1つのアイテムとして追加すると(例:イベントメッセ ージの表現フィールドでは「User001 Door053 Sunday」と表示)、 引用符の間のすべてが、指定された順番でパッケージに表示され、 条件との一致がチェックされます。語をパッケージとして表示する 必要はあるが、順不同な場合、それぞれの語を1つづつ追加します (つまり、イベントメッセージの表現フィールドでは「User001」 「Door053」「Sunday」と表示されます)。
	ヒント :ジェネリックイベントに使用する TCP および UDP パッケ ージには、@、#、+、å、~等の特殊文字を分析する文字列で使用す ることができます。
イベントメッセージの表現	実際のパッケージ分析で使用する文字列を表示します。このフィー ルドは、直接編集することはできません。ただし、追加ボタン、括 弧、あるいは以下で説明するオペレータボタンをクリックする時に、 カーソルをフィールド内に配置することで、新しいアイテムを含め る場所を指定することができます。同様に、カーソルをフィールド 内に配置することで、削除ボタンをクリックした時に、削除される アイテムの場所を決めることもできます。削除ボタンをクリックす ると、カーソルのすぐ左にあるアイテムが削除されます。
	 (:開始括弧文字をイベントメッセージの表現フィールドに追加することができます。括弧は、関連用語が論理単位として同時に処理されるようにする際に使用します。つまり、分析で特定の処理順序を強制するために使用します。例:(「User001」OR「Door053」)AND「Sunday」を使用すると、括弧内の2つの用語が先に処理され、その結果が文字列の最後の部分と結合されます。つまり、XProtect Enterpriseはまず「User001」または「Door053」という用語を含むパッケージを検索します。
): 終了括弧文字をイベントメッセージの表現フィールド に追加することができます。



名前	説明
	User001 Door053 Sunday
	OR を組み合わせると、結果 (赤色で表示)が多くなります。
	 削除: イベントメッセージの表現フィールドに配置したカ ーソルのすぐ左にあるアイテムを削除することができます。 カーソルをイベントメッセージの表現フィールドに配置し ていなければ、フィールドにある最後のアイテムが削除され ます。
イベントの優先度	同じデータパッケージが異なるイベントで分析される場合がありま す。各イベントに優先度を割り当てる機能により、受信したパッケ ージが複数のイベントの基準に一致したときに、どのイベントをト リガするか管理することができます。0(最低優先度)~1000(最 高優先度)の数値によって優先度を指定してください。XProtect Enterprise が TCP および UDP パッケージを受信した場合、そのパ ケットの分析が、最高優先度のイベントで開始されます。これによ り、パッケージが複数のイベントの基準と一致する場合、最高優先 度のイベントのみがトリガされます。パッケージが同じ優先度で複 数のイベントの基準と一致した場合、たとえば、優先度 999 のイベ ントが 2 つある場合、その優先度のすべてのイベントがトリガされ ます。
イベントプロトコル	 イベントを検知するために XProtect Enterprise が受信待ちしなけれ ばならないプロトコルを選択します。 すべて: TCP ならびに UDP のプロトコルを使用している パッケージを受信待ちし、分析します。 TCP: TCP プロトコルだけを使用しているパッケージを受 信待ちし、分析します。
	 UDP: UDP プロトコルだけを使用しているパッケージを受信待ちし、分析します。

	説明
	受信したデータパッケージを分析する時に特定の XProtect Enterprise があるべき状態を選択します。
イベントルールタイプ	 検索: イベントを発生させるには、受信したパッケージに、 イベントメッセージの表現フィールドで指定したメッセージが含まれていなければなりませんが、他の内容も含まれている可能性があります。例:受信したパッケージに 「User001」および「Door053」が含まれるよう指定した場合、受信したパッケージに語句「User001」および「Door053」 および「Sunday」が含まれる場合、受信したパッケージに2 つの必要な語句が含まれるため、イベントがトリガされます。
	 一致: イベントを発生させるには、受信したパッケージに、 イベントメッセージの表現フィールドで指定したメッセー ジが正確に含まれていなくてはらならず、他の内容が含まれ ていてはなりません。
このイベントが発生すると、 E メ ールを送信します	Eメール通知 『148ページの"Eメール通知の設定"参照』が有効な 場合にだけ使用できます。イベントが発生した場合に、XProtect Enterprise でEメール通知を自動送信する必要があれば選択しま す。受信者は、Eメール通知の設定の一部として定義します。Eメ ール通知を使用する場合、個々のカメラのスケジュールにも注意し てください。
カメラからの画像を添付します	Eメール通知 『148ページの"Eメール通知の設定"参照 』が有効な 場合にだけ使用できます。選択すると、イベントがトリガされた時 に録画された画像が Eメール通知に含められます。次に、チェック ボックスの横にあるリストで関連するカメラを選択します。
イベント発生時、SMS を送信す る	イベントが発生したときにシステムによって SMS を自動的に送信 する必要がある場合に、選択します。SMS 通知の受信者を、SMS 通知設定の一部として定義します。SMS 通知を使用する場合、個々 のカメラのスケジュールが設定されている必要があることを忘れな いでください。
	設定を使用できるのは、SMS 通知が有効になっている場合だけです。
削除	選択したイベントを削除します。
追加	新規イベントを追加します。ジェネリックイベントノードを選択中 に追加をクリックすると、新しいジェネリックイベントが追加され ます。特定のジェネリックイベントが選択されている場合、追加を クリックすると、選択したジェネリックイベントにタイマーイベン トが追加『112ページの"タイマーイベントの追加"参照』されます。

イベントでの出力コントロール(イベントおよび出力固有のプロパティ)

イベントでの出力コントロールを追加 『**112**ページの"イベントでのハードウェア出力の設定"参照 』 する場合、以下のプロパティを指定します。

	説明
ብላ [*]	必要なイベントを選択します。
出力	必要な出力イベントを選択します。

スケジュールおよびアーカイブ

スケジュールについて

スケジュール機能により、以下を指定できます。

- アーカイブ 『127ページの"アーカイブについて"参照 』を実行する時期
- 一部のカメラから、常に XProtect Enterprise にビデオを転送する
- 一部のカメラから、特定の期間だけ、あるいは特定のイベントが発生した場合にだけビデオ を転送する
- システムから通知を受信するタイミング

すべてのカメラに対して、一般的なスケジュールプロパティをセットアップしたり、カメラごとに個別のプロパティをセットアップすることも可能です。セットアップできる場合:

- 1つ以上のカメラがオンラインである場合(そのカメラからビデオを XProtect Enterprise へ転送)
- 1 つ以上のカメラがスピードアップを使用している場合(そのカメラは、通常より高いフレームレートを使用)
- 1 つ以上のカメラに関する通知 『147ページの"通知について"参照 』を受信したい場合
- アーカイブが発生した場合
- **PTZ** カメラは、パトロールプロファイルに従って、パトロールを行う必要があります。

アーカイブについて

アーカイブは、統合された自動機能であり、この機能によって録画を移動し、新しい録画容量が確保 できます。デフォルトでは、録画はそれぞれのカメラのデータベースに保存されます。それぞれのカ メラのデータベースは、最大で 600,000 レコードまたは 40 GB を保存することができます。XProtect Enterprise は、カメラのデータベースが満杯になると、自動的に録画をアーカイブします。したがって、十分にアーカイブできる容量があることが重要です。

アーカイブを有効にするための特別な操作は必要ありません。アーカイブはバックグラウンドで実行され、システムがインストールされた瞬間から自動的に有効になり、実行されます。保存処理中にネットワーク関連の問題が生じるのを防ぐため、最新の録画はローカルストレージに保存されます。

XProtect Enterpriseのデフォルト設定では、1日に1回またはデータベースが満杯になった時にアーカ イブを行います。Management Application で、アーカイブがいつ、どれくらいの頻度で発生するかの 設定を変更できます。また、アーカイブ 『131ページの"アーカイブスケジュールについて"参照』を 最大で1日に24回まで、最低でも1時間の間隔でスケジュールすることもできます。こうすることで、 データベースが満杯になる前に録画をアーカイブできます。大量の録画が予想される場合ほど、頻繁 にアーカイブする必要があります。

また、個々のカメラのプロパティで、保持時間、すなわちカメラからの録画(カメラのデータベース にある録画ならびにアーカイブされた録画)を保持しておく時間を変更することも可能です。

XProtect Enterprise は、カメラのデータベースが満杯になると、自動的に録画をアーカイブします。 一般的な録画およびアーカイブパス『64ページの"録画およびアーカイブのパス"参照』のプロパティ の一部として、1つの時間制限(保持時間)を指定するだけです。保持時間によって、いつアーカイブ が発生するかが決まることに注意してください。保持時間は、カメラからの録画(つまり、カメラの データベースにある録画ならびにアーカイブされている録画)を保持しておく合計時間です。

アーカイブのバックアップ

Milestone では、共有違反やその他の誤動作の原因となることがあるため、カメラのデータベースの 内容に基づいてバックアップを作成することを推奨していません。あるいは、アーカイブの内容に基 づいてバックアップを作成します。個々のカメラに個々のアーカイブ場所を指定していない場合は、 デフォルトのローカルアーカイブディレクトリである、**アーカイブ**にバックアップされます。

重要:バックアップをスケジュールする際は、バックアップジョブのアーカイブ時間が決して重複しないように注意してください。

アーカイブが失敗する場合

まれなケースとして、たとえばネットワークの問題によって、アーカイブが失敗することもあります。 ただし、XProtect Enterprise にとって、これは問題にはなりません。XProtect Enterprise は、新しい データベースを作成し、この新しいデータベースでアーカイブを続行できるからです。他のデータベ ースの場合と同様に、この新しいデータベースと古いデータベースの両方を操作し、表示することが できます。

アーカイブの場所について

デフォルトアーカイブフォルダ 『203ページの"デフォルトのファイルパス"参照』

(D:\MediaDatabase) は、XProtect Enterprise サーバーにあります。デフォルトアーカイブフォルダ をローカルの別の場所に変更したり、ネットワークドライブ上の場所を選択してデフォルトアーカイ ブフォルダとして使用することもできます。アーカイブフォルダでは、それぞれのカメラのアーカイ ブを保存するための別個のサブフォルダが自動的に作成されます。これらのサブフォルダは、カメラ が接続されるハードウェアデバイスの MAC アドレスに基づいて名前が付けられます。 複数日に渡る録画のアーカイブを保持したり、アーカイブが1日に数回発生することもあるため、ア ーカイブの日付と時刻を含む名前を付けられたサブフォルダも自動的に作成されます。

サブフォルダは、以下の構成により名前が付けられます。

... ¥Archives ¥CameraMACAddress_Video Encoder Channel ¥DateAndTime

ビデオエンコーダーに複数のチャンネルがない場合は、ビデオエンコーダーチャンネルは常に「_1」になります(例:00408c51e181_1)。

例: MAC アドレスが 00408c51e181 であるカメラのチャンネル 2 に関する、2012 年 12 月 31 日の 23:15 のアーカイブの保存名:

D:\MediaDatabase\Archives\00408c51e181_2\2012-12-31-23-15

他の場所へのアーカイブについて

デフォルトのアーカイブディレクトリ以外の場所へアーカイブする場合、システムはまずローカルの デフォルトアーカイブディレクトリにアーカイブを一時的に保存し、その後ただちに指定したアーカ イブ場所へアーカイブを移動させます。ネットワークドライブに直接アーカイブすることは、使用可 能なネットワークの帯域によってアーカイブ時間が大きく変動することを意味します。最初にアーカ イブをローカルに保存してから移動すると、アーカイブ手順がスピードアップし、ネットワークの問 題があった場合でも遅延を低減できます。

ネットワークドライブにアーカイブする場合、通常のカメラデータベースは、システムのサーバーに 接続されているローカルドライブにしか保存できません。

ダイナミックアーカイブパスについて

ダイナミックアーカイブパスでは、通常は複数のドライブに渡る、複数の異なるアーカイブパスを指 定します。

ダイナミックアーカイブ用に選択したドライブのいずれかにカメラのレコーディングパスが含まれて いる場合、システムは常にまずそのドライブにアーカイブしようと試みます。そうでない場合、カメ ラデータベースがそのドライブを使用していない限り、システムは自動的にその時点で最も使用可能 な容量が大きいアーカイブドライブにアーカイブします。

使用可能な容量が最も大きいドライブはアーカイブプロセス中も変化するので、同一プロセスで複数 のアーカイブドライブに対してアーカイブされることもあります。これにより、アーカイブされた録 画をユーザーが検索し、再生する方法には影響を与えません。

ダイナミックアーカイブパスは一般にすべてのカメラに適用されます。個別のカメラ用にダイナミックアーカイブパスを設定することはできません。

ダイナミックアーカイブでどのドライブを使用するかを決定する場合、以下の例の良い点と悪い点を 考慮してください(デフォルトアーカイブパスはドライブ C:ですが、ドライブ文字はあくまでも一例 であり、別のドライブ文字を指定することも可能です)。

• カメラがドライブ C:に録画し、ドライブ C:にアーカイブする場合

ダイナミックアーカイブ用に選択したドライブのいずれかにカメラのレコーディングパスが 含まれている場合、システムはまずそのドライブにアーカイブしようと試みます。アーカイ ブは迅速に行われますが、ドライブがデータで満杯になるのも早くなります。 • カメラがドライブ C:に録画し、ドライブ D:にアーカイブする場合

録画とアーカイブは、別のドライブになります。アーカイブは、それほど迅速には行われま せん。XProtect Enterprise は、まず一時的にC:ドライブにあるローカルデフォルトアーカイブ ディレクトリにアーカイブを保存し、その後すぐにアーカイブをD:ドライブにあるアーカイ ブ場所に移動させます。したがって、C:ドライブには、一時的アーカイブに対応できる十分 な容量が必要です。

 カメラ1がドライブ C:に録画し、ドライブ D:にアーカイブ。一方、カメラ2はドライブ D:に 録画し、ドライブ C:にアーカイブする場合

このパターンは避けてください。あるカメラのアーカイブが、他のカメラの録画に必要な容量を奪ってしまう可能性があります。上記の例では、カメラ1のドライブD:へのアーカイブによって、ドライブD:にはカメラ2の録画容量が無くなることがあります。ルールは、「録画とアーカイブのドライブを交差させない」ということになります。

複数の監視サーバーをマスター/スレーブの設定で使用する場合、アーカイブが機能するために、それ ぞれの監視サーバーは独自に割り当てられた場所にアーカイブする必要があります。すべてのサーバ ーが同じマップ場所にアーカイブしようとすると、アーカイブは失敗します。

複数の監視サーバーをマスター/スレーブの設定で使用する場合、アーカイブが機能するために、それ ぞれの監視サーバーは独自に割り当てられた場所にアーカイブする必要があります。すべてのサーバ ーで同じ場所にアーカイブしようとすると、アーカイブは失敗します。

音声のアーカイブについて

ハードウェアデバイスで音声ソース(例、マイク)が有効になっている場合、音声録音は、ハードウ ェアデバイスに取り付けられたカメラからのビデオ録画と共にアーカイブされます。ハードウェアデ バイスが、複数のチャンネルを持つビデオエンコーダーである場合、音声はチャンネル1のカメラと 共にアーカイブされます。音声ソースが有効になってている場合、システムは関連するカメラのデー タベースに音声を録音します。これは、データベースがビデオを保存できる容量に影響します。した がって、音声とビデオを記録する際は、ビデオだけを録画する場合より頻繁にアーカイブをスケジュ ールする必要があります。

アーカイブに必要なストレージ容量

アーカイブに必要なストレージ容量は、保存する予定の録画の容量と、どれだけの期間保存するか (保持時間)に完全に依存します。一部の組織では、多数のカメラからのアーカイブ録画を数か月ま たは数年に渡って保存する必要があります。他の組織では、1台または2台のカメラからの録画のア ーカイブだけが必要であり、保存したい期間もより短い場合があります。

直後に他のドライブにあるアーカイブ場所に移動される場合にも、まずはアーカイブされた録画が必 ず移動されるデフォルトアーカイブディレクトリを含んでいるローカルドライブの保存容量を常に検 討する必要があります。基本的には、ローカルドライブの容量は、少なくともすべてのカメラのデー タベースを保存するのに必要な容量の2倍が必要になります。

アーカイブする場合、XProtect Enterpriseは、アーカイブするデータに必要な容量に1GBを加えた空 きディスク容量がカメラのアーカイブ場所にあるか自動的にチェックします。それだけの空き容量が ない場合、アーカイブする新しいデータに十分な空き容量が得られるまで、アーカイブ場所で、対象 となるカメラからの最も古いデータが削除されます。 アーカイブに必要なストレージ容量を推定する場合、まず組織のニーズを考慮し、次にベストケース ではなくワーストケースのシナリオを想定するようにしてください。

ヒント: Milestone の Web サイトのサポートセクションにあるストレージ計算機を使うと、監視システムに必要なストレージ容量を決定するのに便利です。

アーカイブスケジュールについて

アーカイブスケジュールを設定する方法には、次の2種類があります。

- ビデオおよび録画の設定ウィザード 『35ページの"ストレージの設定ウィザード"参照 』でカメラを設定する場合、アーカイブスケジュールはウィザードのドライブ選択ページで設定します。
- 一般的なスケジュールおよびアーカイブのプロパティの一部として、拡張設定を展開し、ス ケジュールおよびアーカイブを右クリックして、プロパティを選択します。ダイアログでア ーカイブを選択して、関連するプロパティ『136ページの"アーカイブ"参照』を指定します。

ディスク空き容量が不足した場合の自動応答

アーカイブ中にシステムのディスク空き容量が不足した場合のために、自動応答をセットアップできます。カメラのデータベースドライブがアーカイブドライブとは異なる場合と、同じ場合によって、 次の2つのシナリオが発生します。

同じドライブである場合:ドライブのディスク空き容量がなくなった場合、アーカイブを自動的に移動または削除

システムサーバーのディスク空き容量が不足し、アーカイブドライブがカメラのデータベースドライ ブと同一である場合、システムは自動的に空き容量を作るための試行を数回行います。こうした試行 の大半では、アーカイブまたはデータベースからデータが失われます。

- まず、システムはアーカイブを移動させようとします。複数の異なるドライブにアーカイブできる、ダイナミックアーカイブを使用している場合にのみ、アーカイブを移動できます。これが発生するのは、以下の場合です。
 - 空きディスク容量が15%を下回っており、使用可能なディスク容量が40GB+カメラ1 台につき2GBを下回っている。

- または -

 ・ 使用可能なディスク容量が 225 MB + カメラ1 台につき 30 MB を下回っている。例:10 台のカメラで、使用可能なディスク容量が 525 MB (225 MB + 10 台のカメラのそれぞれで 30 MB)を下回ると、サーバーの空きディスク容量が不足します。

この差によって、単に残りのディスク容量が**15%**未満となるので、非常に大きなディスクで はディスク容量の不足を考える必要はありません。

システムによりアーカイブを移動できない場合、最も古いアーカイブを削除しようとします。
 これが発生するのは、以下の場合です。

拡張設定

- 空きディスク容量が10%を下回っており、使用可能なディスク容量が30GB+カメラ1 台につき1.5GBを下回っている。
- または -
- ・ 使用可能なディスク容量が 150 MB + カメラ1 台につき 20 MB を下回っている(例:10 台のカメラで、使用可能なディスク容量が 350 MB(150 MB + 10 台のカメラのそれぞれで 20 MB)を下回ると、サーバーの空きディスク容量が不足します。

この差によって、単に残りのディスク容量が10%未満となるので、非常に大きなディスクで はディスク容量の不足を考える必要はありません。

- 削除できるアーカイブがない場合、システムは最も古い録画を削除してカメラのデータベー スのサイズを変更しようとします。これが発生するのは、以下の場合です。
 - 空きディスク容量が5%を下回っており、使用可能なディスク容量が20GB+カメラ1台につき1GBを下回っている。
 - または -
 - ・ 使用可能なディスク容量が 75 MB + カメラ 1 台につき 10 MB を下回っている(例:10 台 のカメラで、使用可能なディスク容量が 175 MB(75 MB + 10 台のカメラのそれぞれで 10 MB)を下回ると、サーバーの空きディスク容量が不足します。

この差によって、単に残りのディスク容量が5%未満となるので、非常に大きなディスクでは ディスク容量の不足を考える必要はありません。

データベースのサイズを変更した後、システムがレコーディングサーバーを再起動した場合、ドライ ブのサイズの問題が解消されていることを確認するか、カメラのデータベースのサイズを調整して、 変更されたドライブサイズを反映するようにしてください。

システムがデータベースのサイズ変更手順を実行すると、XProtect Smart Client の画面、ログファイルに情報が表示されます。あるいは通知(セットアップされている場合)が送られます。

異なるドライブ:自動アーカイブ:データベースドライブのディスク容量が不足した場合。

システムサーバーのディスク容量が不足しており、アーカイブドライブがカメラのデータベースドラ イブと**異なっており**、過去1時間以内にアーカイブが行われていない場合、アーカイブは自動的にデ ィスクの空き容量を開放しようとします。これは、アーカイブスケジュールに関わらず行われます。 以下の場合、サーバーのディスクの空き容量が不足していると考えられます。

- 空きディスク容量が10%を下回っており、使用可能なディスク容量が30GB+カメラ1台に つき1.5GBを下回っている。
- 使用可能なディスク容量が150 MB + カメラ1台につき20 MBを下回っている。例:10台の カメラで、使用可能なディスク容量が350 MB(150 MB + 10台のカメラのそれぞれで20 MB) を下回ると、サーバーの空きディスク容量が不足します。

この差によって、単に残りのディスク容量が 10%未満となるので、非常に大きなディスクではディス ク容量の不足を考える必要はありません。 アーカイブドライブで、システムは、カメラからのデータをアーカイブするのに必要な容量に、カメ ラ当たり 1 GB を加えた空きディスク容量があるかチェックします。それだけの空き容量がない場合、 アーカイブする新しいデータに十分な空き容量が得られるまで、アーカイブドライブで、関連するカ メラの最も古いデータが削除されます。

アーカイブされた録画の再生について

アーカイブされた録画は、XProtect Smart Client で再生できます。たとえば、アーカイブされた録画 に対してエクスポートやブラウズを行うことができます。

ローカルまたはネットワークのドライブに保存されているアーカイブされた録画に対して、XProtect Smart Client の再生機能を使用して、カメラの通常のデータベースに保存されている録画と同様に、 関連する録画を検索や再生することができます。また、XProtect Smart Client で、エクスポートされ たアーカイブや、ローカルドライブまたはネットワークドライブ以外に保存されているアーカイブを 使用することもできます。詳細については Xprotect Smart Client のドキュメントを参照してくださ い。

一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定

一般的なスケジュールおよびアーカイブを設定するには、次の手順を実行してください。

- 1. Management Application のナビゲーションペインで、**拡張設定**を展開し、スケジュールおよ びアーカイブを右クリックして、プロパティを選択します。
- 2. すべてのカメラのスケジュール 『133ページ』、スケジュールオプション 『135ページ』、 アーカイブ 『136ページ』 で必要なプロパティを指定します。
- 3. システムには、2つの基本スケジュールプロファイル(常にオンと常にオフ)があり、これら を編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれ のカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カス タマイズされたスケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。
- **4.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

アーカイブ時には、カメラのデータベースやアーカイブ場所でのウイルススキャン 『**12**ページの"ウイルススキャンについて"参照 』を無効にしてください。

一般的なスケジュールのプロパティ

すべてのカメラのスケジュール

ー般的なスケジュールおよびアーカイブ『**133**ページの"一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定"参照』を設定する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 操作を迅速に行いたい場合や、対象となるプロパティが、個別のカメラではなく、すべてのカメラで 共有されている場合が該当します。

オンライン期間、スピードアップ、通知(E メールおよび SMS)、PTZ パトロールなどのプロパティ は、それぞれのカメラに対して個別に指定することができます。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

名前	説明
テンプレート	テンプレートを使用すると、類似のプロパティが迅速に設定できて 便利です。たとえば、カメラが 20 台あり、レコーディングパス、 アーカイブパス、およびそれらすべての保持時間を変更したいとし ます。3 種類の同じ情報を 20 回入力する代わりに、テンプレートに 一度だけ入力し、2 回クリックするだけで、そのテンプレートを 20 台のカメラに適用することができます。
テンプレートを適用	どのカメラにテンプレートを適用するか選択します。2つの 設定 ボ タンのいずれかを使用して、実際にテンプレートに適用します。
カメラ	Management Application およびクライアントで表示される名前で す。
	関連するカメラのオンラインスケジュール 『60ページの"カメラ固 有のスケジュールの設定"参照 』に必要なプロファイル(例:常に オン)を選択します。
	以下に基づいてスケジュールを作成して、カメラのオンライン期間 を指定します。
オンライン	 期間(例:月曜日の08:30から17:45まで)、ピンク色で表示:
	 期間内のイベント(例:イベントAの発生からイベントBの発生まで、月曜日の08:30から17:45まで)、黄色で表示:
	2 つのイベントを組み合わせることは可能ですが 111 111 111 いう、時間を重複することはできません。
Eメール	対象となるカメラの E メール通知スケジュールに必要なプロファイルを選択します。期間に基づいてスケジュールプロファイルを作成することで、カメラの E メール通知の期間を指定します(例:月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、青色で表示:
全て選択	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択します。
全てクリアする	ボタンをクリックして、 テンプレートを適用 列にあるすべてのカメ ラを選択解除します。
選択したカメラで、選択したテン プレートの値を設定する	テンプレートから選択した値だけを、選択したカメラに適用します。
新規スケジュールプロファイル	作成… ボタンをクリックして、任意のタイプの新しいスケジュール プロファイルを作成します。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

SMS	対象となるカメラの SMS 通知スケジュールに必要なプロファイル を選択します。期間に基づいてスケジュールプロファイルを作成す ることで、カメラの SMS 通知の期間を指定します(例:月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、緑色で表示:
PTZ パトロール	PTZ (パン/チルト/ズーム) カメラのパトロールは、複数のプリセット位置の間での PTZ カメラの連続的な動きでのみ使用可能です。対象となるカメラの PTZ パトロールのスケジュール 『138ページの "PTZ パトロール"参照 』に必要なプロファイルを選択できます。
	特定の期間内でのパトロールプロファイルに基づいて、カメラのパトロールスケジュールを指定します(例:月曜日の08:30から17:45まで)、赤色で表示:

スケジュールオプション

一般的なスケジュールおよびアーカイブ 『133ページの"一般的なスケジュールおよびアーカイブの設定"参照』を設定する場合、多くのカメラに対して一定のプロパティを同時に指定することができます。 スケジュールオプションを使用するのは、プロパティがすべてのカメラによって共有されているためです。

	説明
クライアントからの要求による カメラ起動	たとえば、オンライン録画スケジュール『137ページの"オンライン 期間"参照』の終了日時に達したなどの理由でカメラがオフライン になっている場合、クライアントユーザーはカメラからのライブビ デオを表示することはできません。ただし、クライアントからの要 求によるカメラ起動を選択すると、クライアントユーザーは、オン ラインスケジュール外でも、録画することなくカメラからのライブ ビデオを表示することができます(技術的には、オンラインスケジ ュール外で、カメラを強制的にオンラインにします)。 カメラの起動と連動して録画も開始したい場合は、クライアントか らの要求で開始した際にレコーディングを有効にするを選択する必 要があります(以下を参照)。
クライアントからの要求で開始 した際にレコーディングを有効 にする	クライアントからの要求によるカメラ起動 を選択している場合に、 カメラ起動時の録画連動を有効化できます(前項目を参照)。
	手動レコーディングの権限 『174ページの"カメラアクセス"参照 』 を持たないユーザーの場合、クライアントからの要求で開始した際 にレコーディングを有効にするを有効化してもそのユーザーによる 手動レコーディングは行えません。

	説明
新規カメラのスケジュールプロ ファイル	XProtect Enterprise システムへ後で追加するカメラがデフォルトと して使用するオンラインスケジュールプロファイルを選択します。 この選択が適用されるのはオンラインスケジュールだけであり、他 のスケジュールには適用されないことに注意してください。デフォ ルトの選択は、常にオンです。これは、新しいカメラは常にオンラ インであり、ライブ表示やその他の処理のためにビデオを XProtect Enterprise サーバーに転送することを意味します。
再接続試行間の最大遅延	再接続試行の積極性を調整します。XProtect Enterprise がカメラへの接続を失うと、デフォルトでは、10秒後に接続を再確立できるように試行します。ワイヤレス接続で車載カメラを使用している場合など、一部の環境ではカメラの接続が頻繁に失われる可能性があるため、再試行の試みの積極性を変更することを検討してください。

オンライン録画スケジュール設定がない場合でも、ライブ映像を見たり、ビデオの録画を開始することもできます。これを行うには、クライアントからの要求によるカメラ起動を選択し、必要に応じて、 該当のカメラでスケジュールプロパティをセットアップする際に、以下のクライアントからの要求で 開始した際にレコーディングを有効にするオプションを選択します。

アーカイブ

XProtect Enterpriseは、カメラのデータベースが満杯になると、自動的に録画をアーカイブ **『127**ペ ージの"アーカイブについて"参照 **』**します(以前のバージョンでは、これはそれぞれのカメラに対して個別に設定するオプションでした)。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	説明
アーカイブ時刻	XProtect Enterprise で自動的に録画をアーカイブパスへ移動させた い時刻を指定します。1日に最大で24件のアーカイブ時刻を指定で きますが、最低でも1時間の間隔が必要です。時間、分、秒の値を 選択してから、上および下ボタンをクリックして値を増減させるか、 単に選択した値に上書きして、追加をクリックします。大量の録画 が予想される場合ほど、頻繁にアーカイブする必要があります。
アーカイブ障害時に E メールを 送信します	選択した場合、アーカイブが失敗すると、XProtect Enterprise は自動的に選択した受信者に Eメールを送信します。これには、Eメール通知機能が有効になっている必要があります。受信者は、Eメール通知のプロパティ『148ページの"Eメール (プロパティ) "参照 』の一部として定義します。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

	設定ができるのは、SMS 通知が有効である場合だけです。
アーカイブ障害時に SMS を送信	ます。
	アーカイブが失敗した場合に、SMS を自動送信する必要があれば選択します。SMS 通知設定の一部として SMS 通知の受信者を定義し

XProtect Enterprise でのみ使用可能なプロパティ:

イベントガのアーナイブ	選択すると、特定のイベントが発生したときに、システムによって
1 1 2 1 60) - 21 7	アーカイブが開始されます。リストからイベントを選択します。

カメラ固有のスケジュールプロパティ

オンライン期間

特定のカメラについてスケジュール『60ページの"カメラ固有のスケジュールの設定"参照』を設定する場合、おそらく最も重要なのはオンライン期間設定です。これは、オンライン期間によって、それ ぞれのカメラがいつビデオを XProtect Enterprise へ転送するかを決定するためです。

デフォルトでは、XProtect Enterprise に追加されたカメラは自動的にオンラインになるので、特定の 時刻やイベントに際してのみカメラをオンラインにしたい場合にだけ、オンライン期間の設定を変更 します。ただし、後で追加されたカメラが自動的にオンラインにならない場合は、一般的なスケジュ ールオプション『135ページの"スケジュールオプション"参照』の一部として、このデフォルトが変 更されている可能性があります。

カメラが XProtect Enterprise にビデオを転送しても、必ずしもカメラからビデオが録画されることを 意味しません。録画は別途設定します。ビデオおよび録画の設定 『57ページの"ビデオや録画の設定 について"参照 』を参照してください。

	説明
	関連するカメラのオンラインスケジュール 『60ページの"カメラ固 有のスケジュールの設定"参照 』に必要なプロファイル (例:常に オン)を選択します。
	以下に基づいてスケジュールを作成して、カメラのオンライン期間 を指定します。
オンライン	 期間(例:月曜日の08:30から17:45まで)、ピンク色で表示:
	 期間内のイベント(例:イベントAの発生からイベントBの発生まで、月曜日の08:30から17:45まで)、黄色で表示:
	2つのイベントを組み合わせることは可能ですが 111 111 (111) いう、時間を重複することはできません。

ヒント:オンライン録画スケジュール以外のカメラからライブ映像を見たり、録画ビデオを再生した い場合は、クライアントからの要求によるカメラ起動『135ページの"スケジュールオプション"参照』 を選択し、必要に応じて、クライアントからの要求で開始した際にレコーディングを有効にする『135 ページの"スケジュールオプション"参照』オプションで、関連するカメラのスケジュールプロパティ をセットアップします。

スピードアップ

スピードアップはイベントに基づいて実行される場合もありますが、他で設定されている場合に限ります。フレームレート - MJPEG(一般的な録画およびストレージのプロパティ) 『74ページの"フレ ームレート - MJPEG"参照 』およびビデオ(カメラ固有のプロパティ) 『82ページの"ビデオ"参照 』 を参照してください。

	説明
スピードアップ	特定の MJPEG カメラについて、スピードアップ期間を指定します。 このタイプのスケジュールを定義できるようにするためには、スピ ードアップを有効 『74ページの"フレームレート - MJPEG"参照 』 にする必要があります。期間に基づいてスケジュールプロファイル を作成することで、カメラのスピードアップの期間を指定します (例:月曜日の 08:30 から 17:45 まで)、オリーブグリーン色で表示:

PTZパトロール

パトロール 『100ページの"PTZ パトロール"参照 』に対応している PTZ (パン/チルト/ズーム)カメ ラのスケジュール 『60ページの"カメラ固有のスケジュールの設定"参照 』を設定する場合、特定の時 刻にどのパトロールプロファイルを使用するかを指定できます。このタイプのスケジュールを設定す る前に、関連するカメラのパトロールを設定する必要があります。

	説明
PTZ パトロール	PTZ (パン/チルト/ズーム) カメラのパトロールは、複数のプリセット位置の間での PTZ カメラの連続的な動きでのみ使用可能です。対象となるカメラの PTZ パトロールのスケジュール 『138ページの"PTZ パトロール"参照 』に必要なプロファイルを選択できます。 特定の期間内でのパトロールプロファイルに基づいて、カメラのパトロールスケジュールを指定します(例:月曜日の 08:30 から 17:45まで)、赤色で表示:

使用するパトロールプロファイルのすぐ後に、別のパトロールプロファイルの使用(例:日中のパトロールプロファイルが月曜日の08:30から17:45まで、その後に夜間のパトロールプロファイルが月曜日の17:45から23:00まで)を続けることもできます。使用する2つのパトロールプロファイル時間を重複することはできません。

他のタイプのスケジュールとは違って、**PTZ**パトロールのスケジュールプロファイルには、常にオン や常にオフなどの事前に決められたスケジュールプロファイルはありません。それぞれのカメラに対 して、任意の数のカスタマイズされたスケジュールプロファイルを作成できます。あるカメラに対し てカスタマイズされたスケジュールプロファイルを作成 『60ページの"カメラ固有のスケジュールの 設定"参照 』すると、必要に応じて、それを他のカメラで使用する事も可能です。

Matrix

Matrix ビデオの共有について

Matrix 機能では、XProtect Enterprise を操作することで、任意のカメラから、ネットワーク上の Matrix 受信 PC へのライブビデオの配信が可能です。Matrix によってトリガされたビデオが表示できる コンピュータは、Matrix 受信 PC と呼ばれます。Matrix 受信 PC にするには、コンピュータに XProtect Smart Client をインストールする必要があります。

Matrix ビデオの共有に関する詳細情報は、XProtect Smart Client ユーザーマニュアルを参照してください。

Matrix でトリガされたビデオのいずれが、Matrix 受信 PC で表示されるかを確認するには、以下の 2 つの方法があります。

- 手動トリガ:他のユーザーが重要なビデオを共有したい場合、そのビデオを XProtect Smart Client から、あるいはカスタマイズされている Web ページから、必要な Matrix 受信 PC へ送 信します。
- 自動トリガ:事前定義イベントが発生すると、ビデオは関連する Matrix 受信 PC へ自動的に送信されます。たとえば、ドアが開いたことをドアセンサーが検知した場合、あるいは監視システムがカメラからのビデオでモーションを検知した場合などです。

Matrix 受信 PC について

Matrix によってトリガされたビデオが表示できるコンピュータは、Matrix 受信 PC と呼ばれます。 Matrix 受信 PC にするには、コンピュータに XProtect Smart Client をインストールする必要がありま す。

Matrix でトリガされたビデオのいずれが、Matrix 受信 PC で表示されるかを確認するには、以下の 2 つの方法があります。

- ・ 手動トリガ:他のユーザーが重要なビデオを共有したい場合、そのビデオを XProtect Smart Client から、あるいはカスタマイズされている Web ページから、必要な Matrix 受信 PC へ送 信します。
- 自動トリガ:事前定義イベントが発生すると、ビデオは関連する Matrix 受信 PC へ自動的に送信されます。たとえば、ドアが開いたことをドアセンサーが検知した場合、あるいは監視システムがカメラからのビデオでモーションを検知した場合などです。
- Matrix 受信 PC に関する詳細情報は XProtect Smart Client のユーザーマニュアルを参照してく ださい。

Matrix の設定

- 1. 拡張設定を展開し、Matrix を右クリックし、プロパティを選択します。
- 2. Matrix の有効化チェックボックスを選択すると、Matrix が使用可能になります。
- 3. 必要なプロパティ 『140ページの"Matrix 受信 PC"参照 』を指定するか、あるいは自動的にト リガされたビデオ共有に対して、Matrix イベントコントロールを選択し、Matrix イベントコ ントロールプロパティ 『141ページの"Matrix イベントコントロール"参照 』を設定します。 準備ができたら OK をクリックします。
- **4.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

Matrix のプロパティ

Matrix 受信 PC

Matrix 受信 PC タブを使用して、Matrix 機能を有効にし、Matrix によってトリガされたライブビデオ を表示するコンピュータを定義します。Matrix によってトリガされたビデオが表示できるコンピュー タは、Matrix受信 PC と呼ばれます。Matrix によってトリガされたビデオを表示できるようにするには、 ユーザーのコンピュータに XProtect Smart Client がインストールされていることが必要です。

	説明
Matrix 有効化	チェックボックスを選択すると、Matrix機能が有効になります。
[定義済み Matrix 受信者のリス ト]	既に定義されている Matrix 受信者、つまり Matrix がトリガするビデ オを表示できるコンピュータをリストします。
	既に定義されている Matrix 受信者のプロパティを変更するには、該 当する Matrix 受信者を選択し、リストの下にあるフィールドで変更 を行ってから、更新ボタンをクリックします。
	リストから Matrix 受信者を削除するには、不要な Matrix 受信者を選 択してから、削除ボタンをクリックします。
名前	Matrix 受信者の名前です。新しい Matrix 受信者を追加するか、既存 の受信者のプロパティを編集する際に使用します。日常的なさまざ まな使用状況で、名前が表示されます。そのため、分かりやすくて 誤解を招かない名前を使用することを推奨します。
	名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
アドレス	Matrix 受信者の IP アドレス。新しい Matrix 受信者の追加や、既存の受信者のプロパティの編集に使用します。

名前	説明
<u>ポ</u> ー	Matrix にコマンドを送信する際に使用するポート番号を指定しま す。新しい Matrix 受信者を追加するか、既存の受信者のプロパティ を編集する際に使用します。Matrix 受信者は、このポートのコマン ドを受信待ちします。デフォルトでは、ポート 12345 を使用します が、当然、他のポート番号を指定することもできます。
パスワード	Matrix 受信者と通信する際に使用するパスワードを指定します。新 しい Matrix 受信者を追加するか、既存の受信者のプロパティを編集 する際に使用します。
Matrix 受信者は Smart Client で す	関連する Matrix 受信者が XProtect Smart Client である場合に選択します。XProtect Smart Client を使用している場合、Matrix がトリガするビデオの配信は少し異なります。
クリア	名前、アドレス、パスワード のフィールドの内容を削除します。
更新	選択した Matrix 受信者のプロパティを、編集した内容で更新します。 使用できるのは、既存の Matrix 受信者のプロパティが編集されてい る場合のみです。
追加	新しい Matrix 受信者をリストに追加します。使用できるのは、新し い Matrix 受信者のプロパティを、名前、アドレス、ポート、パスワ ード、および XProtect Smart Client のフィールドに追加する場合の みです。

Matrix イベントコントロール

Matrix イベントコントロールタブを使用して、事前定義イベントに基づくライブビデオの自動送信を 設定します。Matrix 受信 PC ごとに、どのイベントやカメラを使用するか、正確に定義することがで きます。Matrix イベントコントロールタブには、Matrix 受信 PC タブで定義した Matrix 受信 PC のリ ストが表示されます。

Matrix 受信 PC を右クリックすると、イベントに属しているデバイスのリストが表示されます。イベントを選択すると、まず赤い感嘆符(!) で強調表示され、追加設定ができることを示します。イベントを右クリックすると、選択したイベントのオプションのリストが表示されます。

	要件
削除 [選択したイベント]	選択したデバイスで、選択したイベントを削除します。
接続	カメラに接続します(実際のカメラは、取るべきアクションを選択 した後に指定します)。

	要件
遮断、続いて接続	既存の接続を切断し、その後再度接続します。 このオプションによって、ライブビデオは先入れ先出しで Matrix 受 信者に表示されます。新しいイベントが発生するたびに、最新のイ ベントからのビデオが Matrix 受信者の特定の部分に優先的に表示さ れ、同時に、古いイベントからのビデオはあまり優先的ではない場 所へ移動され、最終的には、より新しいイベントのビデオのための スペースを作るために、Matrix 受信者から「プッシュアウト」され ます。 接続オプションでは、既に Matrix 受信者に表示された、あるカメラ
	でのイベントによってビデオがトリガされることがあります。同じ カメラで、別のイベントによってトリガされたビデオは、最新のイ ベントからのビデオほどは優先的に表示されません。これは単に、 Matrix 受信者には、そのカメラからのビデオがあまり優先的ではな い位置で表示されているためです。切断を選択し、それから接続す ることで、この問題を回避し、最新のイベントからのビデオが常に 優先的に表示されるようにすることができます。
遮断	既存の接続をすべて切断します。ビデオが「プッシュアウト」され るほど古くないにもかかわらず、特定のイベントの使用が Matrix 受 信者でのビデオ表示の停止の原因となる場合は、このオプションを 使用してください。

接続を選択すると、別の赤い感嘆符(!)が表示され、まだ一部の設定が未完了であることを示します。 アクションを右クリックして、アクションを適用するカメラを選択します。

🖃 🔄 event

🚋 😂 カメラ 1 - 組み込みモーション検知(システムモーション検知イベント)

	接続を削除
	カメラ 1
	カメラ 2

この例では、カメラ2でモーションを検知した時に、選択した Matrix 受信 PC がカメラ2に接続され るように指定しています。

□-- 空 event
 □-- 空 カメラ 1 - 組み込みモーション検知(システムモーション検知イベント)
 □-- ア 接続
 □-- ア 技続
 □-- プ カメラ 2

ログ

ログについて

システムは、システム機能の活動を示すさまざまなログを生成します。このシステムでは、以下のタ イプのログが使用できます。

名前	説明
Management Application ログ ファイル	Management Application の活動を示します。Management Application を使用すると、1 日ごとに新しいログファイルが作成さ れます。
	このタイプのログは無効にはできません。Management Application ログファイルの名前は、AdminYYYYMMDD.log という構造になりま す。たとえば、Admin20091231.log などです。
Recording Server サービスログ ファイル	Recording Server サービスの活動を示します。このサービスを使用 すると、1日ごとに新しいログファイルが作成されます。
	このタイプのログは無効にはできません。Recording Server サービ スログファイルの名前は、RecordingServerYYYYMMDD.log という 構造になります。たとえば、RecordingServer20091231.log などで す。
Image Server サービスログファ イル	Image Server サービスの活動を示します。このサービスを使用する と、1日ごとに新しいログファイルが作成されます。
	このタイプのログは無効にはできません。Image Server サービスロ グファイルの名前は、ISLog_YYYYMMDD.log という構造になりま す。たとえば、ISLog_20091231.log などです。
Image Import サービスログファ イル	Image Import サービスの活動が示されます。このサービスはプリア ラーム画像を取り込んだり、取り込んだ画像をカメラのデータベー スに保存する際に使用されます。
	プリアラーム画像は、選択したカメラでのみ使用可能な機能です。 イベントが発生する直前の画像を、カメラから監視システムへEメ ールで送信することができます。このサービスを使用すると、1日 ごとに新しいログファイルが作成されます。
	このタイプのログは無効にはできません。Image Import サービスロ グファイルの名前は、ImageImportLog_YYYMMDD.log という構造 になります。たとえば、ImageImportLog20091231.log などです。

	説明
イベントログファイル	登録されているイベントの活動を示します。イベントが発生した日 ごとに、新しいログファイルが作成されます。
	このタイプのログは無効にはできません。イベントログファイルを 表示するには、XProtect Smart Client(再生タブのアラートセクシ ョンを使用)を使用する必要があります。
	XProtect Smart Client ユーザーの活動を示します(監査ログが有効である場合)。
監査ログファイル	監査ログが有効であれば、毎日クライアントユーザーが活動した日 ごとに、新しいログが作成されます。監査ログファイルの名前は、 is_auditYYYMMDD.log という構造になります。たとえば、 is_audit20091231.log などです。「is_」は、監査ログが Image Server サービスによって生成された事実を示す接頭辞です。

ログの場所

すべてのログファイルは、デフォルトでは、使用しているオペレーティングシステムで該当する**すべてのユーザー**フォルダに配置されます。デフォルトでは、**7**日間保存されます。ログを設定する際に、 ログファイルの場所や、ログを保存しておく日数を変更することができます。

ログの構造

システムによって生成されるログファイルの大半は、W3C 拡張ログファイル形式に準拠した共有構造 を使用しています。それぞれのログファイルは、ヘッダーおよび複数のログ行で構成されます。

- ヘッダーには、ログ行に含まれている情報の概要が示されます。
- ログ行は、主に2つの部分で構成されます。ログ自身の情報ならびに暗号化部分です。暗号化部分は、復号化し、比較することによって、ログファイルが改ざんされていないことを確認できます。

ログの整合性チェック

Management Application ログファイル以外のすべてのログファイルは、24 時間ごとに整合性チェックを受けます。整合性チェックは、システムの Log Check サービスによって実行されます。整合性チェックの結果は、LogCheck_YYYYMMDD.log というファイル名構造のファイルに自動的に書きこまれます。たとえば、LogCheck_20091231.log などとなります。ログファイルと同様、ログチェックファイルも、デフォルトでは、使用しているオペレーティングシステムの該当するすべてのユーザーフォルダに配置されます。

矛盾があると、ログチェックファイルに書かれたエラーメッセージの形式でレポートされます。 考えられるエラーメッセージ:
	前明
Log integrity information was not found. Log integrity can't be guaranteed.	ログファイルの整合性をチェックできませんでした。
Log information does not match integrity information. Log integrity can't be guaranteed.	ログファイルは存在しますが、予期される情報が含まれていません。 ログの整合性は保証できません。
[Log file name] not found	ログファイルが存在しませんでした。
[Log file name] is empty	ログファイルは存在しましたが、空白でした。
Encrypted data missing in [log file name] near line [#]	ログファイルの最後の行が、検証基準を満たしません。
Encrypted data missing in [log file name] near line [#]	関連するログファイルの暗号化部分がありませんでした。
Inconsistency found in [log file name] near line [#]	ログファイルが、暗号化部分と一致しません。
Inconsistency found in [log file name] at beginning of log file	ログファイルのヘッダーが正しくありません。この状況が発生する 可能性が高いのは、ユーザーがログファイルの先頭部分を削除しよ うとした場合です。

注意: ログチェックファイルには、エラー関連以外のメッセージも表示されます。

システム、イベント、監査ログの設定

XProtect Enterprise は、さまざまなログを生成することができます。

ログを設定するには、次の手順を実行してください。

- 1. 拡張設定を展開し、ログを右クリックし、プロパティを選択します。
- 2. イベントログおよび監査ログを含む、システムログのプロパティ 『145ページの"ログプロパ ティ"参照 』を指定します。管理者は、監査ログの有効/無効のみ設定可能です。その他のすべ てのログは必須となります。
- 3. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ログプロパティ

XProtect Enterprise は、さまざまなタイプのログを生成することができます。ログを設定する場合、以下を定義できます。

ログ (Management Application ログ、Recording Server サービスログ、Image Server サービスログ、 Image Import サービスログ)

名前	説明
パス	これらのログファイルは、デフォルトでは、使用しているオペレー ティングシステムで該当する すべてのユーザー フォルダに配置され ます。
	ログファイルに他の場所を指定するには、必要なフォルダへのパス をパスフィールドで入力するか、フィールドの横にある参照ボタン をクリックして、必要なフォルダを参照します。
ログ保存日数	Management Application およびサービスを使用すると、1日ごとに 新しいログファイルが作成されます。このフィールドで指定されて いる日数よりも古いログファイルは、自動的に削除されます。デフ ォルトでは、ログファイルは30日間保存されます。他の日数(最 長で 9999日)を指定する場合は、フィールドの値を上書きしてく
	ださい。たとえフィールドの値が0でも、当日のアクティビティは 必ず記録されます。したがって、0を指定すると当日のアクティビ ティのみを記録し、1を指定すると当日のアクティビティに加えて 過去1日分が保存されることになります。

イベントログ

	説明
パス	これらのログファイルは、デフォルトでは、使用しているオペレー ティングシステムで該当する すべてのユーザー フォルダに配置され ます。
	ログファイルに他の場所を指定するには、必要なフォルダへのパス をパスフィールドで入力するか、フィールドの横にある参照ボタン をクリックして、必要なフォルダを参照します。
ログ保存日数	イベントが発生した日ごとに、新しいログファイルが作成されます。 このフィールドで指定されている日数よりも古いログファイルは、 自動的に削除されます。デフォルトでは、ログファイルは7日間保 存されます。他の日数(最長で9999日)を指定する場合は、フィ ールドの値を上書きしてください。たとえフィールドの値が0でも、 当日のアクティビティは必ず記録されます。したがって、0を指定 すると当日のアクティビティのみを記録し、1を指定すると当日の
	すると当日のアクティビティのみを記録し、1を指定すると当日の アクティビティに加えて過去1日分が保存されることになります。

監査	ロ	グ
	•	/

名前	説明
監査ログの有効化	監査ログは、XProtect Enterprise のログで唯一強制的でないタイプ のログです。チェックボックスを選択/選択解除すると、監査ログが 有効/無効になります。
パス	これらのログファイルは、デフォルトでは、使用しているオペレー ティングシステムで該当する すべてのユーザー フォルダに配置され ます。 ログファイルに他の場所を指定するには、必要なフォルダへのパス を パス フィールドで入力するか、フィールドの横にある参照ボタン をクリックして、必要なフォルダを参照します。
ログ保存日数	監査ログが有効であれば、毎日クライアントユーザーが活動した日 ごとに、新しいログが作成されます。このフィールドで指定されて いる日数よりも古いログファイルは、自動的に削除されます。デフ オルトでは、ログファイルは7日間保存されます。他の日数(最長 で9999日)を指定する場合は、フィールドの値を上書きしてくだ さい。当日のアクティビティは必ず記録されます(監査ログが有効 で、ユーザーのアクティビティがある場合)。したがって、1を指 定すると当日のアクティビティに加えて、過去1日分が保存される ことになります。0(ゼロ)を指定すると、監査ログは無限に(ディ スク容量が許す限り)保存されることに注意してください。
最小ログ間隔	イベントを記録する間隔の最小の秒数。イベントを記録する間隔の 秒数を大きく設定することで、監査ログのサイズを小さくできます。 デフォルトは 60 秒です。
シーケンス時間	同じシーケンス内とみなす表示画像の秒数です。秒数を大きくする ことで、記録される表示シーケンス数を減らすことができ、監査ロ グのサイズを小さくできます。デフォルトは 10 秒です。

通知

通知について

ハードウェアの障害やカメラでのモーション検知が発生した場合に、SMS および E メールで通知され るように設定することができます。

Eメール

Eメールについて

Eメール通知では、監視システムに異常が発生した場合にただちに通知を受けることができます。 XProtect Enterprise は、以下の場合に、任意の数の宛先へ Eメール通知を送信できます。

- モーション 『91ページの"モーション検知と領域の除外"参照』 が検知された場合
- イベントが発生した場合、それぞれのイベントについて、Eメール通知を受信するか否かを個別に選択できます。
- アーカイブ『127ページの"アーカイブについて"参照』が失敗した場合(アーカイブプロパティ 『136ページの"アーカイブ"参照』の一部として、Eメール通知を選択している場合)

Eメール通知の設定

E メール通知は次のように設定します。

- 1. **拡張設定**を展開し、通知を展開し、Eメールを右クリックし、プロパティを選択します。
- 2. Eメールの有効化チェックボックスを選択すると、Eメールの使用が有効化されます。
- 3. 必要なプロパティ 『148ページの"メッセージ設定(Eメール)"参照 』を指定します。
- 4. Eメール通知に関連付けるスケジュールプロファイルを選びます。システムには、2つの基本スケジュールプロファイル(常にオンと常にオフ)があり、これらを編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたスケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。

Eメール (プロパティ)

メッセージ設定(Eメール)

Eメール通知のメッセージ設定には以下の項目があります。

	説明
有効化	Eメール通知の使用を有効にして、さらにプロパティを指定できる ようにします。

名前	説明
受信者	システムがメール通知を送信する E メールアドレスを指定します。 2 つ以上の E メールアドレスを入力する場合は、セミコロンでアド レスを区切ってください(例:aa@aa.aa; bb@bb.bb; cc@cc.cc)。
件名	メール通知の件名を入力します。
メッセージテキスト	メール通知のメッセージ本文を入力します。カメラの情報ならびに 日付や時刻の情報は、自動的にメール通知に含まれます。
変数	 通知に変数を含めるにはリンクをクリックします。オプションは以下のとおりです。 トリガされたイベントの名前 カメラ名 トリガ時間(通知が登録された時刻) エラーテキスト(例:カメラの障害)
類似したメッセージを無視する 期間:	類似した通知の送信を無視する秒数を指定します。この機能によって、関連する問題を解決する前に、何度も同じ通知を受け取ることを防げます。
スケジュールプロファイルを使 用する	使用したいスケジュールプロファイルを選択します。デフォルトでは、 常にオン、常にオフ のいずれかを選択します。または 新規追加… を選択してカスタムスケジュールを設定『153ページの"通知スケジ ュールプロパティ"参照』します。

添付設定(E メール)

Eメール通知の添付設定には以下の項目があります。

	要件
画像を含む	チェックボックスを選択して、静止画をEメール通知に含めます。 選択すると、それぞれのEメール通知に1件または複数の静止JPEG 画像が含まれます。
	添付される画像は、インシデントの前、インシデントの後、実際の インシデントの画像であり、通知の原因となったインシデントが中 央になります。
	重要: E メール通知がオンになっていても、デバイスに画像が記録 されていなければ、送信される E メール通知には画像は含まれません。

	要件
画像の数	Eメールに含めたい画像の数。1~20の画像を含めることができます。
画像間の時間(ミリ秒):	各画像の間での最小時間(ミリ秒単位)。0~300秒(5分)の時間 を設定できます。
E メールに画像を埋め込む	チェックボックスを選択して、画像を直接Eメールに埋め込みます。

サーバー設定(Eメール)

Eメール通知のサーバー設定には以下の項目があります。

	要件
送信者の E メールアドレス	Eメール通知の送信者として使用したい Eメールアドレスを入力します。
送信メールサーバーアドレス (SMTP)	E メール通知の送信で使用したい SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)サーバーの名前を入力します。
	他のメール転送方法と比較した際に、SMTPには、メールクライア ントからトリガされる警告を自動的に回避できるという利点があり ます。それ以外の場合は、この警告により E メールクライアントが 自動的に E メールメッセージを送信しようとしているという通知が 送られます。
	TLS (Transport Layer Security)およびその前身である SSL (Secure Socket Layer)がサポートされています。
送信メールサーバーのポート (SMTP)	メールサーバーのポートを入力します。デフォルトのポート番号は 25 です。
サーバーのログインが必要です	SMTP サーバーを使用する際にユーザー名とパスワードを使用する 必要がある場合は、このチェックボックスを選択します。
セキュリティタイプ	使用したいセキュリティのタイプを選びます。
ユーザー名	サーバーのログインが必要です を選択した場合にのみ必要です。 SMTP サーバーがユーザ認証を必要とする場合、ユーザー名を指定 します。
パスワード	サーバーのログインが必要です を選択した場合にのみ必要です。 SMTP サーバーの使用で必要なパスワードを指定します。
最大添付サイズ(MB)	添付する画像の最大サイズを指定します。

SMS

※本機は、SMS での通知には対応していません。

SMS について

SMS 通知により、監視システムに異常が発生した場合に、ただちにモバイルデバイスへ通知を送信することができます。SMS 通知機能を使用するには、システムがインストールされているサーバーに3G/USB モデムを接続する必要があります。

以下の場合に、自動的に SMS 通知を送信することができます。

- モーションが検知された場合
- イベントが発生した場合それぞれのイベントについて、SMS 通知を受信するか否かを個別に 選択できます。
- アーカイブが失敗した場合(アーカイブプロパティの一部として、SMS 通知を選択している場合)

SMS 通知の設定

SMS 通知は次のように設定します。

- 1. 拡張設定を展開し、通知を展開し、SMS 通知を右クリックし、プロパティを選択します。
- 2. SMS の有効化チェックボックスを選択すると、SMS 通知が有効化されます。
- 3. 必要なプロパティを指定します。
- 4. SMS 通知に関連付けるスケジュールプロファイルを選びます。

注意: システムには、2つの基本スケジュールプロファイル(常にオンと常にオフ)があり、これら を編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラ に対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたス ケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。

SMS プロパティ

メッセージ設定(SMS)

SMS 通知のメッセージ設定には以下の項目があります。

コンポーネント	要件
SMS を有効化	SMS 通知の使用を有効にして、さらにプロパティを指定できるよう にします。
受信者	受信者の電話番号を示します。複数の宛先に SMS を送信するには、 セミコロンで電話番号を区切ります。
メッセージテキスト	SMS 通知に必要なメッセージ本文を指定します。メッセージ本文に は、以下の文字のみが使用できます。a~z、A~Z、0~9、カンマ(,)、 ピリオド(.)。カメラの情報ならびに日付や時刻の情報は、すべて自 動的に SMS 通知に含まれます。
変数	 通知に変数を含めるにはリンクをクリックします。オプションは以下のとおりです。 トリガされたイベントの名前 カメラ名 トリガ時間(通知が登録された時刻) エラーテキスト(例:カメラの障害)
類似したメッセージを無視する 期間:	類似した通知の送信を無視する秒数を指定します。この機能によって、関連する問題を解決する前に、何度も同じ通知を受け取ることを防げます。
スケジュールプロファイルを使 用する	使用したいスケジュールプロファイルを選択します。デフォルトでは、常にオン、常にオフのいずれかを選択します。または新規追加 を選択してカスタムスケジュールを設定『153ページの"通知スケジ ュールプロパティ"参照』します。

サーバー設定 (SMS)

SMS 通知のサーバー設定には以下の項目があります。

	要件
シリアルポート	USB/3G モデムで使用するシリアルポートを選択します。ポートを 選択できるリストに、システムが動作しているコンピュータで空い ているシリアルポートが示されます。
スピード	使用している USB モデムデバイスのボーレート。デフォルト値は 9600 ボーです。ボーレートには任意のカスタム値を指定できます が、Milestone では、非常に経験が豊富なユーザー以外はボーレート を変更しないことを推奨しています。
SIM カード PIN コード	USB/3G モデムに挿入されている SIM カードの PIN コードを指定します。

	要件
	世界中のさまざまな言語に対応するために、さまざまな種類の SMS エンコーディングが存在しています。XProtect Enterprise には、以 下のオプションがあります。
	• 7ビット
	 8ビット (デフォルト)
	 16 ビット
SMS エンコーディング	7 ビットの暗号化によって、最大 160 文字までを 1 件の SMS メッ セージで使用できますが、使用できる文字の種類には制限がありま す。
	8 ビットの暗号化は、より特殊な文字の使用が可能な標準です。この場合、最大 140 文字までを 1 件の SMS メッセージで使用できます。
	ラテン系以外のアルファベット言語では、16 ビットの暗号化が必要 です。たとえば、アラビア語、中国語、韓国語、日本語、キリル文 字のアルファベット言語では 16 ビットの SMS エンコーディングが 必要です。組織でこれらの言語のいずれかを使用している場合、16 ビットのエンコーディングを使用するように XProtect Enterprise を 設定する必要があります。16 ビットの場合、1 件の SMS メッセー ジで使用できる最大文字数は 70 文字です。

スケジュール

通知スケジュールについて

通知スケジュールによって、Eメール『148ページの"メッセージ設定(Eメール)"参照』や SMS『151 ページの"メッセージ設定(SMS) "参照』による通知を使用する際のスケジュールプロファイルを設定できます。

通知スケジュールプロパティ

Eメールまたは SMS による通知を使用する通知スケジュールの設定では、以下を指定します。

	要件
通知プロファイル	通知スケジュールプロファイルの関連プロファイル (例 : 常にオン) を選択します。
	以下に基づいて、スケジュールプロファイルを作成して、通知スケ ジュールプロファイルを指定します。
	• 期間(例:月曜日の08:30から17:45まで)、青色で表示:

Central

※本機は、Central には対応していません。

Central について

Central 設定によって、XProtect Central サーバーで必要なログイン設定を指定して、ステータス情報 やアラームを取得するために監視システムにアクセスできるようにします。Milestone 統合プラット フォームを使用している場合、これは監視システムにアクセスするための Milestone 統合プラットフ ォームのログイン設定を指定するダイアログでもあります。

XProtect Central の有効化

- 1. 拡張設定を展開し、Central を右クリックし、プロパティを選択します。
- 2. Milestone XProtect Central の有効化チェックボックスを選択すると、Central 接続の使用が 有効化されます。
- 3. 必要なプロパティを指定します。
- **4. Management Application** の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

Central のプロパティ

	説明
Milestone XProtect Central の 接続を有効にする	Central 接続の使用を有効にして、さらにプロパティを指定できるようにします。

名前	説明
ログイン名	XProtect Enterprise と Central サーバー、または Milestone 統合プラ ットフォームの間での接続で使用する名前を入力します。指定する 名前は、Central サーバーまたは Milestone 統合プラットフォームの 間で一致している必要があります。
パスワード	XProtect Enterprise と Central サーバー、または Milestone 統合プラ ットフォームの間での接続で使用するパスワードを入力します。指 定するパスワードは、Central サーバーまたは Milestone 統合プラッ トフォームの間で一致している必要があります。
ポート	XProtect Central サーバーまたは Milestone 統合プラットフォーム が、XProtect Enterprise サーバーへアクセスする際に接続する必要 があるポート番号を入力します。指定するポート番号は、XProtect Central サーバーまたは Milestone 統合プラットフォームの間で一致 している必要があります。デフォルトポートは 1237 です。

アクセスコントロール

※本機は、アクセスコントロールには対応していません。

アクセスコントロールの統合について

XProtect <Access Control Module 2014>を使用する場合、この機能の使用を許可するライセンスを購入しておく必要があります。

XProtect <Access Control Module 2014>に対するベンダー固有のプラグインを持つベンダーからのア クセスコントロールシステムで、**XProtect <Access Control Module 2014>**を使用することができま す。

アクセスコントロール統合機能では、XProtect とお客様のアクセスコントロールシステムを簡単に統合できる新機能が搭載されています。特長:

- XProtect Smart Client 内の複数のアクセスコントロールシステムを操作できる共通のユーザー インターフェース
- アクセスコントロールシステムをより素早く強力に統合
- 追加機能(以下参照)

XProtect Smart Client では、オペレータは以下の機能を使用できます。

アクセスコントロールイベントのライブ監視

- オペレータによるアクセスリクエストの受理
- マップの統合
- アクセスコントロールイベントのアラーム定義
- アクセスコントロールイベントの調査
- ドア状態の概要と制御の一元化
- カードホルダー情報

統合を開始する前に、ライセンスに加え、イベントサーバー上にベンダー固有の統合プラグインをイ ンストールする必要があります。

アクセスコントロールシステム統合ウィザード

アクセスコントロールシステム統合ウィザードでは、アクセスコントロールシステムの最初のインテ グレーションを段階的に設定します。ウィザードを使用して、基本的な設定作業を行うことができま す。後日に、さらに詳細な設定を行うことができます。

アクセスコントロール統合ウィザードを開始する前に、イベントサーバーに統合プラグインがインス トールされていることを確認します。

一部のフィールドには入力が必要であり、統合プラグインからデフォルト値が継承されるフィールドもあります。したがって、統合するアクセスコントロールシステムに応じて、ウィザードの外観が異なる場合があります。

ウィザードを開始するには、ノードツリーで**アクセスコントロール**を選択し、右クリックして、新規 作成をクリックします。

このウィザードの手順:

アクセスコントロールシステム統合の作成	156
アクセスコントロールシステムへの接続	157
関連付けられたカメラ	157
最終的な概要	157

アクセスコントロールシステム統合の作成

追加したいアクセスコントロールシステムの名前を入力し、接続詳細を指定します。指定しなければ ならないパラメータはシステムのタイプによって異なりますが、通常は、アクセスコントロールシス テムサーバーのネットワークアドレス、アクセスコントロール管理者のユーザー名とパスワードを指 定します。

設定を取得するためにアクセスコントロールシステムにログインする際に、ビデオ管理システムは、 指定したユーザー名とパスワードを使用します。 また、統合プラグインでは、ウィザードでリストされないセカンダリパラメータを定義することもありますが、これらは統合を設定した後に 一括設定で変更することができます。パラメータのデフォルト値は、プラグインまたは XProtect システムによって入力されます。

アクセスコントロールシステムへの接続

プラグインが正常に統合されると、取得されたアクセスコントロールシステムの設定の概要が表示されます。ウィザードの次のステップに進む前に、このリストにすべての項目が統合されていることを 確認します。

関連付けられたカメラ

アクセスコントロールシステムのアクセスポイントを XProtect システムのカメラとマッピングし、イベントに対してドアからの関連ビデオを表示します。

また、複数のカメラを単一のアクセスポイントにマッピングすることもできます。そして、XProtect Smart Client ユーザーは、たとえばイベントを調査する時などに、すべてのカメラからのビデオを表 示できるようになります。

さらに、XProtect Smart Client のユーザーは、アクセスモニターの表示項目を設定する場合など、いずれかのカメラを追加することもできます。

ライセンスを付与されているドアは、デフォルトで有効になっています。チェックボックスをクリア すると、ドアが無効になり、ライセンスが解放されます。

最終的な概要

デフォルト設定を統合プラグインから継承したアクセスコントロールシステム統合が、XProtect で正 常に作成されました。クライアントユーザーは、XProtect Smart Client にログインして、新しいアク セスコントロールシステムを確認、使用する必要があります。

Management Client で、この構成を改良することができます。

アクセスコントロールプロパティ

一般設定タブ(アクセスコントロール)

名前	説明
有効化	システムはデフォルトで有効であり、これは XProtect Smart Client で十分な権限を有するユーザーに対して表示されること、XProtect システムがアクセスコントロールイベントを受信することを意味し ています。
	メンテナンス中などにシステムを無効にして、不要なアラームが作 成されるのを避けることができます。
名前	アクセスコントロールインテグレーションの名前が、そのまま Management Application やクライアントで表示されます。既存の名 前を、新しい名前で上書きすることができます。
説明	アクセスコントロール統合の説明を提供します。これはオプション です。
統合プラグイン	最初のインテグレーションで選択したアクセスコントロールシステ ムのタイプを示します。
最後の設定更新	アクセスコントロールシステムから最後にインポートした日付およ び時刻を示します。
設定の更新	ドアの追加や削除など、XProtectのアクセスコントロールシステム で行った変更を反映させる必要がある場合は、このボタンをクリッ クします。
	アクセスコントロールシステムからの設定変更の概要が表示されま す。新しい設定を適用する前に、リストをレビューして、アクセス コントロールシステムに正しく反映されていることを確認します。
オペレータのログインが必要	アクセスコントロールシステムが異なるユーザー権限をサポートし ている場合、クライアントユーザーに対して追加のログインを有効 にします。
	このオプションが表示されるのは、統合プラグインが異なるユーザ ー権限をサポートしている場合だけです。

以下のフィールドの名前や内容は、統合プラグインからインポートされます。以下は、通常みられる 一部のフィールドの例です。

	説明
アドレス	統合されたアクセスコントロールシステムを提供するサーバーのア ドレスを入力します。
ポート	アクセスコントロールシステムが接続するサーバーのポート番号を 指定します。

	説明
ユーザー名	アクセスコントロールシステムで定義されている、XProtectの一体型システムの管理者となるユーザーの名前を入力します。
パスワード	ユーザーのパスワードを指定します。

関連付けられたカメラタブ(アクセスコントロール)

ドアのアクセスポイントとカメラ、マイク、スピーカーの間でのマッピングを提供します。カメラは 統合ウィザードの一部として関連付けますが、いつでもセットアップを変更することができます。カ メラに関連付けられたマイクやスピーカーを通じて、マイクやスピーカーへのマッピングが内在して います。

名前	説明
ドア	アクセスコントロールシステムで定義されている、使用可能なドア のアクセスポイントを、ドア別にグループ化してリストします。
	有効 : ライセンスを付与されているドアは、デフォルトで有効になっています。ドアを無効にして、ライセンスを解放することができます。
	ライセンス :ドアのライセンスがあるか、ドアが有効期限切れである かを示します。ドアが無効であれば、このフィールドは空白です。
	削除:削除 をクリックすると、アクセスポイントからカメラを削除します。すべてのカメラを削除すると、関連するカメラのチェックボックスが自動的にクリアされます。
	XProtect システムで設定されているカメラをリストします。
カメラ	リストからカメラを選択し、関連するアクセスポイントでドラッグ およびドロップして、カメラとアクセスポイントを関連付けます。

アクセスコントロールイベントタブ(アクセスコントロール)

イベントをグループ化できるイベントカテゴリです。イベントカテゴリの構成は、XProtect システムのアクセスコントロールの動作に影響を与えます。たとえば、複数のタイプのイベントでの単一のアラームのトリガを定義することができます。

名前	説明
アクセスコントロールイベント	アクセスコントロールシステムからインポートしたアクセスコント ロールイベントをリストします。統合プラグインが、デフォルトで のイベントの有効化や無効化を制御します。イベントは、統合後に いつでも有効または無効にできます。
	イベントが有効化されると、XProtect のイベントデータベースに保 存され、たとえば、XProtect Smart Client でのフィルタリングでも 使用できます。
ソースタイプ	アクセスコントロールイベントを起動できるアクセスコントロール ユニットを表示します。
	アクセスコントロールイベントに、「なし」、「1つ」、「複数」 のイベントカテゴリのいずれかを割り当てます。システムは、統合 中に関連するイベントカテゴリを自動的にイベントにマッピングし ます。これによって、XProtect システムのデフォルト設定が有効に なります。マッピングは、いつでも変更できます。
	統合イベントカテゴリは、以下のとおりです。
	▶ アクセスが拒否されました
	▶ アクセスを許可済み
	▶ アクセスリクエスト
イベントカテゴリ	▶ アラーム
	▶ エラー
	▶ 警告
	また、統合プラグインによって定義されるイベントやイベントカテ ゴリも表示されますが、独自のイベントカテゴリを定義することも 可能です。 ユーザー定義カテゴリ を参照してください。
	重要:Corporate システムでイベントカテゴリを変更する場合は、 既存のアクセスコントロールのルールが正しく機能することを確認 してください。

	説明
ユーザー定義カテゴリ	ユーザー定義のイベントカテゴリを作成、変更、削除することがで きます。
	統合カテゴリが要件に適合しない場合は、イベントカテゴリを作成 することができます。たとえば、アクセスコントロールのアクショ ンをトリガするイベントの定義と組み合わせることができます。
	カテゴリは、XProtect システムに追加されたすべての統合システム にグローバルに適用されます。これにより、たとえばアラーム定義 など、システムをまたいだ操作のセットアップが可能になります。
	ユーザー定義のイベントカテゴリを削除すると、統合によって警告 が使用されている場合には警告を受信します。それでも削除すると、 たとえばアクセスコントロールのアクションなど、このカテゴリで 行ったすべての設定が動作しなくなります。

アクセスコントロールアクション

アクションは、トリガするイベントに基づいて、XProtect Smart Client でのアクセスコントロールの 動作を指定します。

以下に関連して、1つまたは複数のアクションを指定できます。

- イベントカテゴリ
- アクセスコントロールシステムからのイベント
- XProtect システムからのイベント

トリガするイベントは、特定のアクセスコントロールユニットから、またはアクセスコントロールユ ニットのグループからになります。

名前	説明
イベントのトリガ	アクションをトリガするイベントカテゴリをリストから選択しま す。このリストには、組み込み、プラグイン、ユーザー定義のイベ ントカテゴリが含まれています。
	アクセスコントロールイベント を選択すると、イベントカテゴリの 代わりに特定のアクセスコントロールイベントに基づくトリガが作 成されます。
	外部イベント を選択すると、XProtect システムの入力イベントに基 くトリガが作成されます。
	それぞれのトリガに対して、 ソース フィールドで入力ソースを指定 します。

	アクションが影響を与えるソースを選択します。オプションは、ト リガイベントフィールドの設定によって異なります。
	イベントカテゴリおよびアクセスコントロールのイベントについ て、以下を選択します。
	 すべてのドア
	 個々のドア
ソース	 その他
	その他をクリックして、複数のドア、ドアのアクセスポイント、またはアクセスコントロールシステムの他のユニットを選択します。
	外部イベントの場合:
	XProtect システムのイベントおよび入力デバイスのリストから、ソ ースを選択します。
時間プロファイル	トリガされた場合に実行するアクションの時間プロファイルを選択 します。
	拡張設定 の一部として、時間プロファイルを設定します。
	アクションのタイプの選択:
	 アクセスリクエスト通知の表示
	• PTZ プリセットに移動
	 記録の開始
アクション	 システムアクション
	それぞれのアクションに対して、アクションの詳細を指定します。
	複数のアクションを設定するには、 アクセスコントロールアクションの追加 をクリックします。たとえば、週末や営業時間に応じて、 同じイベントで別のアクションをトリガする場合に、これを行います。
アクセスコントロールアクショ ンの追加	クリックして、必要に応じて、アクションを追加および定義します。

	アクションのパラメータを設定:
	アクセスリクエスト通知を表示:
	 特定のイベントが発生したときに、通知ユーザーインターフェ ースを通して、どのカメラ、マイク、またはスピーカーに XProtect Smart Client ユーザーが接続するかを指定します。ま た、通知ポップアップが表示されるときにユーザーに警告する 音声を指定します。通知でさらに多くのコマンドを有効にする には、コマンドの追加を参照してください。
	PTZ プリセットに移動:
アクションの詳細	 カメラを指定し、事前に設定されているプリセットから、カメ ラのパターンや、所定のイベントが発生した場合にプリセット に戻る時間を選択します。
	記録の開始:
	 所定のイベントが発生した場合に、記録を開始るするカメラおよび期間を指定します。
	システムアクション:
	 XProtect システムで事前に定義されているアクションを指定します。
	XProtect Smart Client のアクセスリクエスト通知ダイアログで、どのコマンドをボタンとして使用可能にするかを選択します。
	関連するアクセスリクエストコマンド:
	 ソースユニットで使用できるアクセスリクエスト操作に関連するすべてのコマンドを有効にします。たとえば、ドアを開けるなどです。
	すべての関連コマンド:
コマンドの追加	 ソースユニットで、すべてのコマンドを有効にします。
	アクセスコントロールコマンド:
	▶ 選択したアクセスコントロールコマンドを有効にします。
	システムコマンド:
	 XProtect システムで事前に定義されているコマンドを有効にします。

カードホルダータブ(アクセスコントロール)

カードホルダータブを使用して、アクセスコントロールシステムにおけるカードホルダーの情報をレビューします。

	説明
カードホルダーの検索	カードホルダーの名前の文字を入力すると、存在する場合はリスト に表示されます。
名前	アクセスコントロールシステムから取得したカードホルダーの名前 をリストします。
タイプ	以下のようにカードホルダーのタイプをリストします。 ・ 従業員 ・ 警備員 ・ 来客

使用しているアクセスコントロールシステムが、XProtect システムでの写真の追加/削除をサポートしている場合、カードホルダーに写真を追加することができます。これは、アクセスコントロールシステムにカードホルダーの写真が含まれていない場合に便利です。

名前	説明
画像の選択	カードホルダーの画像ファイルへのパスを指定します。アクセスコ ントロールシステムが画像を管理している場合は、このボタンは表 示されません。
	使用できるファイル形式は、.bmp、.png、.jpg です。
	最大に表示されるように、画像はサイズ変更されます。
	Milestone では、正方形の画像を使用することを推奨しています。
画像の削除	クリックすると、画像を削除します。アクセスコントロールシステ ムに画像があった場合、削除後はこの画像が表示されます。

サーバーアクセス

サーバーアクセスについて

以下の2通りの方法により、システムのサーバーへのクライアントアクセスを設定できます。

• ウィザードによる設定: ガイドに従い、クライアントからのサーバーへのアクセス方法や、 クライアントで使用するユーザーについて設定します。このウィザードを使用すると、すべ てのカメラ(これ以降に追加するものを含む)に対し、追加したすべてのユーザーがアクセス

拡張設定

できるようになります。これが望ましくない場合、アクセス設定、ユーザー、ユーザー権限 を個別に指定してください。

• 拡張設定: これは、以前のバージョンでは画像サーバー管理と呼ばれていました。

登録済みサービスについて

登録済みサービスには、システムにインストール済みで、実行中のサービスが表示されます。個々の サービスについて、以下の情報が表示されます。

	説明
有効	関連するサービスが有効であることを示します。
名前	サービスの名前。
説明	サービスの説明。
アドレス	サービスが使用する内外部のアドレス。

サービスの内外部のアドレスは変更できます。これを行うには、**編集**ボタンをクリックして、関連す る内外部のアドレスを入力します。すべてのサービスが編集できるわけではありません。**削除**ボタン をクリックして、システムからサービス登録を削除することもできます。サービスを削除する前に、 確認メッセージが表示されます。

サーバーアクセスの設定

- 1. 拡張設定を展開し、サーバーアクセスを右クリックし、プロパティを選択します。
- サーバーアクセス、ローカル IP 範囲、言語サポートおよび XML エンコーディングの必要なプロパティを指定します。システムには、2 つの基本スケジュールプロファイル(常にオンと常にオフ)があり、これらを編集または削除することはできません。これらが組織のニーズに合わない場合、それぞれのカメラに対してカスタマイズされたスケジュールプロファイルを複数作成できます。カスタマイズされたスケジュールプロファイルは、必要に応じて複数の目的で再利用できます。
- **3.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

このオプションを使用する場合は、クライアントのアクセスからクライアントユーザーを個別に設定 します。個別のユーザーの追加、ユーザーグループの追加、ユーザーおよびグループの権限の設定を 参照してください。

サーバーアクセスプロパティ

サーバーアクセス

サーバーアクセスを設定 『165ページの"サーバーアクセスの設定"参照』(つまりシステムサーバー へのクライアントのアクセス)する場合、以下を指定します。

	説明
サーバー名	XProtect Enterprise サーバーの名前は、クライアントに表示される とおりです。クライアントを設定できる権限を持っているクライア ントユーザーは、ビューを作成した時にサーバーの名前を確認でき ます。
ローカルポート	クライアントと監視サーバーの間での通信で使用するポート番号で す。デフォルトのポート番号は80ですが、組織でポート80を他の 目的で使用している場合には変更できます。
インターネットアクセスを有効 にする	ルーターまたはファイアウォールを経由して、インターネットから サーバーにアクセスする必要がある場合は、このチェックボックス を選択します。このオプションを選択する場合、以下のフィールド で、パブリック(外部)IPアドレスとポート番号も指定します。パ ブリックアクセスを使用する場合、使用するルーターまたはファイ アウォールは、パブリックIPアドレスおよびポートに送信される要 求が、XProtect Enterprise サーバーのローカル(内部)IPアドレス およびポートに転送されるように設定する必要があります。
インターネットアドレス	システムサーバーをインターネットから使用できる必要がある場合、使用するパブリック IP アドレスまたはホスト名を指定します。
インターネットポート	システムをインターネットから使用できる必要がある場合、使用するポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は80です。 必要に応じて、ポート番号を変更できます。

	説明
	同時に接続できるクライアントの数を制限することができます。 XProtect Enterprise の設定や、使用しているハードウェアやソフト ウェアの性能によって、同時に接続するクライアントの数を制限す ることでサーバーの負荷を軽減できます。同時に接続を許可された 数を超えるクライアントがログインを試みても、アクセスが許可さ れるのは指定された数のクライアントだけです。許可される数を超 えている場合、クライアントにはログインを試みた時にエラーメッ セージが送られます。
最大クライアント数	デフォルトでは、最大で 10 のクライアントが同時に接続できます。 異なる最大数を指定したい場合は、値を上書きしてください。
	ヒント : 無制限の数のクライアントに同時接続を許可する場合は、 最大クライアント数フィールドに 0 (ゼロ)を入力します。
	XProtect Enterprise のクライアントセッションには、4分のセッションタイムアウト期間が適用されます。クライアントユーザーはこれに全く気付かない場合がほとんどです。ただし、最大クライアント数の値を1に設定すると、このセッションタイムアウト期間が非常に明確になります。この場合、許可される単一のクライアントユーザーがログアウトすると、再度ログインできるまでに4分が経過する必要があります。

ローカル IP 範囲

システムがローカルネットワークから受信したことを認識できるローカル IP 範囲を指定できます。これは、ローカルネットワークで異なるサブネットを使用している場合に関係します。

- 1. 追加ボタンをクリックします。
- 2. 開始アドレス欄で、範囲の最初の IP アドレスを指定します。
- 3. 終了アドレス欄で、範囲の最後の IP アドレスを指定します。

必要なだけ繰り返して、他のローカル IP 範囲も追加します。

言語サポートと XML エンコーディング

システムのサーバーとクライアントで使用する言語/文字セットを選択できます。

	要件
文字エンコード/言語	必要な言語/文字セットを選択します。 例:監視サーバーが日本語版 Windows で動作する場合は、日本語を 選択します。アクセスクライアントも日本語版 Windows を使用する 場合、これで必ずクライアントのサーバーとの通信で正しい日本語 および文字エンコーディングが使用されます。マスター/スレーブ 設定を使用する場合、すべての関連するサーバーで同じ言語/文字セ
	ットを指定するようにしてください。

マスター/スレーブ

マスターおよびスレーブについて

システムサーバーのマスター/スレーブのセットアップを行うことができます。マスター/スレーブの セットアップを行うことで、リモートユーザーが同時に複数のサーバーに自動的に接続できます。リ モートユーザーがマスターサーバーへ接続すると、即座にスレーブサーバーへもアクセスできるよう になります。

スレーブサーバーの接続をチェックするには、ステータスの更新をクリックしてスレーブへの接続を チェックし、接続されているスレーブの数をシステムにレポートさせます。

マスターおよびスレーブサーバーの設定

- 1. 拡張設定を展開し、マスター/スレーブを右クリックし、プロパティを選択します。
- 2. マスターサーバーとして有効化チェックボックスを選択します。
- 3. 追加をクリックして、スレーブサーバーを追加します。
- 4. スレーブサーバーのプロパティを指定します。準備ができたら OK をクリックします。

マスター/スレーブプロパティ

マスターサーバーおよびスレーブサーバーには、以下のプロパティを設定できます。

マスターサーバープロパティ

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

拡張設定

	説明
マスターサーバーとして有効化	マスターサーバーとして有効化を選択します。
タイムアウト	スレーブ更新のタイムアウトを設定します。詳細は、下記のスレー ブでのステータスの更新を参照してください。
追加	スレーブサーバーを追加できます。リストで マスターサーバー を選 択し、 追加 ボタンをクリックします。

XProtect Enterprise でのみ使用可能なプロパティ:

	これを選択すると、バージョン 8.0 以前のバージョンの XProtect Enterprise を実行するスレーブがサポートできます。
バージョン 8.0 以前のスレーブ	バージョン8.0以前のスレーブを選択すると、すべてのスレーブ(8.0 以前およびそれ以降)のスレーブ状態更新機能が無効になります。 詳細は、下記のスレーブでのステータスの更新を参照してください。

マスターサーバーを選択すると、削除ボタンが無効になり、追加ボタンが有効になります(マスター サーバーとして有効化を選択している場合)。追加ボタンをクリックすることで、スレーブサーバー をマスターサーバーに追加できますが、マスターサーバーは削除できなくなります。

スレーブサーバープロパティ

	説明
アドレス	スレーブサーバーの IP アドレス。
ポート	スレーブサーバーのポート番号。
削除	スレーブサーバーのリストから、スレーブサーバーを削除します。 リストでスレーブサーバーを選択し、 削除 ボタンをクリックします。

スレーブサーバーをマスターサーバーにしたい場合は、元のマスターサーバーでマスターサーバーと して有効化を選択解除して、OK をクリックします。ナビゲーションペインで、マスターサーバーに したいスレーブサーバーを右クリックし、プロパティを選択します。次に、マスターサーバーとして 有効化を選択します。さらに、追加をクリックして、スレーブサーバーを新しいマスターサーバーに 追加します。

スレーブでのステータスの更新

マスター設定の概要およびスレーブ設定の概要のテーブルエリアで、ステータスの更新をクリックすると、追加したスレーブサーバーを確認/更新できます。ステータスダイアログが起動され、その後、 スレーブサーバーのステータスを通知します。

バージョン 8.0 より前のスレーブを選択すると、全スレーブでスレーブステータスの更新ができなく なります。そのためステータスの更新が無効になります。スレーブ設定の概要テーブルでは全スレー ブでスレーブサーバーのステータスが適用外となります。 バージョン8.0より前のスレーブを選択していなければ、バージョン8.0より前のスレーブのスレーブ ステータスは**アクセス不能になります。**バージョン 8.0 以降のスレーブのスレーブステータスには、 実際のステータスが反映されます。

ユーザー

ユーザーについて

ユーザーという用語は、主にクライアントを通じて監視システムに接続するユーザーを意味します。 こうしたユーザーは、次の2種類の方法で設定できます。

- **■基本ユーザー**として、ユーザー名/パスワードの組み合わせで認証。
- **Windows ユーザー**として、Windows ログインに基づく認証。

ユーザーアクセス設定ウィザードでは、両方のタイプのユーザーを追加することも、別個に追加する ことも可能です(基本ユーザーの追加『170ページ』および Windows ユーザーの追加『171ページ』 を参照)。

ユーザーをグループ化することで、グループ内のすべてのユーザーに対して一度で権限を指定するこ とができます。類似のタスクを実行するユーザーが多数存在する場合、これで大幅に作業量を削減で きます。ユーザーグループは、あくまでも Management Application での実用的な目的のためだけに作 成・使用します。いかなる方法でも、一元的ディレクトリサービスのユーザーグループと接続される ことはありません。グループを使用したい場合、ユーザーを追加する前に必ずグループを作成してく ださい。既存のユーザーをグループに追加することはできません。

最後に、管理者グループも、ユーザーの下にリスト化されます。これは、管理目的のデフォルトの Windows ユーザーグループであり、自動的に Management Application へのアクセス権が与えられま す。

基本ユーザーの追加

基本ユーザーを追加する際、個別のユーザーについて、基本ユーザー名とパスワード認証で監視シス テム専用のユーザーアカウントを作成します。ユーザーをグループに含めたい場合、ユーザーを追加 する前に必ず必要なグループを追加したことを確認してください。既存のユーザーをグループに追加 することはできません。

基本ユーザーは、次の2種類の方法で追加できます。1つは、ユーザーアクセス設定ウィザードによる方法です。あるいは、次の方法で基本ユーザーを追加します。

- 1. 拡張設定を展開し、ユーザーを右クリックし、新しい基本ユーザーの追加を選択します。
- 2. ユーザー名を指定してください。パスワードを指定し、再入力して、パスワードが正しく入 力されていることを確認します。**OK**をクリックします。
- 3. 一般アクセスおよびカメラアクセスのプロパティを指定します。これらのプロパティによって、ユーザーの権限が決まります。 **OK** をクリックします。

4. Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

Windows ユーザーの追加

Windows ユーザーを追加する際、サーバーでローカルに定義されたユーザー(または、XProtect Enterprise 2013+ および XProtect Professional 2013+ でサポートされている Active Directory®から) をインポートして、Windows ログインに基づいて認証します。この方法は、基本ユーザーの概念より 一般的にセキュリティが向上するため、Milestone ではこの方法を推奨しています。ユーザーをグル ープに含めたい場合、ユーザーを追加する前に必ず必要なグループを追加したことを確認してください。既存のユーザーをグループに追加することはできません。

Windows ユーザーは、次の2種類の方法で追加します。1つは、ユーザーアクセス管理ウィザードによる方法です。あるいは、Windows ユーザーを次の方法で追加します。

1. **拡張設定**を展開し、ユーザーを右クリックし、新しい Windows ユーザーの追加を選択します。 この操作で、ユーザーまたはグループの選択ダイアログが開きます。

デフォルトでは、ユーザーはディレクトリ全体からですが、以下をクリックして、これを絞り込むことができます。 場所... ボタン。

- 2. 選択するオブジェクト名を入力ボックスで、関連するユーザー名を入力してから、名前のチェック機能を使って、ユーザー名を確認します。複数のユーザー名を入力する場合は、それ ぞれの名前をセミコロンで区切ります。例:Brian; Hannah; Karen; Wayne。
- 3. 完了したら、**OK**をクリックします。
- 4. 一般アクセスおよびカメラアクセスのプロパティを指定します。これらのプロパティによっ て、ユーザーの権限が決まります。
- 5. **OK**をクリックします。
- **6.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

クライアントで**ローカルデータベース**のログから追加されたユーザーは、ユーザー名の一部として、 サーバー名、PC名、IPアドレスを指定してはなりません。正しく指定したユーザー名の例: USER001。正しく指定されていないユーザー名の例:PC001/USER001。さらに、ユーザーはパスワ ードや必要なサーバーの情報も指定する必要があります。

ユーザーグループの追加

ユーザーグループは、あくまでも Management Application での実用的な目的のためだけに作成・使用 します。いかなる方法でも、Active Directory[®]などの一元的ディレクトリサービスのユーザーグルー プと接続されることはありません。

ユーザーをグループ化することで、グループ内のすべてのユーザーに対して一度で権限 『172ページ の"ユーザーおよびグループの権限の設定"参照 』を指定することができます。類似のタスクを実行す るユーザーが多数存在する場合、これで大幅に作業量を削減できます。ユーザーを追加する前に、グ ループを追加したことを確認してください。既存のユーザーをグループに追加することはできません。

- 1. **拡張設定**を展開し、ユーザーを右クリックし、新しいユーザーグループの追加を選択します。
- 2. 名前を指定します。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 <
 & ' " \ / : * ? | []
- 3. **OK** をクリックします。
- 一般アクセス 『173ページ』およびカメラアクセス 『174ページ』のプロパティを指定します。これらのプロパティによって、以後グループに追加されるメンバーの権限が決まります。
- 5. **OK**をクリックします。
- **6.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。
- これで、ユーザーをグループに追加することができます。ナビゲーションペインで、作成したグループを右クリックし、必要に応じて基本ユーザーの追加 『170ページ』または Windows ユーザーの追加 『171ページ』をクリックします。

ユーザーおよびグループの権限の設定

ユーザー/グループの権限は、ユーザー/グループの追加プロセス中に設定します。基本ユーザーの追加 『170ページ』、Windows ユーザーの追加 『171ページ』、ユーザーグループの追加 『171ページ』を参照してください。基本ユーザーおよび Windows ユーザーは、ユーザーアクセスの管理ウィ ザード 『47ページ』でも追加できることに注意してください。ただし、ウィザードを使用すると、 追加するすべてのユーザーが、後の段階で追加する新しいカメラを含めて、すべてのカメラに対して アクセスできるようになります。

後の段階で、ユーザーまたはグループの権限を編集したくなった場合:

- 1. **拡張設定**を展開し、ユーザーを展開し、該当するユーザーまたはグループを右クリックして、 プロパティを選択します。
- 一般アクセス 『173ページ 』およびカメラアクセス 『174ページ 』のプロパティを編集します。これらのプロパティによって、ユーザー/グループの権限が決まります。 OK をクリックします。
- **3.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

ユーザープロパティ

ユーザー情報

名前	説明
ユーザー名	ユーザー名を編集します。これを編集できるのは、選択したユーザ ーが基本ユーザーである場合だけです。名前は一意であり、以下の 特殊文字を含むことはできません。 < > & ' " ¥ / : * ? []
パスワード	編集できるのは、選択したユーザーのタイプが基本ユーザーである 場合だけです。パスワードを編集します。入力確認のため、パスワ ードを再入力することを忘れないでください。
ユーザータイプ	選択したユーザーのタイプが基本ユーザーか Windows ユーザーグ ループかを表示する、編集不可のフィールドです。

グループ情報

	説明
グループ名	グループ名を編集します。 名前は一意であり、以下の特殊文字を含むことはできません。 <> & ' " ¥ / : * ? []

一般アクセス

基本ユーザー 『170ページの"基本ユーザーの追加"参照 』、Windows のユーザー 『171ページの "Windows ユーザーの追加"参照 』またはグループ 『171ページの"ユーザーグループの追加"参照 』 を追加または編集する際に、一般アクセスの設定を指定することができます。

	説明
ライブ	XProtect Smart Client の ライブ タブにアクセスできるかどうか。
再生	XProtect Smart Client の再生タブにアクセスできるかどうか。
設定	XProtect Smart Client で設定モードにアクセスできるかどうか。 ヒント:ライブ、再生、設定のチェックボックスを選択解除すると、 ユーザー/グループが XProtect Smart Client で使用できる機能を効 率良く無効にすることができます。たとえば、ユーザーが休暇中で ある場合などに、ユーザー/グループを削除する代わりの一時的な代 替として利用することができます。

名前	説明
共有ビューの編集	XProtect Smart Client の共有グループでビューを作成、編集できる機能。
	すべてのユーザーが、共有グループに配置されたビューにアクセス できます。ユーザー/グループにこの権限がない場合、共有グループ は保護され、XProtect Smart Client では錠前アイコンで示されます。
プライベートビューの編集	XProtect Smart Client のプライベートグループでビューを作成、編 集できる機能。プライベートグループに置かれたビューは、それを 作成したユーザーしかアクセスできません。ユーザー/グループにこ の権限がない場合、プライベートグループは保護され、XProtect Smart Client では錠前アイコンで示されます。ユーザーに独自のビ ューを作成できる権限を拒否することが望ましい場合があります。 たとえば、帯域の利用を制限するなどの特定のケースが考えられま す。 共有およびプライベートビューに関する詳細情報は、別個の XProtect Smart Client のマニュアルを参照してください。
管理者アクセス	チェックボックスを選択すると、Management Application にアクセスし、操作できる権限をユーザーに許可します。管理者のメンバーが複数いる場合、このチェックボックスを選択解除して、他の管理者が Management Application にアクセスできないようにすることができます。

カメラアクセス

基本ユーザー 『170ページの"基本ユーザーの追加"参照 』、Windows のユーザー 『171ページの "Windows ユーザーの追加"参照 』またはグループ 『171ページの"ユーザーグループの追加"参照 』 を追加または編集する際に、カメラアクセスの設定を指定することができます。

カメラのリストで、操作したいカメラを選択します。リストの最後のアイテムである新規カメラがシ ステムに追加された場合、そのカメラに対する権限で、ユーザー/グループに対して今後追加するカメ ラへのアクセスを許可することができます。

ヒント: 複数のカメラのアクセスに対して、同じ機能を使用する必要がある場合は、キーボードで SHIFT または CTRL を押しながら、複数のカメラを選択することができます。

選択したカメラについて、**アクセス**チェックボックスで、ユーザー/グループがライブ表示や再生にア クセスできるかどうかを指定します。許可する場合は、ライブ表示と再生の**両方**にアクセスできるか どうかを指定します。この場合、選択したカメラでどのサブ機能が使用可能であるかを指定します。 サブ機能は、ウィンドウの下方にある2列にリスト化されます。左の列にはライブ表示に関連する機 能が、右の列には再生に関連する機能がリスト化されます。

カメラのアクセス設定チェックボックスは、権限の階層構造のように機能します。**アクセス**チェック ボックスが選択解除されていると、他のすべてが選択解除され、無効になります。**アクセス**チェック ボックスが選択されているが、たとえば**ライブ**チェックボックスが選択解除されていると、**ライブ**チ ェックボックスの下位にあるものはすべて選択解除され、無効になります。

選択した列によって、選択したカメラで、ライブまたは再生の以下のデフォルト機能が使用できま す。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	機能
PTZ	PTZ (パン/チルト/ズーム) カメラのナビゲーション機能を使用します。 ユーザー/グループは、1 台または複数の PTZ カメラに対するアクセ ス権限がある場合にだけ使用できます。
PTZ プリセット位置	PTZカメラを特定のプリセット位置へ移動させるナビゲーション機能を使用します。ユーザー/グループは、ユーザー/グループに、定義されたプリセット位置で1台または複数のPTZカメラに対するアクセス権限がある場合にだけ使用できます。
	ND
PIZノリセットの官理	XProtect Smart Client で、PIZ 位直を官理しよう。
PIZ ノリセットの管理 出力	XProtect Smart Client で、PIZ 位置を管理します。 選択したカメラに関連する出力(照明、サイレン、ドアの開放)を アクティブ化します。
PIZ ノリセットの管理 出力 イベント	XProtect Smart Client で、PIZ 位置を管理します。 選択したカメラに関連する出力(照明、サイレン、ドアの開放)を アクティブ化します。 選択したカメラに関連する手動トリガイベントを使用します。この 機能は、XProtect Smart Client でのみ使用できます。
PIZ ノリセットの管理 出力 イベント 受信音声	XProtect Smart Client で、P12 位置を管理します。 選択したカメラに関連する出力(照明、サイレン、ドアの開放)を アクティブ化します。 選択したカメラに関連する手動トリガイベントを使用します。この 機能は、XProtect Smart Client でのみ使用できます。 選択したカメラに関連するマイクから入力された音声を聞きます。 この機能は、XProtect Smart Client でのみ使用できます。

XProtect Enterprise および XProtect Professional でのみ使用可能なプロパティ:

送信立書	選択したカメラに関連付けたスピーカーを通じて、相手と話します。
达 伯肖卢	この機能は、XProtect Smart Client でのみ使用できます。

すべての XProtect ソフトウェアのバージョンで使用可能なプロパティ:

	機能
AVI/JPEG のエクスポート	AVI 形式のムービークリップや JPEG 形式の静止画として、証拠を エクスポートします。
データベースのエクスポート	証拠をデータベース形式でエクスポートします。この機能は、 XProtect Smart Client でのみ使用できます。
シーケンス	選択したカメラからのビデオを再生する際は、 シーケンス 機能を使 用します。

スマートサーチ	選択したカメラの画像で、選択した1つまたは複数のエリアでモー ションを検索します。この機能は、XProtect Smart Client でのみ使 用できます。
録音された音声	選択したカメラに関連するマイクから録音された音声を聞きます。

選択したカメラが関連する機能をサポートしていなければ、機能を選択することはできません。たと えば、PTZ 関連の権限が使用できるのは、関連するカメラが PTZ カメラである場合だけです。一部の 機能は、ユーザー/グループの一般アクセス 『173ページ』 プロパティに依存しています。

複数のカメラを選択しており、一部のカメラではある機能が該当するが、すべてのカメラには該当し ない場合、ウィンドウの下部に四角で埋められたチェックボックスが表示されます。例:カメラ A で は、イベントの使用を許可するように選択しており、カメラ B では許可していません。リストでカメ ラ A とカメラ B の両方を選択すると、ウィンドウの下部のイベントチェックボックスは四角で埋めら れています。別の例:カメラ C は PTZ カメラで、PTZ プリセット位置設定が許可されていますが、カ メラ D は PTZ カメラではありません。リストでカメラ C とカメラ D の両方を選択すると、PTZ プリ セット位置チェックボックスは四角で埋められています。

アラーム管理

基本ユーザー 『170ページの"基本ユーザーの追加"参照 』、Windows のユーザー 『171ページの "Windows ユーザーの追加"参照 』またはグループ 『171ページの"ユーザーグループの追加"参照 』 を追加または編集する際に、XProtect Smart Client アラーム管理の権限を指定することができます。

名前	説明
	XProtect Smart Client のユーザーは、以下の操作ができます。
	 アラームの管理(例えば、アラームの優先度を変更したり、 他のユーザーにアラームを委譲したりする)
管理	 XProtect Smart Client のアラームリストやマップなどで、ア ラームを確認する。
	 複数のアラームの状態を同時に変更(例えば新規から割り当 て済みへ変更)します(これを行わない場合はアラームごと に状態を変更する必要があります)。
	XProtect Smart Client のユーザーは、以下の操作ができます。
ビュー	 アラームを表示
	 アラームレポートを印刷します。
無効	XProtect Smart Client のユーザーが、アラームを無効にできるよう にします。

サービス

サービスについて

標準インストールを行うと、以下の機能はすべて自動的にインストールされます。デフォルトでは、 サービスはシステムサーバーのバックグラウンドで自動的に実行されます。必要であれば、 Management Application から個別にサービスを起動・停止することもできます。詳細は、サービスの 起動および停止 『178ページの"サービスを開始および停止する"参照 』を参照してください。

	説明
Milestone Recording Server サ ービス	監視システムの重要な部分です。ビデオストリームがシステムに転送されるのは、Recording Server サービスが実行されている間だけです。
	XProtect Smart Client にログインしているユーザーに、監視システ ムへのアクセスを提供します。
Milestone Image Server サービ ス	注意: Windows サービスで Image Server サービスが、「Local System」以外のアカウント(たとえばドメインユーザーなど)でロ グインするように設定されている場合、監視サーバー自体以外のコ ンピュータにインストールされている XProtect Smart Client のイン スタンスは、サーバーのホスト名を使用してサーバーにログインす ることはできません。それらのユーザーは、サーバーの IP アドレス を入力する必要があります。
Milestone Image Import サービ ス	アラーム前後の画像を取り込むため、および取り込んだ画像をカメ ラデータベースに保存するために使用します。アラーム前後の画像 は、選択したカメラでのみ使用可能な機能であり、これによってイ ベント発生の直前および直後の画像をカメラから監視システムへ、 Eメールで送信できます。アラーム前後の画像と、システムのレコ ーディング前後の機能 『86ページの"記録(録画) "参照』を混同 しないように注意してください。
Milestone Log Check サービス	システムのログファイルで、整合性チェックを実行します。詳細に ついては、ログの概要を参照してください。
Milestone Event Server サービ ス	すべてのアラームやマップ関連の通信を管理します。イベント、画 像ファイル、マップの設定を保存し、監視システムに関するステー タス情報を利用可能にします。
Milestone Mobile サービス	レコーディングサーバーとモバイルデバイス(スマートフォンやタ ブレットなど)の間、ならびにレコーディングサーバーと Web ブラ ウザの間での通信を管理します。

カスタムインストールを実行する場合は、Mobile サーバーおよびイベントサーバーをインストールし ないよう選択できます。インストールしないよう選択した場合、Mobile サービスおよび Event Server サービスはサービス概要に表示されません。

サービスを開始および停止する

システムサーバーでは、デフォルトでいくつかのサービスがバックグラウンドで実行されています。 必要に応じて、それぞれのサービスを個別に開始または停止することができます。

- 1. **拡張設定**を展開し、サービスを選択します。これで、それぞれのサービスのステータスが表示されます。
- ここで、停止ボタンをクリックして、それぞれのサービスを停止することができます。サービスが停止すると、ボタンは開始に変わり、必要な時にサービスを再度開始することができます。

サーバー

Mobile サーバー

Mobile サーバーについて

Mobile サーバーが、モバイルデバイスや XProtect Web Client の Milestone Mobile クライアントからシ ステムへのログインを処理します。

正しいログイン情報が入力されると、Mobile サーバーは関連するレコーディングサーバーから Milestone Mobile クライアントヘビデオストリームを配信します。これにより、レコーディングサー バーはインターネットに接続しないため、安全性の高い環境を提供できます。Mobile サーバーがレコ ーディングサーバーからビデオストリームを受信すると、コーデックとフォーマットの複雑な変換を 処理し、モバイルデバイス上でビデオストリーミングできます。

直接ストリーミングについて

※本機は、直接ストリーミングには対応していません。

デフォルトでは、システムがカメラからシステムヘビデオを転送する際に、Milestone Mobile サーバーはビデオ画像をカメラで使用されているコーデックから JPEG ファイルヘデコードします。このデ コードのプロセスは、Milestone Mobile サーバーのリソースをかなり消費します。直接ストリーミン グによって、Milestone Mobile サーバーは元のコーデックのフォーマットで画像を XProtect Web Client へ転送できるので、デコードが不要となり、そのため Milestone Mobile サーバーに対する負荷 を軽減できます。

Milestone Mobile サーバーの一般設定で、Milestone Mobile サーバーの直接ストリーミングを有効にして、XProtect Web Client のユーザーが直接ストリーミングを使用できるようにすることができます。 ただし、管理者はXProtect Web Client ですべてのユーザーが必ず直接ストリーミングを使用しなけれ ばならなように選択することもできます。管理者がこの設定を選択すると、すべてのユーザーが必ず 直接ストリーミングを使用することになります。直接ストリーミングを必須とすると、Milestone Mobile クライアントのすべてのインスタンスは接続できなくなるので、管理者は、ユーザーが厳密に Milestone Mobile サーバーを XProtect Web Client との接続だけのために使用している場合以外はこの 設定を使用してはなりません。

直接ストリーミングを使用するには、XProtect Web Client にアクセスする PC にプラグインをインス トールする必要があります。XProtect Web Client は、このプラグインをインストールするかどうかを 自動的にユーザーに確認します(サポートされているブラウザ経由で接続する場合)。

ビデオプッシュについて

ビデオプッシュは Milestone Mobile クライアントの機能であり、これによってモバイルデバイスのカ メラを使用して、たとえばアラームやイベントを調査する際に証拠を収集できます。これは、モバイ ルデバイスからシステムへ、ビデオストリームを送信することによって、行われます。Mobile サーバ ーの設定で、システムでビデオプッシュ機能を使用できるユーザーの数を設定できます。

Mobile サーバーの追加と編集

- 1. 以下のいずれか1つを実行します。
 - 新しいサーバーを追加するには、Mobile サーバーを右クリックします。表示されるメニ ューから新規作成を選択します。
 - o Mobile サーバーを編集するには、目的のサーバーを選択します。
- 2. 目的のプロパティを入力または編集します。
- 3. 右下端で、OK をクリックします。
- 4. 上部のツールバーでファイル > 保存をクリックします。

重要:ログイン方法、すべてのカメラビューを有効化、出力およびイベント、およびキーフレームを 有効化を編集する場合、変更を有効にするには、XProtect Mobile クライアントをシステムに再接続す る必要があります。

ビデオプッシュチャンネルの追加

それぞれのビデオプッシュチャンネルには、個別にカメラのライセンスが必要です。

ビデオプッシュチャンネル 『179ページの"ビデオプッシュについて"参照 』を追加するには、次の操 作を実行してください。

- 1. ビデオプッシュタブで、ビデオプッシュチェックボックスを選択して、この機能を有効にし ます。
- 右下にある追加をクリックして、ビデオプッシュチャンネルをチャンネルマッピングに追加 します。
- チャンネルは、ユーザー名を通じてデバイスにマッピングされます。システムで既にセット アップされているユーザーアカウントからユーザー名を選択して、関連するビデオプッシュ チャンネルに関連付けます。(例:admin)

ビデオプッシュチャンネルを既に作成済みのユーザーと関連付けないと、ログインしても Milestone Mobile クライアントでビデオプッシュを使用することができません。

- システムに、ビデオプッシュドライバーをハードウェアデバイスとして追加 『180ページの" ビデオプッシュドライバーをハードウェアデバイスとして追加する"参照 』します。ビデオプ ッシュドライバーは自動ハードウェア検索では表示されないので、手動でハードウェアデバ イスを検出する方法を選択しなければなりません。
- 5. ビデオプッシュタブで、カメラの検索をクリックします。成功すると、新しく追加されたビデオプッシュドライバーがこのリストに表示されます。構成を保存して、ビデオプッシュドライバーを使用する準備をします。

必要ない場合には、ビデオプッシュチャンネルを削除できます。これを行うには、関連するチャンネ ルを選択し、右下の**削除**をクリックします。

ビデオプッシュドライバーをハードウェアデバイスとして追加する

ビデオプッシュチャンネルを追加する場合、Management Application にビデオプッシュドライバーを 追加する必要があります。操作方法:

- 1. Management Application で新しいハードウェアの追加ウィザードを開きます。
- 2. 手動オプションを選択します。ビデオプッシュドライバーは、自動ハードウェア検索では検 出されません。
- 3. 手動でハードウェアデバイス設定 『180ページの"ハードウェアデバイス設定の追加"参照 』 を指定し、ハードウェアドライバーを選択します。
- 完了すると、ビデオプッシュドライバーがビデオプッシュチャンネルに関連付けられている はずです。これを行うには、Mobile サーバー > ビデオプッシュタブに戻り、カメラの検索を クリックします。

ハードウェアデバイス設定の追加

ハードウェアデバイスの追加ウィザードでビデオプッシュドライバーを追加する際に、以下の設定を 指定します。

名前	説明
IPアドレス	Milestone Mobile サーバーの IP アドレスを入力します。通常は本 機のアドレスを入力します。
	ビデオプッシュドライバーのポート番号を入力します。このポート は、Milestone Mobile サーバーと、XProtect サーバーの間での通信 で使用されます。
ボート	重要: 設定するポート番号は、ビデオプッシュの設定を指定した時 と同じポート番号でなければなりません 『183ページの"ビデオプ ッシュ"参照』。ポート番号が同一でなければ、ビデオプッシュチ ャンネルは動作できません。(例:40001)
名前	説明
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------
ユーザー名	これを追加した『179ページの"ビデオプッシュチャンネルの追加" 参照 』時のビデオプッシュチャンネルに関連付けられているもの と同じユーザー名を選択します。(例:admin)
パスワード	ビデオプッシュドライバーのパスワードを入力します。ビデオプッ シュドライバーのパスワードは、Milestone です(これは変更でき ません)。
ドライバー	Video Push Driver を選択します。

完了したら、Milestone Mobile サーバーの> ビデオプッシュタブへ移動し、カメラの検索をクリック して、ビデオプッシュチャンネルの設定を完了させます。

Mobile サーバーの設定

一般設定

Milestone Mobile サーバーの一般設定を入力します。

	説明
サーバー名	Milestone Mobile サーバーの名前を入力します。
説明	オプションで、Milestone Mobile サーバーの説明を入力します。
Mobile サーバー	現在インストールされているすべての Milestone Mobile サーバーから、特定の XProtect システムまでの間で選択します。リストには、 実行中の Milestone Mobile サーバーだけが表示されます。
接続タイプ	クライアントが Milestone Mobile サーバーに接続する方法を選択し ます。以下のオプションから選択できます。HTTP のみ、HTTP お よび HTTPS、または HTTPS のみ。
クライアントタイムアウト (HTTP)	Mobile サーバーが実行中であることを、Milestone Mobile クライア ントで表示すべき時間枠を設定します。デフォルト値は 30 秒です。 Milestone では、この時間枠を 長くしない ことを推奨しています。
ログイン方法	Mobile サーバーへのログインがどのように行われるかを選択しま す。以下のオプションから選択できます。自動、Windows 認証、 基本認証。通常は基本認証を使用します。
XProtect Web Client を有効化	XProtect Web Client の使用を有効にします。 ※本機は、XProtect Web Clinet には対応していません。
すべてのカメラビューを有効化	すべてのカメラビューの表示を有効/無効にします。この表示には、 レコーディングサーバーのすべてのカメラが含まれています(ユー ザー権限で許可されている場合)。

名前	説明
アクションを有効化 (出力および イベント)	Milestone Mobile クライアントでアクションを有効/無効にします。
キーフレームを有効化	ビデオストリームを有効/無効にして、キーフレームだけをストリー ムします。キーフレームだけを有効にすることで、帯域幅の使用の みを減らせます。
	Milestone Mobile サーバーが、フルサイズの画像を Milestone Mobile クライアントまたは XProtect Web Client に送信することを有効に します。
フルサイズの画像を有効にする	フルサイズの画像を有効にすると、帯域幅の使用が増え、このオプ ションを有効にすると、 パフォーマンス 設定のすべてのルール設定 が無効になることに注意してください。
	※本機ではこの設定は表示されません
直接ストリーミング	XProtect Web Client での直接ストリーミングの処理方法を選びま す。ユーザーに直接ストリーミングを強制する、可能な場合にユー ザーに直接ストリーミングを強制する、あるいは直接ストリーミン グの使用をまったく強制しない、のいずれかを選択します。
	※本機ではこの設定は表示されません
構成のバックアップ	Milestone Mobile サーバーの構成をインポートまたはエクスポート します。システムは、構成を XML ファイルに保存しています。

サーバーステータス

Mobile サーバーのステータス詳細を表示します。詳細は読み取り専用です:

名前	説明
サーバー有効化日	前回の停止後、Mobile サーバーが動作し続けている期間を示します。
CPU 使用状況	Mobile サーバーでの現在の CPU 使用状況を示します。
内部帯域幅	Mobile サーバーと関連するレコーディングサーバーの間で使用されている現在の帯域幅を示します。
外部帯域幅	モバイルデバイスと Mobile サーバーの間で使用されている現在の 帯域幅を示します。
ユーザー名	Mobile サーバーのユーザーで、Mobile サーバーに接続されているユ ーザー名を表示します。
ステータス	Mobile サーバーと、対象となる Milestone Mobile クライアントのユ ーザーの間の現在の関係を表示します。ユーザーが接続されている か(キーおよび暗号化用の認証資格情報を交換するサーバーの準備 状態)、ユーザーが実際にログインしているかのいずれかを、 接続中 または ログイン で表示します。

名前	説明
帯域幅使用状況	対象となる Mobile サーバーのクライアントユーザーによる帯域幅 の使用状況を表示します。
ライブストリーム	対象となる Milestone Mobile クライアントのユーザーに対して現在 開かれているビデオストリームの数を表示します。
ストリームの再生	関連する Mobile クライアントユーザーに対して現在開かれている ビデオストリーム再生の数が表示されます。
ビデオプッシュストリーム	関連する Mobile クライアントユーザーに対して現在開かれている ビデオプッシュストリームの数が表示されます。 ※本機では表示されません
直接ストリーム	関連する Mobile のユーザーに対して現在開かれている直接ストリ ーミングを使用しているライブビデオストリームの数を表示しま す。
	※本機では表示されません

ビデオプッシュ

ビデオプッシュを有効にする場合、以下の設定を指定します。

名前	説明
ビデオプッシュ	Mobile サーバーでビデオプッシュを有効にします。
チャネル数	XProtect システムで有効なビデオプッシュチャンネルの数を指定します。
チャネル	関連するチャンネルのチャンネル数が表示されます。編集不可。
ポート	関連するビデオプッシュチャンネルのポート番号。
MAC アドレス	関連するビデオプッシュチャンネルの MAC アドレス。
ユーザー名	関連するビデオプッシュチャンネルに関連するユーザー名を入力し ます。(例:admin)
カメラ名	カメラが特定されている場合、カメラの名前が表示されます。

必要なステップすべて 『179ページの"ビデオプッシュチャンネルの追加"参照 』が完了したら、カメ ラの検索をクリックして、関連するカメラを検索します。

エクスポート

エクスポートされる録画データについて、以下の設定を指定します。

拡張設定

名前	説明
エクスポート	選択すると、クライアントによるエクスポートが可能になります。
タイムスタンプを含める	選択すると、エクスポートされるビデオにタイムスタンプを追加し ます。
AVI ファイルで使用されたコー デック	AVI ビデオファイルをエクスポートする際のエンコードで使用する コーデックを選択します。
	※コーデックのリストは Mobile サーバーを新規作成完了後に表示 されます。
エクスポート先	録画をエクスポートする場所を指定します。
	通常は D:ドライブ等の HDD 上に新規でフォルダーを作成し、そのフォルダーを指定してください。
次の期間が経過したエクスポー ト済み録画を削除する	録画が削除されるまでの日数を入力します。
	この値を1日に設定した場合でも、エクスポートされたファイルは すぐには削除されません。変更を適用してから最長で10分後に削 除されることに注意してください。Mobile サーバーを手動で再起動 して、変更がすぐに反映されるようにすることもできます。
エクスポートフォルダのサイズ の上限	録画をエクスポートするフォルダサイズの上限を入力して、設定し ます。
他のユーザーが作成したエクス ポートを見る	このチェックボックスを選択すると、ユーザーは他のユーザーによって行われたエクスポートを表示できるようになります。

自動エクスポート

特定のイベント発生時に自動的にエクスポートさせたい場合、自動エクスポートの実行ルールを設定する必要があります。

有効	このチェックボックスを選択すると、 ります。	自動エクスポートが有効にな
----	---------------------------	---------------

有効チェックボックスの下の列に、自動的にエクスポートされたビデオのリストがあります。個々の 自動エクスポートの詳細は以下を参照してください。

名前	ルールの名前です。
項目	自動エクスポートをトリガする項目です。
イベント	自動エクスポートをトリガするイベントを表示します。
カメラ	ビデオを録画するカメラです。
継続時間	エクスポートするビデオファイルの長さです。
エクスポートのタイプ	エクスポートファイルの形式が、データベース形式であるか、AVI 形式であるかを示します。

エクスポートされた録画

この列では、個々のルールによりエクスポートされた録画について、以下が詳細表示されます。

名前	エクスポートされた録画の名前です。
ステータス	エクスポートされた録画の状態です。
カメラ	エクスポートされた録画を提供したカメラです。
タイムスタンプ	エクスポートが開始された時刻を示します。
継続時間	エクスポートされた録画の長さです。
ユーザー	エクスポートされた録画を提供したユーザーの名前です。
MB	エクスポートされた録画のサイズです。

注意: 更新をクリックすると、表示されているエクスポートされた録画のリストが更新されます。

設定なしの自動エクスポートのルール

自動エクスポートを起動させるために新しいルールを追加する際は、以下を指定します:

	説明
名前:	たとえば、 ドアが開いている または モーションの検知 など、作成し たルールの名前を提供します。
項目:	自動エクスポートをトリガする項目を選択します。これは、カメラ、 入力、出力、イベントなどです。 カメラを選択すると、カメラがビデオを受け取れるように、これが 自動的に選択されます。
項目タイプ:	選択したアイテムの種類を表示します。
イベント:	自動エクスポートをトリガために使用するイベントを表示します。 使用可能なイベントのタイプは、選択した項目によります。
カメラ:	ビデオを録画する、カメラを選択します。
継続時間:	ビデオクリップをエクスポートする必要がある時間の長さ。
エクスポートタイプ:	エクスポートされたビデオクリップが XProtect データベースフォ ーマットであるか、あるいは AVI ファイルとしてエクスポートする かを選びます。

パフォーマンス

※本機は、パフォーマンスタブには対応していません。

パフォーマンスタブで、Milestone Mobile サーバーのパフォーマンスに関して以下の制限を設定します:

レベル1

レベル1は、Milestone Mobile サーバーにデフォルトで設定される制限です。ここで設定するすべての制限は、必ず Milestone Mobile のビデオストリームに適用されます。

名前	説明
レベル1	チェックボックスを選択すると、Milestone Mobile サーバーのパフ オーマンスに第一レベルの制限が適用されます。
最大 FPS	Milestone Mobile サーバーからクライアントへの送信の1秒当たりのフレーム数(FPS)について制限を設定します。
最大画像解像度	Milestone Mobile サーバーからクライアントへ送信される画像の解 像度について制限を設定します。

レベル2

レベル1でデフォルトである制限とは異なるレベルの制限を強制したい場合は、代わりにレベル2の チェックボックスを選択します。最初のレベルで設定したレベルより高い設定はできません。たとえ ば、レベル1で最大 FPS を 45 に設定すると、レベル2 では、最大 FPS は 44 以下にしか設定できま せん。

名前	説明
レベル 2	チェックボックスを選択すると、Milestone Mobile サーバーのパフ オーマンスに第二レベルの制限が適用されます。
CPU しきい値	システムがビデオストリームの制限を強制する前に、Milestone Mobile サーバーの CPU 負荷について閾値を設定します。
帯域幅しきい値	システムがビデオストリームの制限を強制する前に、Milestone Mobile サーバーの帯域負荷について閾値を設定します。
最大 FPS	Milestone Mobile サーバーからクライアントへの送信の1秒当たり のフレーム数(FPS)について制限を設定します。
最大画像解像度	Milestone Mobile サーバーからクライアントへ送信される画像の解 像度について制限を設定します。

レベル3

また、レベル3チェックボックスを選択して、制限に関する第三レベルを作成することもできます。 レベル1およびレベル2で設定したレベルより高い設定はできません。たとえば、レベル1で最大 FPSを45に、レベル2で32に設定すると、レベル3では最大FPSは31以下にしか設定できません。

	説明
レベル3	チェックボックスを選択すると、Milestone Mobile サーバーのパフ オーマンスに第二レベルの制限が適用されます。

CPU しきい値	システムがビデオストリームの制限を強制する前に、Milestone Mobile サーバーの CPU 負荷について閾値を設定します。
帯域幅しきい値	システムがビデオストリームの制限を強制する前に、Milestone Mobile サーバーの帯域負荷について閾値を設定します。
最大 FPS	Milestone Mobile サーバーからクライアントへの送信の1秒当たり のフレーム数(FPS)について制限を設定します。
最大画像解像度	Milestone Mobile サーバーからクライアントへ送信される画像の解 像度について制限を設定します。

システムは、あるレベルから別のレベルへすぐに切り替わることはありません。CPUまたは帯域の閾値の変動が指定されたレベルから5パーセント未満であれば、現在のレベルを使用し続けます。

全般タブで**フルサイズの画像を有効にする**を有効にすると、どの**パフォーマンス**レベルも適用されな くなります。

ログ設定

入力して、以下のログ設定を指定します:

	説明
有効	Milestone Mobile クライアントのアクションの別個のログファイル での記録を有効/無効にします。
ログファイルの場所:	ログファイルが保存される場所へのパスです。
ログの保持期間:	ログを保持する日数です(デフォルトは3日です)。
CPU 使用状況:	ログでの警告をトリガする CPU 使用状況のデフォルトでのレベル です。
内部帯域幅:	ログでの警告をトリガする CPU 使用状況のデフォルトでのレベル です。
外部帯域幅:	ログでの警告をトリガする外部帯域幅使用状況のデフォルトでの レベルです。
確認頻度:	警告レベルを確認する時間枠のデフォルト(30秒)です。

Mobile Server Manager

Mobile Server Manager について

Mobile Server Manager は、Mobile サーバーに接続されるトレイコントロール機能です。システムト レイで Mobile Server Manager のアイコンを右クリックすると、Mobile サーバーの機能に簡単にアク セスできるメニューが開きます。次の操作に従ってください。

- XProtect Web Client を開く
- Mobile サービスの起動、停止、再起動 『190ページ 』
- 監視サーバーの資格情報の入力または変更 『189ページの"監視サーバーの資格情報の入力/編 集"参照 』
- ポート番号の表示/編集 『190ページ』
- 証明書の編集 『189ページ』
- 今日のログファイルを開く 『188ページの"ログへのアクセスおよびエクスポートについて"参照』
- ログフォルダを開く 『188ページの"ログへのアクセスおよびエクスポートについて"参照』
- エクスポートフォルダを開く 『188ページの"ログへのアクセスおよびエクスポートについて"
 参照 』
- Mobile サーバーのステータスを表示 『188ページの"ステータスの表示について"参照 』
- Milestone Mobile ヘルプの Web サイト (マニュアル、よくある質問(FAQ)、製品のデモビデオ があります)へのアクセス

ステータスの表示について

Mobile Server Manager を右クリックして、ステータスの表示…を選択(あるいは Mobile Server Manager アイコンをダブルクリック)すると、Mobile サーバーのステータスを示すウィンドウが開きます。以下を表示できます。

	説明
サーバー実行日:	Mobile サーバーが前回起動されたときの日付と時刻。
接続済みユーザー:	現在 Mobile サーバーに接続されているユーザーの数。
CPU 使用状況:	現在 Mobile サーバーが使用している CPU の%。
CPU 使用状況履歷:	Mobile サーバーによる CPU 使用の履歴を詳しく示すグラフ。

ログへのアクセスおよびエクスポートについて

Mobile Server Manager により、その日のログファイルに迅速にアクセスし、ログファイルが保存されているフォルダを開き、エクスポートが保存されている先のフォルダを開くことができます。

これらのいずれかを開くには、Mobile Server Manager を右クリックし、今日のログファイルを開く、 ログフォルダを開く、またはエクスポートフォルダを開くを選択します。 **重要**:システムから Milestone Mobile をアンインストールする場合、そのログファイルは削除されません。適切な権限がある管理者は、後でこれらのログファイルにアクセスすることや、必要でなくなった場合に削除を決定することができます。ログファイルのデフォルトでの場所は、[プログラムデータ]フォルダです。ログファイルのデフォルトでの場所を変更する場合、既存のログは新しい場所へコピーされず、削除もされません。

証明書の編集

安全な HTTPS プロトコルを使用して、使用しているモバイルデバイスや XProtect Web Client と Mobile サーバーの間の接続を確立する場合、デバイスまたは Web ブラウザが警告なしで受け入れる 有効な証明書が必要です。この証明書は、証明書所有者が接続を確立することを承認されていること を、裏付けます。

Mobile サーバーをインストールする場合、標準インストールを実行すると、自己署名証明書が生成されます。カスタムインストールを実行すると、自己署名証明書を生成するか、他の信頼済みサイトが発行した証明書が含まれているファイルをロードするかを、選択できます。使用する証明書を後で変更する場合は、Mobile Server Manager でこれを実行できます。

- 1. Mobile Server Manager を右クリックして、証明書の編集...を選択します。
- 2. 以下のどちらを希望するかを選びます。
 - 自己署名証明書を生成、または
 - o 証明書ファイルを読み込む。

自己署名証明書を生成

- 1. 自己署名証明書を生成オプションを選んで、OK をクリックします。
- 2. システムが証明書をインストールする間、数秒待ちます。
- 3. 完了すると、ウィンドウが開いて、証明書が正常にインストールされたことが知らされます。 変更を有効にするため、Mobile サービスが再起動されます。

証明書ファイルを探す

- 1. 証明書ファイルを読み込むオプションを選びます。
- 2. 証明書ファイルのパスを入力するか、[...]ボックスをクリックすると、ファイルを参照できる ウィンドウが開きます。
- 3. 証明書ファイルのパスワードを入力します。
- 4. 完了したら、**OK**をクリックします。

HTTPS は、Windows XP および Windows 2003 オペレーティングシステムではサポートされておらず、 Windows Vista または新しい Windows OS のみで動作することに注意してください。

監視サーバーの資格情報の入力/編集

拡張設定

- 1. Mobile Server Manager を右クリックして、監視サーバーの資格情報...を選択します
- 2. サーバーの URL を入力します
- 3. 以下のどのユーザーでログインするかを選択します。
 - o ローカルシステム管理者(資格情報は必要なし)、または
 - o 指定されたユーザーアカウント(資格情報が必要)
- 4. 指定されたユーザーアカウントを選択した場合、ユーザー名とパスワードを入力します。
- 5. 完了したら、**OK**をクリックします。

ポート番号の表示/編集

- 1. Mobile Server Manager を右クリックして、ポート番号の表示/編集...を選択します。
- 2. ポート番号を編集するには、関連するポート番号を入力します。標準ポート番号(HTTP 接続 用)または安全なポート番号(HTTPS 接続用)を指定できます。
- 3. 完了したら、**OK**をクリックします。

Mobile サービスの起動、停止、再起動

必要に応じて Mobile サービスを、Mobile Server Manager から起動、停止、再起動できます。

これらのタスクのいずれかを実行するには、Mobile Server Manager を右クリックし、Mobile サービ スの起動、Mobile サービスの停止、または Mobile サービスの再起動を選択します。

アラーム

アラームについて

アラーム機能は、Milestone 統合プラットフォーム(MIP)に基づく機能であり、イベントサーバーによって処理される機能を使用します。組織全体での任意数のシステムのインストールにより、アラームを一元的に確認し、管理することができます。

以下のいずれかによりアラームが生成されるように設定できます:

内部イベント(システム関連): 例:モーション、サーバーの応答/非応答、アーカイブに関する問題、ディスク空き容量不足など。

外部イベント(統合): 例: MIP プラグインイベント。また、アラーム機能は一般的なアラームの設 定やアラームのログの処理も含まれます。 アラームの設定アラーム設定には以下が含まれます。

- ユーザーのアクセス権に基づくアラーム処理のダイナミックセットアップ
- 全コンポーネントの一元的確認:サーバー、カメラ、外部ユニット

拡張設定

- すべての受信アラームとシステム情報の一元的ログ設定
- プラグインを使うことで、外部アクセスコントロールシステムなどの他のシステムとのカス タム統合が可能です。

アラームの表示

以下に、誰がどの程度アラームを表示/制御/管理できるかなど、アラームについての役割を挙げます。 これは、アラームを発生させるオブジェクトの視認性によりアラームが制御されるためです。

- ソース/デバイス視認性:アラームを発生させるデバイスが、ユーザーが認識できるように設定されていない場合、ユーザーは XProtect Smart Clientのアラームリストのアラームを確認することはできません。
- 手動で定義されたイベントをトリガできる権限:手動で定義されたイベントをシステムで使用できる場合、これらによって、手動で定義されたイベントをユーザーが XProtect Smart Client でトリガできるかどうかが決まります。
- 外部プラグイン:外部プラグインがシステムでセットアップされている場合、これらがアラ ームを処理するユーザーの権限をコントロールする場合があります。
- 一般的なアクセス権限:ユーザーがアラームを確認できる(だけ)か、あるいはアラームを管理できるかを決定できます。

アラームの時間プロファイル:

アラームは、(アラームの)時間プロファイル 『193ページの"(アラームの)時間プロファイルの追加"参照』に基づきます。アラームの時間プロファイルとは、アラームの定義を作成する際に使用する期間です。たとえば、月曜日の2:30 PM から3:30 PM までをカバーするアラームの時間プロファイルを作成し、その時間プロファイルを使ってこの期間内だけ特定のアラーム定義が有効にすることができます。

アラームおよび XProtect Central

多くの場合、アラーム機能は XProtect Central と同じ機能をカバーします。

ただし、前者の XProtect Central の機能の設定は、アラーム機能に含まれています。

XProtect Central は、次の2つの部分で構成される独立した製品です。専用サーバーと多数の専用クラ イアントです。他方、アラームはシステムに統合された一部分です。つまり、XProtect Central に必 要なほとんどの設定は、アラームの導入と重複します。クライアントごとに、アラーム機能は XProtect Smart Client を使用します。ただし、それでも Management Application でアラーム、(アラ ームの)時間プロファイル、一般設定を行う必要があります。これらの機能は、XProtect Central と非 常に似ています。XProtect Central の古いアラームやマップ定義を再使用することはできません。ア ラーム機能でアラームやマップ定義を再定義する必要があります。

マップについて

マップをアラームの一部として統合することにより、監視システムの物理的配置を把握できます。カメラをマップに配置する機能により、アラームの発生源、カメラの配置、向きなどをいつでも知るこ

とができます。また、俯瞰マップから詳細マップへ(または反対方向へ)移動することもできます。 都道府県マップを例として、このマップ上へ、都市・近隣・道路・見取り図などのより詳細なマップ へ移動するためのホットゾーン(地図上の小さいアイコン)を配置できます。



例:マップの階層

マップについてのすべての対話処理(マップの追加・管理を含む)は XProtect Smart Client 上で行い ます。詳細については、XProtect Smart Client のドキュメントを参照してください。



例: XProtect Smart Client 内のマップ

マップを使用するには、Event Server サービスが動作中である必要があります。監視サーバーのイン ストール 『23ページの"システムソフトウェアのインストール"参照 』で標準インストールを実行して いれば、Event Server サービスは自動的に含まれています。

アラームの時間プロファイルについて

特定のアラーム定義を特定の期間内(たとえば月曜日の 14:30 から 15:30 の間)だけ有効化するには、 アラームの時間プロファイルを作成する必要があります。時間プロファイルは、1 つまたは複数の単 一期間、1 つまたは複数の繰り返し期間、あるいはそれらの組み合わせにより構成することができま す。単一期間と繰り返し期間の概念については、Microsoft Outlook 等のカレンダーアプリケーション におけるものと同様です。時間プロファイルは必ずシステムサーバーの現地時間で適用されます。

アラームの追加

アラームの詳細概要や機能の動作原理については、アラームについて 『**190**ページ 』を参照してください。

アラームを追加/設定するには、次の手順を実行してください。

- 1. アラームを展開し、アラーム定義を右クリックし、新規作成を選択します。
- 2. 必要なプロパティ 『193ページの"アラーム定義"参照 』を指定します。 OK をクリックしま す。
- **3.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

(アラームの)時間プロファイルの追加

ここで追加する時間プロファイルは、アラーム機能からのみ使用されるものです。

アラームに時間プロファイルを追加するには、次の手順を実行してください。

- 1. アラームを展開し、時間プロファイルを右クリックし、新規作成を選択します。時間プロフ ァイルプロパティウィンドウの右上の小さな月の概要には、時間プロファイルが対応する期 間の概略が簡単に表示されます。指定された時間を含む日付が太字で強調表示されます。
- 2. カレンダーで、日ビュー、週ビュー、月ビューのタブを選択してから、カレンダーの内側を 右クリックして、1つの時間を追加...また繰り返し時間を追加...のいずれかを選択します。
- 3. 1つの時間を追加…を選択した場合は、開始時間と終了時間を指定します。時間が終日に渡る場合は、終日イベントボックスを選択します。
 一あるいは一
 繰り返し時間を追加…を選択する場合は、時間の範囲、繰り返しパターン、および繰り返し範囲を指定します。OK をクリックします。
- **4.** Management Application の右上の黄色の通知バーで、**保存**をクリックして、設定の変更を保存します。

既存の時間プロファイルを編集する場合、時間プロファイルには2つ以上の期間が含まれ、期間が繰り返される場合もあることに留意してください。

アナリティックイベントは、一般的に、外部のサードパーティのビデオコンテンツ分析(VCA)プロバ イダから受信したデータです。VCA ベースのシステムの例として、アクセスコントロールシステムが 挙げられます。

アラームプロパティ

アラーム定義

アラーム定義 『192ページの"アラームの追加"参照』を設定する際は、以下を指定します。

名前	説明
有効化	アラーム機能を有効にします。

拡張設定

名前	説明
名前	名前を入力します。アラームが一覧表示されると、アラームの名前 が表示されます。
	アラーム名は一意である必要はありません。
説明	説明(オプション)を入力します。
イベントのトリガ	この最初のリストは、システムレベルのイベントとプラグインからのイベント(たとえば、アクセスコントロールシステムなど)の両方を表示します。
	2番目のリストでは、アラームがトリカされた時に使用するイベントメッセージを選択します。
ソース	アラームをトリガするためのイベントが発生するカメラおよびその 他のデバイスを選択します。インストールされている場合、たとえ ばナンバープレートの認識などのプラグイン定義の発生源、アクセ スコントロールシステム、MIP プラグインなどが、このリストに表 示されます。
	選択できるオプションは、選択したイベントのタイプによります。
時間プロファイル	時間プロファイルを選択した場合は、アラームのトリガがいつ有効 になるかを選択しなければなりません。アラームの時間プロファイ ル『193ページの"(アラームの)時間プロファイルの追加"参照』 を指定していない場合は、常時だけが選択できます。1つまたは複 数の時間プロファイルを定義している場合、このリストから選択で きます。
対象のイベント	対象のイベント を選択する場合、アラームを開始および終了させる イベントを選択しなければなりません。選択できるイベントは、カ メラ、ビデオサーバーおよび入力で定義されたハードウェアイベン トです。グローバル/手動イベント定義 『111ページの"手動イベン トの追加"参照 』も使用できます。
	対象のイベントを選択する場合、出力に基づいてアラームを定義す ることはできず、入力のみであることに注意してください。
時間制限	その制限内でオペレータがアラームに応答しなければならない時間 制限を選択します。
トリガされるイベント	時間制限で指定される限度内にオペレータが反応しなかった場合に トリガされるイベントを選択します。これには、たとえばEメール、 SMSの送信などが挙げられます。
関連するカメラ	そのカメラ自体がアラームをトリガしなくても、アラームの定義に 含めるカメラを選択します(最大で15台)。これは、例えば外部 イベントメッセージ(ドアが開いているなど)をアラームのソース として選択している場合に関係します。ドア付近のカメラ1台また は複数を定義することで、カメラの録画のインシデントをアラーム に関連付けることができます。

	説明
関連するマップ	アラーム定義と関連付けるマップを選択します。 選択したマップは、アラームがリストされるたびに、XProtect Smart
	Client で自動的に表示されます。これによって、アラームの物理的 位置をよりすばやく特定できます。
初期アラームの所有者	アラームに対して責任を負うデフォルトのユーザーを選択します。 アラームの原因となったイベントのソースとして選択されている す べてのカメラおよびその他のデバイスを表示できるユーザーからだ け選択できます。
初期アラームの優先度	アラームの優先度(高、中または低)を選択します。優先度は、Smart Client でソートに使用したり、ワークフローのコントロールで使用 できます。
初期アラームのカテゴリ	アラームを最初に割り当てるべきカテゴリを選択します。これには、 たとえばどのカテゴリが定義されているかに応じて、ビル 01、侵入、 東エレベータなどになります。
アラームでトリガされるイベン ト	Smart Client でアラームによってトリガされるイベントを定義でき ます(必要な場合)。
アラームを自動で閉じる	特定のイベントでアラームを自動的に閉じるかどうかを選択できま す。これは、一部(全部ではない)のイベントによってトリガされ るアラームで可能です。

また、アラーム設定の詳細情報については、アラームデータ設定 『195ページ』およびアラームサウンド設定 『196ページの"サウンド設定"参照 』も参照してください。

アラームデータ設定

アラームデータ設定を行う際には、以下を指定します。

アラームデータレベルタブ、プロパティ

	説明
レベル	選択したレベル番号の新しい優先度を追加するか、デフォルトの優 先度レベル(1、2、3などの数)を使用/編集します。これらの優 先度レベルは、初期アラームの優先度設定『193ページの"アラーム 定義"参照 』を行うために使用されます。
名前	エンティティの名前を入力します。必要な数だけ作成できます。
サウンド	アラームに関連付けられる音声を選択します。デフォルトの音声を 使用するか、音声の設定 『196ページの"サウンド設定"参照 』に追 加します。

アラームデータレベルタブ、ステータス

レベル	デフォルトの状態レベル(番号1、4、9、11、編集または再利用は 不可)に加えて、選択したレベル番号の新しい状態を追加します。 このような状態レベルは、Smart Clientのアラームリストにのみ表 示されます。
名前	エンティティの名前を入力します。必要な数だけ作成できます。

アラームデータレベルタブ、カテゴリ

レベル	選択したレベル番号の新しいカテゴリを追加します。これらのカテ ゴリレベルは、初期アラームの優先度設定『193ページの"アラーム 定義"参照 』を行うために使用されます。
名前	エンティティの名前を入力します。必要な数だけ作成できます。

アラームリスト設定タブ

使用可能な列で、>を使用して、XProtect Smart Client アラームリストでどの列を使用可能にするか選択します。
くを使用して選択をクリアします。完了したら**選択した列**には、含める項目が表示されます。

閉じる理由タブ有効化	すべてのアラームが閉じられる前に、閉じる理由を割り当てる必要 があるようにするには、選択して有効にします。
理由	アラームを閉じる際にユーザーが選択できる、閉じる理由を追加し ます。例として、 解決済み-侵入者 または 偽警告 が挙げられます。必 要な数だけ作成できます。

サウンド設定

サウンド設定を行う際には、以下を指定します。

	説明
	アラームに関連付けられる音声を選択します。音のリストには、デ フォルトの Windows 音が多数含まれています。これらは編集できま せん。ただし、パルス符号変調(PCM)でエンコードされている場合 のみ、ファイルタイプ.wav の新しい音を追加できます。
音声	デフォルト音は Windows のサウンドファイルですが、ローカル Windows 設定によっては、マシンによって音が異なる場合がありま す。ユーザーがこれらのサウンドファイルの一部を削除している場 合、再生できない場合もあります。すべての状況で音が同一に再生 されるためには、PCM でエンコードされた独自の.wav ファイルを インポートして使用する必要があります。

	説明
追加	音を追加できます。1 つ以上の.wav ファイルをアップロードするための音をブラウズできます。
削除	選択された音を、手動で追加された音の一覧から削除します。
	デフォルト音は削除できません。
テスト	音をテストできます。リストから音を選択します。音声が一度だけ 再生されます。

時間プロファイル

時間プロファイル 『193ページの"(アラームの)時間プロファイルの追加"参照 』の設定を行う際に は、以下を指定します。

	要件
名前	時間プロファイルの名前を入力します。
説明	説明(オプション)を入力します。
1 つの時間を追加	カレンダーを右クリックして、1つの時間を追加を選択します。開 始時間と終了時間を指定します。時間が終日に渡る場合は、終日イ ベントを選択します。
繰り返し時間を追加	カレンダーを右クリックして、 繰り返し時間を追加 を選択します。 時間範囲、繰り返しパターン、および繰り返し範囲を指定します。
時間を編集	カレンダーを右クリックし、時間を編集を選択します。開始時間と 終了時間を指定します。時間が終日に渡る場合は、終日イベントを 選択します。
	既存の時間プロファイルを編集する場合、時間プロファイルには2 つ以上の期間が含まれ、期間が繰り返される場合もあることに留意 してください。時間プロファイルに追加期間を含めたい場合は、1 つの時間または繰り返し時間を追加します。

MIP プラグイン

※本機は、MIP プラグインには対応していません。

MIP プラグインについて

MIP (Milestone インテグレーションパートナー) プラグインをシステムにインストールする際は、ナ ビゲーションペインでプラグインを検索します。**拡張設定 > MIP プラグイン**を展開します。

MIP 関連のユーザー権限をユーザーやユーザーグループに割り当てることができます。**拡張設定**を展開し、ユーザーを展開し、関連するユーザーを右クリックして、プロパティを選択します。アラーム 管理タブの下に、選択したユーザーに関する MIP 設定にアクセスできるタブがあります。

設定

自動デバイス検出について

※本機は、自動デバイス検出には対応していません。

自動デバイス検出により、ネットワークへ接続したハードウェアデバイスを、直ちにかつ自動的にシ ステムへ追加することができます。自動デバイス検出を有効にすると、システムはユーザーによる操 作を必要とせず自動的にカメラを設定します。自動インストールが完了したカメラは、すぐに XProtect Smart Client のデフォルトビューでアクセス可能になります。

注意:

- すべてのカメラが、自動デバイス検出をサポートしているわけではありません。
- カメラの自動デバイス検出への応答は異なります。システムは、一部のデバイス(Axis モデル P3301 および P3304 など)は自動的にシステムに追加できますが、他のベンダーの一部のデバイス(ソニーのモデル SNC-EB520、EM520、E521 など)では、システムに自動的に追加されるためにカメラを一度オフにして、再度オンにする必要があります。
- カメラに対して、手動でライセンスを有効化しなければなりません。これは、サーバーの1つ に複数のサーバーが存在する環境で、カメラ設定だけを確実にアクティブ化するためです。

カスタマーダッシュボードについて

システムをインストールした時に、システムがカスタマーダッシュボードに通知を送信するかどうかの確認が表示されます。

カスタマーダッシュボードは、システム管理者やインストール情報へのアクセス権を持つユーザーに 対して、発生の可能性がある技術的問題(カメラの障害など)を含むシステムの現在の状態の概要を グラフィカル表示として提供するオンラインのモニタリングサービスです。カスタマーダッシュボー ドのユーザーは、MilestoneWeb サイトの My Milestone ポータルを通じてアクセスします。システム のインストール時に行った選択によって、カスタマーダッシュボードの設定を変更するチェックボッ クスを選択または選択解除します。

情報収集の無効化

- 1. Management Application のツールバーで、オプション > 設定 > プライバシーオプションの 順にクリックします。
- 2. プライバシーオプションタブで、はい、XProtect Enterprise の改善に協力しますチェックボ ックスを選択解除します。
- 3. **OK** をクリックします。

デフォルトのファイルパスの変更

デフォルトのファイルパスを変更するには:

- 1. 設定パスを変更したい場合は、すべてのサービスを停止します。デフォルトの録画やアーカ イブのパスを変更する場合は、このステップは不要です。
- 2. Management Application のメニューバーで、オプション > デフォルトのファイルパス…を選択します。
- これで、必要なパスが上書きされます。あるいは、フィールドの横にある参照ボタンをクリックして、場所を参照することも可能です。デフォルトの録画パスについては、ローカルドライブのフォルダへのパスしか指定できません。ネットワークドライブを使用している場合、ネットワークドライブが使用不能になると、録画は保存できません。

デフォルトの録画やアーカイブのパスを変更し、古い場所に既存の録画ある場合、録画を新 しい場所へ移動するか(推奨)、古い場所に残すか、あるいは削除するかを選択する必要があ ります。

4. 変更を確認したら、すべてのサービスを再起動します。

オプション

このセクションの内容

一括設定	201
ユーザーインターフェース	202
デフォルトのファイルパス	203
プライバシーオプション	203
アナリティックイベント設定	204
イベントサーバー設定	205

一般

一般設定で、Management Application の一般的な動作や外観に影響する設定の数を変更することができます。

自動デバイス検出

自動デバイス検出 『199ページの"自動デバイス検出について"参照 』は、システムのデフォルトでは オフになっています。この機能を有効にするには、チェックボックスを選択します。カメラがデフォ ルトのユーザー名やパスワード以外に追加のユーザー名やパスワードを使用する必要がある場合は、 カメラのデフォルトのユーザー名とパスワードに加え、次の認証資格情報を使用するチェックボック スを選択して、関連する資格情報を入力します。

注意: すべてのデバイスが、自動デバイス検出をサポートしているわけではありません。システム がカメラを検出せず、システムに追加されない場合、カメラを手動で追加する必要があります。

カスタマーダッシュボード

システムがシステム情報をカスタマーダッシュボード 『199ページの"カスタマーダッシュボードについて"参照』に送信する必要がある場合に選択します。

システムモード

重要:保存後、新しい設定をただちに有効にすることに確信がある場合以外は、システムモードは変 更**しない**でください。

システムに記録を保存しているある時点で、記録保存用のストレージが満杯になることがあります。 システムには、こうした状況に異なる対応を示す2つのシステムモード、クラシックモードとエビデ ンス収集モードがあります。

※本機は、エビデンス収集モードには対応していません。

 クラシックモードでは、新しい記録スペースを作るために、システムは最も古い記録を自動 的に削除します。これは、以前のバージョンのシステムで、今まで保存された記録を処理し ていたのと同じ方法です。Management Application でハードウェアデバイスを削除すると、 関連するデバイスからの記録もストレージから削除されます。XProtect Smart Client で削除した記録は、ストレージから削除されるので、再度再生することはできません。

エビデンス収集モードは、ストレージの容量が満杯になると、システムが記録を停止することを意味します。すべての古い記録はストレージに保存され、システムは新しい記録を保存しません。これによって、証拠として録画されたビデオは決して自動的に削除されることがなく、システムの設定を変更するか、ストレージから手動で削除するまで、ハードディスクに残ります。同様に、Management Application からハードウェアデバイスを削除しても、そのデバイスの記録はストレージに残ります。Management Application でデバイスを削除しても、XProtect Smart Client で記録を再生することができます。

概要:

		エビデンス収集モード
ストレージが記録で満杯になっ た場合	システムは、最も古い記録を削除 して、新しい記録スペースを作り ます。	システムは、新しい記録の保存を 停止し、最も古い記録は保持され ます。
Management Application でデ バイスを削除した場合	システムは、削除されたデバイスの記録をすべて削除します。	システムは、削除されたデバイスの記録をすべて保持します。
XProtect Smart Client 再生モー ド:	Management Application からデ バイスを削除すると、削除したデ バイスの記録をシステムが削除 するので、XProtect Smart Client では再生できなくなります。	Management Application からデ バイスを削除しても、システムは 記録を保持しているので、引き続 き XProtect Smart Client で再生 できます。
保持期間	記録の保持時間を設定し、カスタ マイズすることができます。	システムは記録を決して削除し ないので、記録に対して保持時間 を設定することはできません。

システムでの必要性に適したシステムモードを選びます。ユーザーの大半は、最新の記録がストレージで使用できることが必要なので、**クラシック**モードを選ぶ必要があります。**エビデンス**モードは、 代替的な方法であり、録画したすべてのビデオが証拠であると考えられ、ストレージに残す必要があ る場合に適しています。

言語

Management Application は、複数の言語で使用できます。言語のリストで、使用したい言語を選択します。Management Application を再起動すると、言語の変更が反映されます。

ユーザーインターフェース

Management Application の動作方法を変更することができます。たとえば、デフォルトでは、 Management Application は多くのアクションでユーザーに確認を求めます。これが不要であると感じ られる場合、Management Application の動作を変更して、確認を求めないようにできます。ユーザー インターフェースへ移動して、それぞれのアクションを変更します。

変更できるアクションの例:

- ハードウェアデバイスを削除しようとする場合に、Management Application にハードウェ アデバイスの削除を確認させるか、確認なしでハードウェアデバイスを削除できるように することができます。
- 単一のシステムサーバーで、最大64のカメラを同時に使用できます。許可されるカメラの数を超えて、カメラを追加しようとした場合にシステムに警告させるように選択できます。
- カメラをプレビューする際にライブビデオを表示するか、あるいはスナップショットを表示したり、カメラのプレビューを行わないようにできます。

リストの下のデフォルト設定の復元をクリックすると、システムの動作をデフォルトの動作に復元で きます。

デフォルトのファイルパス

システムでは、多数のデフォルトファイルパスを使用します。

	説明
新しいカメラのデフォルトレコ ーディングパス	追加するすべての新しいカメラは、デフォルトでは、録画の保存で このパスを使用します。必要であれば、各カメラのレコーディング パスを、各カメラの個別の設定 『87ページの"録画およびアーカイ ブのパス"参照 』の一部として変更できますが、追加するすべての 新しいカメラが選択したパスを使用するようにしたい場合は、デフ ォルトのレコーディングパスを変更することもできます。
新しいカメラのデフォルトアー カイブパス	追加するすべての新しいカメラは、デフォルトでは、アーカイブ 『127ページの"アーカイブについて"参照』でこのパスを使用しま す。必要であれば、各カメラのアーカイブパスを、各カメラの個別 の設定の一部として変更できますが、追加するすべての新しいカメ ラが選択したパスを使用するようにしたい場合は、デフォルトのレ コーディングパスを変更することもできます。アーカイブでダイナ ミックパスを選択『66ページの"ダイナミックパスの選択"参照』 している場合、カメラ固有のアーカイブパスは関係しないことに注 意してください。
設定パス	デフォルトで、システム設定の保存に使用するパスです。

プライバシーオプション

システムをインストールすると、**顧客経験改善プログラムのオプションダイアログが表示されます。** 顧客経験改善プログラムは、システムをより使いやすいものにし、顧客経験を改善するために用意さ れています。

プログラムへの参加を拒否した場合、システムの統計情報を収集するソフトウェアは一切インストールされません。

• プログラムへの参加を**承諾**した場合、グローバルー意識別子(GUID)を発行するクッキーが インストールの一部に含まれます。これにより、インストールや操作に関する匿名化された 情報を定期的に収集します。収集する情報の詳細については、以下を参照してください。

インストール時にこの情報収集について承諾した場合でも、その後いつでも拒否に変更することができます。情報収集についての設定変更は Management Application 上で行えます。

システムから収集する情報について

システムがインストールされている装置に関する情報や、録画データに関する情報は一切収集しません。

Milestone が収集する情報:

- ソフトウェアがインストールされた国
- オペレーティングシステムのバージョン、Microsoft .NET Framework のバージョン、CPU の 種類およびメモリ容量などのハードウェアプラットフォーム情報
- 製品のバージョン情報
- システムと併用するハードウェアデバイス(カメラ)の数と種類に関する情報
- システムで使用した機能と、その機能の使用頻度に関する情報
- どのシステムメニューやボタンが有効化されたかと、その使用頻度に関する情報
- システムのインストールにおける特定の操作の実行時間
- システムのインストールで生成されたエラーレポートおよび例外情報

これらの情報の収集は、Management Application または XProtect Smart Client の動作中のみ行われま す。システムをアンインストールするか、Management Application 上で無効にすることで、情報の自 動収集を行わないようにできます。

収集した情報の保護について

Milestone は、システムのインストールで収集した情報の機密を保護することを確約します。 Milestone では、収集した情報の消失や誤用を防止するためのセキュリティ措置を実施しています。 収集した情報は、外部からの干渉や不正アクセスを防止するため、ファイアウォールおよび他の高度 な技術を駆使した安全なサーバー環境に保管されます。

アナリティックイベント設定

※本機は、アナリティックイベントには対応していません。

アナリティックイベント設定では、以下を指定できます。

名前	説明
デバイスが有効	アナリティックイベント機能が有効になります

ポート	このサービスで使用するポートを指定します。デフォルトポートは 9090です。
	関連する VCA ツールプロバイダもこのポート番号を使用するよう にしてください。ポート番号を変更した場合、これらの VCA ツール プロバイダも各ポート番号を変更するようにしてください。
すべてのネットワークアドレス または指定ネットワークアドレ ス	すべての IP アドレス/ホスト名からのイベントが使用可能か、また はリスト(以下を参照)にある IP アドレス/ホスト名からのイベン トのみが許可されるかを指定できます。
	アドレス リストで、このサービスに認識して欲しい信頼できる IP ア ドレス/ホスト名のリストを指定できます。このリストは、特定の IP アドレス/ホスト名からのイベントだけが許可されるように受信デ ータをフィルタリングするために使用します。 リストでは、ドメイ ンネームシステム(DNS)と IPv4 アドレス形式の両方を使用できま す。
	リストにアドレスを追加する方法は2種類あります。手動で追加す るか、アドレスの外部リストをインポートします。
	マニュアル入力:アドレスリストに必要な IP アドレス/ホスト名を入 力します。必要なアドレスを繰り返します。
インポート	インポートボタンをクリックして、必要なアドレスの外部リスト を参照します。外部リストをインポートするには、外部リストを.txt ファイル形式で保存し、それぞれの IP アドレスまたはホスト名をフ ァイルの別の行に表示させる必要があります。.txt ファイルの作成に は、Windows のシンプルテキストエディタである Microsoft のメモ 帳が適しています。

イベントサーバー設定

以下のイベントサーバー設定を指定します。

	説明
終了したアラームの保持期間	処理済のアラーム(処理済、無視、および拒否ステータスのアラーム)の保存日数を指定できます。これは通常、たとえば3日などの小さい数に設定しますが、サーバーの要領が許す限り、最大で99999日まで指定できます。値を0にすると、終了したアラームをサーバーの容量が許す限り無制限に保存することができます。

	説明
	他のすべてのアラームの保存日数を指定できます(つまり、 処理済 、 無視、および拒否ステータスでないアラーム)。これは通常、たと えば 30日などのある程度大きい数に設定しますが、サーバーの要 領が許す限り、最大で 99999日まで指定できます。値を0にすると、 その他すべてのアラームをサーバーの容量が許す限り無制限に保存 することができます。
他のすべてのアラームの保持期 間	重要:アラームは多くの場合、ビデオ録画と関連付けられています。 アラーム情報自体はイベントサーバーに保存されますが、関連する ビデオ録画は、ユーザーが表示したいときに関連する監視システム サーバーからフェッチできます。したがって、すべてのアラームか らビデオ録画にアクセスできることが不可欠であり、関連カメラか らのビデオ録画が、イベントサーバーにアラームを保存する期間以 上、関連する監査システムサーバーに保存されるようにする必要が あります。
ログの保持期間	アラームログの保存日数を指定できます。デフォルトは 30 日です。 値を0にすると、サーバーの容量で可能な限り、ログが無期限に保 存されます。
ログサーバー通信	ー定の日数、通常のログに加えサーバー通信のログを保存したい場 合に指定します。

システムのメンテナンス

バックアップおよび復元の設定

設定のバックアップおよび復元について

Milestone では、障害時の復旧手段として、使用しているシステム設定(カメラ、スケジュール、ビューなど)のバックアップを定期的に取ることを推奨しています。通常、設定が失われることはあまりありませんが、失われる可能性はあります。幸い、1分程度で既存の設定をバックアップできます。

システム設定のバックアップ

以下では、すべての対応オペレーティングシステムで実行中のサーバーのシステムデフォルトの設定 パス(『203ページの"デフォルトのファイルパス"参照』C:\Program Data\Milestone\Milestone Surveillance)をユーザーが変更していないことを前提としています。デフォルトの設定パスを変更 した場合、以下に説明する方法を使用するとき、実施した変更を考慮する必要があります。

ここで説明するバックアップは、監視システムのセットアップ全体のバックアップです(中でも、ロ グファイル、イベントおよび Matrix の設定、復元ポイント、ビューグループならびに Management Application および XProtect Smart Client の設定を含む)。あるいは、設定をバックアップとしてエク スポート 『211ページの"Management Application の設定のエクスポートおよびインポート"参照 』す ることも可能ですが、これは Management Application の設定に限られます。

バックアップするには:

- **1.** フォルダ **C:\Program Data\Milestone\Milestone Surveillance** とそのコンテンツすべてをコ ピーします。
- C:\Program Files\Milestone\Milestone Surveillance\devices フォルダを開き、devices.ini ファイルが存在することを確認します。ファイルが存在する場合、これをコピーします。特 定のタイプのカメラのビデオプロパティを設定 『81ページの"一括設定"参照 』している場合、 このファイルが存在します。このようなカメラでプロパティを変更すると、カメラ自体では なくファイルに保存されます。
- 3. コピーをサーバーから離れたところに保管して、サーバーが損傷を受けたり、盗難やその他 の影響を受けた場合に喪失しないようにします。

バックアップは、使用しているシステム設定の、バックアップ時のスナップショットです。後で設定 を変更した場合、手元にあるバックアップは、最も最近の変更を反映しなくなります。このため、使 用しているシステム設定のバックアップを定期的に行います。説明に従って設定をバックアップする 場合、バックアップには復元ポイントが含まれます。これにより、バックアップした設定を復元する だけでなく、必要に応じてその設定の前のポイントまで戻ることができます。

システム設定の復元

- サポート対象オペレーティングシステムが実行されているサーバーでシステムを使用する場合、バックアップされた Milestone Surveillance フォルダのコンテンツを C:\Program Data\Milestone\Milestone Surveillance にコピーします。
- devices.ini ファイルのバックアップを取った場合、そのファイルを C:\Program Files\Milestone\Milestone Surveillance\devices にコピーします。

アラームおよびマップ設定のバックアップと復元

アラームおよびマップ設定を定期的にバックアップすることが重要です。これを行うには、アラーム およびマップ設定、ならびにアラームのデータを保存している Microsoft SQL Server Express データ ベースを取り扱うイベントサーバーをバックアップします。この操作により、発生する可能性がある 障害時の復旧手段として、アラームおよびマップ設定を復元することができます。また、バックアッ プには、 SQL Server Express データベースのトランザクションログをフラッシュするという追加の 利点もあります。

アラームおよびマップ設定をバックアップ・復元する場合は、必ず以下の順番で実行してください。

前提条件

- SQL Server Express でアラーム設定データベースをバックアップまたは復元する場合、SQL Server Express データベースの管理者権限が必要です。バックアップまたは復元を完了した 後は、SQL Server Express データベースのデータベース所有者権限だけで十分です。
- Microsoft # SQL Server Management Studio Express、www.microsoft.com/downloadsから 無料でダウンロードできるツール。SQL Server Express データベースを管理するための多数 の機能があり、使いやすいバックアップおよび復元機能が含まれます。既存の監視サーバー および将来の監視システムサーバーとなりうるサーバーに、ツールをダウンロードしてイン ストールします(バックアップおよび復元で必要になります)。

手順1: Event Server サービスの停止

設定の変更が行われないように、Event Server サービスを停止します。

- 1. 監視システムサーバーで、スタート > コントロールパネル > 管理ツール > サービスの順に クリックします。
- 2. イベントサーバーを右クリックして、停止をクリックします。

これは、バックアップを作成した時点から、復元する時点までの間に行われたアラーム設定が失われ るため、重要な手順となっています。バックアップ後に変更を行った場合は、新しいバックアップを 作成する必要があります。Event Server サービスが停止した状態ではシステムはアラームを生成しま せん。SQL データベースのバックアップが完了した後、必ずサービスを再起動する必要があります。

手順2: SQL Server Express データベースへのアラームデータのバックアップ

SQL Server Management Studio Express がない場合、<u>www.microsoft.com/downloads</u>から無料でダ ウンロードできます。

- Windows のスタートメニューで、すべてのプログラム> Microsoft SQL Server 2008 > SQL Server Management Studio Express の順に選択して、Microsoft SQL Server Management Studio Express を開きます。
- 2. ツールが開くと、サーバーへ接続するように求められます。必要な SQL Server の名前を指定 して、管理者ユーザーの資格情報で接続します。SQL server の名前を入力する必要はありま せん。サーバー名フィールド内をクリックして、**<詳細を参照...>**を選択すると、リストから SQL Server を選択できます。
- 3. 接続すると、ウィンドウの左側にあるオブジェクトエクスプローラにツリー構造が表示され ます。SQL Server の項目を展開し、次にアラーム設定全体が含まれているデータベースの項 目を展開します。
- 4. VIDEOOSDB データベースを右クリックし、タスク > バックアップ…の順に選択します。
- 5. データベースのバックアップダイアログの一般ページで、以下を行います。
 - 。 ソース:選択したデータベースが VIDEOOSDB であり、そのバックアップのタイプがフル であることを確認します。
 - バックアップ先:バックアップの保存先パスは、自動的に推奨のパスが設定されます。そのパスで良いかどうか確認します。そのパス以外を設定したい場合、推奨されているパスを削除し、選択した別のパスを入力します。
- 6. データベースのバックアップダイアログのオプションページの信頼性で、終了時にバックア ップの確認およびメディアに書き込む前のチェックサムの実行を選択します。
- 7. OK をクリックすると、バックアップが始まります。バックアップが完了すると、確認が表示 されます。
- 8. Microsoft SQL Server Management Studio Express を終了します。

手順3:システムの再インストール

監視ソフトウェアは、マウントしたドライブにはインストールしないでください。マウントしたドラ イブとは、ドライブ文字の代わりにラベルまたは名前が付いている、NTFS(NTファイルシステム) ボリュームの空のフォルダにマップされたドライブです。マウントしたドライブを使用すると、重要 なシステム機能が想定どおりに作動しないことがあります。たとえば、システムがディスクの空き容 量を超えて実行されても、警告が表示されません。

はじめに:既存の監視ソフトウェアをすべて停止します。

1. インストールファイルを実行します。セキュリティ設定によっては、1つまたは複数のセキュ リティ警告メッセージが表示される場合があります。警告が表示された場合は、実行ボタン をクリックします。

- 2. インストールウィザードが起動したら、インストーラの言語を選択して*続行をクリックしま*す。
- 3. システムの評価版のインストールを選択するか、ライセンスファイルの場所を指定します。
- 4. 使用許諾契約を読んで同意し、Milestone データ収集プログラムに参加するかどうかを指定します。
- 5. 標準またはカスタムインストールを選択します。カスタムインストールを選択した場合、ア プリケーション言語、インストールする機能、およびインストール場所を選択できます。
- 6. インストールウィザードが完了するのを待ちます。

これで、Management Application でシステムの設定を開始できるようになりました。詳細は、システムの起動と実行 『24ページの"システムの起動および実行"参照 』を参照してください。

手順 4: SQL Server Express データベースのアラームデータの復元

幸いにも大半のユーザーは、バックアップされたアラームデータを復元する必要がありませんが、必要になった場合、次の手順を実行します。

- Windows のスタートメニューで、Microsoft SQL Server Management Studio Express を開き ます。
- 2. サーバーに接続します。必要な SQL Server の名前を指定して、データベースを作成した時の ユーザーアカウントで接続します。
- 3. 左側のオブジェクトエクスプローラで、SQL Server < データベースを展開し、 VIDEOOSDB データベースを右クリックしてから、タスク > 復元 > データベース…の順に 選択します。
- データベースの復元ダイアログの一般ページの復元のソースで、デバイスからを選択して、 フィールドの右にある<詳細を参照...>をクリックします。バックアップの指定ダイアログで、 ファイルがバックアップメディアのリストで選択されていることを確認します。追加をクリ ックします。
- 5. バックアップファイルを探すダイアログで、バックアップファイル VIDEOOSDB.bak を探し て、選択します。次に OK をクリックします。これで、バックアップファイルへのパスは、 バックアップの指定ダイアログに一覧表示されています。
- これで、データベースの復元ダイアログの一般ページに戻ると、復元するバックアップの選択の下にバックアップが一覧表示されています。復元列のチェックボックスを選択して、バックアップが選択されていることを確認します。
- 7. ここで、データベースの復元ダイアログのオプションページに移動し、既存のデータベース を上書きするを選択します。他のオプションはそのままにして、OK をクリックすると、復元 が始まります。復元が完了すると、確認が表示されます。
- 8. Microsoft SQL Server Management Studio Express を終了します。

注意:データベースが使用中であることを知らせるエラーメッセージが表示される場合は、Microsoft SQL Server Management Studio Express を完全に終了させてから、手順 1~8 を繰り返してください。

手順5: Event Server サービスの再起動

復元プロセス中は、Event Server サービスが停止して、完了するまで設定が変更されることを防ぎま す。サービスを再起動することを忘れないでください。

- 1. 監視システムサーバーで、スタート> コントロールパネル > 管理ツール > サービスの順に クリックします。
- 2. イベントサーバーを右クリックして、開始をクリックします。

SQL Server Express トランザクションログと、それをフラッシュする理由について

システムのアラームデータの変更が発生するたびに、SQL Serverはトランザクションログに変更を記 録します。トランザクションログは基本的に、SQL Server Express データベースへの変更をロールバ ックして取り消すことができる機能です。SQL Serverはデフォルトで、無期限にトランザクションロ グを保存するので、トランザクションログは時間の経過とともに、エントリが増え続けます。

SQL Serverのトランザクションログはデフォルトで、システムドライブにあり、トランザクションロ グが増え続けると、Windows が正しく実行できなくなります。したがって、SQL Serverのトランザ クションログを時々フラッシュすることをお勧めします。フラッシュすること自体で、トランザクシ ョンファイルが小さくなることはありませんが、極端に大きくなることがなくなります。一方、シス テムでは、SQL Serverのトランザクションログは特定の間隔で自動的にフラッシュされません。これ は、ユーザーによってニーズが異なるからです。あるユーザーは非常に長い期間、変更を元に戻すこ とができる状態を保つことを望みますが、別のユーザーにはこのようなニーズはありません。

SQL Server 自体で複数の作業を行って、トランザクションログを切り取り、縮小したりして、トラン ザクションログのログのサイズが大きくならないように抑えることができます(このトピックについ ては、<u>http://support.microsoft.com</u>の中で SQL Server のトランザクションログを検索すると、多くの 記事を確認することができます)。ただし、一般にシステムのデータベースをバックアップする方が 良い選択となります。SQL Server のトランザクションログがフラッシュされ、予期せぬ事態が発生し た場合にシステムのアラームデータを復元できるようにするためです。

Management Application の設定のエクスポートおよびインポート

設定のバックアップを取るための安全な手段として、あるいは他の場所で類似の Management Application 設定を使用するためのコピーとして、Management Application の現在の設定をエクスポー トすることができます。後から、以前にエクスポートした Management Application 設定をインポート することができます。

Management Application 設定をバックアップとしてエクスポートする

このオプションでは、関連するすべての Management Application 設定ファイルが単一の.xml ファイル に結合され、その場所を指定できます。設定に保存していない変更がある場合、設定をエクスポート する際にこれらは自動的に保存されます。

- Management Application のファイルメニューで、設定のエクスポート バックアップを選択 します。
- 2. エクスポートした設定を保存したい場所を参照し、適切なファイル名を指定し、保存をクリ ックします。

同一バージョンの監視システムを他の場所でセットアップする場合は、設定をバックアップとしてエ クスポートしないでください。このような操作により、同じデバイス情報が二度使用され、クライア ントに以下のエラーメッセージが表示される原因となります。2台(以上)のカメラが同じ名前または IDを使用しているため、アプリケーションが起動できません。 代わりに、設定をコピーとしてエク スポートします。コピーとしてエクスポートする場合、たとえ新しいシステムが既存のシステムと同 ーであったとしても、エクスポートでは物理的に全く同じカメラなどを使用していないという事実が 考慮されます。

この Management Application の設定のバックアップと、Milestone 監視フォルダで行ったシステム設定のバックアップでは、これら2つは別物であるため、違いがあることに注意してください。ここで説明しているバックアップは、Management Application の設定のバックアップに限定されます。 Milestone の監視フォルダのバックアップを行った場合は、監視システムのセットアップ全体をバックアップします(ログファイル、イベントの設定、復元ポイント、ビューグループならびにManagement Application および XProtect Smart Client の設定を含む)。

Management Application 設定をコピーとしてエクスポートする

このオプションでは、すべての関連する Management Application の設定ファイルが収集されます。 GUID (Globally Unique IDentifiers、カメラなどの個々のシステムコンポーネントを識別するために使用される一意の 128 ビットの数値) はマークされ、後で置換されます。GUID は、特定のコンポーネント (カメラなど) を参照しているので、マークされて後で置換されます。類似のタイプのカメラを 使用する新しい類似のシステムのセットアップで、コピーした設定を使用したい場合でも、新しいシ ステムはコピーされたシステムと全く同じ物理的なカメラは使用しません。後で新しいシステムでコ ピーされた設定を使用する場合、GUID は新しいシステムに固有のコンポーネントを表す GUID と置換されます。

置換用に GUID をマークした後、設定ファイルが単一の.xml ファイルに結合され、これを指定の場所 に保存することができます。設定に保存していない変更がある場合、設定をエクスポートする際にこ れらは自動的に保存されます。

- **1.** Management Application のファイルメニューで、設定のエクスポート コピーを選択します。
- 2. エクスポートした設定を保存したい場所を参照し、適切なファイル名を指定し、保存をクリ ックします。

以前にエクスポートした Management Application の設定のインポート

Management Application の設定がバックアップとしてエクスポートされたか、コピーとしてエクスポートされたかに関わらず、同じインポート方法を使用します。

1. Management Application のファイルメニューで、設定のインポートを選択します。

- 2. 設定をインポートしたい場所を参照し、関連する設定ファイルを選択し、**開く**をクリックします。
- 設定をインポートしようとしているシステムに、インポートされる設定に存在しないデバイス(例、カメラ)が含まれている場合にだけ関連します。影響を受けるデバイスからの録画の、削除または保持のいずれを希望するかが確認されます。録画を保持したい場合は、影響を受けるデバイスを再度システムに追加するまでは、それらの録画にはアクセスできないことに注意してください。必要なオプションを選択して、OKをクリックします。
- 4. 拡張設定を展開し、サービスを選択します。
- 5. Recording Server サービスおよび Image Server サービスのそれぞれに対して、再起動ボタン をクリックします。2 つのサービスを再起動すると、インポートされた Management Application の設定が適用されます。

設定に対する変更のインポート

設定に対する変更をインポートすることができます。これは、たとえばある店舗チェーンの各店舗で 同じタイプのサーバー、ハードウェアデバイス、カメラを使用する場合など、多数の類似のシステム をインストールする場合に該当します。こうしたケースでは、既存の設定を他のインストール用のテ ンプレートとして使用することができます。ただし、各店舗でのインストールは完全に同一ではない (ハードウェアデバイスやカメラは同じタイプであるが、物理的には同一ではないので、MACアドレ スが異なる)変更を簡単にテンプレート設定にインポートできる方法が必要になります。

これが、ハードウェアデバイスやカメラに関する変更を、カンマ区切り値ファイル(CSV)からインポートできる理由です。

- 1. メニューバーで、ファイル > 設定に対する変更のインポート…の順に選択します。
- 2. CSV ファイルにリスト化されている新しいハードウェアデバイスやカメラがサーバーに接続 されていて、それらに達せることを確認したい場合は、**オンライン検証**を選択します。
- 3. CSV ファイルにカーソルを合わせて、ファイルからの設定のインポートボタンをクリックします。

復元ポイントからのシステム設定の復元

復元ポイントにより、以前の設定状態に戻すことができます。Management Application で設定の変更 を適用するたびに、新しい復元ポイントが作成されます。

復元ポイントは、最新のものから 5 つ前までのものがすべて保存され、再度選択することができます。 Management Application を起動するたび、および、たとえば Management Application のツールバー で設定の保存ボタンをクリックした場合など、Management Application の設定を保存するたびに、新 しいセッションが開始します。最新の5つのセッションより古いセッションについては、各セッショ ンの最後の復元ポイントだけが保存されます。維持する古いセッションの数フィールドで、古いセッ ションをいくつまで保存するかを管理できます。 復元ポイントから設定を復元するよう選択すると、選択した復元ポイントからの設定が適用され、サ ービスを再起動すると使用されます。

復元ポイントの作成後に新しいカメラやその他のデバイスを追加した場合、復元ポイントをロードするとそれらは失われます。これは、復元ポイントが作成された時点でシステムに存在していなかったためです。このようなケースでは、影響を受けるデバイスからの録画の処理方法を決定するよう通知が表示されます。

- 1. ファイルメニューで、復元ポイントからの設定のロード...を選択します。
- 2. 復元ポイントダイアログの左の部分で、該当する復元ポイントを選択します。
- 3. 復元ポイントのロードボタンをクリックします。
- 4. 選択した復元ポイントからの設定で、現在の設定を上書きしても構わない場合には、**OK**をクリックします。
- 5. 現在の設定に、選択した復元ポイントに存在しないカメラやその他のデバイスが含まれてい る場合のみ該当します。影響を受けるデバイスからの録画の、削除または保持のいずれを希 望するかが確認されます。録画を保持する場合は、影響を受けるデバイスを再度システムに 追加するまでは、それらの録画にはアクセスできないことに注意してください。関連するオ プションを選択し、**OK**をクリックします。
- 6. 復元ポイントダイアログで**OK**をクリックします。
- 7. 拡張設定を展開し、サービスを選択します。
- 8. Recording Server サービスおよび Image Server サービスのそれぞれに対して、再起動ボタン をクリックします。2つのサービスを再起動すると、選択した復元ポイントからの設定が適用 されます。

注意: 復元ポイントを選択する際に、ダイアログの該当する部分で選択した時点での設定状態に関する情報を確認できます。この情報は、最善の復元ポイントを選択するのに役立ちます。

用語集

3

360 度 Panomorph サポート

360 度 Panomorph サポートのカメラは、名前 が示すように、360 度の視界をカバーし、盲点 や画像の歪みなしで全域を見渡すことができ ます。

Α

API

アプリケーションプログラムインターフェー ス — ソフトウェアアプリケーションを作成 またはカスタマイズするためのツールや構築 ブロックのセット。

ATM

現金自動預払機 — 個人情報がコード化され たカードを使って、お金を引き出す機械。

AVI

ビデオでよく使用されるファイル形式。この 形式のファイルには.avi というファイル拡張子 が付いています。

С

Central

XProtect Enterprise に対するアドオンとして利 用可能な製品。XProtect Central は、場所に関 わらず、XProtect Enterprise のサーバーのステ ータスやアラームに関する完全な概要を提供 します。

CSV

データをテーブル形式で保存するカンマ区切り値によるデータ形式。単純なファイルで、 各行がテーブルの行を表し、カンマが列を定 義します。たとえば、カメラに関するデータ は.csv ファイルのカンマ区切り値として表示 され、これを XProtect Enterprise にインポー トすることができます。複数の似たようなシ ステムを設定する場合に、単純かつ効果的な 方法です。

D

DirectX

高度なマルチメディア機能を提供する Windows の拡張機能。

DNS

Domain Name System(ドメインネームシステム) — アルファベットによるホスト名(例、 mycomputer)またはドメイン名(例、 http://www.mydomain.com)および数字による IP ドレス(例、192.168.212.2)の間での変換 を可能にするシステム。多くの人にとって、 数字による IP アドレスより、アルファベット による名前の方が覚えやすいようです。

DST

夏時間:夕方の日照時間を長く、朝の日照時 間を短くするために、夏季の間は時計を進め る制度。

DVR

デジタルビデオレコーダー **— DVR** 自体に埋 めこまれたハードディスク装置にデジタル形 式でビデオを録画するデバイス。

F

FPS

秒当りのフレーム数 — 動画に含まれている 情報量を示す測定単位です。各フレームは**1**つ

用語集

の静止画像を表しますが、数多くのフレーム を連続して表示することで運動錯視を生じさ せ、画像が動いているように見えます。FPS の値が高いほど、より滑らかな動きになりま す。ただし、FPS が高くなるとビデオを保存 したときのファイルサイズも大きくなりま す。

FTP

ファイル転送プロトコル (File Transfer Protocol) — インターネット上でファイルを 交換するための規格。FTP はデータ転送で TCP/IP 標準を使用し、サーバーとの間でのフ ァイルのアップロードやダウンロードで使用 されます。

G

GOP

画像グループ:個別のフレームをグループ化 し、動画像のシーケンスを形成します。

GSM

汎欧州デジタル移動電話方式(Global System for Mobile communications) — 携帯電話通信の標準。

GUID

グローバルー意識別子(Globally unique identifier) — 一意の 128 ビットの番号であり、 Windows システムでコンポーネントを識別す るために使用されます。

Η

H.264

ビデオデータを圧縮および解凍する際の標準 規格(コーデック)です。H.264 は、以前のコ ーデックより効率的にビデオを圧縮できるコ ーデックであり、さまざまなネットワーク環 境で使用できる柔軟性があります。

HTTP

ハイパーテキスト転送プロトコル(HyperText Transfer Protocol) — インターネット上でフ ァイルを交換するための規格。HTTP は、 WWW(ワールドワイドウェブ、World Wide Web)上でのデータ形式の規定と転送に使用さ れる標準規格です。

I

I/O

入力/出力:コンピュータとユーザー間での通 信を意味します。入力とはシステムが受信す る信号やデータであり、出力はシステムから 送信される信号またはデータです。

Image Server

Smart Client でリモートユーザーがログインす るために、XProtect Enterprise へのアクセスを 取り扱うサービス。Image Server サービスは、 XProtect Enterprise サーバーのバックグラウン ドで動作するので、別個のハードウェアは必 要としません。Image Server サービスは、 XProtect Enterprise の Management Application で設定されているので、個別には 設定しません。

IP

インターネットプロトコル — ネットワーク 上でデータパケットを送信する際に使用する 形式とアドレススキームを規定するプロトコ ル (標準)です。TCPは、別のプロトコルであ る IP と組み合わせて使用されることがよくあ ります。この組み合わせを TCP/IP と呼び、ネ ットワーク上の2つのポイント間でデータパケ ットを長時間にわたって送受信することがで きます。コンピュータとインターネット上に ある別のデバイスを接続するためにも使用し ます。

IPIX

360°の **Panomorph** 画像(魚眼)を作成、表示 できる技術です。
IPアドレス

インターネットプロトコルアドレス。ネット ワーク上のコンピュータやデバイスを識別す るために使用します。データトラフィックを 指定した宛先へ転送するために TCP/IP プロト コルで使用します。IP アドレスには、0 から 256 までの数字が4 つ並んでおり、ピリオドで 区切られています(例: 192.168.212.2).

|フレーム

イントラフレーム (intra-frame) の略語。デジ タルビデオ圧縮の MPEG 規格で使用されます。 |フレームは、指定された間隔で保存された1 つのフレームです。|フレームはカメラのビュ ー全体を記録しますが、その後のフレーム (P フレーム) は変化したピクセルだけを記録しま す。これにより、MPEG ファイルのサイズを 大幅に縮小できます。|フレームはキーフレー ムと類似しています。

J

JPEG

(あるいは JPG) ジョイントフォトグラフィッ クエキスパートグループ(Joint Photographic Experts Group) は画像の不可逆圧縮方法で、 幅広く使用されています。

Μ

MACアドレス

メディアアクセスコントロールアドレス
 (Media Access Control address) — ネット
 ワーク上の各デバイスを一意に識別する 12 文
 字の 16 進数です。

Matrix

分散表示用にリモートコンピュータでライブ カメラの表示をコントロールできる機能。設 定すると、XProtect Smart Client で Matrix トリ ガのライブビデオを表示できます。

Matrix 受信者

XProtect Smart Client ソフトウェアを搭載して おり、そのため Matrix トリガのライブビデオ を表示できるコンピュータ。

MJPEG

モーション JPEG(Motion JPEG) — 各フレ ームが個別に JPEG 画像に圧縮される圧縮ビデ オ形式です。使用する方法は、MPEG で使用 する I フレームに極めて似ていますが、フレー ム間予測が使用されません。これにより、編 集が簡単になり、モーションの量によらず、 圧縮することができます。

MPEG

動画専門家集団(Moving Pictures Experts Group、MPEG)によって開発された、デジタ ルビデオの圧縮標準とファイル形式。MPEG 標準は不可逆圧縮を使用しており、フレーム 間の変化だけを保存し、冗長な情報の多くを 除去します。キーフレームでは指定された間 隔でカメラのビュー全体を記録しますが、続 くフレームは変化したピクセルだけを記録し ます。これにより、MPEGファイルのサイズ を大幅に縮小できます。

Ν

NTLM

Windows ネットワークでは、NT LAN Manager がネットワーク認証プロトコルで す。

Ρ

Panomorph

360°のパノラマ画像を作成・表示できるよう なレンズの種類です。

PIN

個人識別番号(Personal Identification Number または Personal Identity Number) — ユーザ ーの識別や認証を行うために使用する数値で す。

Ping

IP アドレスが利用できるかどうか決定するコ ンピュータネットワーク管理ユーティリティ。 応答するかどうか見るために少量のデータを 送ります。Ping(ピング)という用語は、ソナ ーの発する音に由来しています。Ping コマン ドは、Windows のコマンドプロンプトを使用 して送信します。

POS

(あるいは **PoS**) 販売時点情報管理:たとえば レジなどの、販売が行われる具体的な場所。

PTZ

PTZ (パン/チルト/ズーム) 動きと柔軟性に優れたカメラです。

PUK

パーソナルアンブロックキー (Personal Unblocking Key) または PIN アンロックキー (PIN Unlock Key) — SIM カード向けの特別 なセキュリティ措置として使用される番号。

Pフレーム

予測フレーム(Predictive Frame) — デジタ ルビデオ圧縮の MPEG 標準で、Pフレームは1 フレームと共に使用されます。Iフレームはキ ーフレームとも呼ばれ、指定した間隔で保存 される1つのフレームです。Iフレームはカメ ラのビュー全体を記録しますが、その後のフ レーム(Pフレーム)は変化したピクセルだけ を記録します。これにより、MPEGファイル のサイズを大幅に縮小できます。

R

Recording Server サービス

ビデオの録画や再生で、XProtect Enterprise に よって使用される Windows サービス(ユーザ ーインターフェースなし)。ビデオが監視シス テムに転送されるのは、Recording Server サ ービスが実行されている間だけです。

S

SCS

クライアントのコントロールを目的とする種類のスクリプトに使用されるファイル拡張子(.scs)です。

SDK

ソフトウェア開発キット (Software Development Kit) — 特定のプラットフォーム を使用して、ソフトウェア開発者がアプリケ ーションを作成できるプログラミングパッケ ージ。

SIM

加入者識別モジュール(Subscriber Identity Module) — 携帯電話またはコンピュータに挿 入される小さいカードに保存される回路また は他のモバイル機器。SIM カードは、ユーザ ーを特定して、認証するのに用いられます。

SLC

ソフトウェアライセンスコード(Software License Code) —XProtect Enterprise ソフト ウェアを使用するために必要な製品登録コー ド。システム管理者の責任を担当している場 合を除き、SLCを扱う必要はありません。シ ステム管理者は、ソフトウェアのインストー ルや登録を行う際に SLCを使用します。

SMS

ショートメッセージサービスまたはシステム 管理サーバー。

用語集

 ショートメッセージサービスとは、テキス トメッセージを携帯電話へ送信するシステム です。

 システム管理サーバーとは、システム管理 者がローカルネットワーク上にハードウェア とソフトウェアのデータベースを構築できる Microsoft のツールです。このデータベースを 使ってさまざまな操作を実行できますがその1 つとして、ソフトウェアアプリケーションを ローカルネットワークに渡って配布しインス トールすることができます。

SMTP

簡易メール転送プロトコル(Simple Mail Transfer Protocol) — メールサーバー間での Eメールメッセージ送信の標準化されたプロト コルです。

Т

TCP

通信制御プロトコル(Transmission Control Protocol) — ネットワーク上でデータパケッ トを送信する際に使用するプロトコル(標準) です。TCP は、多くの場合、別のプロトコル である IP (Internet Protocol)と組み合わせて使 用されます。この組み合わせを TCP/IP と呼び、 ネットワーク上の2つのポイント間でデータパ ケットを長時間にわたって送受信することが できます。コンピュータとインターネット上 にある別のデバイスを接続するためにも使用 します。

TCP/IP

通信制御プロトコル/インターネットプロトコ ル(Transmission Control Protocol/Internet Protocol) — インターネットを含むネットワ ーク上でコンピュータと他のデバイスを接続 する際に使用するプロトコル(標準)の組み合 わせです。

Telnet

TCP/IP ネットワークで使用する端末エミュレ ーションプログラムです。Telnet を使用する ことで、ネットワークのコンピュータからサ ーバーに接続し、サーバーに直接入っている かのように、Telnet からコマンドを実行する ことができます。Windows には、Telnet で使 用するクライアントが含まれています。

アスペクト比

画像の縦横比。

アナリティックイベント

アナリティックイベントは、外部のサードパ ーティのビデオコンテンツ分析(VCA)プロバイ ダから受け取ったデータです。VCA ベースの システムの例として、アクセスコントロール システムが挙げられます。アナリティックイ ベントは、**アラーム**機能とシームレスに統合 することが可能です。

イベントサーバー

すべての XProtect Enterprise サーバーから受 信するアラームデータやイベントを保存・処 理するサーバーです。イベントサーバー機能 により、強力なモニタリングが可能になりま す。また、アラームやシステム内の技術的な 問題について即時の概要表示が提供されま す。

キーフレーム

デジタルビデオ圧縮の MPEG 標準で使用され ます。キーフレームは指定間隔で保存される 1 つのフレームです。キーフレームはカメラの ビュー全体を記録しますが、キーフレームに 続くフレームは変化したピクセルだけを記録 します。これにより、MPEG ファイルのサイ ズを大幅に縮小できます。

コーデック

エクスポートされた AVI ファイルなど、音声と ビデオデータを圧縮および解凍する技術。よ く使用されるコーデックとして、MPEG や Indeo があります。

サブネット

ネットワークの一部。ネットワークをサブネ ットに分けると、管理とセキュリティ上の理 由で有利であり、場合によってはパフォーマ ンスが改善することもあります。TCP/IP ベー スのネットワークで、サブネットは基本的に ネットワークの一部であり、すべてのデバイ スがその IP アドレスで同じ接頭辞を共有しま す。たとえば、123.123.123.xxx となり、ここ で最初の3つの番号(123.123.123)が共有接頭 辞です。ネットワーク管理者は、サブネット マスクを使用して、ネットワークをサブネッ トに分割します。

デバイス

XProtect Enterprise で録画サーバーに接続され ているカメラ、ビデオエンコーダー、入力デ バイス、出力デバイスなど。

デュアルストリーム

ー部のカメラは2つの独立したストリーム(録 画サーバーへ送信可能)をサポートしていま す:一方はライブビュー用であり、他方は再 生用です。これらのストリームは、それぞれ 独立した解像度・エンコーディング・フレー ムレート設定を持っています。

ドライバー

デバイスの制御/通信で使用するプログラム。

ハードウェアデバイス

技術的には、カメラは XProtect Enterprise に 追加されるのではなく、ハードウェアデバイ スに追加されます。これは、ハードウェアデ バイスには独自の IP アドレスやホスト名があ るためです。システムは IP ベースであるため、 XProtect Enterprise は主に IP アドレスやホス ト名に基づいて、ユニットを識別します。各 ハードウェアデバイスには独自の IP アドレス やホスト名がありますが、1つのハードウェア デバイスに複数のカメラ、マイクなどが付い ている場合は、同じ IP アドレスやホスト名を 共有していることになります。これは、ビデ オエンコーダーデバイスに複数のカメラが付 いている典型的なケースです。1つのハードウ ェアデバイスに複数のカメラ、マイクなどが 接続されていても、カメラ、マイクなどを個 別に設定して使用することができます。

プライバシーマスク

カメラのビューの選択した領域を配信前に非 表示にするかどうかを定義し、非表示にする 場合はその方法を定義できる機能。たとえば、 カメラがある通りを録画する場合、住民のプ ライバシーを保護するために、プライバシー マスクを使用して特定の建物(窓やドアなど) の領域を非表示にすることができます。

ブラウザー

Web ページの検索や表示を行うソフトウェア アプリケーション。

プリアラーム

プリアラーム画像は、選択したカメラでのみ 使用可能な機能です。イベントが発生する前 に、カメラから XProtect Enterprise へ、メー ルで画像をすぐに送信することができます。

プリバッファ

プリレコーディングの説明を参照してください。

プリレコーディング

検出したモーションや指定されたイベントの 前の期間からの録画を保存できる機能。場合 によって、XProtect Enterprise サーバーにバッ ファされている受信ビデオに基づいて、モー ションやイベントでトリガされる録画が必要 になります。プリレコーディングの有効な使 用方法:たとえば、ドアが開いている間、ビ デオを録画するよう定義した場合に、ドアを 開ける直前に発生した状況を確認できるのが 重要になる場合があります。

フレームレート

動画に含まれている情報量を示す測定単位で あり、通常は FPS で測定します。

ポート

データトラフィックの論理的終点。ネットワ ークでは、データトラフィックの異なる種類 ごとに異なるポートが使用されます。そのた め、場合によっては、特定のデータ通信でど のポートを使用するかを指定する必要があり ます。ほとんどのポートは、通信に含まれる データの種類に基づいて自動的に使用されま す。TCP/IP ネットワークの場合、ポート番号 は 0 から 65536 ですが、0 から 1024 までは特 定用途のために予約されています。たとえば、 ポート 80 は Web ページの表示に使用される HTTP トラフィック用です。

ポーリング

何かの状態を定期的にチェックすること。た とえば、入力がデバイスの特定の入力ポート で受信されたかどうかなど。このような状態 をチェックするための定義済みの間隔を、し ばしばポーリング頻度と呼んでいます。

ホスト

TCP/IP ネットワークに接続されているコンピ ュータ。ホストには専用の IP アドレスがあり ますが、ネットワーク設定によっては、**識別** しやすくするためにホスト名が付いている場 合があります。

ポストレコーディング

モーションや指定されたイベントの後の期間 から記録を保存できる機能。場合によって、 XProtect Enterprise サーバーにバッファされて いる受信ビデオに基づいて、モーションやイ ベントでトリガされる録画が必要になります。 ポストレコーディングの有効な使用方法:た とえば、ゲートが開いている間、ビデオを録 画するよう設定した場合に、ゲートが閉めら れた直後に発生した状況を確認できるのが重 要になる場合があります。

ホットスポット

Smart Client で、拡大または高品質で表示されているビデオの特定の位置。

マスター/スレーブ

あるサーバー(マスターサーバー)が、他のサ ーバー(スレーブサーバー)より重要であるサ ーバーのセットアップ形態。XProtect Enterprise でのマスター/スレーブ設定により、 複数の XProtect Enterprise サーバーを組み合 わせて、使用できるカメラの数を単一のサー バーの許容最大数以上に拡大できます。この ような設定でも、クライアントの接点は、1 つ だけに維持されます。クライアントは、マス ターサーバーに接続されますが、スレーブサ ーバーのカメラや録画にも自動的にアクセス できます。

モニター

1) コンピュータの画面。2) 以前のバージョン の XProtect Enterprise でビデオの録画や再生 を行う際に使用するアプリケーション。モニ ターアプリケーションは現在は廃止されてい ます。

漢字

画面自動切替

1 つのカメラ位置で複数のカメラからのビデオ を次々に表示することができる機能です。必 要なカメラと切り替えの間隔は、XProtect Enterprise 管理者が指定します。画面自動切替 機能は、Smart Client で設定した場合に使用可 能になります。

管理者(アドミニストレータ)

 システム管理者。2) XProtect Enterpriseの 以前のバージョンの場合: XProtect Enterprise 管理者が、監視システムサーバーを設定する ために使用するメインのアプリケーション。 現在は、Management Application と呼ばれま す。

記録(録画)

IP ビデオ監視システムの場合、記録(録画)と はビデオを保存することを意味し、場合によ ってはカメラからの音声を監視システムのデ ータベースへ保存することも意味します。多 くの IP 監視システムでは、カメラから受信し たビデオと音声のすべてを保存する必要はあ りません。ビデオと音声のカメラのデータベ ースへの保存は、多くの場合、モーションが 検知された、イベントが発生した、あるいは 特定の時刻になったなどの理由がある場合の み開始されます。そのため、記録は、たとえ ばモーションが検知されなくなったり、ある イベントが発生したり、期間が終了したとき などに停止されます。元々記録とは、録画ボ タンを押すまで画像をテープに保存できなか ったアナログビデオの用語です。

魚眼 (レンズ)

360°のパノラマ画像を作成・表示できるよう なレンズの種類です。

復元ポイント

復元ポイントにより、以前の設定状態に戻す ことができます。XProtect Enterprise で設定の 変更が適用されると、復元ポイントが作成さ れます。設定でエラーが生じた場合、復元ポ イントを参照して、適切な状態に戻すことが できます。

猶予期間

システムのインストール・設定・録画サーバ ーやカメラの追加をした際に、一時的なライ センスを使用してシステムを動作させられま す。ライセンスは、一定の期間が終了する前 にアクティブ化する必要があります。この期 間が猶予期間です。

索引	F FPS - 215
	FTP - 216
((アラームの)時間プロファイルの追加 - 191, 193, 194, 197	G GOP - 216
3	GSM - 216
360 度 Panomorph サポート - 215	GUID - 216
A API - 215	H H.264 - 216
ATM - 215	HTTP - 216
AVI - 215 C	I I/O - 216
Central - 154, 215	Image Server - 216
Central について - 154	IP - 216
Central のプロパティ - 154	IPIX - 216
CSV - 215	IP アドレス - 217
CSV ファイルからインポート - 31, 32, 33	フレーム - 217
D DirectX - 215	J JPEG - 217
DNS - 215	М
DST - 215	MAC アドレス - 217
DVR - 215	Management Application でカメラからのビデ
E	オを表示する - 29, 44, 45, 91, 98, 100, 104
E メール - 148	Management Application の設定のエクスポー
Eメール(プロパティ) - 136, 148	トわよびインホート - 207, 211
Eメールについて - 148	Matrix - 139, 217
E メール通知の設定 - 119, 121, 126, 148	Matrix イベントコントロール - 140, 141
	Wattix のノロハフィ - 140

223

索引

Matrix の設定 - 140 Matrix ビデオの共有について - 25, 139 Matrix 受信 PC - 140 Matrix 受信 PC について - 139 Matrix 受信者 - 217 Milestone Mobile クライアントのインストール - 23 MIP プラグイン - 198 MIP プラグインについて - 198 MJPEG - 217 Mobile Server Manager - 187 R Mobile Server Manager について - 187 Mobile サーバー - 178 Mobile サーバーについて - 178 S Mobile サーバーの設定 - 181 Mobile サーバーの追加と編集 - 179 Mobile サービスの起動、停止、再起動 - 188, 190 Motion-JPEG カメラのライブ設定および録画 設定 - 36 MPEG - 217 MPEG カメラのライブ設定および録画設定 -38 Ν Т NTLM - 217 Ρ TCP/IP - 219 Panomorph - 217

PIN - 218 Ping - 218 POS - 218 PTZ - 218 PTZ タイプ1および3を、必要な位置へ移動す る - 63 PTZ デバイス - 51, 56 PTZ パトロール - 60, 100, 135, 138 PTZ プリセット位置 - 98, 103 PUK - 218 Pフレーム - 218 Recording Server Manager - 19 Recording Server サービス - 218 SCS - 218 SDK - 218 SIM - 218 SLC - 218 SMS - 151, 218 SMS について - 151 SMS プロパティ - 151 SMS 通知の設定 - 151 SMTP - 219 TCP - 219

Telnet - 219 W Windows ユーザーの追加 - 170, 171, 172, 173, 174, 176

Х

XProtect Central の有効化 - 154

XProtect Download Manager - 20

XProtect Smart Client - 17

XProtect Smart Client について - 17

XProtect Smart Client のインストール - 18

あ

アーカイブ - 131, 133, 136, 148
アーカイブされた録画の再生について - 133
アーカイブスケジュールについて - 128, 131
アーカイブについて - 37, 39, 40, 42, 43, 58, 65, 66, 69, 79, 88, 127, 136, 148, 203
アーカイブに必要なストレージ容量 - 130
アーカイブに必要なストレージ容量 - 130
アーカイブの場所について - 128
アクセスコントロール - 155
アクセスコントロールアクション - 161
アクセスコントロールイベントタブ(アクセスコントロールイベントタブ(アクセスコントロール) - 159
アクセスコントロールシステムへの接続 - 157
アクセスコントロールシステム統合ウィザード - 156
アクセスコントロールシステム統合の作成 -

156

- アクセスコントロールの統合について 155 アクセスコントロールプロパティ - 157 アクセスの概要 - 48 アスペクト比 - 219 アナリティックイベント - 109, 116, 219 アナリティックイベントに基づくアラームの 生成 - 113 アナリティックイベントの追加 - 109,116 アナリティックイベント設定 - 204 アラーム - 190 アラームおよびマップ設定のバックアップと 復元 - 208 アラームデータ設定 - 195 アラームについて - 190, 192 アラームの時間プロファイルについて - 192 アラームの追加 - 192.193 アラームプロパティ - 193 アラーム管理 - 176 アラーム定義 - 113, 193, 195, 196 イベントおよび出力 - 105 イベントおよび出力について - 106 イベントおよび出力の概要 - 106 イベントおよび出力プロパティ - 116
- イベントサーバー 219

イベントサーバー設定 - 205

イベントでの PTZ - 103. 111 イベントでのハードウェア出力の設定 - 106, 109, 110, 111, 112, 127 イベントでの出力コントロール (イベントおよ び出力固有のプロパティ) - 113, 127 イベント通知 - 90 インストールとアップグレード -23 ウイルススキャンについて - 12, 133 エクスポート - 183 オプション - 201 オンライン期間 - 39,63,68,81,86,111,135, 137 か カードホルダータブ(アクセスコントロール) -164 カスタマーダッシュボードについて - 199. 201 カメラアクセス - 135, 172, 174 カメラおよびデータベースアクション -53 カメラが MPEG ビデオ形式を使用する場合 -72 カメラがいつ、何をする必要があるかを設定す る - 62 カメラで MJPEG ビデオ形式を使用する場合 -70 カメラとストレージの情報 - 57 カメラの無効化または削除 - 63

カメラプロパティ - 81 カメラ固有のスケジュールの設定 - 24,60,62, 134, 137, 138, 139 カメラ固有のスケジュールプロパティ - 137 キーフレーム - 219 グループ情報 - 173 コーデック - 219 さ サーバー - 178 サーバーアクセス - 12, 164, 166 サーバーアクセスについて - 164 サーバーアクセスの設定 - 25, 47, 165, 166 サーバーアクセスプロパティ - 166 サーバーステータス - 182 サーバー設定(Eメール) - 150 サーバー設定 (SMS) - 152 サービス - 177 サービスについて - 58, 177 サービスの再起動について -28 サービスを開始および停止する - 29,44,45, 51, 52, 91, 98, 100, 104, 177, 178 サイレントインストール - 18 サウンド設定 - 195, 196 サブネット - 220 ジェネリックイベント - 112, 122

ジェネリックイベントのテスト - 114, 122 スピーカーについて - 49 ジェネリックイベントの追加 - 109, 111 ジェネリックイベントプロパティ - 115 システム、イベント、監査ログの設定 - 145 システムコンポーネント - 15 システムソフトウェアのインストール - 192 システムのメンテナンス - 207 システムの起動および実行 - 24,210 システム概要 - 15 システム設定のバックアップ - 207 システム設定の復元 - 208 スケジュール - 153 スケジュールオプション - 36, 133, 135, 137, 138 スケジュールおよびアーカイブ - 127 スケジュールについて - 127 スタート - 30 スタートページについて -30 ステータスの表示について - 188 ストレージの設定:オンラインスケジュール -36 ストレージの設定:ビデオ設定とプレビュー -35 ストレージの設定ウィザード - 35,131 ストレージ情報 - 81

スピーカープロパティ - 57,104 スピードアップ - 71, 76, 78, 138 スピードアップフレームレートのプロパティ -75 すべてのカメラのスケジュール - 133 た ダイナミックアーカイブパスについて - 129 ダイナミックパスの選択 - 58,66,90,203 タイマーイベント - 112, 122 タイマーイベントの追加 - 109, 110, 111, 112, 119, 121, 122, 126 タイムサーバーについて -13 ディスク空き容量が不足した場合の自動応答 -131 データベースのサイズ変更について -58 デバイス - 220 デフォルトのファイルパス - 128, 203, 207 デフォルトのファイルパスの変更-200 デュアルストリーム - 220 テンプレートおよび共通プロパティ -74 ドライバー - 220 ドライブの選択 - 40 な

ネットワーク、デバイスタイプ、ライセンス -51, 55

索引

- は ハードウェアデバイス - 49,220 ハードウェアデバイスについて - 49 ハードウェアデバイスの交換について -51 ハードウェアデバイスの削除 - 51,63 ハードウェアデバイスの設定 - 51, 55, 56, 96 ハードウェアデバイスの追加ウィザード -CSV ファイルからインポート - CSV ファイ ルの例 - 33 ハードウェアデバイス交換ウィザードについ τ - 51, 52, 56 ハードウェアデバイス設定の追加 - 180 ハードウェアの検出と検証-32 ハードウェアの追加:CSV ファイルからインポ ート - CSV ファイル形式および要件 - 34 ハードウェアの追加:スキャンオプション -32 ハードウェアの追加:スキャン対象のハードウ ェアのメーカーの選択 - 32 ハードウェアの追加ウィザード - 30,49 ハードウェアプロパティ - 54 ハードウェア出力 - 120 ハードウェア出力の追加 - 91, 106, 109, 110, 112, 120 ハードウェア入力イベント - 110, 111, 118 ハードウェア入力イベントの追加 - 109.118
- ハードウェア名およびビデオチャンネル 54
- はじめに 10 バックアップおよび復元の設定 - 207 パフォーマンス - 185 ビデオ - 77,82,138 ビデオデバイスドライバーのインストール -23 ビデオや録画の設定について - 24, 57, 60, 64, 66, 67, 73, 74, 77, 79, 80, 81, 82, 85, 86, 87, 90, 91, 96, 105, 137 ビデオ配信 - 180, 183 ビデオ配信チャンネルの追加 - 179, 181, 183 ビデオ配信ドライバーをハードウェアデバイ スとして追加する - 180 ビデオ配信について - 179 ビデオ録画 - 67 プライバシーオプション - 203 プライバシーマスク - 94, 220 ブラウザー - 220 プリアラーム - 220 プリバッファ - 220 プリレコーディング - 220 フレームレート - 221 フレームレート - MJPEG - 74, 138 フレームレート - MPEG - 77
- ポートとポーリング 50, 113, 115

ポート - 221

ポート番号の表示/編集 - 188.190 ポーリング - 221 ホスト - 221 ポストレコーディング - 221 ホットスポット - 221 ま マイク - 104 マイク(プロパティ) - 105 マイクについて - 49,104 マイクまたはスピーカーの設定 - 104 マイクやスピーカーの表示/非表示 - 104 マスター/スレーブ - 168, 221 マスター/スレーブプロパティ - 168 マスターおよびスレーブサーバーの設定 - 25, 168 マスターおよびスレーブについて -168 マップについて - 191 メッセージ設定(Eメール) - 148, 153 メッセージ設定(SMS) - 151, 153 モーション検知-45 モーション検知および PTZ カメラについて -60.63 モーション検知と領域の除外 - 39, 63, 68, 76, 78, 87, 91, 110, 148 モーション検知について - 58, 63, 92

モーション検知の設定 - 62

モーション検知の調整ウィザード-44 モニター - 221 モニターストレージ容量の使用率 - 29 æ ユーザー - 170 ユーザーアクセスの管理ウィザード - 25.47. 172 ユーザーインターフェース - 202 ユーザーおよびグループの権限の設定 - 25, 47, 48, 91, 98, 111, 171, 172 ユーザーグループの追加 - 25, 47, 171, 172, 173, 174, 176 ユーザーについて - 170 ユーザープロパティ - 173 ユーザー情報 - 173 ß ローカル IP 範囲 - 167 ログ - 143 ログについて - 143 ログプロパティ - 145 ログへのアクセスおよびエクスポートについ て - 188 ログ設定 - 187 漢字 一括設定 - 39, 68, 81, 86, 91, 181, 201, 207

一般アクセス - 172, 173, 176

229

一般設定タブ(アクセスコントロール) - 158 一般的なイベント処理の設定 - 108, 113, 114, 122 一般的なスケジュールおよびアーカイブの設 定 - 24, 62, 133, 135 一般的なスケジュールのプロパティ - 133 音声 - 85 音声のアーカイブについて -130 音声の選択 - 80 音声録音 - 79 音声録音について - 49 夏時間について - 13 画面自動切替 - 221 監視サーバーの資格情報の入力/編集 - 188. 189 管理サーバーからのインストール - 18 管理者(アドミニストレータ) - 221 管理者権限について -11 関連付けられたカメラ - 157 関連付けられたカメラタブ(アクセスコントロ ール) - 159 基本ユーザーと Windows ユーザー - 47 基本ユーザーの追加 - 25, 170, 172, 173, 174, 176 記録(録画) - 67, 73, 74, 77, 86, 119, 177, 222 魚眼(レンズ) - 51,96,222

魚眼レンズ - 95 言語サポートと XML エンコーディング - 167 高速 - 30, 31 最終的な概要 - 157 最低限のシステム要件 -10 時間プロファイル - 197 自動デバイス検出について - 199,201 手動 - 31, 32 手動イベント - 120 手動イベントの追加 - 109, 111, 120, 194 手動録画 - 73, 87, 175 重要なポート番号について -11 出力 - 91, 110 初めての使用 - 24 証明書の編集 - 188, 189 詳細設定 - 49 情報、ドライバーの選択と検証-33 情報収集の無効化 - 199 新規ハードウェアデバイスの情報 - 52 推奨事例 - 25 設定 - 199 設定なしの自動エクスポートのルール - 185 設定に関する変更の保存について -26 設定に対する変更のインポート - 213

索引

- 設定のバックアップおよび復元について 207
- 専用入力/出力デバイスについて 50, 116
- 組み込みヘルプの使用について -27
- 他の場所へのアーカイブについて 129
- 著作権、商標、および免責条項 -9
- 直接ストリーミングについて -178
- 通常のフレームレートのプロパティ -75
- 通知 147
- 通知スケジュールについて 153
- 通知スケジュールプロパティ 149, 152, 153
- 通知について 111, 127, 147
- 添付設定(Eメール) 149
- 登録済みサービスについて -165
- 入力および出力について -105
- 復元ポイント 222
- 復元ポイントからのシステム設定の復元 27,

213

- 猶予期間 222
- 領域の除外 44,63
- 録画およびアーカイブのパス 64, 87, 128,

203

- 録画およびアーカイブの設定 43
- 録画およびストレージのプロパティ 64
- 録画データベースの破損からの保護について -

25, 89



ホームページ http://www3.jvckenwood.com/

株式会社 JVC ケンウッド 〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

© 2014 JVC KENWOOD Corporation